デジタル一眼レフカメラ

D200

使用説明書

この使用説明書について

この使用説明書は、使用目的や操作の習熟度に応じて、前から後ろへと順番に読み進めていただく構成になっています。

「簡単な操作で気軽に撮影したい！」なら

「すべての機能を使いこなしたい！」なら

はじめに（P.1～24）
カメラの各部名称や撮影の前に必要な準備について説明しています。

【基礎編】撮影と再生（P.25～32）
撮影から再生まで、カメラの基本的な操作について説明しています。

【応用編】撮影（P.38～156）
露出などを変更して、より本格的な撮影を楽しむための操作について説明しています。

【応用編】再生（P.157～182）
撮影した画像の再生や、パソコン、プリンターなどと接続する方法について説明しています。

【設定編】カメラの基本設定（P.183～197）
メモリーカードの初期化やカメラに内蔵されている時計の設定など、カメラの基本的な設定をする方法について説明しています。

【設定編】撮影・再生についての設定、カスタムメニュー（P.198～274）
より詳細な設定について説明しています。

付録（P.275～328）
カメラの基本データなどの資料や索引があります。困ったときは「故障かな？と思ったら」「警告メッセージ」をご覧ください。

はじめに

【基礎編】 撮影と再生

【応用編】
撮影
再生

【設定編】
カメラの基本設定
～セットアップメニュー
撮影についての設定
～撮影メニュー
再生についての設定
～再生メニュー
さらに細かい設定
～カスタムメニュー

付録

目次

【応用編】再生 157

【設定編】 いろいろな設定 183

付録 275

安全上のご注意

ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は、次のようになっています。

⚠危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

△ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠ 記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告（カメラとレンズについて）

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。

バッテリー、電源を抜いて、ニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

バッテリーを取る

すぐに修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかにバッテリーを取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。

バッテリーを取り出す際、やけどに充分注意してください。

バッテリーを抜いて、ニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

⚠ 警告
（カメラとレンズについて）

使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

使用禁止

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。

発光禁止

車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと

事故の原因となります。

発光禁止

フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと

視力障害の原因となります。

特に乳幼児を撮影するときは 1m 以上離れてください。

保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

警告

ストラップが首に巻き付かないようにすること

特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと

首に巻き付いて窒息の原因となります。

使用禁止

AC アダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。

雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

警告

指定のバッテリーまたは専用 AC アダプターを使用すること

指定以外のものを使用すると、火災・感電の原因となります。

⚠ 注意
（カメラとレンズについて）

感電注意

ぬれた手でさわらないこと

感電の原因になることがあります。

保管注意

製品は幼児の手の届かないところに置くこと

ケガの原因になることがあります。

保管注意

使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。

移動注意

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりして、ケガの原因となることがあります。

使用注意

飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従うこと

本機器が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与えるおそれがあります。病院で使う際も、病院の指示に従ってください。

禁止

プラグを抜く

長期間使用しないときは電源（バッテリーや AC アダプター）を外すこと

バッテリーの液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。

発光禁止

内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと

やけどや発火の原因となることがあります。

⚠ 注意
（カメラとレンズについて）

禁止

本機器や AC アダプターは布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

放置禁止

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと

内部の部品に悪影響を与え、火災の原因となることがあります。

禁止

同梱の CD-ROM を音楽用 CD プレーヤーで使用しないこと

機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼす場合があります。

⚠ 危険
（専用リチウムイオン充電池について）

禁止

バッテリーを火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

分解禁止

バッテリーをショート、分解しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

危険

専用の充電器を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

危険

ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと

ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。

持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。

使用禁止

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e は、D200 に対応しています。EN-EL3e に対応していない機器には使用しないこと

液もれ、発熱の原因となります。

危険

バッテリーからもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠ 警告
（専用リチウムイオン充電池について）

保管注意

バッテリーは幼児の手の届かない所に置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱の原因となります。

警告

変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと

液もれ、発熱の原因となります。

警告

充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合には、充電をやめること

液もれ、発熱の原因となります。

警告

バッテリーをリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはテープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービスセンターやリサイクル協力店へご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。

⚠ 警告
（専用リチウムイオン充電池について）

警告

バッテリーからもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因になります。

⚠ 注意
（専用リチウムイオン充電池について）

注意

バッテリーに強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となることがあります。

⚠ 警告
（クイックチャージャーについて）

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。

電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

バッテリーを取る

すぐに修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。

電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。ニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

警告

電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること

そのまま使用すると火災の原因になります。

使用禁止

雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。

雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

禁止

電源コードを傷つけたり加工したりしないこと

また、重いものを載せたり、加熱したり、引っ張ったり、無理に曲げたりしないこと

電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。

感電注意

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと

感電の原因になることがあります。

⚠ 注意
（クイックチャージャーについて）

感電注意

ぬれた手でさわらないこと

感電の原因になることがあります。

放置注意

製品は幼児の手の届かないところに置くこと

ケガの原因になります。

はじめに

お使いになる前に

ニコンデジタル一眼レフカメラD200をお買い上げくださいまして、まことにありがとうございます。

お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、D200での撮影を楽しむためにお役立てください。

このカメラには、この使用説明書のほか、以下の説明書が付属しています。これらの説明書もあわせてよくお読みください。

簡単操作ガイド

撮影の方法と、撮影した画像をパソコンに転送する手順を、簡単に説明しています。

付属のソフトウェアの使用説明書（CD-ROMに収録）

付属のソフトウェアを使用すると撮影した画像をパソコンに転送できるほか、パソコン上で画像を調整したり、見やすく整理したりすることができます。

カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。
http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

表記について

- コンパクトフラッシュカード（CFカード）を「メモリーカード」と表記しています。
- ご購入時のカメラの設定を「初期設定」と表記しています。

商標説明

- CompactFlash™（コンパクトフラッシュ）は米国SanDisk社の商標です。
- Microsoft® およびWindows® は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh®、Mac OS、QuickTimeは米国およびその他の国で登録された米国アップルコンピュータ社の商標です。
- Adobe、Adobe AcrobatはAdobe Systems, Inc.（アドビシステムズ社）の商標または特定地域における同社の登録商標です。
- Microdrive® はHitachi Global Storage Technologiesの登録商標です。
- Pentiumは米国インテル社の登録商標です。
- PictBridgeロゴは商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

●本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（レンズ、スピードライト、バッテリー、バッテリーチャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。

- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●保証書とカスタマー登録カードについて

この製品には「保証書」と「カスタマー登録カード」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入後 1 年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

- カスタマー登録は下記のホームページからも行えます。

https://reg.nikon-image.com

●あらかじめご承知いただきたいこと

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、ラジオやテレビの近くでお使いになると、受信障害を引き起こすことがあります。

使用説明書にしたがって正しくお取り扱いください。

●カメラやメモリーカードを譲渡／廃棄するときのご注意

メモリーカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には消去されません。譲渡／廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

メモリーカードを譲渡／廃棄する際は、市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってデータを完全に消去するか、初期化後にメモリーカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。なお、プリセットホワイトバランスの画像（P.59）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡／廃棄してください。メモリーカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

各部の名称

カメラ本体

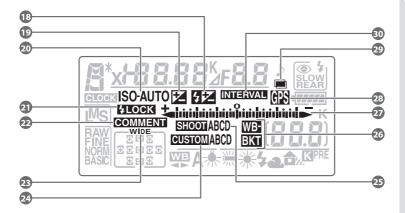
ひとつのボタンに複数の役割がある場合は、カッコ内に記載しています。

カメラ本体（つづき）

AF補助光ランプ：P.95
（セルフタイマー：P.132）
（赤目軽減：P.125）
サブコマンドダイヤル
ストラップ取り付け部
（吊り金具）：P.11
プレビューボタン：P.103
ファンクションボタン：P.269
バッテリーカバー：P.13
バッテリーカバー開閉ノブ：P.13
三脚ネジ穴
QUAL 画質モードボタン：P.43
（設定リセット：P.156）
シャッターボタン：
P.30
電源スイッチ：P.25
イルミネータースイッチ：
P.7
MODE 露出モードボタン：P.102
（FORMAT フォーマットボタン：P.21）
露出補正ボタン：
P.113
（設定リセット：P.156）
動作モードダイヤル
ロックボタン：
P.38
QUAL
WB
ISO
S
CL
OFF
ON
MODE
表示パネル：
P.6
WB ホワイトバランス
ボタン：P.54
ISO ISO感度ボタン：P.49
距離基準マーク：
P.98
動作モードダイヤル：
P.38

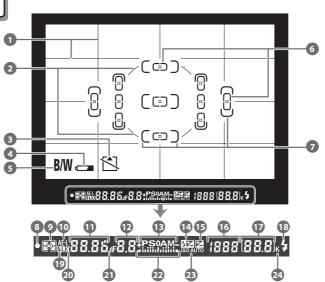
接眼目当て：P.147
ファインダー接眼窓：P.24
削除ボタン：P.166
（FORMAT フォーマットボタン：P.21）
BKT オートブラケティングボタン：P.115
再生ボタン：P.32、157
MENU メニューボタン：P.34
サムネイルボタン：P.162
プロテクトボタン：P.165
（? ヘルプボタン：P.37）
ENTER 実行ボタン：P.35
（拡大：P.164）
液晶モニター：P.291
フォーカスエリアロックレバー：P.86
視度調節ダイヤル：P.24
測光モードダイヤル：P.100
AE/AFロックボタン：P.93、111
メインコマンドダイヤル
AF-ON AF作動ボタン：P.85
メモリーカードカバー：P.20
AFエリアモードセレクトダイヤル：P.88
メモリーカードアクセスランプ：P.31
メモリーカードカバー開閉ノブ：P.20
BKT
FORMAT
MENU
ENTER
AE-L AF-L
AF-ON
Nikon
CF
マルチセレクター
マルチセレクターの基本的な使い方は、以下の通りです。
画像情報の切り換え
上に移動
・・・・ 画像再生時（P.162）の使い方
・・・・ メニュー操作時（P.35）の使い方
前画像を表示
上の階層に移動
取り消し
次画像を表示
下の階層に移動
決定
画像情報の切り換え
下に移動
表示コマ数の切り換え
決定

表示パネル（説明のため、すべての表示を点灯させています）

1 ホワイトバランス色温度表示 P.57
2 シャッタースピード....... P.102～108
露出補正値 P.113
調光補正値 P.127
ISO感度 P.49
ホワイトバランス微調整量 P.55
ホワイトバランス色温度 P.58
ホワイトバランスプリセットデータ番号 P.61
オートブラケティングコマ数 P.116
WBブラケティングコマ数.............P.72
インターバル回数.........................P.143
非CPUレンズ焦点距離...............P.150
3 フラッシュシンクロマーク ....P.124、253
4 プログラムシフトマーク P.102
5 露出モード P.102
6 時刻未設定マーク........................P.187
7 画像サイズ P.46
8 画質モード P.41
9 フォーカスエリア表示....................P.86
AFエリアモード表示......................P.88
10 ホワイトバランスモード P.51
11 記録可能コマ数..............................P.26
連続撮影可能コマ数.......................P.39
PCカメラモード表示 P.172
ホワイトバランスプリセットデータ取得モード表示............................P.61
12 1000コマ以上補助表示...................P.9
13 バッテリー残量表示.......................P.26
14 フラッシュシンクロモード P.126
15 電子音マーク P.248
16 絞り値 .... P.102～108
絞り込み段数................... P.106、110
オートブラケティング補正値 P.116
WBブラケティング補正値.............P.72
インターバルコマ数.....................P.143
非CPUレンズ開放絞り値...........P.153
PC接続中マーク P.172
17 絞り込み段数マーク .... P.106、110

18	調光補正マーク	P.127
19	露出補正マーク	P.113
20	ISO感度マーク	P.49
	感度自動制御設定マーク	P.241
21	FVロックマーク	P.129
22	画像コメント入力設定マーク	P.188
23	フォーカスエリアワイドフレームマーク	P.92
24	カスタムメニュー設定表示	P.229
25	撮影メニュー設定表示	P.199
26	オートブラケティングマーク	P.116
	WBブラケティングマーク	P.72
27	露出インジケーター	P.109
	露出補正インジケーター	P.113
	オートブラケティングインジケーター	P.116
	WBブラケティングインジケーター	P.72
	PC接続中インジケーター	P.172
28	GPS通信マーク	P.154
29	多重露出マーク	P.137
30	インターバルタイマー設定マーク	P.143

ヒント　イルミネーター

イルミネーターを点灯させると、暗いところで表示パネルが確認しやすくなります。電源スイッチをイルミネーター まで回すと、半押しタイマー（P.25、247）が作動するとともに、表示パネルが照明されます。電源スイッチを放すと電源スイッチはONの位置まで自動的に戻りますが、イルミネーターは半押しタイマーの作動中は点灯し続けます。ただし、シャッターをきった直後には消灯します。

ファインダー（説明のため、すべての表示を点灯させています）

1 構図用格子線……P.9
（カスタムメニュー d2「格子線表示」を「ON」に設定している場合のみ表示されます。
2 中央部重点測光エリアφ 8mm…P.100
3 カードなしマーク※……P.23、304
4 バッテリー残量表示※……P.26
5 白黒マーク※……P.75
6 フォーカスエリア（ノーマルフレーム）……P.90、233
7 フォーカスエリア（ワイドフレーム）……P.90、233
8 ピント表示……P.30、84
9 測光モード……P.100
10 AEロックマーク……P.111
11 シャッタースピード……P.102〜108
12 絞り値……P.102〜108
絞り込み段数……P.106、110
13 露出モード……P.102
14 調光補正マーク……P.127
15 露出補正マーク……P.113
16 ISO感度……P.49
17 記録可能コマ数……P.26
連続撮影可能コマ数……P.39
ホワイトバランスプリセットデータ取得モード表示……P.61
露出補正値……P.113
調光補正値……P.127
PC接続中マーク……P.172
18 レディーライト……P.122
19 FVロックマーク……P.129
20 フラッシュシンクロマーク……P.124、253
21 絞り込み段数マーク……P.106、110
22 露出インジケーター……P.109
露出補正インジケーター……P.113
23 感度自動制御設定マーク……P.241
24 1000コマ以上補助表示……P.9

※ カスタムメニュー d3で非表示にできます（P.249）。

ヒント 1000コマ以上補助表示

記録可能コマ数が1000コマ以上あるときに点灯します。たとえば1260コマ撮影できるときは、右のように表示されます。

ヒント 電源OFF時の表示

電源がOFFのときも、バッテリーが入っていれば、表示パネルには記録可能コマ数が表示されます。

✔ バリブライト・フォーカスエリア／マルチディスプレイ・スクリーンについて

このカメラはフォーカスエリアを選択すると、選択されたフォーカスエリアがファインダースクリーン上に鮮明に表示される、バリブライト・フォーカスエリアを装備しています。この機能により、周囲が明るい場合はフォーカスフレームを黒く表示し、周囲が暗い場合はフォーカスフレームを瞬間的に赤く表示しますので、選択されたフォーカスエリアを素早く確認することができます。さらにカスタムメニュー d2「**格子線表示**」(P.248) を「**ON**」に設定することにより、構図用の格子線を表示させるマルチディスプレイ・スクリーンも装備しています。この構図用の格子線は撮影時の構図決定に効果的で、風景撮影やPCニッコールを使用してアオリ撮影などを行うときに便利です。

※これらの機能に使用されている液晶の特性により、選択されたフォーカスエリアから外側に延びる細い線が見える場合やフォーカスフレームを照明する際にファインダー内が赤くなる場合がありますが、いずれも故障ではありません。

✔ 高温・低温下での液晶表示について

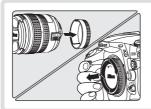
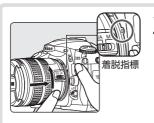
表示パネルとファインダー内に使用されている液晶表示は、高温下では黒くなり、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがあります。一方、バリブライト・フォーカスエリアとマルチディスプレイ・スクリーンに使用されている液晶表示は、高温下では薄く、低温下では濃くなって液晶の応答速度が遅くなる特性がありますが、いずれの場合も常温時には正常に戻ります。

✔ ファインダーについてのご注意

カメラにバッテリーが入っていない、あるいはバッテリー残量が全くない状態では、ファインダー全体が暗くなり、像がはっきりと見えませんが、故障ではありません。新しいバッテリーを入れると明るくなります。

撮影の準備

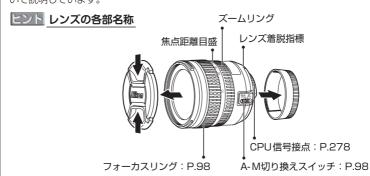
レンズを取り付ける

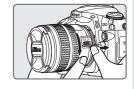
カメラ内部にほこりなどが入らないようにご注意ください。

1 **カメラの電源がOFFになっていることを確認してから、**レンズの裏ぶたとカメラのボディーキャップを外す

2 レンズを取り付ける

- レンズとカメラの着脱指標を合わせながらレンズを差し込み、矢印の方向に回してください。カチッと音がするところまで回すと、取り付けは完了です。

ヒント レンズについて

この使用説明書ではレンズについて、AF-S DX 18-70mm F3.5-4.5G EDを用いて説明しています。

ヒント レンズの各部名称

レンズを取り外すときは

カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し、引き抜いてください。取り外した後は、カメラとレンズにそれぞれのキャップを取り付けてください。

✔ 絞りリングのあるレンズについてのご注意

絞りリングのあるレンズを取り付ける場合は、最小絞り（最大値）にして、ロックしてください。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。

ヒント LCDモニターカバー BM-6の取り付け方・取り外し方

モニターカバーを装着する場合は、液晶モニター部の上にある溝にモニターカバーの上部をはめ込み（①）、モニターカバーの透明な部分が液晶モニタと重なるように置き、カチッと音がするまで上から軽く押してください。（②）。

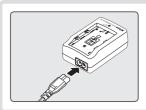
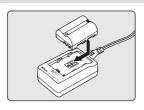
モニターカバーを取り外す場合は、カメラをしっかりと支え、右図のようにモニターカバーの下からゆっくりと外します。

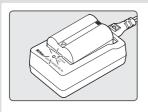
ヒント ストラップの取り付け手順

バッテリーを充電してカメラに入れる

付属のバッテリー EN-EL3eとクイックチャージャー MH-18a（充電器）の組み合わせでお使いください。

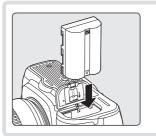
- Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3eは、出荷時にはフル充電されていません。ご使用前にクイックチャージャー MH-18aでフル充電してください。

1.バッテリーを充電する

1.1 クイックチャージャーと電源コードを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む

1.2 バッテリーをクイックチャージャーに取り付ける

- バッテリーは端子カバーを外してから、左図のように、正しい向きで取り付けてください。
- 「CHARGE」ランプが点滅し、充電が始まります。

1.3 「CHARGE」ランプが点滅から点灯に変わると、充電は完了です

- バッテリーを取り外し、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 使い切ったバッテリーを充電するには、約2時間15分かかります。

2. バッテリーをカメラに入れる

2.1 電源がOFFになっていることを確認してから、カメラ底面のバッテリーカバーを開ける

2.2 充電したバッテリーを入れ、バッテリーカバーを閉じる

- 左図のように、正しい向きで入れてください。

バッテリーを取り出すときは

バッテリーをカメラから取り出す前に、必ず**電源がOFFになっていることを確認してください**。取り外したバッテリーには、ショートを防止するため、必ず付属の端子カバーを取り付けてください。

ヒント Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e について

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e は、D200 に入れることにより、バッテリーに関する情報について通信を行うことができるリチウムイオンバッテリーです。この通信機能により、バッテリーの状態をカメラで確認することができます。EN-EL3e をこのカメラで使用した場合、表示パネルで6段階の表示を行う (P.26) ほか、セットアップメニューの「電池チェック」(P.196) により、液晶モニターに詳細なバッテリーの残量や、直前の充電からの合計撮影回数、バッテリーの劣化度を表示することができます。

☑ 使用できないバッテリーについて

D200には、Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3 および EN-EL3a（D100 ／ D70 シリーズ／ D50 用バッテリー）や、CR2 ホルダ MS-D70 は使用できません。

☑ バッテリーとクイックチャージャーの使用上のご注意

- お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」（P.v～viii）、「カメラと付属品の取り扱い上のご注意」（P.295～296）をお読みになり、記載事項をお守りください。
- バッテリーは0～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。充電は室温（5～35℃）で行ってください。
- カメラの使用直後など、バッテリー内部の温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。
- バッテリーをカメラやクイックチャージャーから取り外しておくときは、付属の端子カバーを取り付けてください。
- クイックチャージャーに付属の電源コードは、他の機器に接続しないでください。この電源コードは日本国内専用です。日本国外でお使いになる場合は、別売の専用コードが必要です。詳しくはニコンサービスセンターにお問い合わせください。
- クイックチャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

日付と時刻を設定する

カメラの内蔵時計を合わせます。

1

電源をONにして、メニューボタンMENUを押す

- カメラ背面の液晶モニターに、左のような画面が表示されます。
- ご購入後、初めて電源をONにしてメニューボタンMENUを押した場合は、セットアップメニュー画面が表示されますので、ステップ5へお進みください。

2

カメラ背面にあるマルチセレクターの◀を１回押す

- 左のように、画面の左側にあるアイコン（絵文字）部分が黄色で表示されます。

3

▲または▼でYアイコン（セットアップメニュー）を選ぶ

- 左のように、Yアイコンが黄色で表示されます。

4

▶を押す

- 左のように、文字の部分が黄色で表示されます。

5

▲または▼で「**ワールドタイム**」を選ぶ

- 選択した項目が黄色で表示されます。

6

▶を押す

- 左の画面が表示されます。

7

▲または▼で「**現在地の設定**」を選ぶ

8

▶を押す

- 左の画面が表示されます。

9

◀または▶で現在地のあるタイムゾーンを選ぶ

- タイムゾーンに含まれる都市名と、UTC（Coordinated Universal Time＝世界協定時）との時差が表示されます。

10

実行ボタンⒺを押す

- タイムゾーンが有効になり、左の画面に戻ります。

11

▲または▼で「**日時の設定**」を選ぶ

12

▶を押す

- 左の画面が表示されます。

13

▲または▼で「**年**」を合わせる

14

残りの数値を合わせる

- ▶を押すと、「**月**」を変更できるようになります。以下、それぞれの項目について、ステップ**13**と同じようにして日付や時刻を合わせてください。

15

実行ボタン ENTER を押す

- 時刻の設定が有効になり、左の画面に戻ります。

16

▲または▼で「**日付の表示順**」を選ぶ

17

▶を押す

- 左の画面が表示されます。

18

▲または▼で年、月、日を表示する順序を選ぶ

19

▶を押す

- 表示の順序が有効になり、左の画面に戻ります。

20

メニューボタン MENU を押す

- ワールドタイムの設定が完了し、メニュー画面に戻ります。

ヒント 夏時間について

夏時間とは、夏の間だけ1時間繰り上げて、日中の明るい時間を有効利用する趣旨で、現在約70ヶ国で採用されている制度です。カメラで夏時間を設定すると、設定時刻が1時間進みます。

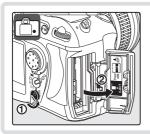
夏時間に設定するには、「ワールドタイム」画面（手順7、11、16）でマルチセレクターの▲または▼で「**夏時間**」を選択し、▶を押します。「夏時間」画面が表示されますので、▲または▼で「ON」を選択します。マルチセレクターの▶を押すと夏時間に設定され、「ワールドタイム」画面に戻ります。

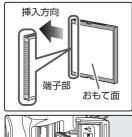
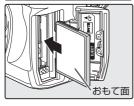
- 夏時間がない場合や、現在地の時刻が夏時間ではない場合は「OFF」（初期設定）を選択します。
- カメラの内蔵時計を夏時間に合わせて設定する場合は、「**日時の設定**」の前に「**夏時間**」を「ON」に設定してください。
- 夏時間の地域と、夏時間ではない地域の間を移動する場合、「**夏時間**」の設定の切り換えが行われないと、正しい時刻が記録されませんのでご注意ください。

メモリーカード（別売）をカメラに入れる

このカメラは、撮影した画像をメモリーカード（コンパクトフラッシュカード）に記録します。メモリーカードは付属していないため、別途お買い求めください。

※ 表示パネルとファインダー内表示のイラストは、説明に関係ある部分だけを強調し、直接関係が無い部分は色を薄くしています。実際にはすべて同じ色で表示されます。

1.メモリーカードを入れる

1.1 電源がOFFであることを確認し、メモリーカードカバーを開ける

- メモリーカードを抜き差しするときは、必ず電源をOFFにしてください。
- メモリーカードカバー開閉ノブを方向に回すと（①）、メモリーカードカバーが開きます（②）。

1.2 メモリーカードを入れる

- 左図のように正しい向きで、メモリーカードスロットの中に挿入してください。
- **向きを間違えて挿入すると、カメラおよびメモリーカードが破損するおそれがあります。正しい方向で挿入しているか、再度ご確認ください。また、無理に押し込まないでください。**
- メモリーカードが正しく挿入されると、メモリーカードアクセスランプが点灯し（緑色）、イジェクトレバーが出てきます。
- 挿入後、メモリーカードカバーを閉めてください。

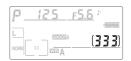
2. メモリーカードを初期化（フォーマット）する

メモリーカードを初期化すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前に、パソコンなどに保存してください。なお、メモリーカードをカメラから抜くときは、その前に必ず電源をOFFにしてください。

2.1 電源をONにして、2つのFORMATボタン（削除ボタン🗑と露出モードボタンMODE）を同時に約2秒以上押す

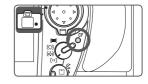
2.2 表示パネルとファインダー内表示にFor（フォーマット）という文字が点滅したら、再度2つのFORMATボタンを押す

- メモリーカードの初期化が始まります。
- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリーやメモリーカードを取り出したりしないでください。
- For（フォーマット）表示が点滅しているときにFORMATボタン以外のボタンを押すと、初期化は解除されます。

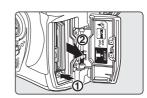
- 初期化が完了すると、表示パネルに記録可能コマ数（これから撮影できるコマ数）が表示されます。

✅ 大容量のメモリーカードを使用する場合

すでにたくさんのフォルダーや画像が記録されているメモリーカードを使用する場合、メモリーカードを挿入したときや、カメラの電源スイッチをONにしたときなどに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生するまでに時間がかかる場合があります。

メモリーカードを取り出すときは

1 メモリーカードアクセスランプが消灯していることを確認してください。

2 **電源をOFFにしてから**、メモリーカードカバーを開けてください。

3 メモリーカードイジェクトレバーを奥に押し込むと (①)、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください (②)。

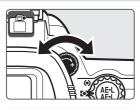
- カメラをご使用後、メモリーカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際は、ご注意ください。
- メモリーカードとメモリーカードイジェクトレバーの両方を同時に押すと、カメラおよびメモリーカードを破損するおそれがありますのでご注意ください。

ヒント メモリーカードが入っていない場合

メモリーカードが入っていない場合、表示パネルおよびファインダー内の記録可能コマ数表示には〔-E-〕マークが表示され、ファインダースクリーン上にカードなしマーク が点灯します。

- 電源をOFFにした場合でも、カメラに充電されたバッテリーを入れているか、ACアダプター EH-6（別売）をつないでいれば、表示パネルの〔-E-〕マークとファインダースクリーン上のカードなしマーク が点灯します。

ファインダー内の見え方を調節する

撮影するときは、ファインダーをのぞきながら構図を決めます。あらかじめ、ファインダー内がはっきり見えるように調節してください。

1 レンズの前キャップを取り外し、電源をONにする

フォーカスエリア

2 視度調節ダイヤルで調節する

- ファインダーをのぞきながら視度調節ダイヤルを左右に回し、フォーカスエリアの枠線（シャッターボタンを半押ししたときに表示されます）が最もはっきり見えるように調節してください。
- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

初期設定で撮影する

ここではカメラをご購入時の状態（初期設定）で使用するための、簡単な撮影方法を紹介します。以下のステップ１～６の手順で撮影してください。

※ 表示パネルとファインダー内表示のイラストは、説明に関係ある部分だけを強調し、直接関係が無い部分は色を薄くしています。実際にはすべて同じ色で表示されます。

ステップ１：電源をONにする

1.1 電源をONにする

- レンズの前キャップを外してください。
- 表示パネルとファインダー内表示の表示が点灯します。
- 撮影時には、液晶モニターは点灯しません。

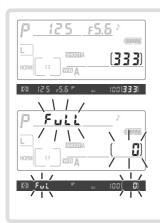
1.2 バッテリーの残量を確認する

ヒント 半押しタイマー

このカメラは、シャッターボタンを半押ししてから何も操作しないで約６秒（初期設定）経過すると、バッテリーの消耗を抑えるために半押しタイマーがきれて待機状態に入ります。待機状態になると、表示パネルのシャッタースピード／絞り値表示とファインダー内表示が消灯します。シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーが再び作動してこれらの表示が再点灯します。

バッテリー残量の表示

表示パネル	ファインダー	意味
(full battery icon)	表示なし	バッテリーは充分に残っています。
(battery icon)	表示なし	バッテリーが減り始めました。
(battery icon)		
(battery icon)		
(battery icon)	(battery icon)	バッテリーが残り少なくなりました。バッテリー交換の準備をしてください。
(battery icon)（点滅）	(battery icon)（点滅）	撮影できません。バッテリーを交換してください。

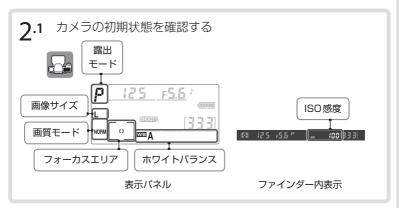
ACアダプター EH-6（別売）を使用した場合、バッテリー残量表示は表示されません。

1.3 メモリーカードの残量を確認する

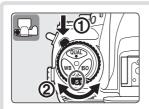
- 表示パネルとファインダー内表示に、記録可能コマ数（これから撮影できるコマ数）が表示されます。
- カードの残量がなくなると、左のように表示されます。不要な画像を削除するか、別のカードに交換してください。

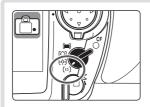
【基礎編】撮影と再生　初期設定で撮影する

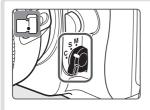
ステップ2：撮影に関する設定をする

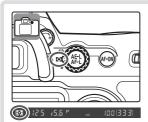
この「基礎編」では、各機能を初期設定状態にして撮影を行います。初期設定状態から撮影者の好みに合わせて設定を変更する場合は、「応用編」をご覧ください。なお、「基礎編」ではGまたはDタイプレンズを装着した場合の操作例について説明しています。

2.1 カメラの初期状態を確認する

- ご購入時は画質モード、画像サイズ、ISO感度、ホワイトバランス、露出モード、フォーカスエリアが次のように設定されています。

画質モード	NORMAL	通常のスナップ写真などの撮影に適しており、画質とファイルサイズのバランスに優れています。	P.41 ～ P.45
画像サイズ	L	画像は3872×2592ピクセルの画素数で記録されます。	P.46 ～ P.47
ISO感度	100	ISO100に相当するISO感度で撮影します。	P.48 ～ P.50
ホワイトバランス	A（オート）	照明光の種類に応じて、カメラが自動的にホワイトバランスを調節します。	P.51 ～ P.74
露出モード	P（プログラムオート）	撮影状況に応じて最適露出となるようにプログラム線図にしたがって自動的に露出制御を行います。	P.102 ～ P.110
フォーカスエリア	中央	シャッターボタンを半押ししたときに、中央のフォーカスエリアと重なる被写体にピントを合わせます。	P.86 ～ P.87

2.2 カメラ上面の動作モードロックボタン（①）を押しながら、動作モードダイヤルを**S**（1コマ撮影）に合わせる（②）

- シャッターボタンを押すたびに1コマずつ撮影するモードです。

2.3 カメラ背面のAFエリアモードセレクトダイヤルを〔[:]〕（シングルエリアAF）に合わせる

- 11カ所のフォーカスエリアの中から、撮影者自身が選択した1つのフォーカスエリアだけでピント合わせを行うモードです。

2.4 カメラ前面のフォーカスモードダイヤルを**S**（シングルAFサーボ）に合わせる

- このモードでシャッターボタンを半押しすると、選択されたフォーカスエリア内の被写体に自動的にピントが合います。被写体にピントが合っている場合のみ、撮影できます。

2.5 測光モードダイヤルを ［マルチパターン測光］ の位置にセットする

- この測光モードでは1005分割RGBセンサーにより得られるさまざまな情報に基づいて、最適な露出値を決定します。
- ファインダー内表示に が表示されます。

ステップ3：カメラを構える

3.1 カメラをしっかりと構える

ヒント カメラの構え方

- 右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。
- わきを軽く締めます。
- 片足を少し前に踏み出すと、上半身が安定します。
- 縦長（縦位置）の画像を撮影したいときは、左図のようにカメラを縦にして構えます。

フォーカスエリア

3.2 構図を決める

- ファインダーをのぞきながら、構図を決めてください。
- 中央のフォーカスエリアに、被写体が重なるようにしてください。

ステップ4：ピントを合わせる

ピント表示

シャッターボタンを半押し（下記ヒント参照）する

- 中央のフォーカスエリアに重なっている被写体に自動的にピントが合います。
- ピントが合うと、「ピピッ」という電子音が鳴り、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントは固定されます。
- 暗い場所などでは、AF補助光ランプが光る場合があります。

- ファインダー内のピント表示●の点灯および点滅については次のとおりです。

ファインダー内ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
●（点滅）	オートフォーカスでピントを合わせることができません。

ヒント シャッターボタンの半押し

シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「シャッターボタンを半押しする」といいます。半押しするとピントが合い、半押しを続けている間、そのピントで固定されます。そのまま深く押し込むと、シャッターがきれます。

半押しすると、ピントが固定

そのまま深く押し込んで撮影

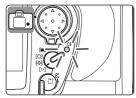
ステップ5：露出を確認する

露出を確認する

- 露出モードが P（プログラムオート）の場合、シャッターボタンを半押しすると、自動的にシャッタースピードと絞り値がセットされます。撮影をする前に、ファインダー内のシャッタースピード表示と絞り値表示を確認してください。

- 被写体が明るすぎる、または暗すぎる場合は、表示パネルとファインダー内表示に以下の表示が点灯します。

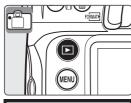
表示	意味
HI	被写体が明るすぎます。別売のND（光量調節用）フィルターをご使用ください。
Lo	被写体が暗すぎます。フラッシュを使用するか、ISO感度を高く設定してください。

ステップ6：撮影する

シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込む

- シャッターがきれ、画像がメモリーカードに記録されます。
- メモリーカードアクセスランプが点灯している間は、**メモリーカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外さないでください。**

【基礎編】撮影と再生　初期設定で撮影する

撮影した画像を確認する

撮影した画像は、カメラ背面の液晶モニターに表示されます。

このカメラは、ワンタッチでメモリーカードに記録した画像を再生できます。撮影済みの画像を再生するには再生ボタン▶を押します。最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

- カメラ背面にあるマルチセレクターの◀または▶を押すと、ほかの画像を見ることができます。

- 撮影に戻るには、再生ボタン▶を押すか、シャッターボタンを半押ししてください。

画像を削除する

液晶モニターに画像が表示されている状態で削除ボタン🗑を押すと、削除確認画面が表示されます。

- もう一度削除ボタン🗑を押すと、表示中の画像が削除されて、再生画面に戻ります。
- 削除するのをやめたいときは、再生ボタン▶を押すか、シャッターボタンを半押ししてください。

応用編について

ここから【応用編】に入ります。【基礎編】をひと通りマスターしたら、さらに高度な撮影や、撮影した画像のプリントなどに挑戦してみましょう。

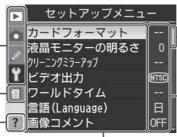
メニューの操作方法

撮影や再生、カメラの基本的な設定をするときは、おもにメニューを使います。

メニューを表示するには

メニューボタン MENU を押すと、液晶モニターに下のようなメニューが表示されます。

4種類のメニュー(下表参照)を示すアイコン(絵文字)です

最近設定した項目(下表参照)を示すアイコン(絵文字)です

表示中のメニューに、前後のページがある場合は、スライダーが表示されます

各項目の設定がアイコンで表示されます

ヘルプがある場合に表示されます (P.37)
このアイコンが表示されているときにヘルプ/プロテクトボタンを押すと、その項目のヘルプ(説明)が表示されます

左のアイコンで選択したメニュー内にある設定項目が一覧表示されます

メニューの種類

以下の4種類のメニューと「最近設定した項目」があります。どのメニューが表示されているかは、画面左端のアイコンで確認できます。

メニュー	内容
再生メニュー (P.212)	撮影した画像に対する操作や、再生についての設定などを行ないます。
撮影メニュー (P.198)	撮影についての設定を行います。
カスタムメニュー (P.226)	カメラの各種設定を、好みに合わせて変更します。
セットアップメニュー (P.183)	メモリーカードの初期化や、カメラの基本的な設定などを行ないます。
最近設定した項目	撮影メニューとカスタムメニューのうち、最後に設定したメニュー項目から順番に14のメニュー項目が表示されます。

メニュー項目の設定

メニューの操作には、マルチセレクターを使います。

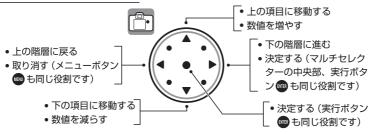
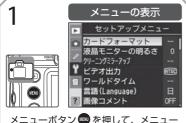
- 画像の再生中やメニューの操作中は、フォーカスエリアロックレバーの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

マルチセレクターの使い方

メニュー項目の設定方法

1 メニューの表示

メニューボタン MENU を押して、メニューを表示します。

2 メニューの切り換え ①

マルチセレクターの◀を押すと、画面左側のアイコンが黄色で表示されます。

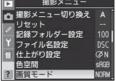
3 メニューの切り換え ②

▲または▼を押すたびに、再生、撮影、カスタム、セットアップ、最近設定した項目の各メニューが切り替わります。設定したいメニューを選んでください。

▲または▼を押すたびに、5種類のメニュー画面が切り替わります。どのメニューが表示されているかは、アイコンで確認できます。

4 メニュー項目の選択 ①

▶を押すと、3で選んだメニュー内のメニュー項目を選べる状態になります。

5 メニュー項目の選択 ②

▲または▼を操作して、設定したいメニュー項目を選びます。

6 メニュー項目の設定 ①

▶を押すと、5で選んだメニュー項目が表示されます。

7 メニュー項目の設定 ②

▲または▼を押して、設定する内容を選びます。選択中の内容は黄色のハイライトで、変更前の内容は黄色の枠で表示されます。

8 メニュー項目の設定 ③

▶を押すと、設定が有効になり、5の画面に戻ります。

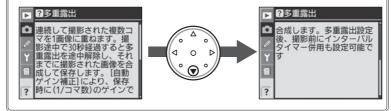
- 撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示され、選ぶことができません。
- 画像の削除やメモリーカードの初期化など、重要な設定項目については、マルチセレクターの▶ではなく、マルチセレクターの中央部や実行ボタン ENTER を押して決定する場合があります。この場合は、画面にしたがってマルチセレクターの中央部または実行ボタン ENTER を押してください。

メニュー画面から撮影に戻るには

メニューボタン MENU を押すか、シャッターボタンを半押しします（液晶モニターが消灯します）。メニュー項目がすでに選択されている場合はメニューボタン MENU を二度押すと撮影モードに戻ります。

ヒント メニュー画面のヘルプ機能について

メニュー画面で項目を選択しているときなど、画面の左下にヘルプマーク**?**が表示されている場合は、ヘルプ機能が使用できます。プロテクト（ヘルプ）ボタン🔑を押している間、その項目の説明が表示されます。

ヘルプ内容が画面に収まっていない場合、プロテクト（ヘルプ）ボタン🔑を押しながらマルチセレクターの▼を押すことにより、ヘルプ画面を下方向にページ単位で切り換えて内容全体を見ることができます。

「最近設定した項目」のロックと消去

セットアップメニューの「**最近設定した項目**」（P.191）では、「最近設定した項目」メニュー画面に表示される内容を、ロックしたり、すべて消去することができます。これにより、「最近設定した項目」メニュー画面の内容をいったん消去し、必要な項目のみを表示してロックすることができます。

動作モード

動作モードダイヤルにより、撮影動作をS（1コマ撮影）、CL（低速連続撮影）、CH（高速連続撮影）、Ⓢ（セルフタイマー撮影）、MUP（ミラーアップ撮影）から選択できます。

動作モードの切り換え

動作モードを変更するには、動作モードダイヤルロックボタンを押しながら、動作モードダイヤルを回してセットします。動作モードは、次のとおりです。

S 1コマ撮影	シャッターボタンを押すたびに1コマずつ撮影と記録が行われ、記録中はアクセスランプが点灯します。連続撮影可能コマ数が0になるまで、すぐに次の撮影が可能です。
CL 低速連続撮影	シャッターボタンを押し続けると、約1～4コマ/秒※連続して撮影が行えます。
CH 高速連続撮影	シャッターボタンを押し続けると、約5コマ/秒※で連続して撮影が行えます。動きのある被写体などに使用すると便利です。
Ⓢ セルフタイマー撮影	手ブレを軽減したい場合や撮影者自身も被写体として加わりたいような場合はセルフタイマー撮影が行えます（P.131）。
MUP ミラーアップ撮影	シャッターボタンを1回押すとカメラ本体のミラーアップを行い、もう一度押すと1コマ撮影してミラーが戻ります（1回目のシャッターボタンを押した後約30秒経過した場合は、自動的にシャッターがきれます）。撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。ミラーアップ中は、オートフォーカス、測光、ファインダーで構図を確認することができませんのでご注意ください。

※ 連続撮影速度は、フォーカスモード**C**、露出モード**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピードでの値です。

d4：低速連続撮影時の撮影速度（P.249）

CL低速連続撮影設定時の連続撮影速度を1～4コマ/秒の範囲で選択できます。

ヒント 連続撮影可能コマ数の表示

- シャッターボタンを半押しまたは押し続けている間、連続撮影可能なコマ数が表示パネルとファインダー内表示に表示されます。連続撮影時はメモリーカードへの記録が終わったコマ数分だけ続けて撮影でき、最大で100コマまでの連続撮影が可能です。
- メモリーカードへの書き込み中に連続撮影速度が低下した場合は、[r00]が表示されます。
- 画質モードを「FINE」、「NORMAL」、「BASIC」に設定した場合、実際の連続撮影可能コマ数にかかわらず、連続撮影可能コマ数表示部に表示されるコマ数は最大で25コマ（r25）です。
- 連続撮影可能コマ数については「付録　資料集」（P.307）をご覧ください。表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。画質モードでRAW圧縮やFINE／NORMAL／BASICの圧縮記録を設定した場合は、撮影条件によりファイルサイズが異なるため、連続撮影可能コマ数が増減します。

☑ 連続撮影時の構図の縦位置・横位置情報について

連続撮影時の構図の縦位置・横位置に関する情報は、連続撮影開始時の情報が記録されます。連続撮影中に構図を変えても、反映されませんのでご注意ください。

☑ 連続撮影時の記録時間

- 記録時間の目安は以下のとおりです（SanDisk社製メモリーカードSDCFXシリーズ（Extreme Ⅲ）1GB使用時で、ISO感度が100の場合）。
  画質モードRAW（非圧縮）＋BASIC、画像サイズL　：約50秒（19コマ）
  画質モードRAW（非圧縮）　：約50秒（22コマ）
  画質モードFINE、画像サイズL　：約35秒（37コマ）
- 連続撮影終了直後にメモリーカードアクセスランプが点灯している間は、カメラ本体からメモリーカードを取り出さないでください。メモリーカード、画質モード、画像サイズによっては、数十秒から1分間程度アクセスランプが点灯します。
- データ書き込み中にカメラ本体からメモリーカードを取り出すと、画像データが消失するだけでなく、カメラ本体とメモリーカードに不具合が生じるおそれがあります。
- メモリーカードアクセスランプ点灯中に電源スイッチをOFFにすると、撮影されたすべての画像がメモリーカードに記録されてから電源が切れます。ただし、画像をメモリーカードに書き込み中に、削除ボタン🗑を押しながら電源スイッチをOFFにし、そのまま削除ボタン🗑を1秒以上押し続けると、まだメモリーカードに書き込まれていない画像は記録されずに電源が切れます。
- 連続撮影時にバッテリーの残量がなくなった場合は、新たな撮影動作は行われず、撮影済みの画像データがメモリーカードに記録されて終了します。
- マイクロドライブを使用すると、まれに書き込み速度が低下することがあります。

画質モードと画像サイズ

画質モード

画像を記録する際の画質を選択します。BASIC、NORMAL、FINE、RAWの順に画質が高くなります。

RAW	撮像素子からの生出力を12bitのデータで記録します。パソコンでRAW画像を表示するには、付属のソフトウェアまたは別売のNikon Capture 4（Ver.4.4以降）(P.286) が必要です。RAWには非圧縮RAWと圧縮RAWがあり、撮影メニューの「**RAW圧縮**」で選択できます (P.45)。 ・非圧縮RAW 圧縮せずに記録します。 ・圧縮RAW 画像を圧縮して記録します。見た目の画質を損なうことなく、RAWの非圧縮記録に対して約50～60%のファイルサイズで保存することができます (P.307)。また、RAWの非圧縮記録に対して記録時間が短くなります。
FINE	画像データを約1/4のJPEG圧縮で記録します (サイズ優先時)。※
NORMAL	画像データを約1/8のJPEG圧縮で記録します (サイズ優先時)。※
BASIC	画像データを約1/16のJPEG圧縮で記録します (サイズ優先時)。※
RAW+FINE	RAW（非圧縮または圧縮）とFINE※の、2種類の画像を同時に記録します。
RAW+NORMAL	RAW（非圧縮または圧縮）とNORMAL※の、2種類の画像を同時に記録します。
RAW+BASIC	RAW（非圧縮または圧縮）とBASIC※の、2種類の画像を同時に記録します。

※ 撮影メニューの「**JPEG圧縮**」で、JPEG画像記録時にファイルサイズを優先してデータを圧縮（「**サイズ優先**」）するか、画質の低下を抑えることを優先してデータを圧縮（「**画質優先**」）するかを選択することができます (P.44)。

✔ RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- 画質モードを「**RAW＋FINE**」、「**RAW＋NORMAL**」、「**RAW＋BASIC**」のいずれかに設定して撮影した場合は、カメラではJPEG画像のみ再生可能です。JPEG画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでの再生専用になります。
- RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。

画質モードの設定には、撮影メニューの「**画質モード**」で設定する方法、および画質モードボタン QUAL とメインコマンドダイヤルで設定する方法があります。RAW画像の非圧縮/圧縮の選択は撮影メニューの「**RAW圧縮**」でのみ行うことができます。

撮影メニューの「画質モード」で設定する場合

1 撮影メニュー画面の「**画質モード**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

2 画質モード選択画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作して、設定する画質モードを選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。

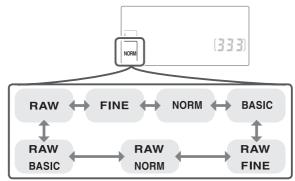
ファイル名について

- このカメラで撮影された画像にはDSC_nnnn.xxx（撮影メニュー「**色空間**」を「**AdobeRGB**」（P.82）に設定した場合は_DSCnnnn.xxx）という名称が付きます。nnnnには0001～9999までの数字が、xxxには選択した画質モードの拡張子が入ります。拡張子はRAWの場合：NEF、FINE／NORMAL／BASICの場合：JPG、イメージダストオフデータ（P.194）の場合：NDFとなります。
- 撮影メニューの「**ファイル名設定**」を使用すると、DSC_nnnn.xxxまたは_DSCnnnn.xxxの「DSC」の3文字を任意に変更することができます（P.205）。
- 同時記録されたRAW画像とJPEG画像のファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF、JPGになります。

関連データ

1枚のメモリーカードで記録できるコマ数　→　「付録　資料集」（P.307）

画質モードボタンとメインコマンドダイヤルで設定する場合

画質モードボタンQUALを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して使用する画質モードを表示パネルに表示させます。

- RAW画像の場合、画質モードボタンQUALとメインコマンドダイヤルでは非圧縮と圧縮の選択はできません。RAW画像の非圧縮と圧縮を選択する場合は撮影メニューの「**RAW圧縮**」(P.45) で選択してください。
- JPEG画像の場合、画質モードボタンQUALとメインコマンドダイヤルでは圧縮時の優先内容の選択はできません。JPEG画像圧縮時の優先内容を選択する場合は撮影メニューの「**JPEG圧縮**」(P.44) で選択してください。

✔ RAW画像とホワイトバランスブラケティングの組み合わせについて

画質モードを「**RAW**」、「**RAW＋FINE**」、「**RAW＋NORMAL**」、「**RAW＋BASIC**」に設定している場合は、ホワイトバランスブラケティング（WBブラケティング）を使用できません。また、ホワイトバランスブラケティング設定時にこれらの画質モードに設定するとホワイトバランスブラケティングの設定が解除されます。

JPEG圧縮の設定

画質モードを「**RAW＋FINE**」、「**RAW＋NORMAL**」、「**RAW＋BASIC**」、「**FINE**」、「**NORMAL**」、「**BASIC**」に設定して撮影したJPEG画像の記録時に、ファイルサイズを優先してデータを圧縮するか、画質の低下を抑えることを優先してデータを圧縮するかを選択することができます。

サイズ優先 （初期設定）	JPEG画像を、ファイルサイズがほぼ一定になるようにデータを圧縮します。
画質優先	JPEG画像を、画質の低下を抑えるように、画質モードに合わせて最適化した圧縮を行います。

それぞれの設定による効果の度合いは、JPEG画像の絵柄によって異なりますが、次のような場合は効果が大きくなります。

- 複雑な絵柄の場合
- 画質モードが「**RAW＋BASIC**」または「**BASIC**」に設定されている場合
- ISO感度が高い場合（P.48）
- 輪郭強調が強い場合（P.77）

JPEG画像圧縮の設定は撮影メニューの「**JPEG圧縮**」で行います。

1　撮影メニュー画面の「**JPEG圧縮**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

2　JPEG圧縮選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**サイズ優先**」または「**画質優先**」を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。

非圧縮RAWと圧縮RAWの選択

1 撮影メニュー画面の「**RAW圧縮**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

2 RAW圧縮選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**非圧縮RAW**」または「**圧縮RAW**」を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。

- 「**RAW圧縮**」の設定は、画質モードが「**RAW＋FINE**」、「**RAW＋NORMAL**」、「**RAW＋BASIC**」、「**RAW**」の場合のみ有効です。
- RAW画像の非圧縮／圧縮の選択は、撮影メニュー「**RAW圧縮**」でのみ可能で、画質モードボタン QUAL とメインコマンドダイヤルではできません。

画像サイズ

画像を記録する際のサイズ（大きさ）を選択します。D200では、3種類の選択が可能です。一般的に画像サイズが大きければ、大きいサイズでの出力（プリント）が可能になります。

画像サイズ	内容	出力サイズ※
L	画像を3872×2592ピクセルで記録します。	約49.2×32.9cm
M	画像を2896×1944ピクセルで記録します。	約36.8×24.7cm
S	画像を1936×1296ピクセルで記録します。	約24.6×16.5cm

※ 出力解像度200dpiでプリントしたときのおおよそのサイズです。

- 画質モードでRAWを選択した場合は、画像サイズが固定されるため画像サイズの設定はできません。RAWで保存した画像を付属のソフトウェアや別売のNikon Capture 4（Ver.4.4以降）を使用してパソコンで表示する場合、3872×2592ピクセルサイズになります。

画像サイズの設定には、撮影メニューの「**画像サイズ**」で設定する方法、および画質モードボタンQUALとサブコマンドダイヤルで設定する方法があります。

関連データ

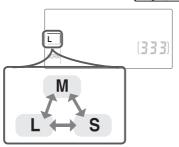
1枚のメモリーカードで記録できるコマ数 → 「付録　資料集」（P.307）

撮影メニューの「画像サイズ」で設定する場合

1 撮影メニュー画面の「**画像サイズ**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

2 画像サイズ選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定する画像サイズを選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。

画質モードボタンとサブコマンドダイヤルで設定する場合

画質モードボタン QUAL を押しながら、サブコマンドダイヤルを回して使用する画像サイズを表示パネルに表示させます。

ISO感度

ISO感度を標準（ISO100相当）よりも高く設定することができ、暗いところでの撮影にも対応します。

ISO感度は100～1600相当の間で1/3段ステップで設定できます。また、ISO感度を1600相当に対してさらに約1段まで増感できます。

ISO感度の設定には、撮影メニューの「**ISO感度設定**」で設定する方法、およびISO感度ボタンISOとメインコマンドダイヤルで設定する方法があります。

撮影メニューの「ISO感度設定」で設定する場合

1　撮影メニュー画面の「**ISO感度設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

2　ISO感度設定選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定するISO感度を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。

ISO感度ボタンとメインコマンドダイヤルで設定する場合

- ISO感度ボタン ISO を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望するISO感度を表示パネル、ファインダー内表示に表示させます。

表示パネル

ISO 100

ファインダー内表示

- 初期設定（1/3段ステップ）では、ISO感度は次のように切り替わります。

※ ファインダー内表示では、すべて H ı と表示されます。

☑ 高感度に設定した場合

ISO感度を高く設定すると、低く設定したときに比べて、多少ザラついた画像になることがあります。特に、1600よりも高く増感した設定では、撮影した画像上にザラつき、色ムラが発生します。

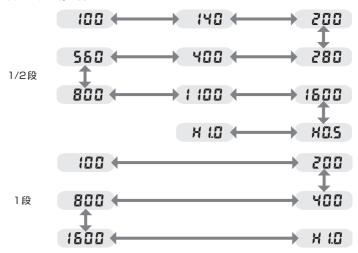
高感度ノイズ除去

撮影メニューの「**高感度ノイズ除去**」（P.209）を使用すると、ISO400以上の高感度で撮影を行った場合に、撮影した画像上のザラつきを低減することができます。「**する（強）**」に設定するともっとも効果が強く、つづいて「**する（標準）**」、「**する（弱）**」の順になります。高感度ノイズ除去が機能すると、連続撮影可能コマ数が減少します。なお、「**高感度ノイズ除去**」の設定にかかわらず、ISO感度が800よりも高くなった場合は、常に高感度ノイズ除去が行われます。この場合、「**高感度ノイズ除去**」を「**しない**」に設定すると、「**する（弱）**」よりも弱いノイズ除去の効果が適用されます。

b1：感度の自動制御 (P.239)

設定したISO感度で適正露出が得られない場合、自動的にISO感度を変更して適正露出を得る（もしくは適正露出に近づける）ことができます。制御されるISO感度の上限は、「**200**」、「**400**」、「**800**」、「**1600**」の中から指定できます。ただし、1600よりも高く増感した時は、カスタムメニューb1「**感度自動制御**」を「**する**」に設定できません。また、カスタムメニューb1「**感度自動制御**」を「**する**」に設定している場合は、1600よりも高く増感できません。

b2：ISO感度設定のステップ幅 (P.242)

ISO感度の切り換え段数を1/2段または1段ごとに変更できます。この場合、ISO感度は次のように切り替わります。

ISO感度の切り換え段数を変更したときに、設定されているISO感度が変更後の切り換え段数で存在しない場合、最も近い値に変更されます。

ホワイトバランス

人間の目は、晴天、曇り空、白熱電球や蛍光灯の室内など、光源の色に関係なく白い被写体は白く見えます。それに対して、デジタルカメラで人間の目に白く見える色を画像でも白く見えるようにするには、照明光の色に合わせて調整を行う必要があります。この調整を「ホワイトバランスを合わせる」といいます。

ホワイトバランスは以下の９種類から選ぶことができます。

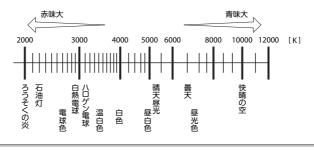
ホワイトバランス		設定される色温度	内容
A	オート	約3500～8000K※1	1005分割RGBセンサー、撮像素子で色温度を測り、カメラが自動的に調節します。**A**（オート）で充分な効果を得るには、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。また、内蔵フラッシュやスピードライト（別売）SB-800、SB-600をカメラに装着して使用する場合は、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。
	電球	約3000K※1	白熱電球下での撮影に適しています。
	蛍光灯	約4200K※1	白色蛍光灯下での撮影に適しています。
	晴天	約5200K※1	晴れの日の順光での撮影に適しています。
	フラッシュ	約5400K※2	内蔵フラッシュやニコン製スピードライト（別売）を使って撮影する場合に適しています。
	曇天	約6000K※1	曇りの日の撮影に適しています。
	晴天日陰	約8000K※1	晴れの日の日陰での撮影に適しています。
K	色温度設定	約2500～10000K	設定する色温度を数値で選択します（P.57）。
PRE	プリセット	—	撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、メモリーカード内の画像と同じホワイトバランスに合わせることができます（P.59）。

※１　微調整が０の場合の値です。

※２　微調整が０の場合の値です。他社製フラッシュを使用する場合、「ホワイトバランスの微調整」（P.55）を参考に調節してください。

- ほとんどの場合は**A**（オート）で撮影できますが、**A**（オート）では対応できない場合や、特定の照明光に固定したい場合は、適応する特定のホワイトバランスを選択してセットします。また、「ホワイトバランスの微調整」（P.55）（色温度設定時、プリセットモード時を除く）や、撮影者自身がホワイトバランスをセットする「プリセットホワイトバランス」（P.59）も使用可能です。
- スタジオ用ストロボを使用する場合は、**A**（オート）に設定していても適正なホワイトバランスが得られない場合があります。その場合は、⚡（フラッシュ）モードにして微調整を行うか、プリセットホワイトバランスをご使用ください。

ヒント 色温度について

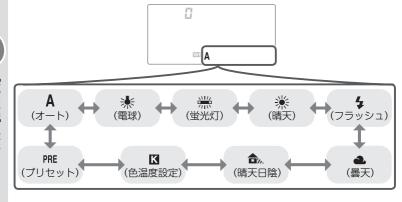
光の色には、赤味を帯びたものや青味を帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なってしまいます。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。下図のように色温度が低くなるほど赤味を帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青味を帯びた光色になります。

ホワイトバランスの設定には、撮影メニューの「**ホワイトバランス**」で設定する方法、およびホワイトバランスボタン WB とメインコマンドダイヤルで設定する方法があります。いずれの場合も、設定されたホワイトバランスのアイコンが表示パネルに表示されます。

撮影メニューの「ホワイトバランス」で設定する場合

1 撮影メニュー画面の「**ホワイトバランス**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

2 ホワイトバランス選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定するホワイトバランスを選択し、▶を押します。K（**色温度設定**）を選択した場合は、色温度設定画面が表示されます（P.57）。**PRE**（プリセット）を選択した場合は、プリセット画面が表示されます（P.59）。それ以外のモードを選択した場合は、ホワイトバランスの微調整を設定する画面が表示され、微調整値を決定すると、設定が有効となります（P.55）。

ホワイトバランスボタンとメインコマンドダイヤルで設定する場合

- ホワイトバランスボタン WB を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望するホワイトバランスのアイコンを選択します。

e5：オートブラケティングのセット (P.263)

カスタムメニュー e5「**オートブラケティングのセット**」で「**WBブラケティング**」を選択すると、設定したホワイトバランスに対して、自動的に調整量を変化させながら複数の画像を記録することが可能です。詳しくは「ホワイトバランスブラケティング」(P.72) をご覧ください。

ホワイトバランスの微調整

P.53～54の操作でホワイトバランスを K（色温度設定）、PRE（プリセット）以外に設定した場合は、さらに微調整を行うことができます。ホワイトバランスの微調整は撮影メニューの「**ホワイトバランス**」、もしくはホワイトバランスボタン WB とサブコマンドダイヤルで行います。いずれの場合も、微調整値が 0 以外に設定されると表示パネルにホワイトバランス微調整表示 ◀▶ が点灯します。

- 調整範囲は１段ステップで±３段です。
- １段は約10ミレッドに相当します（蛍光灯モードを除く）。設定される色温度は光源の種類によって異なります。
- 「－」方向に微調整を行った場合は画像が赤味がかり、「＋」方向に微調整を行った場合は画像が青味がかります。

ヒント ミレッド（MIRED）とは

色温度の逆数を百万倍（10^6）したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも6000ケルビン付近では変化はほとんどありませんが、3000ケルビン付近では1000ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度補正フィルターの単位としても利用されます。

例）　色温度の差（K：ケルビン）　：ミレッドの差（M：ミレッド）

4000K－3000K＝1000 K：　83 M
7000K－6000K＝1000 K：　24 M

撮影メニューの「ホワイトバランス」で設定する場合

1 撮影メニュー画面の「**ホワイトバランス**」を選択して、マルチセレクターの▶を押し、K（色温度設定）、PRE（プリセット）以外の希望するホワイトバランスを選択してマルチセレクターの▶を押すと、微調整画面が表示されます。

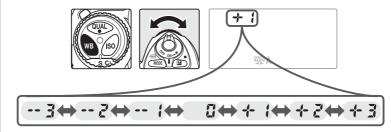
2 マルチセレクターの▲または▼で設定する微調整量を－３～＋３の範囲で選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。

ホワイトバランスボタンとサブコマンドダイヤルで設定する場合

ホワイトバランスボタン WB を押しながら、サブコマンドダイヤルを回して希望するホワイトバランスの微調整量を表示パネルに表示させます。

関連データ

ホワイトバランスの各微調整値に対する色温度 → 「付録　資料集」(P.309)

【応用編】撮影　ホワイトバランス

色温度設定

フラッシュや人工の照明を使用しない日中の風景写真などでは、色温度を指定してホワイトバランスを設定することができます。ホワイトバランスで K（色温度設定）を選択すると、撮影者がホワイトバランスに使用する色温度を、31 種類の色温度の中から数値で設定することができます。光源が蛍光灯の場合や、フラッシュ撮影の場合は、それぞれ 蛍光灯（蛍光灯）モード、フラッシュ（フラッシュ）モードを選択してください。

撮影メニューの「ホワイトバランス」で設定する場合

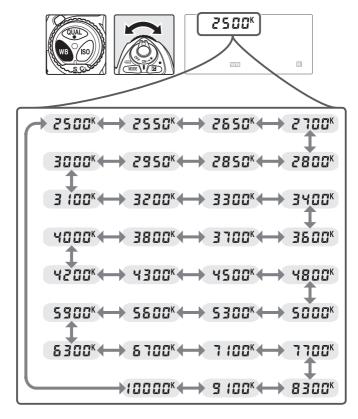
1 撮影メニュー画面の「**ホワイトバランス**」を選択して、マルチセレクターの▶を押し、K（色温度設定）を選択してマルチセレクターの▶を押すと、色温度設定画面が表示されます。

2 マルチセレクターの▲または▼で設定する色温度を2500K～10000Kの範囲で選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。

☑ 試し撮りについて

ホワイトバランスで「**色温度設定**」を選択した場合は、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。

ホワイトバランスボタンとサブコマンドダイヤルで設定する場合

ホワイトバランスボタンWBを押しながら、サブコマンドダイヤルを回して希望する色温度を表示パネルに表示させます。

プリセットホワイトバランス

プリセットホワイトバランスでは、撮影する照明下で取得したホワイトバランスまたは撮影済みの画像のホワイトバランスデータをカメラにプリセットデータとして保存し、ホワイトバランスを設定します。カクテル照明や特殊照明下で、前記のオートや電球モードなどの各設定や、色温度設定では望ましいホワイトバランスが得られない場合に便利です。

プリセットデータを保存するには、次の方法があります：

プリセットデータを新規に取得して保存する	• 撮影する照明下で白またはグレーの被写体を基準にして撮影を行い、撮影データより取得して保存する（P.61）
撮影済みの画像のホワイトバランスをコピーして保存する	• メモリーカード内の画像で使用されたホワイトバランスデータをコピーして保存する（P.66） • 別売のNikon Capture 4（Ver.4.4以降）で調整したホワイトバランスデータをコピーして保存する（P.65）

プリセットデータは、d-0～d-4の5つの場所に保存できます。また、各プリセットデータにはコメントを添付することができます（P.70）。

d-0
新規取得したプリセットデータの保存をします。新規取得するごとに新しいプリセットデータに上書きされます。

d-1～d-4
次のデータをプリセットデータとして保存します。

d-0に保存されているプリセットデータのコピー（P.64）

メモリーカード内の画像で使用されたホワイトバランスのコピー（P.66）

別売のNikon Capture 4（Ver.4.4以降）で調整したホワイトバランスのコピー（P.65）

✓ すでに設定されているプリセットデータの変更について

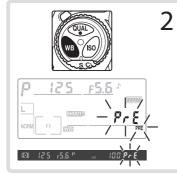
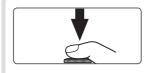
使用するプリセットデータ（d-0～d-4）は、撮影メニュー（A～D）（P.199）ごとに選択することができます。ただし、各プリセットデータ（d-0～d-4）の内容は、すべての撮影メニューで共用しています。したがって他の撮影メニューで使用されているプリセットデータの内容を変更すると、その撮影メニューのホワイトバランスも変更されることになります。d-1～d-4の内容を変更する場合に他の撮影メニューでそのプリセットデータが使用されているときは、液晶モニターに警告メッセージが表示されます。

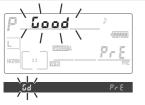
プリセットデータの新規取得

- あらかじめプリセットホワイトバランスをセットする照明下で、白またはグレー（無彩色）の被写体を用意しておいてください。スタジオ用ストロボにてプリセットホワイトバランスをセットする場合は、被写体をグレー（18%標準反射板）にすることをおすすめします。
- 新しく取得されたプリセットデータは、常にd-0に保存されます。
- 白またはグレーの被写体を基準にプリセットデータを取得するときは、いずれの露出モードの場合でも、適正露出で撮影してください。

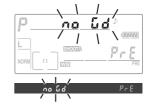
1 ホワイトバランスボタンWBを押しながら、表示パネルに PRE（プリセット）が表示されるまでメインコマンドダイヤルを回します。

- 取得・保存後すぐにそのプリセットデータを使用する場合は、ホワイトバランスボタンWBを押しながらサブコマンドダイヤルを回してd-0を選択します。

2 いったんホワイトバランスボタンWBから指を離し、再度ホワイトバランスボタンWBを1.5秒以上押し続けます。プリセット取得モードになり、表示パネルとファインダー内表示に PrE の文字が、表示パネルに PRE のアイコンが、それぞれ点滅します。

3 プリセット取得モード中に、撮影する照明下で白またはグレー（無彩色）の被写体をファインダーいっぱいにとらえてシャッターボタンを押すと、その被写体を基準にプリセットデータが取得され、d-0に保存されます。

- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットデータが正常に取得されます。
- シャッターボタンを押してプリセットデータを取得しても、メモリーカードへの画像の記録は行われません。

4 プリセットデータが取得されると、表示パネルのシャッタースピード表示部に Good の文字が、ファインダー内表示のシャッタースピード表示部に Gd の文字がそれぞれ約3秒間点滅し、プリセット取得モードを終了します。プリセット取得モードが終了すると、撮影モードに戻ります。

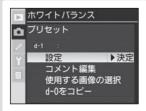
- 被写体が極端に低輝度または高輝度の場合、カメラがプリセットデータを取得できないことがあります。この場合、表示パネルとファインダー内表示のシャッタースピード表示部／絞り値表示部に no Gd の文字が、それぞれ約3秒間点滅し、プリセット取得モード（手順3）に戻ります。

【応用編】撮影　ホワイトバランス

- 新規取得したプリセットデータは、常にd-0に保存されます。他のプリセットデータ（d-1～d-4）を選択している場合、そのままでは新規取得したプリセットデータを使用できません。新規取得したプリセットデータを使用するには、プリセットデータとしてd-0を選択してください。
- d-0に新規取得したプリセットデータは、d-1～d-4にコピーすることができます（P.64）。
- 出荷時のプリセットデータd-0～d-4は晴天モードと同じ色温度5200Kに設定されています。
- プリセット取得モードを解除するには、ホワイトバランスボタンWBを押してください。

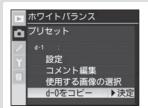
新規取得したプリセットデータのコピー（d-1～d-4のみ）

d-0で取得したプリセットデータを、選択したプリセットデータの保存場所にコピーします。

1 撮影メニュー画面の「**ホワイトバランス**」から **PRE**（プリセット）を選択してマルチセレクターの▶を押すと、プリセットデータの保存場所一覧が表示されます。

2 マルチセレクターの▲／▼／◀／▶を押して、プリセットデータをコピーする保存場所を選択します。

3 マルチセレクターの中央部を押すと、プリセットメニューが表示されます。

- プリセットメニューの表示中に、保存場所を変更する場合は、マルチセレクターの▲または▼を操作して保存場所（d-1～d-4）を選択し、▶を操作して保存場所を切り換えます。

4

マルチセレクターの▲または▼を押し、「**d-0をコピー**」を選択します。

5

マルチセレクターの▶を押すと、d-0で取得したプリセットデータを指定した保存場所にコピーし、保存場所一覧に戻ります。

- d-0のプリセットデータにコメントがある場合、コメントもコピーされます。

ヒント Nikon Capture 4のホワイトバランス操作について

別売のNikon Capture 4（Ver.4.4以降）を使用すると、D200で撮影されたRAW画像をパソコン画面で確認しながらホワイトバランスを調整することができます。Nikon Capture 4でホワイトバランスを調整した画像は、プリセットデータとして直接カメラに保存したり、メモリーカードに記録し、「**使用する画像の選択**」を使用してコピーすることもできます。また、Nikon Capture 4で編集されたホワイトバランスのコメントもプリセットデータのコメントとしてコピーされます。詳しくはNikon Capture 4の使用説明書をご覧ください。

撮影済み画像のホワイトバランスデータのコピー（d-1～d-4のみ）

選択したプリセットデータの保存場所に、メモリーカード内の画像で使用されたホワイトバランスを、プリセットデータとしてコピーします。

1 撮影メニュー画面の「**ホワイトバランス**」から、**PRE**（プリセット）を選択してマルチセレクターの▶を押すと、プリセットデータの保存場所一覧が表示されます。

2 マルチセレクターの▲／▼／◀／▶を押して、プリセットデータをコピーする保存場所を選択します。

3 マルチセレクターの中央部を押すと、プリセットメニューが表示されます。

- プリセットメニューの表示中に、保存場所を変更する場合は、マルチセレクターの▲または▼を押して保存場所（d-1～d-4）を選択し、▶を押して保存場所を切り換えます。

4 マルチセレクターの▲または▼を押し、「**使用する画像の選択**」を選択します。

5 マルチセレクターの▶を押すと、メモリーカードに保存されている画像が一覧で表示されます。

6 マルチセレクターで画像を選択します。

- 選択した画像は、サムネイルボタンを押している間、拡大して確認することができます。

7 マルチセレクターの中央部を押すと、メモリーカード内の選択画像のホワイトバランスデータが指定した保存場所にコピーされて、プリセットデータの保存場所一覧に戻ります。

- メモリーカード内の選択画像に画像コメントがある場合、画像コメントもコピーされます。

☑「使用する画像の選択」で選択できないメモリーカード内の画像について

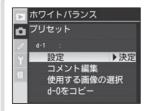
「**使用する画像の選択**」では、D200で撮影された画像のみ選択できます。他のカメラで撮影した画像は、画像の一覧に表示されず、選択できません。

プリセットデータの選択

選択したプリセットデータを、以降の撮影で使用するホワイトバランスに設定します。

1 撮影メニュー画面の「**ホワイトバランス**」(P.198)から **PRE**(プリセット)を選択してマルチセレクターの▶を押すと、プリセットデータの保存場所一覧が表示されます。

2 マルチセレクターの▲/▼/◀/▶を押して、設定するプリセットデータを選択します。

- プリセットデータの保存場所一覧が表示されているときに実行ボタン ENTER を押すと、選択されている保存場所のプリセットデータがそのまま設定されて、撮影メニューに戻ります。

3 マルチセレクターの中央部を押すと、プリセットメニューが表示されます。

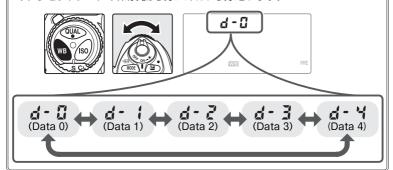
- プリセットメニューの表示中に、設定するプリセットデータを変更する場合は、マルチセレクターの▲または▼を操作して保存場所(d-0~d-4)を選択し、▶を操作して保存場所を切り換えます。

4 マルチセレクターの▲または▼を押して、「**設定**」を選択します。

5 マルチセレクターの▶を押すと、設定が実行されて撮影メニューに戻ります。

ヒント その他のプリセットデータ選択方法について

ホワイトバランスを **PRE**（プリセット）に設定している場合は、ホワイトバランスボタン WB を押しながら、サブコマンドダイヤルを回してプリセットデータを選択することが可能です。ホワイトバランスボタン WB を押している間、選択中のプリセットデータの保存先が表示パネルに表示されます。

【応用編】撮影 ホワイトバランス

プリセットデータのコメント編集

選択したプリセットデータにコメント（最大36文字）を入力します。

1 撮影メニュー画面の「**ホワイトバランス**」から **PRE**（プリセット）を選択してマルチセレクターの▶を押すと、プリセットデータの保存場所一覧が表示されます。

2 マルチセレクターの▲／▼／◀／▶を押して、コメントを入力するプリセットデータを選択します。

3 マルチセレクターの中央部を押すと、プリセットメニューが表示されます。

- プリセットメニューの表示中に、コメントを入力するプリセットデータを変更する場合は、マルチセレクターの▲または▼を押して保存場所（d-0～d-4）を選択し、▶を操作して保存場所を切り換えます。

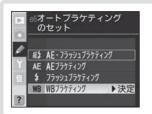
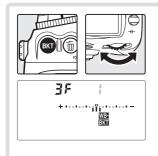
4 マルチセレクターの▲または▼を押し、「**コメント編集**」を選択します。

5 マルチセレクターの▶を押すと、コメント入力画面になります(P.188)。

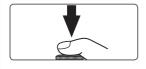
6 コメント入力後に実行ボタンENTERを押すと、プリセットデータの保存場所一覧に戻ります。

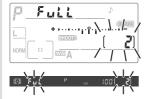
WB（ホワイトバランス）ブラケティング

WB（ホワイトバランス）ブラケティングは、1回の撮影で設定したホワイトバランスに対してセットした撮影コマ数分（1回の撮影で最大9コマ）だけ自動的に色温度をずらして記録します。複数の光源が混在しているなど、ホワイトバランスの決定が難しい場合や、微妙な白の色味を好みで選びたいときなどに効果的です。

WBブラケティングの設定

1 カスタムメニューe5「**オートブラケティングのセット**」（P.263）で「**WBブラケティング**」を選択します。

2 オートブラケティングボタンBKTを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して撮影コマ数を表示パネルに表示します。0コマ以外に設定されると、表示パネルにWBブラケティングマーク WB-BKT とWBブラケティングインジケーターが表示されます。

3 オートブラケティングボタン BKT を押しながら、サブコマンドダイヤルで補正ステップ (P.310) をセットします。

- ホワイトバランス補正ステップの1段は、約10ミレッドに相当します。

4 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- WBブラケティングでは、1回の撮影でセットされたすべてのコマ数が記録されます。
- WBブラケティングとホワイトバランスの微調整が同時にセットしてある場合、微調整にWBブラケティングの補正が加算されます。
- WBブラケティングを解除する場合は、オートブラケティングボタン BKT を押しながら、メインコマンドダイヤルで表示パネルの撮影コマ数を0にセットし、WBブラケティングマーク WB-BKT を消灯させます。この場合、セットした補正ステップは次回のWBブラケティング時まで保持されます。また、ツーボタンリセット (P.156) でも解除できますが、この場合はセットした補正ステップは保持されません。
- WBブラケティングの撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、絞り値が消灯してシャッタースピード表示部に FuLL (FuL) が点灯し、記録可能コマ数が点滅し、レリーズできません。新しいメモリーカードに交換すると撮影できます。

WBブラケティングの制限について

WBブラケティングは、画質モードがRAW、またはRAW＋FINE、RAW＋NORMAL、RAW＋BASICの場合は使用できません。また、ホワイトバランスを K（色温度設定）または PRE（プリセット）に設定している場合も使用できません。

画質モードの変更について

WBブラケティングセット後に画質モードをRAW、またはRAW＋FINE、RAW＋NORMAL、RAW＋BASICにセットにするとWBブラケティングの設定が解除されます。

WBブラケティング時の連続撮影について

動作モードにかかわらず、WBブラケティング時は1回のシャッターボタンの押し込みで1回の撮影を行い、セットしたコマ数の記録を行います。シャッターボタンを押し続けても連続撮影にはなりません。

電源スイッチをOFFにした場合

WBブラケティングの場合は、メモリーカードアクセスランプ点灯中に電源スイッチをOFFにした場合、すべてのコマの記録が終了してから電源が切れます。ただし、削除ボタン 🗑 を押しながら電源スイッチをOFFにし、そのまま削除ボタン 🗑 を1秒以上押し続けると、まだメモリーカードに書き込まれていない画像は記録されずに電源が切れます。

セルフタイマー撮影時

セルフタイマー撮影時（P.131）にWBブラケティングを行った場合、一回のセルフタイマー撮影で設定された撮影コマ数が全て記録されます。

関連データ

WBブラケティングの設定コマ数と補正ステップの組み合わせ　→「付録　資料集」（P.310）

e7：オートブラケティング撮影時の補正順序（P.265）

マイナス側からプラス側へ順番に撮影されるように変更できます。

e8：オートブラケティングの設定方法（P.265）

オートブラケティングボタン BKT を押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、オートブラケティングの設定／解除を、オートブラケティングボタン BKT を押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数と補正ステップを組み合わせで選択できるように変更できます。

仕上がり設定

記録する画像の仕上がりを設定します。撮影シーンや好みに応じて「**標準**」、「**ソフトに**」、「**鮮やかに**」、「**より鮮やかに**」、「**ポートレート**」を選択すると、輪郭（シャープネス）、コントラスト、色再現、彩度、色相の組み合わせが、それぞれ最適な状態で再現されるように設定されます。また、「**カスタマイズ**」を選択すると、撮影意図に合わせて輪郭、コントラスト、色再現、彩度、色相を個別に設定することが可能です。

N	**標準**（初期設定）	標準的な画像に仕上げます。さまざまな撮影状況に対応します。
SO	**ソフトに**	被写体の輪郭をソフトに再現します。人物の肌をなめらかに表現したいときや、撮影後にパソコン上で画像をレタッチする場合に適しています。
VI	**鮮やかに**	彩度を高め、赤色と緑色を鮮やかに表現します。ややコントラストが高く、シャープな画像になります。
VI+	**より鮮やかに**	彩度とコントラストを高め、被写体の輪郭を強調した画像になります。
PO	**ポートレート**	人物撮影に適しています。コントラストを抑え、肌の質感や立体感を自然に仕上げます。
	カスタマイズ	「**輪郭強調**」（輪郭）、「**階調補正**」（コントラスト）、「**カラー設定**」（色再現）、「**彩度設定**」（彩度）、「**色合い調整**」（色相）を個別に設定します（P.77）。
BW	**白黒**	撮影した画像を白黒で記録します。

ヒント ファインダースクリーン上の表示について

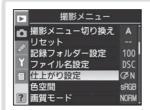
仕上がり設定を「**白黒**」に設定すると、ファインダースクリーン上に白黒マーク **B/W** が表示されます（P.8）。

「カスタマイズ」以外の仕上がり設定についてのご注意

充分な効果を得るには、GタイプまたはDタイプのレンズをお使いになることをおすすめします。

色空間について

画像の色空間は、撮影メニューの「**色空間**」で「**sRGB**」（初期設定）または「**AdobeRGB**」から選択できます（P.206）。

仕上がりの設定は撮影メニューの「**仕上がり設定**」で行います。

1 撮影メニュー画面から「**仕上がり設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

2 仕上がり選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定する仕上がりを選択します。マルチセレクターの▶を押し、「**カスタマイズ**」を選択した場合は、カスタマイズ画面（P.80）が表示されます。それ以外の仕上がりを選択した場合は、設定が有効となり撮影メニューに戻ります。

☑ 仕上がり設定についてのご注意

「**カスタマイズ**」以外の仕上がり設定で撮影する場合、撮影画像を使用して最適な仕上がりになるように自動的に設定されます。同じようなシーンを撮影する場合でも、被写体の位置、大きさ、または露出が変わると、仕上がりが変化することがあります。仕上がりを固定して撮影したい場合には、「**カスタマイズ**」を選択して「**輪郭強調**」、「**階調補正**」、「**カラー設定**」、「**彩度設定**」、「**色合い調整**」を個別に設定することをおすすめします。ただし、「**輪郭強調**」、「**階調補正**」を**A**（オート）に設定すると、シーンによって輪郭の強調度合いやコントラストが変化することがありますので、これらを固定して撮影する場合は、**A**（オート）以外に設定して撮影してください。

仕上がり設定のカスタマイズ

仕上がり設定で「⊘✐ **カスタマイズ**」を選択すると、撮影意図に合わせて、「**輪郭強調**」（シャープネス）、「**階調補正**」（コントラスト）、「**カラー設定**」（色再現）、「**彩度設定**」（彩度）、「**色合い調整**」（色相）を個別に設定することができます。

輪郭強調

撮影シーンや好みに応じて、記録する画像の輪郭（シャープネス）を設定します。輪郭（シャープネス）を強調する度合いを意図的に調整できます。

A	**オート** （初期設定）	撮影した画像から、最適な輪郭をカメラが自動的に設定します。**A**（オート）を充分に活用するために、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。
◇ 0	**標準**	標準的なレベルで輪郭強調を行います。
◇-2	**弱**	輪郭強調の度合いは標準よりも弱くなります。
◇-1	**やや弱**	輪郭強調の度合いは標準よりも、やや弱くなります。
◇+1	**やや強**	輪郭強調の度合いは標準よりも、やや強くなります。
◇+2	**強**	輪郭強調の度合いは標準よりも強くなります。
⊘	**しない**	輪郭強調を行いません。

☑ 輪郭強調についてのご注意

輪郭強調を**A**（オート）に設定して撮影する場合、撮影画像を使用して最適な輪郭の強調度合いを設定します。同じようなシーンを撮影する場合でも、被写体の位置、大きさ、または露出が変わると、強調度合いが変化することがあります。輪郭の強調度合いを固定して撮影したい場合には、**A**（オート）以外の設定を選択することをおすすめします。

階調補正

記録する画像のコントラストを設定します。

A	オート（初期設定）	撮影した画像から、最適なコントラストをカメラが自動的に設定します。**A**（オート）を充分に活用するために、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。
◐0	標準	標準的なコントラストです。暗いシーンから明るいシーンまで、さまざまな撮影状況を再現します。
◐–	コントラスト弱め	コントラストを弱めにして、軟調な画像に仕上げます。晴天時の人物撮影や、顔などの白飛びが気になる場合に適しています。
◐+	コントラスト強め	コントラストを強めにして、硬調な画像に仕上げます。霞んだ遠景を撮影する場合などに適しています。
◐✎	ユーザーカスタム	別売のNikon Capture 4（Ver.4.4以降）でユーザー定義し、カメラにダウンロードしたトーンカーブを使用します。出荷時のトーンカーブは標準に設定されています。

カラー設定

記録する画像の色再現を設定します。フィルムカメラでは好みの色調に応じてフィルムを選択しますが、D200では、カラーモードの選択により色相、彩度、色域を特徴づけることができます。

I	モードⅠ（初期設定）	画像調整などを行わなくても肌の色合いやグラデーションを自然で階調豊かに再現します。
II	モードⅡ	素材性を重視した色再現です。撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に最適です。撮影メニューの「**色空間**」が「**AdobeRGB**」に設定されている場合のみ選択できます。
III	モードⅢ	風景撮影に適したモードです。画像調整などを行わなくても緑や青空などの色を鮮やかに再現します。「**モードⅠ**」に比べ、やや硬調な画像に仕上がります。

☑ 階調補正についてのご注意

階調補正を**A**（オート）に設定して撮影する場合、撮影画像を使用して最適なコントラストに設定します。同じようなシーンを撮影する場合でも、被写体の位置、大きさ、または露出が変わると、コントラストが変化することがあります。コントラストを固定して撮影したい場合には、**A**（オート）以外の設定を選択することをおすすめします。

☑「モードⅡ」について

「**モードⅡ**」は撮影メニューの「**色空間**」が「**AdobeRGB**」に設定されている場合のみ選択できます。「**モードⅡ**」に設定してから「**色空間**」を「**sRGB**」に変更すると、自動的に前回の「**sRGB**」設定時と同じカラーモードに変更されます。

彩度設定

記録する画像の色の鮮やかさを設定します。

A	オート	撮影した画像から、最適な彩度をカメラが自動的に設定します。**A**（オート）を充分に活用するために、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。
0	**標準**（初期設定）	標準的な彩度に調整します。通常の撮影ではこの設定をご使用になることをおすすめします。
−	**弱め**	彩度を抑えます。画像をパソコンでレタッチする場合などに適しています。
+	**強め**	彩度を鮮やかにします。画像をプリンターで直接出力する場合に適しています。

色合い調整

記録する画像に対して色相の調整が可能です。色合い調整の数値は約－9°～約＋9°（1ステップ約3°）の7段階で、0°が初期設定です。肌色を基準とした場合、＋側に数値を高くすると黄色みが増し、－側に数値を低くすると赤みが増します。他の色の場合、調節の度合いにより多少変化することがあります。

ヒント 色相とは

光の3原色（赤、緑、青）のうち、2色の光を組み合わせると、さまざまな色を作り出すことができます。例えば、赤い光と緑の光の分量を変えて混ぜ合わせた場合の色の変化を見ると、次のようになります。

赤の光のみ	赤の光多め	赤と緑が同量	緑の光多め	緑の光のみ
赤	オレンジ色	黄色	黄緑色	緑色

同様に、赤の光と青の光を混ぜ合わせた場合は、赤紫色～ピンク色～紺色に変化します。また、緑の光と青い光を混ぜ合わせた場合は、エメラルド色～水色と変化します。これらの色を順番に環状に並べたものを色相、あるいは色相環といいます。

2色以外の3番目の色を混ぜ合わせると、だんだんと色が薄くなっていきます。3つの色が同量になると、色はなくなって無彩色となり、白またはグレーになります。

☑ 彩度設定についてのご注意

彩度設定を**A**（オート）に設定して撮影する場合、撮影画像を使用して最適な彩度に設定します。同じようなシーンを撮影する場合でも、被写体の位置、大きさ、または露出が変わると、彩度が変化することがあります。彩度を固定して撮影したい場合には、**A**（オート）以外の設定を選択することをおすすめします。

仕上がり設定のカスタマイズ方法

仕上がりの設定のカスタマイズは撮影メニューの「**仕上がり設定**」から「**カスタマイズ**」を選択して行います。

1 撮影メニュー画面から「**仕上がり設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

2 仕上がり選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**カスタマイズ**」を選択します。

3 マルチセレクターの▶を押すと、カスタマイズ画面が表示されます。

4 マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**輪郭強調**」、「**階調補正**」、「**カラー設定**」、「**彩度設定**」、「**色合い調整**」のうち、設定する項目を選択します。

5 マルチセレクターの▶を押すと、選択した項目の設定画面が表示されます。

6 マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定する内容を選択します。

7 マルチセレクターの▶を押すと、カスタマイズ画面（手順3）に戻ります。

- 手順4～7を繰り返して、変更するすべての項目を設定します。

8 カスタマイズ画面でマルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**設定終了**」を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。

色空間

記録する画像の色空間を指定します。画像の用途によって、適した色空間が選択できます。

sRGB	sRGB（初期設定）	画像をsRGB色空間で記録します。画像調整などを行わずに再生やプリントする場合に適しています。「**sRGB**」を選択した場合、撮影メニュー「**仕上がり設定**」の「**カスタマイズ**」で、「**カラー設定**」を「**モードⅡ**」に設定することはできません。
Adobe	AdobeRGB	画像をAdobeRGB色空間で記録します。sRGB色空間に比べて色域が広いため、商業印刷に適しています。

色空間の設定は撮影メニューの「**色空間**」で行います。

1 撮影メニュー画面で「**色空間**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

2 色空間選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定する色空間を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。

✓ 色空間についてのご注意

- カラーマネジメント機能を持たないアプリケーションで画像を開く場合、または印刷する場合には、sRGB色空間をおすすめします。
- AdobeRGB色空間で記録したJPEG画像は、DCFオプション色空間に対応しています。DCFオプション色空間に対応しているアプリケーションやプリンターの場合、自動的に正しい色空間が設定されます。DCFオプション色空間に対応していないアプリケーションやプリンターの場合は、AdobeRGB色空間に設定してください。詳細については、アプリケーションやプリンターの説明書をご覧ください。
- ExifPrint、市販プリンターなどのダイレクトプリント、キオスク端末プリント、およびプリントサービスなどでプリントする場合、sRGB色空間をおすすめします。AdobeRGB色空間で記録した画像でも、市販プリンターなどのダイレクトプリント、キオスク端末プリント、およびプリントサービスで印刷できることは確認していますが、彩度が低下する場合があります。

✓ 付属のソフトウェア、Nikon Capture 4をご使用の場合

付属のソフトウェアや別売のNikon Capture 4（Ver.4.4以降）をご使用になると、正しい色空間での処理が自動的に行われます。

フォーカス

フォーカスモード、フォーカスエリア、AFエリアモードを設定することにより、カメラのフォーカス（ピント合わせ）機能をコントロールします。

フォーカスモード

フォーカスモードセレクトダイヤルを**S**（シングルAFサーボ）、または**C**（コンティニュアスAFサーボ）にセットして、シャッターボタンの半押しを続けると、フォーカスエリア内の被写体に自動的にピントを合わせます。また、**M**（マニュアルフォーカス）にセットして、撮影者自身がレンズのフォーカスリングを回してピントを合わせることもできます。

S シングルAFサーボ （AF-S・フォーカス優先モード）	ファインダー内のピント表示（●）が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、ピントはそこで固定（フォーカスロック）されるモードで、風景などの静止した被写体の撮影に向いています。初期設定ではピント表示が点灯したときのみシャッターがきれるフォーカス優先モードとなっています。
C コンティニュアスAFサーボ （AF-C・レリーズ優先モード）	ファインダー内のピント表示（●）が一旦点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けるモードで、スポーツなどの動く被写体の撮影に向いています。シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカス（P.85）に切り替わり、被写体の動きに応じてピントを追い続けます。初期設定ではピント表示の点灯／消灯にかかわらず、いつでもシャッターをきることができるレリーズ優先モードとなっています。
M マニュアルフォーカス	撮影者自身がレンズのフォーカスリングを回してピントを合わせるモードです。開放絞り値がf/5.6よりも明るいレンズを装着すると、ファインダー内のピント表示（●）によって合焦状態を確認できる「フォーカスエイドによるピント合わせ」（P.99）が行えます。また、ピント表示の点灯／消灯にかかわらず、いつでもシャッターをきることができます。

静止している被写体を撮影する場合は**S**（シングルAFサーボ）に、動きのある被写体を撮影する場合は**C**（コンティニュアスAFサーボ）に、オートフォーカスに対応していないレンズを使用している場合や、オートフォーカスでピント合わせができない場合は**M**（マニュアルフォーカス）にセットしてください。

ヒント AF作動ボタンについて

AF作動ボタンAF-ONを押し続けると、シャッターボタンの半押しを続けたときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。

ヒント 予測駆動フォーカスについて

フォーカスモードセレクトダイヤルを**C**（コンティニュアスAFサーボ）にセットして、シャッターボタンを半押し、またはAF作動ボタンAF-ONを押し続けてピント合わせを行っているとき、動いている被写体であるとカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカス作動時は、シャッターがきれる時点での被写体の到達位置を予測しながらピントを追い続けます。

a1：AF-Cモード時の優先条件（P.232）

フォーカスモードが**C**（コンティニュアスAFサーボ）のときに、連続撮影時にできるだけピントが合うように連続撮影速度を落としてフォーカス動作を行ったり、フォーカス優先でピントが合っているときのみシャッターがきれるように変更できます。この場合でも、ファインダー内のピント表示（●）が一旦点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。

a2：AF-Sモード時の優先条件（P.232）

フォーカスモードが**S**（シングルAFサーボ）のときに、レリーズ優先でピントが合っていなくてもシャッターがきれるように変更できます。この場合でも、ファインダー内のピント表示（●）が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、フォーカスロックが行われます。

a6：シャッターボタン半押しによるAFレンズ駆動（P.236）

シャッターボタンの半押しではオートフォーカスが作動しないように変更できます。設定にかかわらず、AF作動ボタンAF-ONによるオートフォーカスは可能です。

フォーカスエリアの選択

このカメラには、撮影画面内に11カ所（初期設定）のフォーカスエリアがあります。撮影時には、被写体の位置や構図に合わせてフォーカスエリアの位置を選択できるので、被写体の状況によっては撮影したい構図のままピント合わせが行え、フォーカスロック（P.93）の手間を省くことができます。

- グループダイナミックAF（P.89）が設定されている場合は、フォーカスエリアのグループごとに選択できます。
- 至近優先ダイナミックAF（P.89）が設定されている場合は、フォーカスエリアは選択できません。

フォーカスエリアの選択方法

- フォーカスエリアロックレバーを • 側に回転させてロックを解除すると、マルチセレクターがフォーカスエリアセレクターとして機能します。
- マルチセレクターの▲／▼／◀／▶を押してフォーカスエリアを選択します。

- マルチセレクターの中央部を押すと、中央部のフォーカスエリアまたは中央のフォーカスエリアのグループが選択されます。
- フォーカスエリアを選択した後にフォーカスエリアを選択した位置に固定したい場合、フォーカスエリアロックレバーを**L**側に回転させてロックできます。

☑ フォーカスエリアの選択について

液晶モニターで画像再生中、メニュー表示中および半押しタイマーがきれている場合は、フォーカスエリアを選択できません。

a3：フォーカスエリアフレームの切り換え（P.90、233）

[[ ]]（シングルエリアAFモード）、[[·:·]]（ダイナミックAFモード）の場合、撮影画面内のフォーカスエリアは、ノーマルフレームよりも広いエリアでピント合わせを行う7カ所のワイドフレームに変更することができます。

a7：フォーカスエリア照明の点灯設定（P.237）

通常、ファインダー内のフォーカスエリア(フレーム)は、マルチセレクターで選択されたフォーカスエリアを、被写体の明るさに応じて見やすいように瞬間的に赤色に自動照明しますが、照明しない、もしくは被写体の明るさに関係なく照明するように変更できます。

a8：フォーカスエリアの選択を循環方式に（P.237）

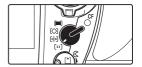
マルチセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になります。

f1：マルチセレクターの中央ボタンの機能（P.266）

「**撮影モード**」により、マルチセレクターの中央部を押したときの機能を、選択したフォーカスエリアを点灯させたり、マルチセレクターの中央部の機能を使用しないように変更できます。

AFエリアモード

フォーカスモードセレクトダイヤルを**S**（シングルAFサーボ）、または**C**（コンティニュアスAFサーボ）にセットしてシャッターボタンを半押しすると、オートフォーカスでピント合わせを行うことができます。このときAFエリアモードを切り換えることにより、ピントを合わせるフォーカスエリアをカメラがどのように選択するかを設定することができます。

- AFエリアモードセレクトダイヤルを操作することにより、次のAFエリアモードを選択することができます。

AFエリアモード	表示パネル	内容
[ ] シングルエリアAFモード	[ ]	撮影者がマルチセレクターで選択した1つのフォーカスエリアのみでピントを合わせるモードです。動きの少ない被写体に対して、選択したフォーカスエリア単独で正確にピントを合わせたい場合などに便利です。
[·[ ]·] ダイナミックAFモード	+ + + / + + [+] + + / + + +	撮影者が選択した1つのフォーカスエリアからピントを合わせたい被写体が一時的にはずれた場合でも、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせることができます（ファインダー内のフォーカスエリア表示は変化しません）。フォーカスモードの**C**（コンティニュアスAFサーボ）と組み合わせて、動いている被写体（特に不規則な動きをする被写体）を追い続けるときなど、被写体をフォーカスエリアに正確に捉え続けることが困難な場合に便利です。

✓ 表示パネルのAFエリアモード表示について

- [ ]（シングルエリアAFモード）、[·[ ]·]（ダイナミックAFモード）、[◇]（グループダイナミックAFモード）の場合は、選択されているフォーカスエリア（またはグループ）によって、点灯するフォーカスエリアの位置が異なります。表のイラストは中央のフォーカスエリアを選択した場合です。
- [■]（至近優先ダイナミックAFモード）の場合は、実際にピントを合わせるフォーカスエリアは表示されません。

✓ マニュアルフォーカス時のAFエリアモードについて

フォーカスモードが**M**（マニュアルフォーカス）の場合は、AFエリアモードが自動的に[ ]（シングルエリアAFモード）になります。

AFエリアモード	表示パネル	内容
グループダイナミックAFモード		隣り合う複数のフォーカスエリアを組み合わせ、上、下、左、右、中央の5つのグループを構成し、撮影者がそのうちの1つのグループを選択してピント合わせを行います。選択されたグループの中央にあるフォーカスエリア（）でピントを合わせますが、被写体が一時的にはずれた場合でも、同じグループに含まれる他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせることができます。 • 各グループに含まれるフォーカスエリアは次のとおりです。 上 左　中央　右 下
至近優先ダイナミックAFモード		すべてのフォーカスエリアのうち、一番手前にある主要被写体に重なっているフォーカスエリアを使用して、自動的にピントを合わせるモードです。いずれかのフォーカスエリアにピントが合いますので、ピントのはずれた画像を避けることができます。 • 至近優先ダイナミックAF時は、表示パネル、ファインダー内表示ともにフォーカスエリアは表示されません。また、任意のフォーカスエリアを選択することもできません。

a3：フォーカスエリアフレームの切り換え（P.90、233）

［］（シングルエリアAFモード）、［］（ダイナミックAFモード）の場合、撮影画面内のフォーカスエリアは、ノーマルフレームよりも広いエリアでピント合わせを行う7カ所のワイドフレームに変更することができます。

a4：グループダイナミックAFの設定（P.233）

グループダイナミックAF時の、各グループに含まれるフォーカスエリアの組み合わせを変更したり、グループ内で一番手前にある主要被写体に重なっているフォーカスエリアでピントを合わせるように変更することができます。

a5：AFロックオン（P.236）

通常、被写体との距離が大きく変わった場合、一定時間経過してからこれに追従するようフォーカス動作を行いますが、これを解除して、ただちに追従するよう変更することができます。

フォーカスエリアフレームの切り換え

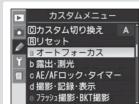
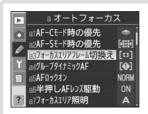
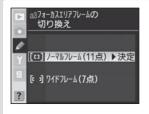
AFエリアモード (P.88) が [▫] (シングルエリアAFモード) または [·▫·] (ダイナミックAFモード) の場合のフォーカスエリアを、初期設定のノーマルフレーム (11カ所) から、より広いエリアでピント合わせを行うワイドフレーム (7カ所) に変更できます。

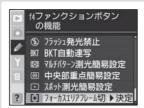
ノーマルフレーム (11点) (初期設定)	11カ所のフォーカスエリアにあるフレームの内側でピントを合わせます。被写体の特定の部位に、ピントを合わせたい場合などに使用します。
ワイドフレーム (7点)	ノーマルフレームよりも広いエリアでピント合わせを行います。選択可能なフォーカスエリアは7カ所になります。ノーマルフレームよりも被写体を捉えやすくなり、シャッターチャンスを逃しにくくなります。ただし、フォーカスエリアが広くなるため、フレーム内に複数の被写体が含まれた場合は意図しない部分にピントが合うことがあります。

それぞれの設定において、フォーカスエリアは表示パネルおよびファインダースクリーン上で次のようになります (説明のため、すべてのフォーカスエリアを点灯させています)。

	表示パネル		ファインダースクリーン
	[▫] シングルエリアAFモード	[·▫·] ダイナミックAFモード	
ノーマルフレーム (11点) (初期設定)			
ワイドフレーム (7点)	WIDE	WIDE	

AFエリアモードが [◇] (グループダイナミックAFモード) または [■] (至近優先ダイナミックAFモード) の場合、フォーカスエリアフレームの切り換えの設定にかかわらず、フォーカスエリアはノーマルフレーム (11カ所) になります。

カスタムメニューの「a3 フォーカスエリアフレーム切換え」で設定する場合

1 カスタムメニュー画面で「**オートフォーカス**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

2 カスタムメニュー画面の第2階層が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**a3 フォーカスエリアフレーム切換え**」を選択してマルチセレクターの▶を押します。

3 フォーカスエリアフレームの選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、フォーカスエリアフレームを選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、カスタムメニュー画面の第2階層画面に戻ります。

ファンクションボタンとサブコマンドダイヤルで設定する場合

1 カスタムメニューf4「**ファンクションボタンの機能**」(P.269)を「**フォーカスエリアフレーム切り換え**」に設定します。

2 ファンクションボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回して表示パネルのフォーカスエリアワイドフレームマーク(**WIDE**)を点灯／消灯します。

- フォーカスエリアワイドフレームマーク(**WIDE**)の点灯中は、ワイドフレーム(7点)となり、消灯中はノーマルフレーム(11点)となります。

【応用編】撮影 フォーカス

フォーカスロック撮影

オートフォーカスで主要被写体（ピントを合わせたい人物や物など）がいずれのフォーカスエリアからもはずれる構図の場合に使用します。また、オートフォーカスが苦手な被写体（P.97）にも有効です。操作手順はシングルAFサーボ（AF-S）とコンティニュアスAFサーボ（AF-C）で異なります。

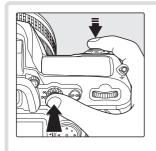
1　ピントを合わせたい被写体にフォーカスエリアを重ね、シャッターボタンを半押しします。

- ピントが合うと、ピント表示（●）が点灯します。

2　ピント表示（●）が点灯したら、フォーカスロックを行います。

シングルAFサーボ（AF-S）の場合

シャッターボタンを半押ししたままにすると、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。

- AE/AFロックボタンAE-L AF-Lを押してフォーカスロックを行うこともできます。次のコンティニュアスAFサーボ（AF-C）の場合をご覧ください。

コンティニュアスAFサーボ（AF-C）の場合

シャッターボタンを半押ししたまま、AE/AFロックボタンAE-L AF-Lを押すと、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。

- シャッターボタンから指を離しても、AE/AFロックボタンAE-L AF-Lを押している間はフォーカスロックされます。また、AEロック（P.111）も同時に行われます。

3　フォーカスロックを行ったまま、構図を決めて撮影します。

- フォーカスロック後は、主要被写体との撮影距離を変えないでください。
- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後もシャッターボタンを半押ししたまま再度シャッターボタンを押し込めば、ピントを固定したまま繰り返し撮影できます。AE/AFロックボタンAE-L AF-Lでフォーカスロックした場合は、AE/AFロックボタンAE-L AF-Lを押したまま再度シャッターボタンを押せば、ピントを固定したまま繰り返し撮影できます。
- ピントが固定された後に被写体が動いた（撮影距離が変化した）場合は、いったんシャッターボタンやAE/AFロックボタンAE-L AF-Lから指を離し、フォーカスロックを解除してからピントを合わせ直してください。

c2：AE/AFロックボタンの機能（P.246）

AE/AFロックボタンAE-L AF-Lを押したときに、AFロックだけ行われるように変更できます。

AF補助光について

このカメラはAF補助光ランプを搭載しています。被写体が暗い場合でも、シャッターボタンを半押しすると自動的にAF補助光を照射し、被写体を照らしてオートフォーカスでのピント合わせが可能となります。

- AF補助光は、フォーカスモードがAF-S（シングルAFサーボ）で、AFレンズを装着し、被写体が暗い場合に、次のいずれかの条件を満たすと自動的に照射を行います。
  - ・ シングルエリアAFまたはダイナミックAFに設定され、フォーカスエリアが中央に選択された状態
  - ・ グループダイナミックAFで、中央のグループ選択された状態、またはカスタムメニューa4「**グループダイナミックAF**」が「**至近優先**」に設定され、中央のフォーカスエリアを含むグループが選択された状態
  - ・ 至近優先ダイナミックAF時
- 使用可能なAFレンズの焦点距離は24～200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5～3mです。
- ケラレを防止するために、AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。
- 下記のレンズではケラレが発生し、撮影距離0.7m以内ではAF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。
  - ・AFマイクロED 200mm F4D
  - ・AF-S VR ED 24-120mm F3.5-5.6G
  - ・AF-S ED 28-70mm F2.8D
  - ・AFマイクロED 70-180mm F4.5-5.6D
- 下記のレンズではケラレが発生し、撮影距離1m以内ではAF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。
  - ・AF-S DX ED 55-200mm F4-5.6G
- 下記のレンズではケラレが発生し、撮影距離1.5m以内ではAF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。
  - ・AF-S VR ED 70-200mm F2.8G
  - ・AF-S ED 80-200mm F2.8D
  - ・AF ED 80-200mm F2.8D
- 下記のレンズではケラレが発生し、撮影距離2.5m以内ではAF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。
  - ・AF VR ED 80-400mm F4.5-5.6D
- AF-S VR ED 200-400mm F4GはAF補助光を使用したオートフォーカス撮影は行えません。

- スピードライト（別売）SB-800、SB-600、またはワイヤレススピードライトコマンダー（別売）SU-800を使用して撮影した場合、AF補助光の発光条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光（アクティブ補助光）が自動的に照射を行います。照射可能なフォーカスエリアはAFレンズの焦点距離によって異なります。

	ノーマルフレーム（11点）	ワイドフレーム（7点）
AFレンズの焦点距離が24～34mmの場合		
AFレンズの焦点距離が35～70mmの場合		
AFレンズの焦点距離が71～105mmの場合		

その他のスピードライトでは、カメラ側のAF補助光が自動的に照射を行います。

AF補助光の連続使用について

AF補助光を連続して使用すると、照射ランプを保護するため一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと照射可能になります。また、短時間に何回も使用すると、AF補助光の窓が熱くなることがありますので、ご注意ください。

a9：内蔵AF補助光の照射設定（P.238）

AF補助光の照射を禁止することができます。

オートフォーカスの苦手な被写体について

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。このような場合は、フォーカスモードを**M**（マニュアルフォーカス；P.98）に切り換えてピントを合わせるか、フォーカスロック（P.93）を利用しておおよそ同じ距離の被写体にピントを合わせ、そのまま構図を元に戻して撮影してください。

明暗差がはっきりしない場合
（白壁や背景と同色の服をきている人物など）

フォーカスエリア内に遠いものと近いものが混在する被写体
（オリの中の動物や木の前の人物など）

連続した繰り返しパターンの被写体
（ビルの窓など）

フォーカスエリア内の被写体の輝度差が著しく異なる場合
（太陽が背景に入った日陰の人物など）

フォーカスエリアに対して主要被写体が小さい場合
（フォーカスエリア内に遠くの建物と近くの人物が混在する被写体など）

絵柄がこまかな場合
（一面の花畑など、被写体が小さいか、明暗差が少ない被写体など）

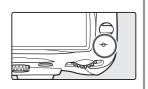
マニュアルフォーカス

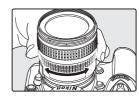
マニュアルフォーカス（手動）によるピント合わせ

フォーカスモードセレクトダイヤルを**M**にセットすると、マニュアルフォーカス（手動）でピント合わせが行えます。

- フォーカスモードセレクトダイヤルを**M**（マニュアル）にセットし、レンズのフォーカスリングを回して、ファインダースクリーンのマット面の像がはっきり見えるように合わせます。ピント表示●の点灯・消灯にかかわらず、シャッターをきることができます。オートフォーカスが苦手な被写体（P.97）を撮影するときや、AFニッコール以外のレンズ装着時にご使用ください。
- A-M切り換え方式のレンズを装着して、マニュアルフォーカスでピントを合わせる場合は、レンズ側もMにしてください。また、M/A（マニュアル優先オートフォーカス）モード機能を搭載しているレンズを装着する場合は、レンズ側はM/AまたはMのどちらにセットしてもフォーカスが可能です。詳細はご使用になる各レンズの使用説明書をご覧ください。

ヒント　距離基準マークについて

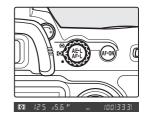
距離基準マークは撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面（レンズマウント）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。

フォーカスエイドによるピント合わせ

フォーカスモードセレクトダイヤルを**M**（マニュアル）にセットしたとき、開放絞りがf/5.6以上の明るいレンズを装着すると、ファインダー内のピント表示●によって合焦状態を確認できる「フォーカスエイドによるピント合わせ」が行えます。

- シャッターボタンを半押しして、半押しタイマーが作動中にレンズのフォーカスリングを回し、ピントを合わせたい部分を選択しているフォーカスエリアに重ねて、ピント表示●を点灯させます。シャッターは、いつでもきることができます。また、いずれのフォーカスエリアを選択してもフォーカスエイドが行えます（P.86）。

【応用編】撮影　フォーカス

測光・露出

測光モード

測光モードダイヤルを切り換えることにより、3つの測光モードから、被写体の光の状況に最適な測光モードを選択することができます。

- 各測光モードをセットすると、ファインダー内に測光モード表示が表示されます。
- 装着レンズによっては使用できない測光モードがあります(P.276)。

3D-RGB マルチパターン 測光Ⅱ ・ RGB マルチパターン 測光Ⅱ ・ RGB マルチパターン 測光	このカメラは1005分割RGBセンサーを採用しています。1005分割RGBセンサーから得られた画面全域のさまざまな情報を分類して露出を決定する「3D-RGBマルチパターン測光Ⅱ」が可能です。特に明るい色（白や黄色）の被写体や、暗い色（黒や濃い緑色）の被写体が画面全体を大きく占めているような場合に威力を発揮し、目で見た感じにより近く再現します。また、GまたはDタイプ以外のCPUレンズ装着時は「RGBマルチパターン測光Ⅱ」、撮影メニューの「**レンズ情報手動設定**」（P.211）でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定した非CPUレンズ装着時は「RGBマルチパターン測光」となります。 • AEロック（P.111）や露出補正（P.113）を行うときは、中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。
中央部重点測光	ファインダー中央部（直径φ8mmの内側）を重点的に測光して露出値を決定しますので、ファインダー内のφ8mmの円を参考に測光範囲を決定してください。

スポット測光	「スポット測光」はフォーカスエリアに重なるφ3mm相当（全画面の約2.0%）を部分的に測光して露出値を決定します。逆光時やコントラストの差が激しいときなど、フォーカスエリア相当の狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 • 測光エリアは、選択されているフォーカスエリアに連動するため、撮影したい構図のまま、マルチセレクターを操作して測光エリアを変えることができます。ただし、非CPUレンズ使用時は、常に中央のフォーカスエリアに相当する部分を測光します。 • 至近優先ダイナミックAFモード時（P.89）は、中央のフォーカスエリアに相当する部分を測光します。 • グループダイナミックAFモード時（P.89）は、選択したグループの中央のフォーカスエリアに相当する部分を測光します。 • カスタムメニューa3「**フォーカスエリアフレーム切換え**」を「**ワイドフレーム（7点）**」に設定している場合は、各フォーカスエリア中央のφ3mm相当の部分を測光します。

非CPUレンズ装着時の測光モードについて

- 非CPUレンズ装着時に測光モードを「**中央部重点測光**」または「**スポット測光**」に設定している場合、撮影メニューの「**レンズ情報手動設定**」（P.211）で焦点距離と開放絞り値を設定すると、測光の精度が向上します。
- 非CPUレンズ装着時に撮影メニューの「**レンズ情報手動設定**」（P.211）で焦点距離と開放絞り値を設定しない場合は、マルチパターン測光を選択しても自動的に中央部重点測光に切り替わります。

フィルター係数のかかるフィルターの使用について

フィルター係数のかかるフィルター（P.288）を使用する場合、3D-RGBマルチパターン測光Ⅱ、RGBマルチパターン測光Ⅱ、またはRGBマルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。

b6：中央部重点測光の範囲（P.244）

中央部重点測光時の測光範囲の直径をφ6mm、φ8mm、φ10mm、φ13mm、または画面全体の平均のいずれかに変更できます。

b7：基準露出レベルの調節（P.244）

適正露出の基準を測光モードごとに明るめまたは暗めに調節することができます。1/6段ステップで、±1段の範囲で設定できます。0以外に設定しても、露出補正マーク は表示されませんのでご注意ください。

露出モード

このカメラには、P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）、M（マニュアル）の４つの露出モードがあります。

P：プログラムオート

プログラムオート時は、プログラム線図（P.311）にしたがって、シャッタースピードと絞りが自動的に制御され、適正露出が得られます。プログラムオートは、スナップ撮影など迅速な対応が必要な撮影に適しています。プログラムシフト、オートブラケティング（P.115）、露出補正（P.113）などを併用すると、より高度な撮影が楽しめます。

- プログラムオートはCPUレンズ装着時のみ撮影できます。

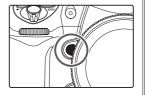
1　露出モードボタン MODE を押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルに P を表示させます。

2　構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

ヒント　プログラムシフトについて

プログラムオートで撮影中にメインコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変えることができます。この機能により、プログラムオートにセットしたままシャッター優先オートや、絞り優先オートのような使い方ができます。プログラムシフト中は表示パネルにプログラムシフトマーク ✱ が点灯します。解除する場合は、プログラムシフトマーク ✱ が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回す、他の露出モードに切り換える、電源スイッチをOFFにする、カスタムメニュー b3「**露出設定ステップ幅**」（P.242）の設定を変更する、ツーボタンリセット（P.156）のいずれかを行います。

ヒント 被写界深度のプレビュー

プレビューボタンを押し続けると、露出モードが P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）のときは制御される絞りまで、露出モードが A（絞り優先オート）、M（マニュアル）のときはセットしてある絞りまで、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞りのおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。内蔵フラッシュ、スピードライト（別売）SB-800、SB-600、SB-R200使用時は、モデリング発光が行われます。

✓ レンズの絞りリングについて

CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリングが最小絞り（最大値）にセットされていない場合、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

✓ 非CPUレンズを取り付けた場合

非CPUレンズを装着した場合、露出モードを自動的に A（絞り優先オート）に切り換えて制御します。この場合、表示パネルの P が点滅して警告し、ファインダー内表示に **A** が点灯して、露出は絞り優先オート（P.106）で制御されます。

✓ 露出警告表示について

次の警告がファインダー内表示や表示パネルに点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

HI：被写体が明るすぎます。別売のND（光量調節用）フィルターをご使用ください。また、ISO感度が高く設定されている場合は、低く設定してください。

Lo：被写体が暗すぎます。フラッシュを使用してください。また、ISO感度が低く設定されている場合は、高く設定してください。

関連データ

プログラム線図 → 「付録　資料集」（P.311）

b1：感度の自動制御（P.239）

P（プログラムオート）で「**感度自動制御**」を「**する**」にすると、設定した低速側シャッタースピードでは露出不足になる場合や、シャッタースピードが1/8000秒でも露出オーバーになる場合に、自動的にISO感度を変更して、適正露出を得る（もしくは適正露出に近づける）ことができます。

e4：プレビューボタンでのモデリング発光（P.263）

内蔵フラッシュ、ニコン製スピードライトSB-800、SB-600、SB-R200使用時にモデリング発光を行わないようにするには、カスタムメニュー e4「**モデリング発光**」を「**OFF**」に設定してください。

S：シャッター優先オート

撮影者が好みのシャッタースピード(30秒〜1/8000秒)をセットすると、カメラが自動的に絞りを決定します。スポーツシーンの撮影など被写体の動きを速いシャッタースピードで写し止める、または遅いシャッタースピードで強調するなど、シャッタースピードを重視した撮影に最適です。

- シャッター優先オートはCPUレンズ装着時のみ撮影が行えます。

1 露出モードボタン MODE を押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルに S を表示させます。

2 メインコマンドダイヤルで好みのシャッタースピード(30秒〜1/8000秒)をセットします。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

bulb が点滅した場合について

露出モードを M(マニュアル)にして bulb(バルブ)にセットした後、bulb を解除しないで S(シャッター優先オート)にセットすると、bulb 表示が点滅してシャッターはきれません。S で撮影する場合はメインコマンドダイヤルを回して bulb 以外のシャッタースピードにセットしてください。

長時間露出の画像について

シャッタースピードが低速になると、画像にノイズが入る場合があります。このノイズは撮影メニューの「**長秒時ノイズ除去**」(P.208)により低減することができます。
長時間露出を行う場合は、残量が充分にあるバッテリーをご使用ください。

☑ 非CPUレンズを取り付けた場合

非CPUレンズを装着した場合、露出モードを自動的に A（絞り優先オート）に切り換えて制御します。この場合、表示パネルの S が点滅して警告し、ファインダー内表示に**A**が点灯します。

☑ 露出警告表示について

次の警告がファインダー内表示や表示パネルに点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

HI：被写体が明るすぎます。シャッタースピードをより高速側にセットし、それでも警告表示が消えない場合は、別売のND（光量調節用）フィルターを使用してください。また、ISO感度が高く設定されている場合は、低く設定してください。

Lo：被写体が暗すぎます。シャッタースピードをより低速側にセットし、それでも警告表示が消えない場合はフラッシュを使用してください。また、ISO感度が低く設定されている場合は、高く設定してください。

☑ レンズの絞りリングについて

CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリングが最小絞り（最大値）にセットされていない場合、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

b1：感度の自動制御（P.239）

S（シャッター優先オート）で「**感度自動制御**」を「**する**」にすると、セットしたシャッタースピードでカメラの露出制御範囲を超えた場合に、自動的にISO感度を変更して、適正露出を得る（もしくは適正露出に近づける）ことができます。

b3：露出値の設定のステップ幅（P.242）

表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1/2段または1段に変更できます。

f5：コマンドダイヤルの設定（P.270）

「**メインとサブの入れ換え**」により、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードをセットするように変更できます。

A：絞り優先オート

撮影者が絞り（最小絞り〜開放絞り）をセットすると、カメラが自動的にシャッタースピードを制御します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をボカすなど、被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を優先した撮影に最適です。また、フラッシュ撮影時には、絞りを変えることにより調光範囲の変更も行えます（P.316）。

1　露出モードボタン MODE を押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルに A を表示させます。

2　サブコマンドダイヤルで好みの絞り（最小絞り〜開放絞り）をセットします。

- セットできる最小絞り、開放絞りはレンズの種類によって異なります。

3　構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

☑ 非CPUレンズを取り付けた場合

非CPUレンズを装着して撮影メニューの「**レンズ情報手動設定**」（P.211）でレンズの開放絞り値を設定した場合は、表示パネルとファインダー内表示に絞り値が表示されます。絞りのセットは、レンズの絞りリングで行ってください。この場合、絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、表示は1段単位になります。

- 開放絞り値を設定しない場合は、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が開放からの絞り段数表示（ΔF、開放絞りは ΔF0）となりますので、絞りのセットと確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

✔ レンズの絞りリングについて

CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリングが最小絞り（最大値）にセットされていない場合、表示パネルとファインダー内表示に fEE が点滅し、シャッターがきれません。

✔ 露出警告表示について

次の警告がファインダー内表示や表示パネルに点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

- HI：被写体が明るすぎます。より大きな数値の絞りにセットして、それでも警告表示が消えない場合は、別売のND（光量調節用）フィルターを使用してください。また、ISO感度が高く設定されている場合は、低く設定してください。
- Lo：被写体が暗すぎます。より小さい数値の絞りにセットして、それでも警告表示が消えない場合はフラッシュを使用してください。また、ISO感度が低く設定されている場合は、高く設定してください。

b1：感度の自動制御（P.239）

A（絞り優先オート）で「**感度自動制御**」を「**する**」にすると、設定した低速側シャッタースピードでは露出不足になる場合や、シャッタースピードが1/8000秒でも露出オーバーになる場合に、自動的にISO感度を変更して、適正露出を得る（もしくは適正露出に近づける）ことができます。

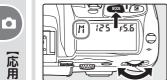
b3：露出値の設定のステップ幅（P.242）

表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1/2段または1段に変更できます。

f5：コマンドダイヤルの設定（P.270）

「**メインとサブの入れ換え**」および「**サブコマンドダイヤルでの絞値設定**」により、メインコマンドダイヤルまたはレンズの絞りリングで絞りをセットできます。ただし、「**サブコマンドダイヤルでの絞値設定**」の設定にかかわらず、絞りリングのないレンズ（Gタイプレンズ）を装着している場合はコマンドダイヤルで、非CPUレンズを装着している場合はレンズの絞りリングで絞りをセットします。

M：マニュアル

シャッタースピード（bulb（バルブ）および30秒～1/8000秒）と絞り（最小絞り～開放絞り）を、撮影者が自由にセットできるので、表示パネルまたはファインダー内表示の露出インジケーターを見ながら、撮影状況や目的に合わせた露出決定ができます。長時間露出（バルブ）もこのモードでセットします。

1 露出モードボタン MODE を押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルに M を表示させます。

2 露出インジケーター（次ページ参照）を確認しながら、シャッタースピードと絞りをセットします。

- シャッタースピード（bulb および30秒～1/8000秒）はメインコマンドダイヤルでセットし、絞り（最小絞り～開放絞り）はサブコマンドダイヤルでセットします（どちらが先でもかまいません）。
- シャッタースピードを bulb にセットしてシャッターボタンを押し続けると、シャッターが開いたままとなるバルブ撮影となります。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

ヒント 露出インジケーターについて

長時間露出（バルブ）を除いて、撮影者がセットしたシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測光した露出値との差が表示されます。表示パネルおよびファインダー内表示の露出インジケーターの見方は次のとおりです。

露出値のステップが1/3段の場合	露出値のステップが1/2段の場合	露出値のステップが1段の場合
適正露出の場合 （表示パネル） （ファインダー内表示）	適正露出の場合 （表示パネル） （ファインダー内表示）	適正露出の場合 （表示パネル） （ファインダー内表示）
1/3段アンダーの場合 （表示パネル） （ファインダー内表示）	1/2段アンダーの場合 （表示パネル） （ファインダー内表示）	1段アンダーの場合 （表示パネル） （ファインダー内表示）
3段以上オーバーの場合 （表示パネル） （ファインダー内表示※）	3段以上オーバーの場合 （表示パネル） （ファインダー内表示）	3段以上オーバーの場合 （表示パネル） （ファインダー内表示）

※露出値のステップが1/3段の場合、2段以上オーバーで、ファインダー内表示の露出インジケーターがこの表示になります。

- 光量がカメラの測光範囲を超えると、露出インジケーターが点滅して警告します。

長時間露出について

シャッタースピードが低速になると、画像にノイズが入る場合があります。このノイズは撮影メニューの「**長秒時ノイズ除去**」(P.208) により低減することができます。長時間露出を行う場合は、残量が充分にあるバッテリーをご使用ください。

長時間露出時の電源について

シャッタースピードを bulb（バルブ）にセットして長時間露出撮影する場合は、撮影中のバッテリー切れを防ぐため、電源としてフル充電したLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3eまたはACアダプター EH-6（別売）のご使用をおすすめします。撮影中にバッテリーの残量がなくなった場合、撮影を終了して画像をメモリーカードに記録した後、電源が切れます。

☑ レンズの絞りリングについて

CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリングが最小絞り（最大値）にセットされていない場合、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

☑ 非CPUレンズを取り付けた場合

非CPUレンズを装着して撮影メニューの「**レンズ情報手動設定**」（P.211）でレンズの開放絞り値を設定した場合は、表示パネルとファインダー内表示に絞り値が表示されます。絞りのセットは、レンズの絞りリングで行ってください。この場合、絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、表示は1段単位になります。

- 開放絞り値を設定しない場合は、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が開放からの絞り段数表示（ΔF、開放絞りは ΔF0）となりますので、絞りのセットと確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

☑ AFマイクロレンズ装着時の露出倍数について

AFマイクロレンズをカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞りをサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合だけ、露出倍数を考慮した補正が必要になります。

b1：感度の自動制御（P.239）

M（マニュアル）で「**感度自動制御**」を「**する**」にすると、セットしたシャッタースピード、絞り値で適正露出が得られない場合に、自動的にISO感度を変更して、適正露出を得る（もしくは適正露出に近づける）ことができます。

b3：露出値の設定のステップ幅（P.242）

表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1/2段または1段に変更できます。

f5：コマンドダイヤルの設定（P.270）

「**メインとサブの入れ換え**」および「**サブコマンドダイヤルでの絞値設定**」により、メインコマンドダイヤルまたはレンズの絞りリングで絞りをセットできます。ただし、「**サブコマンドダイヤルでの絞値設定**」の設定にかかわらず、絞りリングのないレンズ（Gタイプレンズ）を装着している場合はサブコマンドダイヤルで、非CPUレンズを装着している場合はレンズの絞りリングで絞りをセットします。

AEロック撮影

AEロック撮影は、撮影画面内の特に露出を合わせたい部分をスポット測光などにより測光し、AE/AFロックボタン(AE-L AF-L)を押してその露出をカメラに記憶させたまま、構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、著しく明るさが異なる場合などに便利です。露出モードは M(マニュアル)以外にセットしてください。

1 測光モードをスポット測光または中央部重点測光にセットします。

- マルチパターン測光は充分なAEロックの効果が期待できないため、おすすめできません。

2 露出を合わせたい部分にフォーカスエリアを重ねてシャッターボタンを半押ししたまま、AE/AFロックボタン(AE-L AF-L)を押して、ピント表示(●)の点灯を確認します。

- AE/AFロックボタン(AE-L AF-L)を押している間は、測光モードに応じた部分の露出が記憶(ロック)され、構図を変えても露出は変わりません(ファインダー内表示にAEロックマーク**AE-L**が点灯します)。
- スポット測光で、測光エリアとフォーカスエリアが連動する場合(P.101)は、選択しているフォーカスエリアを重ねた部分の露出が記憶されます。
- 中央部重点測光にセットした場合は、ファインダー中央部(φ8mmの内側)を重点的に測光した露出が記憶されます。
- フォーカスモードがシングルAFサーボ(AF-S)またはコンティニュアスAFサーボ(AF-C)の場合、フォーカスロックも同時に行われますので、ピント表示(●)の点灯も確認してください。

3　AE/AFロックボタン㊓を押したまま、構図を決めて撮影します。

ヒント　シャッタースピードと絞り値の変更

AE/AFロックボタン㊓を押している間も次の操作ができます。

露出モード	操作
P（プログラムオート）	プログラムシフト（P.102）
S（シャッター優先オート）	シャッタースピードの変更
A（絞り優先オート）	絞り値の変更

- いずれも、変更した後の露出表示にはそれぞれ制御されるシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は、測光モードセレクトダイヤルを切り換えても測光モードは変わりません（AEロックを解除すれば変わります）。

c1：シャッターボタン半押しによるAEロック（P.246）

通常はAE/AFロックボタン㊓を押した場合にAEロックが行われますが、シャッターボタンを半押ししたときにAEロックが行われるように変更できます。

c2：AE/AFロックボタンの機能（P.246）

AE/AFロックボタン㊓を押した場合に、AEロックだけ行われるように変更できます。また、AE/AFロックボタン㊓を押すと、指を離してもAEロックの状態が保持され、シャッターをきる、または半押しタイマーのオフで解除されるように変更できます。

露出補正

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることをいいます。たとえば、ハイキー（全体的に明るいトーン）、ローキー（全体的に暗いトーン）など、作画意図に応じた露出表現をしたい場合などに使用します。測光モードは中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。いずれの露出モードでもセット可能です（ただし露出モードが M の時は、インジケーター表示が変わるのみで、撮影者がセットしたシャッタースピードと絞り値は変わりません）。

補正なし（露出補正ボタン を押したとき）

－0.3段補正

＋2段補正

1 露出補正ボタン 押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量（1/3段ステップで±5段）をセットします。

- 補正量をセットすると、表示パネルに露出補正マーク が表示され、補正量の確認は露出補正ボタン を押すだけで行えます。ファインダー内表示には、＋側に補正した場合は が、－側に補正した場合は が表示されます。表示パネルとファインダー内表示には、露出インジケーターが露出補正インジケーターとして表示され、露出インジケーターの「**0**」が点滅します。
- 補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は－側に補正するのが基本です。

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- 露出補正を解除する場合は、露出補正ボタン[±]を押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量を0.0にセットするか、ツーボタンリセット（P.156）を行ってください（カメラの電源スイッチをOFFにしても解除されません）。

b4：露出補正値、調光補正値の設定のステップ幅（P.242）

露出補正のステップを1/2段または1段に変更できます。

b5：露出補正簡易設定（P.243）

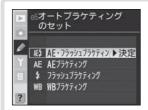
露出補正ボタン[±]を使用せずに、コマンドダイヤル（メインまたはサブ）の操作だけで、露出補正が行えます。

オートブラケティング

D200のオートブラケティングには大きく分けて、露出値をずらすAEブラケティング、主要被写体のTTL調光レベルをずらすフラッシュブラケティング、色温度をずらすWB（ホワイトバランス）ブラケティングの3種類があります。

- **AEブラケティング**：AEブラケティングをセットすると、シャッターをきるたびにカメラが表示する適正露出値（露出モードがマニュアルの場合は撮影者がセットした露出値）に対して、セットした撮影コマ数（最大9コマ）と補正ステップで自動的に露出をずらして（露出補正なしで最大±4段）撮影します。いずれの露出モードでもセットが可能です。
- **フラッシュブラケティング**：フラッシュブラケティングをセットすると、シャッターをきるたびに、セットした撮影コマ数（最大9コマ）と補正ステップで、自動的にフラッシュの光量をずらして（調光補正なしで最大±4段）撮影します。フラッシュブラケティングはi-TTLモード調光時および絞り連動外部自動調光時（スピードライトSB-800（別売）使用時のみ）に使用できます。
- **WBブラケティング**：WBブラケティングは、1回の撮影で、設定したホワイトバランスに対してセットした撮影コマ数分（1回の撮影で最大9コマ）だけ自動的に色温度をずらして記録します。複数の光源が混在しているなど、ホワイトバランスの決定が難しい場合や、微妙な白の色味を好みで選びたいときなどに効果的です。ただし、画質モードがRAW、またはRAW＋FINE、RAW＋NORMAL、RAW＋BASICの場合は使用できません。また、ホワイトバランスを K（色温度設定）または PRE（プリセット）に設定している場合も使用できません。操作方法については「WB（ホワイトバランス）ブラケティング」（P.72）をご覧ください。

【応用編】撮影 測光・露出

AE、フラッシュブラケティングの設定

1 カスタムメニュー e5「**オートブラケティングのセット**」(P.263) でオートブラケティングを行う内容を、「**AE・フラッシュブラケティング**」、「**AEブラケティング**」、「**フラッシュブラケティング**」から選択します。

2 オートブラケティングボタン BKT を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して撮影コマ数 (P.312) を表示パネルに表示します。0コマ以外に設定されると、表示パネルにオートブラケティングマーク BKT とオートブラケティングインジケーターが表示され、表示パネルとファインダー内表示で露出補正マーク が点滅します。

3 オートブラケティングボタン BKT を押しながら、サブコマンドダイヤルで補正ステップ (P.312) をセットします。

関連データ

AE・フラッシュブラケティングの設定コマ数と補正ステップの組み合わせ
→ 「付録　資料集」(P.312)

AE・フラッシュ、AE、
フラッシュブラケティング時
の表示パネル

4 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- 撮影中、シャッタースピードと絞りは補正された値が表示されます。
- オートブラケティング時は露出インジケーターがオートブラケティングインジケーターとして表示されます。撮影されたコマを示す表示が、オートブラケティングインジケーター上から消えます。
- AEブラケティングと露出補正（P.113）を同時にセットすると、両方の補正値が加算されたAEブラケティング撮影が行えます。±4段を超えるAEブラケティング撮影を行う場合に便利です。
- AE・フラッシュ、AE、フラッシュブラケティングを解除する場合は、オートブラケティングボタンBKTを押しながら、メインコマンドダイヤルで表示パネルの撮影コマ数を0にセットし、オートブラケティングマークBKTを消灯させます。この場合、セットした補正ステップは次回のAE・フラッシュ、AE、フラッシュブラケティング時まで保持されます。また、ツーボタンリセット（P.156）でも解除できますが、この場合はセットした補正ステップは保持されません。

e8：オートブラケティングの設定方法（P.265）

オートブラケティングボタンBKTを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとオートブラケティングの設定／解除を、オートブラケティングボタンBKTを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数と補正ステップを組み合わせで選択できるように変更できます。

ヒント AEブラケティング

AEブラケティングの場合は、露出モードによって補正される内容（シャッタースピード／絞り値）が異なります。

露出モード	変化する内容
P（プログラムオート）	シャッタースピードと絞り値※1
S（シャッター優先オート）	絞り値※1
A（絞り優先オート）	シャッタースピード※1
M（マニュアル）	シャッタースピード※2

※1 カスタムメニューb1「**感度の自動制御**」（P.239）が「**する**」に設定されている場合、シャッタースピードや絞り値が制御範囲を超えると、自動的にISO感度が変化します。

※2 • カスタムメニューe6「**オートブラケティングの変化要素（Mモード）**」（以下参照）により変化する内容を変更できます。

• カスタムメニューe5「**オートブラケティングのセット**」（P.263）が「**AE・フラッシュブラケティング**」または「**AEブラケティング**」に設定され、カスタムメニューb1「**感度の自動制御**」（P.239）が「**する**」に設定されている場合、カスタムメニューe6の設定にかかわらずISO感度のみが変化します。

カスタムメニューe5の変更について

撮影中にカスタムメニューe5「**オートブラケティングのセット**」（P.263）を「**WBブラケティング**」に変更した場合、残りのコマはキャンセルされます。

オートブラケティング時の連続撮影について

動作モードを**CL**（低速連続撮影）または**CH**（高速連続撮影）にセットして撮影する場合、AE・フラッシュ、AE、フラッシュブラケティングでは、シャッターボタンを押し続けるとセットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押しなおすと次の連続撮影が可能になります。

メモリー残量がなくなった場合／電源スイッチをOFFにした場合

- AE・フラッシュ、AE、フラッシュブラケティングの場合は、撮影中にメモリーカードの残量がなくなっても、メモリー残量のある他のメモリーカードに交換すれば残りを撮影できます。
- AE・フラッシュ、AE、フラッシュブラケティングの場合は、撮影中に電源スイッチをOFFにしても、再びONにすれば残りを撮影できます。

セルフタイマー撮影時

セルフタイマー撮影時（P.131）には、AE・フラッシュ、AE、フラッシュブラケティングでセットした撮影コマ数のオートブラケティング撮影が1コマずつ行われます。

e6：オートブラケティングの変化要素（Mモード）（P.264）

通常、露出モードが M（マニュアル）のときにAE・フラッシュブラケティングを行うとシャッタースピードと調光量が、AEブラケティングを行うとシャッタースピードのみ変化しますが、シャッタースピードの代わりに、シャッタースピードと絞り値の両方、絞り値のみ、あるいはフラッシュの調光量のみを変化させて撮影するように変更できます。

e7：オートブラケティング撮影時の補正順序（P.265）

マイナス側からプラス側へ順番に撮影されるように変更できます。

フラッシュ撮影

内蔵フラッシュについて

このカメラは18mmレンズの画角をカバーする、ガイドナンバー約12（ISO100・m、20℃）のフラッシュを内蔵しており、モニター発光を行う専用TTLモード（i-TTLモード）によって制御され、i-TTL-BL調光やスタンダードi-TTL調光によるフラッシュ撮影ができます。暗いところではもちろん、昼間の屋外撮影などでも、逆光の場合や主要被写体の陰影を弱めたいとき、人物の目にキャッチライトを入れたいときなどに、補助光としても使用できます。

i-TTLモードでは次のような内蔵フラッシュ撮影が行えます。

i-TTL-BL調光	マルチパターンによる測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、フラッシュがシャッター開口直前にモニター発光を行い、画面内の各部から戻ってくる反射光をカメラ内の1005分割RGBセンサーが瞬時にモニターし、主要被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。 • GまたはDタイプレンズ装着時は、レンズから得られた被写体までの距離情報も加味した最適な発光量を決定します。 • 非CPUレンズ装着時は、レンズ情報（開放絞り値、焦点距離）を設定することにより、より精度が向上します（P.148）。 • 測光モードがスポット測光に設定されている場合、自動的にスタンダードi-TTL調光になります。
スタンダードi-TTL調光	背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光されます。主要被写体のみを強調する場合や、フラッシュ撮影で露出補正を行う場合に適しています。 • 測光モードがスポット測光に設定されている場合、自動的にスタンダードi-TTL調光になります。

✓ i-TTLモード時のISO感度連動範囲について

i-TTLモード時のISO感度連動範囲は100～1600です。ISO感度を1600よりも高く増感した場合には、距離や絞りによっては適正な発光量にならない場合があります。

✓ 内蔵フラッシュ使用時のご注意

- 内蔵フラッシュ撮影時は、動作モードがCL（低速連続撮影）またはCH（高速連続撮影）セットされていても、連続撮影にはなりません。
- 内蔵フラッシュの充電中は、VRレンズのシャッターボタン半押し中の手ブレ補正を行いません。
- 内蔵フラッシュを連続して使用すると、発光部を保護するために一時的に発光が制限されます。少し時間をおくと発光が可能になります。

✓ フラッシュの照射角

内蔵フラッシュの照射角は18mmまでカバーしますが、装着するレンズや絞りの条件によっては、周囲が若干暗くなることがあります（P.316、317）。

✓ フラッシュ使用時の感度自動制御について

カスタムメニューb1「**感度の自動制御**」（P.239）を「**する**」に設定すると、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。ただしカスタムメニューb1が「**する**」に設定されていても、次のような場合は手前の被写体が露出アンダーになることがあります。

- 低速シャッタースピードでフラッシュ撮影（スローシンクロ）を行う場合
- 日中の明るい場所でフラッシュ撮影（日中シンクロ）を行う場合
- 背景が明るい場合

このような場合には、次の操作を行うことでフラッシュの照射光が届きやすくなります。

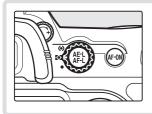
- 露出モードを**A**（絞り優先オート）などにして絞りを開く
- スローシンクロを解除する

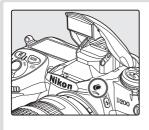
e3：内蔵フラッシュ発光モード（P.254）

内蔵フラッシュの発光モードは、通常i-TTL調光ですが、次のいずれかに変更できます。

- マニュアル発光モード：発光量はフル発光、1/2、1/4、1/8、1/16、1/32、1/64、1/128の8段階から選択できます。フル発光では、内蔵フラッシュのガイドナンバーは約13（ISO100・m、20℃）となります。
- リピーティング発光モード：シャッターを開いている間、繰り返し内蔵フラッシュが発光します。発光量、発光回数、発光間隔を設定できます。
- コマンダーモード：スピードライト（別売）SB-800、SB-600、SB-R200をカメラから離して発光させます（P.254）。

内蔵フラッシュを使用した撮影

ここでは内蔵フラッシュを使用した撮影の方法を説明します。

1 測光モードをセットします(P.100)。

- スポット測光以外にセットするとi-TTL-BL調光になります。
- スポット測光にセットした場合、スタンダードi-TTL調光になります。

2 フラッシュロック解除ボタンを押して、内蔵フラッシュをポップアップさせます。

- フラッシュの充電が開始されます。充電が完了して撮影可能な状態になると、ファインダー内のレディーライト ⚡ が点灯します。

3 フラッシュシンクロモードをセットします(P.125)。

4 シャッタースピード、絞り値をセットします。

- 内蔵フラッシュ使用時にセット可能なシャッタースピードと絞り値は下表のとおりです。

露出モード	セット可能なシャッタースピード	セット可能な絞り値	参照ページ
P（プログラムオート）	カメラが自動的に1/250～1/60秒にセット※1	カメラが自動的にセット	P.102
S（シャッター優先オート）	1/250～30秒※2	カメラが自動的にセット	P.104
A（絞り優先オート）	カメラが自動的に1/250～1/60秒にセット※1	任意の絞り※3	P.106
M（マニュアル）	1/250～30秒※2	任意の絞り※3	P.108

※1 スローシンクロモード、後幕スローシンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード選択時は、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。

※2 1/250秒より高速のシャッタースピードにセットされている場合は、内蔵フラッシュをポップアップすると、自動的に同調シャッタースピードの1/250秒にセットされます。

※3 調光範囲は設定しているISO感度と絞り値によって決まります。A（絞り優先オート）または M（マニュアル）時の絞りのセットは内蔵フラッシュの調光範囲を考慮して行ってください。

5 ファインダー内のレディーライト ⚡ を確認します。

- フラッシュの充電が完了して撮影可能な状態になると、ファインダー内のレディーライト ⚡ が点灯して知らせます。フラッシュが上がった状態でレディーライト ⚡ が点灯していないときは撮影できません。

6 構図を決めてピントを合わせ、内蔵フラッシュの調光範囲（P.316）を考慮して撮影します。

- シャッターをきった後、レディーライト ⚡ が約3秒間点滅した場合は、フラッシュがフル発光して露出不足の可能性があることを警告しています。撮影距離、絞り値、ISO感度などを再度確認して、撮影し直してください。

ヒント 内蔵フラッシュの収納

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます（使用しないときはバッテリーの消耗を防ぐため、常に収納状態にしてください）。

ヒント モデリング発光について

内蔵フラッシュ、スピードライト（別売）SB-800、SB-600、SB-R200使用時には、D200のプレビューボタンを押すとモデリング発光が行われ、照射光の効果を簡単に確認することができます。プレビュー時にモデリング発光を行わないようにするには、カスタムメニューe4「**モデリング発光**」（P.263）を「**OFF**」に設定してください。

【応用編】撮影　フラッシュ撮影

関連データ

内蔵フラッシュの調光範囲と限界絞り値　→　「付録　資料集」（P.316）

関連データ

内蔵フラッシュに使用可能なレンズ　→　「付録　資料集」（P.317）

e1：フラッシュ撮影時の同調速度（P.253）

フラッシュ撮影時のシャッタースピードの高速側を1/200秒、1/160秒、1/125秒、1/100秒、1/80秒、1/60秒に制限することができます。露出モードがS、Mの場合にシャッタースピードをこれらの値に固定するときは、最も低速側（30秒または bulb（バルブ））の次のシャッタースピードを選択してください。この場合、表示パネルにフラッシュシンクロマーク**X**が表示されます。また、スピードライト（別売）SB-800、SB-600、SB-R200使用時に、1/8000までの高速シャッタースピードで撮影可能な、オートFPハイスピードシンクロに設定することもできます（内蔵フラッシュ本発光時はFP発光は行われません）。

e2：フラッシュ撮影時のシャッタースピード低速制限（P.254）

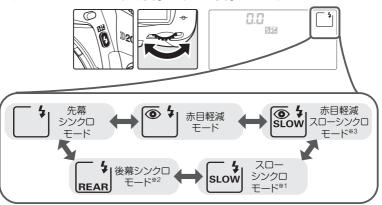
P（プログラムオート）、A（絞り優先オート）で、フラッシュ撮影時におけるシャッタースピードの低速側の制限を1/60秒、1/30秒、1/15秒、1/8秒、1/4秒、1/2秒、1秒、2秒、4秒、8秒、15秒、30秒に延長することができます。

フラッシュシンクロモードの種類と特長

セットできるフラッシュシンクロモードは次のとおりです。

 先幕シンクロモード	通常のフラッシュ撮影時にはこのモードでセットします。露出モードを P（プログラムオート）または A（絞り優先オート）にセットしてフラッシュ撮影を行うと、カメラが適正露出となるようにシャッタースピードを1/60～1/250秒（スピードライト（別売）でオートFPハイスピードシンクロ（P.282）を行う場合は1/60～1/8000秒）に自動的にセットします。
 赤目軽減モード	フラッシュが発光する前に約1秒間赤目軽減ランプのプリ照射を行い、暗いところで人物の目が赤く写るのを軽減することができます。 • シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。
 赤目軽減スローシンクロモード	赤目軽減モードとスローシンクロモードが同時にセットされます。露出モードは P（プログラムオート）または A（絞り優先オート）にセットしてください。 • シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。
 スローシンクロモード	露出モードを P（プログラムオート）または A（絞り優先オート）にセットしてフラッシュ撮影を行うと、通常はシャッタースピードが1/60～1/250秒（スピードライト（別売）でオートFPハイスピードシンクロ（P.282）を行う場合は1/60～1/8000秒）に自動的にセットされますが、このモードでは、背景の露出を考慮してシャッタースピードが最長30秒まで延長されます。これにより、背景を描写しながらフラッシュを発光させ、夕景や夜景の雰囲気を活かした撮影が行えます。 • シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。
 後幕シンクロモード	シャッター後幕の走行開始（シャッターが閉じる）直前にフラッシュを発光させます。動く被写体をフラッシュで撮影する場合に、その被写体の動きを想像させる光の流れなどを被写体の後方に自然な形で表現できます。 • 露出モードを P（プログラムオート）または A（絞り優先オート）にセットすると、スローシンクロモードも自動的にセットされます。シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。

フラッシュシンクロモードの設定

フラッシュシンクロモードはフラッシュシンクロモードボタン⚡とメインコマンドダイヤルでセットします。フラッシュシンクロモードボタン⚡を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望するフラッシュシンクロモードを表示パネルに表示させます。

※1 露出モードが S または M の場合、スローシンクロモードは設定できません。このモードを選択した場合は自動的に「**先幕シンクロモード**」に変更されます。

※2 露出モードが P または A の場合は、スローシンクロモードも自動的にセットされ、フラッシュシンクロモードボタン⚡から指を離すと右のように表示されます。

※3 露出モードが S または M の場合、赤目軽減スローシンクロモードは設定できません。このモードを選択した場合は自動的に「**赤目軽減モード**」に変更されます。

☑ スタジオ用大型ストロボ使用時について

スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕シンクロモードは使用できません。

☑ 赤目軽減ランプのケラレについて

装着するレンズの種類により赤目軽減ランプの光にケラレが生じ、画面内の人物の位置によっては赤目軽減効果がそこなわれることがあります。

調光補正

調光補正とは、フラッシュとカメラが行う適正な調光を意図的に変えることをいいます。たとえば、発光量をより多くして主要被写体を一段と明るく照らしたいとき、あるいは発光量をより少なくして、主要被写体に光が強く当たりすぎないようにしたいときに使用します。

調光補正の設定方法

調光補正ボタン（フラッシュシンクロモードボタン）を押しながら、サブコマンドダイヤルで補正量（1/3段ステップで＋1段～－3段）をセットします。

- 補正量をセットすると、表示パネルとファインダー内表示に調光補正マークが表示されます。
- 補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は－側に補正するのが基本です。

ヒント 調光補正の解除ついて

調光補正を解除する場合は、調光補正ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルで補正量を0.0にセットするか、ツーボタンリセットを行ってください（カメラの電源スイッチをOFFにしても解除されません）。

ヒント スピードライト（別売）の調光補正について

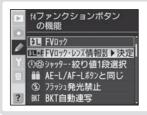
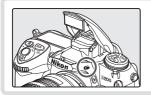
スピードライト（別売）SB-800、SB-600装着時も、調光補正を行うことができます。

b4：露出補正値、調光補正値の設定のステップ幅（P.242）

調光補正量のステップ幅を1/2段または1段に変更できます。

FVロック

調光量をロック（固定）することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影することができます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

- FVロック中にカメラのISO感度や絞り値を変更しても、フラッシュの発光量が補正されることによりFVロックは維持されます。

1 カスタムメニューf4「**ファンクションボタンの機能**」（P.269）で、「**FVロック**」（初期設定）または「**FVロック・レンズ情報設定**」に設定します。

2 フラッシュロック解除ボタンを押して、内蔵フラッシュをポップアップさせます。

3 調光範囲を考慮して、調光量を合わせたい被写体が画面の中心になるようにカメラを構え、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

4 D200のファンクションボタンを押します。

- フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FVロックが行われ、表示パネルとファインダー内表示にFVロックマーク（⚡LOCK、⚡L）が表示されます。

5 構図を変更します。

6 シャッターボタンを押して撮影します。

- FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影することができます。必要に応じて手順5～6を繰り返してください。

7 D200のファンクションボタンを押します。

- FVロックが解除され、表示パネルとファインダー内表示からFVロックマーク（⚡LOCK、⚡L）が消灯します。

ヒント スピードライト（別売）のFVロックについて

スピードライト（別売）SB-800、SB-600、SB-R200使用時も、FVロックを行うことができます。この場合、SB-800の発光モードの種類をTTLまたはAAに、SB-600の発光モードの種類をTTLにセットしてください（詳しくはそれぞれのスピードライトの使用説明書をご覧ください）。FVロック中に、SB-800、SB-600のズーム位置を変更しても、スピードライトの発光量が補正されることにより、FVロックは維持されます。

カスタムメニュー e3「**内蔵フラッシュ発光モード**」（P.254）を「**コマンダーモード**」に設定して、補助灯（SB-800、SB-600、SB-R200）を使用する場合、「コマンダーモード」の設定画面で次のいずれかを行うことによりFVロックを使用できます。

- 内蔵フラッシュ、Aグループ、Bグループのうち、いずれかの「発光モード」を「**TTL**」に設定する
- 補助灯がSB-800のみで構成されているグループがある場合は、そのグループの「発光モード」を「**TTL**」または「**AA**」に設定する

☑ 内蔵フラッシュのFVロックについて

内蔵フラッシュのみを発光させてフラッシュ撮影を行う場合、FVロックはカスタムメニュー e3「**内蔵フラッシュ発光モード**」（P.254）が「**TTLモード**」（初期設定）に設定されている場合のみ機能します。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーによる撮影は記念写真など、撮影者自身もいっしょに写りたいときなどに便利です。

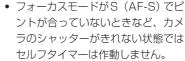
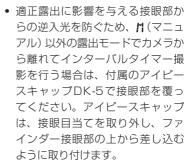
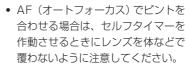
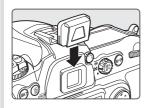
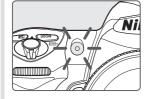
1 三脚などを使用してカメラを固定します。

2 動作モードダイヤルロックボタン（①）を押しながら、動作モードダイヤルを ⏲（セルフタイマー撮影）にセットします（②）。

3 構図を決め、ピントを合わせます。

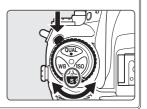
- フォーカスモードがS（AF-S）でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。

- 適正露出に影響を与える接眼部からの逆入光を防ぐため、M（マニュアル）以外の露出モードでカメラから離れてインターバルタイマー撮影を行う場合は、付属のアイピースキャップDK-5で接眼部を覆ってください。アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し、ファインダー接眼部の上から差し込むように取り付けます。

- AF（オートフォーカス）でピントを合わせる場合は、セルフタイマーを作動させるときにレンズを体などで覆わないように注意してください。

4 シャッターボタンを押します。

- セルフタイマー撮影を開始すると、セルフタイマーランプ（AF補助光）が約8秒間点滅、約2秒間点灯して合計で約10秒後にシャッターがきれます。
- セルフタイマーの作動中は電子音が繰り返しなります。シャッターがきれる前の約2秒間は、電子音の間隔が短くなります。
- セルフタイマーの作動中に内蔵フラッシュを上げると、作動中のセルフタイマーをキャンセルします。ファインダー内のレディーライト ϟ が点灯してから再度シャッターボタンを押すと、再びセルフタイマーが作動します。

ヒント セルフタイマーの解除方法

動作モードダイヤルロックボタンを押しながら、動作モードダイヤルをセルフタイマー 🕓 以外にセットします。

✓ シャッタースピードが bulb にセットされている場合について

露出モードが M（マニュアル）で、シャッタースピードが bulb にセットされている場合は、シャッタースピードが約1/6秒でシャッターがきれます。

c4：セルフタイマーの作動時間（P.247）

セルフタイマーの作動時間を2秒、5秒、20秒のいずれかに変更できます。

画像合成と多重露出

D200では、次の2種類の方法で、1つのフレームに複数コマを重ねて写し込み、1つの画像として記録することができます。

画像合成	メモリーカードに記録されているD200で撮影されたRAW画像から、選択された2つの画像を重ね合わせて1つの画像に合成し、元画像とは別の画像として記録します。	• 同じメモリーカードに記録されているRAW画像であれば、2つの画像の撮影時間や場所が異っていても合成することができます。 • 画質モードをRAWに設定して合成した画像であれば、さらに別のRAW画像と合成することができます。
多重露出	連続して撮影する2～10コマを重ねて写し込み、1つの画像として記録します。	• 最大で10コマ分を同時に重ね合わせることができます。 • すべての画質モードで撮影可能です。 • 合成前の画像が残らないため、メモリーカードの容量を有効に使用することができます。

画像合成

画像合成は撮影メニューの「**画像合成**」で行います。

• 合成された画像は、設定されている画質モードと画像サイズ(P.41)で保存されます。画像合成を行う前に、これらの設定をご確認ください。合成された画像をさらに別のRAW画像と合成する場合は、画質モードをRAWに設定してください。

1 撮影メニュー画面で「**画像合成**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

2 画像合成設定画面が表示され、「画像1」がハイライト表示されます。

【応用編】撮影　画像合成と多重露出

3 実行ボタン ENTER を押すと、メモリーカードに記録されているRAW画像のサムネイル一覧が表示されますので、マルチセレクターを操作して、合成する画像の1コマ目を選択します。

- サムネイルボタン を押している間、選択した画像を拡大表示することができます。

4 マルチセレクターの中央部を押すと、選択した画像が設定され、画像合成設定画面に画像1とプレビューが表示されます。

5 マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、合成する画像の1コマ目のゲイン（出力）を設定します。0.1～2.0の範囲で0.1ごとに設定できます。

- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5に設定するとゲインは約半分になります。
- 「プレビュー」で、設定後の状態を確認できます。

6 マルチセレクターの◀または▶を操作することにより「**画像2**」を選択します。「画像1」と同様に、合成する画像の2コマ目を選択し、ゲインを設定します。

7 画像1、画像2の設定が終わったら、画像合成設定画面からマルチセレクターの◀または▶を操作することにより「**合成**」を選択し、実行ボタンENTERを押して合成画像の確認画面を表示します。確認後、保存する場合は実行ボタンENTERを押します。

- 保存前に画像の選択や「ゲイン」の数値を変更する場合は、サムネイルボタンを押すと、画像合成設定画面に戻ります。
- 確認画面を表示せずに合成画像を保存する場合は、マルチセレクターを操作して「**保存**」を選択し、実行ボタンENTERを押します。合成画像がメモリーカードに保存され、液晶モニターに表示されます。
- 作成された画像は、新規の画像として、元の画像とは別に保存されます。

☑「画像1」、「画像2」で選択できないメモリーカード内の画像について

- 「**画像1**」、「**画像2**」では、D200で撮影されたRAW画像のみ選択できます。機種の異なるカメラやRAW以外の画質モードで撮影した画像は、画像のサムネイル一覧に表示されず、選択できません。
- 非表示設定されている画像は、画像のサムネイル一覧に表示されず、選択できません。

☑ 作成される合成画像の設定について

- 画質モード、画像サイズ、ファイル名は、画像合成時のカメラの設定が適用されます（ファイル番号は、記録フォルダー内で最大のファイル番号＋1になります）。画像合成された画質モードがRAWであれば、さらに別のRAW画像と画像合成することができます。
- 作成される合成画像のホワイトバランス、仕上がり設定は、「**画像1**」で選択された画像と同じ設定になります。

☑ 作成される合成画像の撮影情報について

作成される合成画像の撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、「**画像1**」で選択された画像と同じ内容になります。

多重露出

多重露出撮影の設定は撮影メニューの「**多重露出**」で行います。

多重露出撮影の開始

1 撮影メニュー画面で「**多重露出**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

2 多重露出設定画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を押して、「**コマ数**」を選択します。

3 マルチセレクターの▶を押すと、コマ数の設定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を押して、一連の多重露出で画像を重ねて撮影するコマ数を設定します。2～10コマの範囲で設定可能です。

4 マルチセレクターの▶を押すと、多重露出設定画面に戻りますので、マルチセレクターの▲または▼を押して、「**自動ゲイン補正**」を選択します。

5 自動ゲイン補正の設定画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を押して、「**する**」または「**しない**」を選択します。

- それぞれの内容は次のようになります。

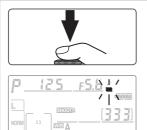
する（初期設定）	すべてのコマを設定されている露出条件で撮影したあと、多重露出を行うときに、撮影されたコマ数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。 • 各コマのゲインは、［1 ÷ 撮影コマ数］となります。たとえば、撮影コマ数が2コマの場合は1/2、4コマの場合は1/4となります。
しない	すべてのコマを設定されている露出条件で撮影したあと、補正せずに多重露出を行います。

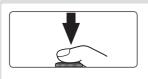
6 マルチセレクターの▶を押すと、多重露出設定画面に戻りますので、マルチセレクターの▲または▼を押して、「**設定終了**」を選択します。

7 マルチセレクターの▶を押すと、多重露出設定が有効になります。

- 多重露出設定が有効になると、表示パネルに多重露出マーク ▬ が点灯します。

☑ 多重露出撮影時のホワイトバランスについて

ホワイトバランス（P.51）を**A**（オート）に設定して多重露出撮影を行う場合、ホワイトバランスは晴天での撮影に適した色温度に固定されます。晴天以外の光源で多重露出撮影を行う場合は、**A**（オート）以外のホワイトバランスを光源の種類に合わせて設定してください。

8　構図を決め、ピントを合わせて1コマ目の撮影を行います。

- 多重露出による撮影が開始されると、表示パネルの多重露出マークが点滅します。
- 動作モード（P.38）を**S**（1コマ撮影）にセットして撮影する場合、シャッターをきるたびに1コマずつ撮影されます。**CL**（低速連続撮影）または**CH**（高速連続撮影）にセットして撮影する場合は、シャッターボタンを押し続けると、多重露出で設定された撮影コマ数が終了した時点で画像が記録され、多重露出が解除されます。

9　2コマ目以降の撮影を行います。

- 操作のないまま30秒が経過すると、それまでに撮影されたコマを重ね合わせた画像を記録し、多重露出が解除されます。

10　設定されたコマ数の撮影が終了すると、一連のコマを重ね合わせた画像が記録され、多重露出が解除されます。

- 表示パネルから多重露出マークが消灯します。

メモリーカードの交換について

多重露出による撮影中は、メモリーカードの交換を行わないでください。

多重露出で撮影された画像の撮影情報について

多重露出で記録された画像の撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、1コマ目の内容になります。

☑ 多重露出撮影時の半押しタイマーについて

- カスタムメニュー c3「**半押しタイマー**」(P.247) を「**4秒**」、「**6秒**」、「**8秒**」、「**16秒**」に設定している場合、多重露出の1コマ目を撮影してから多重露出が解除されるまで、半押しタイマーの作動時間がそれぞれ30秒延長されます。
- 多重露出が解除されるまでの時間を30秒以上にする場合は、カスタムメニュー c3「**半押しタイマー**」を「**制限なし**」に設定するか、ACアダプター EH-6（別売）を使用してください。

☑ 液晶モニターの点灯について

多重露出の撮影途中、画像の再生やメニュー画面の表示で液晶モニターを点灯した場合、液晶モニターが消灯してから操作のないまま30秒が経過すると、画像が記録されて多重露出が解除されます。

☑ 多重露出とオートブラケティングの設定について

オートブラケティングを設定してから多重露出を設定すると、オートブラケティングが解除されます。また、多重露出を設定するとオートブラケティングを設定することができません。

☑ 多重露出とインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

多重露出を設定してから1コマ目を撮影する前にインターバルタイマー撮影(P.141) を設定すると、設定されたインターバルで多重露出撮影を行うことができます。この場合、「**インターバルタイマー**」で設定された撮影回数とコマ数（1回の撮影コマ数）にかかわらず、設定されたインターバルで1コマずつ撮影され、「**多重露出**」で設定されたコマ数の撮影が終了すると、画像が記録されて多重露出とインターバルタイマー撮影の両方が解除されます。ただし、多重露出撮影時は、操作のないまま30秒経過すると撮影が終了します。「**インターバルタイマー**」のインターバルを30秒より長く設定した場合、次のいずれかを行ってください。

- カスタムメニュー c3「**半押しタイマー**」(P.247) を「**制限なし**」に設定する
- ACアダプター EH-6（別売）を使用する

多重露出が途中で解除された場合はインターバルタイマー撮影も解除されます。

☑ 多重露出撮影時に変更できない項目について

多重露出による撮影中は、1コマ目を撮影してから多重露出が解除されるまで、次の機能をセットしたり、設定を変更することができません。

- 「**多重露出**」以外の撮影メニューの全項目。ただし、多重露出を設定してから1コマ目を撮影する前にインターバルタイマーを設定し、撮影を開始した場合、「**インターバルタイマー**」も選択することができます。
- オートブラケティング
- メモリーカードのフォーマット
- セットアップメニューの「**イメージダストオフデータ取得**」
- クリーニングミラーアップ

多重露出撮影の終了

次の場合、一連の多重露出撮影が終了し、その時点で撮影が完了しているコマを重ね合わせた画像が記録されます。多重露出撮影は終了した時点で解除され、通常の撮影待機状態に戻ります。再度多重露出撮影を行うには、撮影メニューの「**多重露出**」を設定し直してください。

- 「**コマ数**」で設定された撮影コマ数の撮影が終了した場合
- 撮影途中で操作のないまま30秒が経過した場合
- カメラの電源スイッチをOFFにした場合（削除ボタン 🗑 を押しながら電源スイッチをOFFにすると、画像の記録を行わずに終了します。）
- バッテリーの残量がなくなった場合
- 撮影画像を再生し、削除ボタン 🗑 の操作によって削除した場合
- 多重露出設定画面で、多重露出撮影設定後に表示される「**設定解除**」を選択し、マルチセレクターの▶を押した場合

- 多重露出設定画面で、多重露出撮影開始後に表示される「**中断**」を選択し、マルチセレクターの▶を押した場合

☑ 途中で終了した場合の自動ゲイン補正について

多重露出の「**自動ゲイン補正**」を「**する**」に設定して多重露出撮影を行ったときに、撮影コマ数が設定されたコマ数に満たさずに途中で終了した場合、実際に撮影されたコマ数から補正値が計算されます。

☑ ツーボタンリセットについて

ツーボタンリセットでは多重露出設定画面の内容はリセットされません。また、多重露出の設定中にツーボタンリセットを行っても、多重露出は解除されません。

インターバルタイマー撮影

D200は、設定した開始方法（即時または設定時刻）と撮影間隔で自動的に撮影を行う、インターバルタイマー撮影が可能です。つぼみがゆっくりと開く様子や、蝶が羽化する様子などを記録したい場合などに便利です。

インターバルタイマー撮影の開始

1 撮影メニュー画面で「**インターバルタイマー**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

2 インターバルタイマー撮影設定画面で、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、開始トリガーの「即時スタート」または「開始時刻設定」を選択します。

- 「**即時スタート**」：約3秒後に最初の設定コマ数を撮影し、以後設定された撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。
- 「**開始時刻設定**」：設定された開始時刻に最初の設定コマ数を撮影し、以後設定された撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。

☑ 試し撮りについて

インターバルタイマー撮影を開始する前に、試し撮りをすることをおすすめします。特にインターバルタイマー撮影では、撮影時間ごと、直前にピントを合わせます。フォーカスモードが**S**（シングルAFサーボ）で、被写体にピントが合わない場合は、その回の撮影がキャンセルされますのでご注意ください。

3 マルチセレクターの◀または▶を操作して次の設定項目を表示します。

- インターバルタイマー撮影の設定をキャンセルする場合は、メニューボタンMENUを押してメニュー画面を終了してください。

開始時刻	「**開始トリガー**」で「**開始時刻設定**」を選択した場合の開始時刻を設定します。マルチセレクターの◀または▶で時・分を選択し、▲または▼で数値を設定します。 •「**開始トリガー**」で「**即時スタート**」が選択されている場合は設定できません。
撮影間隔	インターバルを設定します。マルチセレクターの◀または▶で時間・分・秒を選択し、▲または▼で数値を設定します。
撮影回数×コマ数	撮影回数とコマ数を設定します。マルチセレクターの◀または▶で、撮影回数（左側）、1回の撮影コマ数（右側）を1桁ずつ選択し、▲または▼で数値を設定します。 • 右側に合計撮影コマ数が表示されます。設定時のメモリーカードのメモリー残量によって、撮影コマ数や撮影回数が制限されることはありません。
残り	撮影開始後の残りの撮影回数（左側）と1回の撮影コマ数（右側）を表示します。この項目を設定することはできません。
撮影動作	インターバルタイマー撮影の開始動作を選択します。マルチセレクターの▲または▼で「**開始しない**」と「**開始する**」を切り換えます。 •「**開始しない**」:「**開始しない**」を選択して実行ボタンENTERを押すと、インターバルタイマー撮影の設定を行い、撮影メニュー画面に戻ります。 •「**開始する**」:「**開始する**」を選択して実行ボタンENTERを押すと、インターバルタイマー撮影の待機状態になります。設定された開始方法で最初の設定コマ数を撮影し、以後設定された撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。

☑ インターバルタイマー撮影時の電源について

インターバルタイマー撮影を行う場合は、撮影中のバッテリー切れを防ぐため、電源としてACアダプター EH-6（別売）のご使用をおすすめします。

4 すべての項目を設定したら、「**撮影動作**」の「**開始する**」を選択した状態で、実行ボタン ENTER を押します。

- カメラを三脚などで固定することをおすすめします。
- カメラが撮影の待機状態になります。設定した開始方法で最初の設定コマ数が撮影され、以後設定したインターバルとコマ数で撮影を繰り返します。
- 設定した全ての撮影回数と撮影コマ数の撮影が完了すると、インターバルタイマー撮影が終了します。
- 設定した開始時刻まで1分以内の場合や、露出モードが M（マニュアル）でシャッタースピードが bulb（バルブ）にセットされている場合など、インターバルタイマー撮影を開始できない場合は、警告メッセージを液晶モニターに表示してインターバルタイマー撮影設定画面に戻ります。

ヒント インターバルタイマー撮影時の表示パネルについて

インターバルタイマー撮影の待機状態では、表示パネルにインターバルタイマー設定マーク INTERVAL が点滅表示され、撮影直前になるとシャッタースピード表示部に残りの撮影回数が、絞り値表示部にその回の残りの撮影コマ数が、それぞれ表示されます。

- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影回数と撮影コマ数が表示されます。ただし、シャッターボタンから指を離した状態で半押しタイマーがオンの間はシャッタースピードと絞り値が表示され、撮影回数と撮影コマ数は表示されません。
- 撮影回数を重ねるごとに撮影回数表示の数値が1ずつ減っていきます。また、1コマ撮影するごとに撮影コマ数表示が1ずつ減りますが、次の回に移行するときに設定した撮影コマ数に戻ります。

☑「時刻設定」について

「**時刻設定**」を選択して、開始時刻を指定する場合は、あらかじめセットアップメニューの「**ワールドタイム**」（P.187）で日時が正確に設定されていることをご確認ください。

ヒント インターバルタイマー撮影待機状態のインターバル設定画面について

インターバルタイマー撮影の待機状態で、撮影メニューから「**インターバルタイマー**」を選択すると、液晶モニターのインターバル設定画面に撮影動作、開始時刻、撮影間隔、残りの撮影回数と撮影コマ数が表示されます。ただし、「撮影動作」以外の設定変更はできません。

このとき、マルチセレクターの▲または▼を押すと、「撮影動作」の「**停止**」と「**終了**」が選択できます。実行ボタン ENTER を押すと選択が実行されます。

- 「**停止**」: インターバルタイマー撮影が一時停止状態になります（次ページ参照）。
- 「**終了**」: インターバルタイマー撮影を終了して通常の撮影モードに戻ります。

インターバル（撮影間隔）の設定について

実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間のほか、シャッタースピードの時間やカメラが処理を行う時間などが含まれます。そのため、設定したインターバルや画像のファイルサイズによっては、設定した間隔で撮影できない場合があります。

メモリーカードのメモリー残量がない場合は

メモリーカードのメモリー残量がない場合、撮影時刻ごとにカウントは進みますが、実際の撮影は行われません。撮影を続行するには次のいずれかの操作を行ってください。

- 不要な画像を削除する
- 電源スイッチをOFFにしてメモリー残量のあるメモリーカードに交換し、再度電源スイッチをONにしてインターバルタイマー撮影再開の操作を行う

オートブラケティングとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

インターバルタイマー撮影とオートブラケティングを同時に行う場合は、オートブラケティングを先にセットしてからインターバルタイマーを設定してください。

- インターバルタイマー撮影時にAE・フラッシュ、AE、フラッシュブラケティングを行う場合は、インターバルタイマーの「コマ数」の設定にかかわらず、撮影時間ごとにオートブラケティングでセットされたコマ数が撮影されます。
- インターバルタイマー撮影時にWBブラケティングを行う場合は、インターバルタイマーの「コマ数」の設定にかかわらず、撮影時間ごとに1コマ撮影し、オートブラケティングでセットされたコマ数が記録されます。

インターバルタイマー撮影の一時停止と再開

次の場合はインターバルタイマー撮影が一時停止状態になります。

- 撮影待機中に実行ボタン ENTER が押された場合
- 「撮影動作」で「**停止**」が選択され、実行ボタン ENTER が押された場合
- 電源スイッチをOFFにして、再度ONにした場合（電源スイッチがOFFにセットされている間にバッテリーやメモリーカードを交換しても、一時停止状態が持続します。）

インターバルタイマー撮影を再開する手順は次のとおりです：

1 インターバルタイマー撮影設定画面で、開始トリガーの「即時スタート」または「開始時刻設定」を選択します（撮影間隔、撮影コマ数、撮影回数は設定できません）。

- 「開始時刻設定」を選択した場合は、開始時刻を設定します。

2 マルチセレクターの◀または▶でインターバル設定画面の「**撮影動作**」を表示します。

3 マルチセレクターの▲または▼で「**再開**」を選択し、実行ボタン ENTER を押します。

- 撮影途中の回で停止状態になった場合、その回の残りのコマはキャンセルされます。再開した場合は、次の回の1コマ目から撮影されます。

インターバルタイマー撮影の終了

次の場合はインターバルタイマー撮影が終了します。

- 「撮影動作」で「**終了**」が選択され、実行ボタンENTERが押された場合
- ツーボタンリセット（P.156）が行われた場合
- 撮影メニューの「**リセット**」（P.201）が行われた場合
- オートブラケティング（P.115）がセット、または解除された場合
- バッテリーの残量がなくなった場合

インターバルタイマー撮影終了後は通常の撮影待機状態に戻ります。

撮影のキャンセル

前の回から設定撮影間隔が経過し、次の回の撮影開始時刻になったときに以下の状態にある場合は、その回の撮影を全コマキャンセルします。撮影はその次の回から再開されます。

- 前の回のコマが撮影中、またはセルフタイマー作動中の場合
- 連続撮影可能コマ数が0の場合
- メモリーカードに空きがない場合
- フォーカスモードが**S**（AF-S）で、被写体にピントが合わない場合（撮影時間ごと、直前にピントを合わせます。）

✓ 多重露出とインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

多重露出（P.136）を設定してから1コマ目を撮影する前にインターバルタイマー撮影を設定すると、設定されたインターバルで多重露出撮影を行うことができます。この場合、「**インターバルタイマー**」で設定された撮影回数とコマ数（1回の撮影コマ数）にかかわらず、設定されたインターバルで1コマずつ撮影され、「**多重露出**」で設定されたコマ数の撮影が終了すると、画像が記録されて多重露出とインターバルタイマー撮影の両方が解除されます。ただし、多重露出撮影時は、操作のないまま30秒経過すると撮影が終了します。「**インターバルタイマー**」のインターバルを30秒より長く設定した場合、次のいずれかを行ってください。

- カスタムメニューc3「**半押しタイマー**」（P.247）を「**制限なし**」に設定する
- ACアダプターEH-6（別売）を使用する

多重露出が途中で解除された場合はインターバルタイマー撮影も解除されます。

☑ 動作モードについて

動作モードに関係なく、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数が撮影されます。

- CH（高速連続撮影）では5コマ/秒、S（1コマ撮影）、CL（低速連続撮影）、MUP（ミラーアップ撮影）ではカスタムメニューd4「**低速連続撮影速度**」(P.249) で設定された速度で、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数を撮影します。
- （セルフタイマー撮影）ではコマごとにカウントダウンを行い撮影します。
- MUP（ミラーアップ撮影）では、撮影時間直前になるとコマごとに自動的にミラーアップして撮影します。

☑ インターバルタイマー撮影待機中の各種設定について

インターバルタイマー撮影の待機中でも、各種設定やメニュー画面、画像再生の操作が可能です。ただし、次のことにご注意ください。

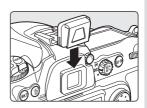
- ツーボタンリセット (P.156)、オートブラケティング (P.115) のセットまたは解除が行われた場合、インターバルタイマー撮影は終了します。
- メニュー画面や再生画面を表示している場合、撮影時刻の約4秒前に液晶モニターが消灯し、撮影モードに戻ります。

☑ 撮影メニューの切り換えとリセットについて

インターバルタイマー撮影設定画面の内容は、すべての撮影メニュー（A～D）(P.199) で共通です。したがって、撮影メニューの「**撮影メニュー切り換え**」で撮影メニューを切り換えても、インターバルタイマー撮影は続行します。また、撮影メニューの「**リセット**」を実行した場合、確認画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼で「**はい**」または「**いいえ**」を選択してください。

- 「**はい**」を選択して▶を押すと、すべての撮影メニューでインターバルタイマー撮影設定が初期状態（開始トリガー：即時スタート、撮影間隔：1分、設定：1回／1コマ、撮影動作：開始しない）にリセットされ、実行中のインターバルタイマー撮影は終了します。
- 「**いいえ**」を選択して▶を押すと、撮影メニューのリセットは行われず、インターバルタイマー撮影は続行します。

☑ アイピースキャップについて

適正露出に影響を与える接眼部からの逆入光を防ぐため、M（マニュアル）以外の露出モードでカメラから離れてインターバルタイマー撮影を行う場合は、付属のアイピースキャップDK-5で接眼部を覆ってください。アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し、ファインダー接眼部の上から差し込むように取り付けます。

非CPUレンズのレンズ情報手動設定

非CPUレンズ装着時に、装着しているレンズの情報（焦点距離、開放絞り値）をカメラで設定することにより、以下の機能が使用できます。

- **焦点距離を設定して使用できる機能**
  - ・スピードライト（別売）SB-800、SB-600の自動ズーミング
  - ・再生画面での焦点距離表示（焦点距離に＊印が付きます。）
- **開放絞り値を設定して使用できる機能**
  - ・レンズでセットした絞り値表示（表示パネル、ファインダー内表示）
  - ・スピードライトの絞り連動外部自動調光
  - ・再生画面での絞り値表示（絞り値に＊印が付きます。）
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定して使用できる機能**
  - ・RGBマルチパターン測光※1

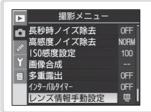
  ※1 レフレックスニッコールなど一部のレンズをご使用の場合、焦点距離と開放絞り値を設定してもRGBマルチパターン測光では充分な精度が得られない場合があります。中央部重点測光またはスポット測光を選択して撮影してください。
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定すると精度が向上する機能**
  - ・中央部重点測光
  - ・スポット測光
  - ・i-TTL-BL調光※2

  ※2 測光モードはスポット測光以外にセットしてください。

焦点距離の設定

焦点距離の設定には、撮影メニューの「**レンズ情報手動設定**」で設定する方法、およびファンクションボタンとメインコマンドダイヤルで設定する方法があります。

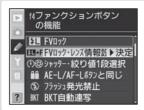
- 設定できる焦点距離は6、8、13、15、16、18、20、24、25、28、35、43、45、50、55、58、70、80、85、86、100、105、135、180、200、300、360、400、500、600、800、1000、1200、1400、1600、2000、2400、2800、3200、4000mmです。

焦点距離を撮影メニューの「レンズ情報手動設定」で設定する場合

1 撮影メニュー画面で「**レンズ情報手動設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

2 レンズ情報手動設定画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**焦点距離（mm）**」を選択してマルチセレクターの▶を押します。

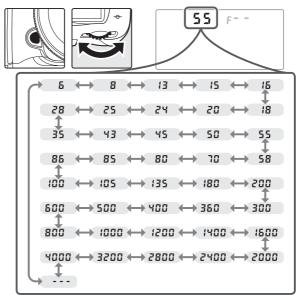
3 焦点距離選択画面（1ページ目）が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**6～45㎜**」、「**50～180㎜**」、「**200～4000㎜**」のうち、装着しているレンズの焦点距離が含まれる項目を選択してマルチセレクターの▶を押します。

4 焦点距離選択画面（2ページ目）が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、装着しているレンズの焦点距離を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、レンズ情報手動設定画面に戻ります。

焦点距離をファンクションボタンとメインコマンドダイヤルで設定する場合

1 カスタムメニュー f4「**ファンクションボタンの機能**」(P.269) を「**FVロック・レンズ情報設定**」に設定します。

2 ファンクションボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して装着レンズの焦点距離を表示パネルに表示させます。

- 内蔵フラッシュ、スピードライト（別売）SB-800、SB-600使用時は、FVロックが機能するため、設定できません。内蔵フラッシュがポップアップしている場合は収納し、スピードライト装着時はスピードライトの電源をOFFにしてください。

【応用編】撮影　非CPUレンズのレンズ情報手動設定

☑ 該当する焦点距離がない場合

ズームレンズ使用時や、テレコンバーター使用時など、一致する焦点距離が選択項目にない場合は、装着レンズの焦点距離に最も近く、かつ大きい値を選択してください。

☑ ズームレンズ装着時について

非CPUズームレンズを装着してズーミングを行った場合、変化するレンズの焦点距離や開放絞り値とカメラで設定されているレンズ情報は連動しません。ズーミングを行った場合は、再度レンズ情報を設定してください。

☑ 設定の記憶について

焦点距離と開放絞り値は一組の値として記憶されます。いったん焦点距離と開放絞り値を設定すると、次回からは焦点距離を設定するだけで記憶された開放絞り値が呼び出されます。

開放絞り値の設定

開放絞り値の設定には、撮影メニューの「**レンズ情報手動設定**」で設定する方法、およびファンクションボタンとサブコマンドダイヤルで設定する方法があります。

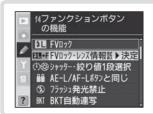
- 設定できる開放絞り値はf/1.2、1.4、1.8、2、2.5、2.8、3.3、3.5、4、4.5、5、5.6、6.3、7.1、8、9.5、11、13、15、16、19、22です。

開放絞り値を撮影メニューの「レンズ情報手動設定」で設定する場合

1 撮影メニュー画面で「**レンズ情報手動設定**」(P.211) を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

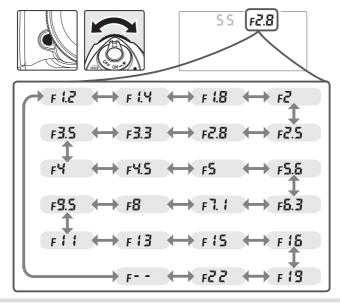
2 レンズ情報手動設定画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**開放絞り値**」を選択してマルチセレクターの▶を押します。

3 開放絞り値選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、装着しているレンズの開放絞り値を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、レンズ情報手動設定画面に戻ります。

開放絞り値をファンクションボタンとサブコマンドダイヤルで設定する場合

1 カスタムメニュー f4「**ファンクションボタンの機能**」(P.269) を「**FVロック・レンズ情報設定**」に設定します。

2 ファンクションボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回して装着レンズの開放絞り値を表示パネルに表示させます。

- 内蔵フラッシュ、スピードライト（別売）SB-800、SB-600使用時は、FVロックが機能するため、設定できません。内蔵フラッシュがポップアップしている場合は収納し、スピードライト装着時はスピードライトの電源をOFFにしてください。

F1.2 ⟷ F1.4 ⟷ F1.8 ⟷ F2 ⟷ F2.5 ⟷ F2.8 ⟷ F3.3 ⟷ F3.5 ⟷ F4 ⟷ F4.5 ⟷ F5 ⟷ F5.6 ⟷ F6.3 ⟷ F7.1 ⟷ F8 ⟷ F9.5 ⟷ F11 ⟷ F13 ⟷ F15 ⟷ F16 ⟷ F19 ⟷ F22 ⟷ F-- → F1.2

GPSを使用した撮影

このカメラは、10ピンターミナル（P.289）に接続したGPS変換コードMC-35（別売）を介してGPS機器と通信し、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を記録することができます。

GPS機器との接続について

- データ形式がNMEA0183※ ver.2.01以降のGARMIN社製、およびMAGELLAN社製のGPS機器と接続が可能です。

  ※ NMEA＝National Marine Electronics Association

  次のGPS機器が動作確認済みです。

  GARMIN社製　　：「eTrex」シリーズ

  MAGELLAN社製 ：「SporTrak」シリーズ
- GPS変換コードMC-35は、GPS機器メーカーのPCケーブルに接続します。詳しくはMC-35の使用説明書をご覧ください。

GPS機器との通信について

- GPS機器の通信形式を、NMEAに設定してください。
- GPS機器の使用方法については、GPS機器の使用説明書をご覧ください。
- GPS機器との通信が開始されると、表示パネルにGPS通信マーク GPS が表示されます。この状態で撮影を行うと、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTCが記録されます。

- GPS機器との通信中は、半押しタイマーがオフになりません。
- GPS機器との通信が2秒以上途絶えると、表示パネルからGPS通信マーク GPS が消灯します。この状態で撮影された画像データには撮影時の緯度、経度、標高、UTCは記録されません。
- GPS機器と通信を行って撮影された画像は、再生時の画像情報にGPSデータのページ（P.160）が追加され、記録された撮影時の緯度、経度、標高、UTCが表示されます。

✔ UTCについて

UTC（Coordinated Universal Time＝協定世界時）は、GPS機器と接続して取得された世界標準時で、カメラで設定されている時刻はとは別に記録され、連動しません。

✔ GPSを使用した撮影について

GPS機器と接続していても、GPS通信マーク GPS が点灯するまで緯度、経度、標高、UTCは記録されません。撮影時に表示パネルのGPS通信マーク GPS が点灯していることを確認してください。

- GPS機器のスイッチをオンにした直後など、GPS通信マーク GPS が点滅する場合は、GPS機器が取得している情報が確定していません。この場合、撮影を行っても、緯度、経度、標高、UTCは記録されません。GPS通信マーク GPS が点灯するまでお待ちください。

ツーボタンリセット

ツーボタンリセットにより、簡単に各機能の働きやカメラ各部の設定を初期状態に戻すことができます。カメラ操作中にいったんカメラを初期状態に戻したい場合に便利です。ただし、ツーボタンリセットではカスタムメニューのリセットはできません。

露出補正ボタン と画質モードボタン QUAL（それぞれのボタンに緑色の●が表示されています）を２秒以上同時に押すと、一瞬表示パネルの表示が消え、カメラの各機能が次のように初期設定に戻ります。

フォーカスエリア	中央※1
露出モード	P（プログラムオート）
プログラムシフト	解除
露出補正	解除（0.0）
AEロックのホールド状態	解除※2

オートブラケティング	解除※3
フラッシュシンクロモード	先幕シンクロ
調光補正	解除（0.0）
FVロック	解除

※１ AFエリアモードがグループダイナミックAFの場合、中央のグループが選択されます。
※２ カスタムメニューc2「**AE/AF-Lボタンの機能**」はリセットされません。
※３ 撮影コマ数が0に設定されます。AE、フラッシュブラケティングの補正ステップは１段に、WBブラケティングの補正ステップは１になります。

ツーボタンリセットでは、次の撮影メニュー項目の内容も初期状態に戻ります。ただし、初期状態に戻るのは撮影メニュー「**撮影メニュー切り換え**」（P.199）で選択されている撮影メニュー（A～Dのいずれか）の内容のみです。現在選択されていないメニューの項目は初期状態に戻りません。

画質モード	NORMAL
画像サイズ	L
ホワイトバランス	**A**（オート）

ホワイトバランス微調整	解除（0）
ISO設定	100

撮影メニューのリセット

撮影メニューの「**リセット**」（P.201）で「**する**」を選択すると、「**撮影メニュー切り換え**」で選択されている撮影メニューがリセットできます。

R：カスタムのリセット（P.230）

カスタムメニューR「**リセット**」で「**する**」を選択するとカスタムメニューC「**カスタム切り換え**」で選択されているカスタムメニューがリセットできます。

画像を再生する

1コマ再生表示

このカメラは、ワンタッチでメモリーカードに記録した画像を再生できます。撮影済みの画像を再生するには再生ボタン▶を押します。最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

- 1コマ再生表示中にメニューボタンMENUを押すと、再生を終了し、メニュー画面（P.34）が表示されます。
- 1コマ再生表示中に再生ボタン▶を押す、またはシャッターボタンを半押しすると、モニターの表示画面が消え、撮影可能状態になります。
- 縦位置で撮影された画像は、縦位置で再生されます。

撮影直後の画像確認

再生メニューの「**撮影直後の画像確認**」（P.224）を「**する**」に設定すると、再生ボタン▶を押さなくても、撮影した画像をメモリーカードに記録しながら自動的に液晶モニターに表示します。

- 1コマ、セルフタイマー、ミラーアップ撮影時は、1コマずつ表示されます。
- 高速、低速連続撮影時は、撮影が終了した後に、連続撮影時の最初のコマから順次画像表示を行います。

縦位置自動回転

通常、縦位置で撮影された画像は、液晶モニターでも縦位置で再生されますが、再生メニューの「**縦位置自動回転**」では、すべての画像を横位置で再生するように変更できます。ただし、セットアップメニューの「**縦横位置情報の記録**」（P.190）を「**記録しない**」に設定して撮影した画像は、「**縦位置自動回転**」の設定にかかわらず、すべて横位置で表示されます。

c5：液晶モニターのパワーオフ時間（P.247）

初期設定では、20秒間何も操作を行わないと、液晶モニター表示は自動的にオフになりますが、自動的にオフになるまでの時間を変更できます。

画像情報の表示

1コマ再生表示中にマルチセレクターの▲および▼を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。

※1 初期設定では表示されますが、再生メニューの「**再生画面設定**」(P.223)で非表示に設定できます。

※2 GPS(P.154)を使用して撮影した画像に対して表示されます。

> **ヒント マルチセレクターの操作**
>
> 画像の再生中やメニューの操作中は、フォーカスエリアロックレバーの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

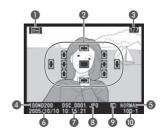
標準表示

1 プロテクト設定の有無 P.165
2 フォルダー番号－コマ番号 P.215

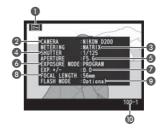
f3：1コマ再生でのマルチセレクターの上下・左右の機能入換え(P.268)

1コマ再生時にマルチセレクターの▲／▼を押して表示画像を、◀／▶を押して画像情報のページを切り換えるように変更できます。

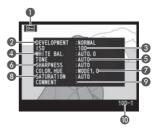
ファイル情報

1 プロテクト設定の有無 P.165
2 フォーカスフレーム※ P.86
3 コマ番号／画像数 P.215
4 フォルダー名 P.203
5 画質モード P.41
6 撮影日付 P.15
7 撮影時刻 P.15
8 ファイル名 P.205
9 画像サイズ P.46
10 フォルダー番号－コマ番号 P.215

※ 再生メニューの「**再生画面設定**」(P.223) で「**フォーカスフレーム**」が設定されている場合のみ表示されます。AFエリアモード (P.88) をシングルエリアAFモードに設定して撮影した画像では、選択したフォーカスフレームを赤く表示します。また、ダイナミックAFモード、グループダイナミックAFモード、または至近優先ダイナミックAFモードに設定して撮影した画像では撮影時のピント合わせに使用したフォーカスフレーム（フォーカスモードが**S**（シングルAFサーボ）の場合は、最初にロックされたフォーカスフレーム）を赤く表示します。

撮影情報1※

1 プロテクト設定の有無 P.165
2 カメラ名
3 測光モード P.100
4 シャッタースピード P.102
5 絞り値 P.102
6 露出モード P.102
7 露出補正値 P.113
8 焦点距離 P.279
9 フラッシュシンクロモード P.125
10 フォルダー番号－コマ番号 P.215

※ 再生メニューの「**再生画面設定**」(P.223) で「**撮影情報**」が設定されている場合のみ表示されます。

撮影情報2※1

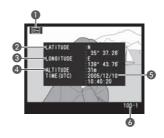
1 プロテクト設定の有無 P.165
2 仕上がり設定 P.48
3 ISO感度※2 .... P.48
4 ホワイトバランス／
ホワイトバランス微調整 P.51
5 階調補正 P.78
6 輪郭強調 P.77
7 カラー設定／色合い調整 P.78
8 彩度設定 P.79
9 画像コメント P.188
10 フォルダー番号－コマ番号 P.215

※1 再生メニューの「**再生画面設定**」(P.223) で「**撮影情報**」が設定されている場合のみ表示されます。

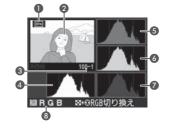
※2 感度自動制御が機能して撮影された画像の場合、ISO感度値が赤く表示されます。

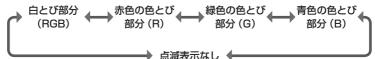
GPSデータ※1

1 プロテクト設定の有無 P.165
2 緯度※2
3 経度※2
4 標高
5 UTC（協定世界時）
6 フォルダー番号－コマ番号 P.215

※1 GPS（P.154）を使用して撮影した画像に対して表示されます。

※2 パソコンで表示する場合、ご使用のソフトウェアによりカメラの液晶モニターで表示される数値と表示形式が異なることがあります。

RGBヒストグラム表示※1

1 プロテクト設定の有無 P.165
2 画像のハイライト（白とび／色とび）部分が各色ごとに点滅表示されます※2。
3 フォルダー番号－コマ番号 P.215
4 RGBのヒストグラム※3
5 赤色（R）のヒストグラム※3
6 緑色（G）のヒストグラム※3
7 青色（B）のヒストグラム※3
8 ハイライト部分が点滅表示されている色※2

※1 再生メニューの「**再生画面設定**」（P.223）で「**RGBヒストグラム**」が設定されている場合のみ表示されます。

※2 サムネイルボタン を押しながらマルチセレクターの◀または▶を押すと、次のように点滅表示されるハイライト部分が切り替わります。

※3 横軸はレベル、縦軸は画素数を表します。

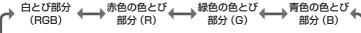
> ヒント **D200のヒストグラム表示について**
>
> D200のヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。

【応用編】再生　画像を再生する

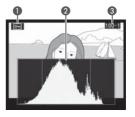
ハイライト表示※1

1 プロテクト設定の有無................. P.165
2 画像のハイライト（白とび／色とび）部分が各色チャンネルごとに点滅表示されます※2。
3 ハイライト部分が点滅表示されている色※2
4 フォルダー番号－コマ番号......... P.215

※1 再生メニューの「**再生画面設定**」（P.223）で「**ハイライト**」が設定されている場合のみ表示されます。

※2 サムネイルボタン ⊞ を押しながらマルチセレクターの◀または▶を押すと、次のように点滅表示されるハイライト部分が切り替わります。

ヒストグラム表示※

1 プロテクト設定の有無................. P.165
2 画像のヒストグラムが表示されます。横軸はレベル、縦軸は画素数を表します。
3 フォルダー番号－コマ番号......... P.215

※ 再生メニューの「**再生画面設定**」（P.223）で「**ヒストグラム**」が設定されている場合のみ表示されます。

サムネイル表示

サムネイルボタン⊞を押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、画面に表示される画像の数を切り換えることができます。設定できるのは、1コマ、4コマまたは9コマのいずれかです。4コマと9コマの表示時は、画像はサムネイル（縮小画像）で一覧表示されます。この状態では次の操作が可能です。

表示コマ数の変更	⊞＋	サムネイルボタン⊞を押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示コマ数（1コマ／4コマ／9コマ）が切り替わります。
1コマ表示と4コマ／9コマ表示の切り換え		4コマまたは9コマ表示時にマルチセレクターの中央部を押すと、1コマ表示になります。1コマ表示時に再度マルチセレクターの中央部を押すと、マルチセレクターの中央部を押して1コマ表示に切り換える前の表示コマ数になります。
画像の選択		マルチセレクターの▲／▼／◀／▶を押すと、表示画面でカーソル（黄色い枠）が移動します。選択する画像にカーソルを合わせます。
ページ送り	⊞＋	サムネイルボタン⊞を押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、設定されたコマ数（4コマ／9コマ）単位でページ送りされます。
選択画像の削除		削除ボタン🗑を押すと削除確認画面が表示されます（P.166）。 • 削除確認画面の表示中に再度削除ボタン🗑を押すと画像の削除が実行され、サムネイル表示画面に戻ります。 • 削除確認画面の表示中に再生ボタン▶を押すと、画像の削除をキャンセルして、サムネイル表示画面に戻ります。

ヒント マルチセレクターの操作

画像の再生中やメニューの操作中は、フォーカスエリアロックレバーの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

選択画像の拡大表示	(ENTER)（拡大）	実行ボタン(ENTER)（拡大再生ボタン）を押すと選択中の画像が拡大表示されます（P.164）。さらに、サムネイルボタンを押すと、赤い拡大エリア選択枠が表示されます。サムネイルボタンを押している間、メインコマンドダイヤルを回して拡大エリア選択枠の大きさを変更したり、マルチセレクターを操作して拡大したい画像の部分に拡大エリア選択枠を移動させることができます。サムネイルボタンから指を離すと、拡大エリア選択枠内の部分が瞬時に拡大表示されます。拡大表示中に、マルチセレクターを操作すると、画面をスクロールさせて見たい部分に移動できます。再度実行ボタン(ENTER)を押すと、拡大表示が終了し、サムネイル表示画面に戻ります。
表示画像のプロテクト設定／解除	(プロテクト)	画像の表示中にプロテクトボタンを押すと、選択されている画像にプロテクトアイコンが表示され、プロテクトがかかります（P.165）。プロテクトアイコンが表示されている画像は、削除ボタンまたは再生メニューの「削除」では削除できません（ただし、メモリーカードをフォーマットすると、プロテクトをかけた画像も削除されます）。プロテクトアイコンが表示されている画像を選択してプロテクトボタンを押すと、プロテクトアイコンが消え、プロテクトが解除されます。
メニュー画面の表示	(MENU)	メニューボタン(MENU)を押すと、再生を終了し、メニュー画面（P.34）が表示されます。
撮影モードに戻る	シャッターボタン／(再生)	再生ボタンを押す、またはシャッターボタンを半押しすると、モニターの表示画面が消え、撮影可能状態になります。

撮影直後の画像確認

再生メニューの「**撮影直後の画像確認**」（P.224）を「**する**」に設定すると、再生ボタンを押さなくても、撮影した画像をメモリーカードに記録しながら自動的に液晶モニターに表示します。

- 1コマ、セルフタイマー、ミラーアップ撮影時は、1コマずつ表示されます。
- 高速、低速連続撮影時は、撮影が終了した後に、連続撮影時の最初のコマから順次画像表示を行います。

c5：液晶モニターのパワーオフ時間（P.247）

初期設定では、20秒間何も操作を行わないと、液晶モニター表示は自動的にオフになりますが、自動的にオフになるまでの時間を変更できます。

f1：マルチセレクターの中央ボタンの機能（P.266）

「**再生モード**」により、再生時（1コマ／4コマ／9コマ表示時）にマルチセレクターの中央部を押すと、ヒストグラム表示、または撮影時に使用したフォーカスエリアを中心に拡大再生が行われるように変更できます。

拡大表示

画像の表示中に実行ボタンENTER（拡大再生ボタン⚲）を押すと、表示されている画像（1コマ表示時）または選択されている画像（4コマ／9コマ表示時）が長さ比で最大約25倍（画像サイズがLの場合）、約19倍（画像サイズがMの場合）または約13倍（画像サイズがSの場合）まで拡大表示できます。この状態では次の操作が可能です。

拡大表示の開始/終了	ENTER（⚲）	実行ボタンENTER（拡大再生ボタン⚲）を押すと、画像が拡大表示されます。拡大表示中に実行ボタンENTERを押すと、拡大表示が終了し、拡大再生前の表示に戻ります。
拡大エリアの選択	⊞	実行ボタンENTERで拡大後、サムネイルボタン⊞を押すと、赤い拡大エリア選択枠が表示されます。この選択枠は、サムネイルボタン⊞を押しながらメインコマンドダイヤルを反時計回りに回すと小さくなり、時計回りに回すと大きくなります。マルチセレクターを操作して拡大したい画像の部分に拡大エリア選択枠を移動させ、サムネイルボタン⊞から指を離すと、拡大エリア選択枠内の部分が瞬時に拡大表示されます。
拡大画像の切り換え		拡大表示中にメインコマンドダイヤルを回すと、同じ場所を拡大したまま画像を切り換えることができます。
画像の他の部分の表示		画像の拡大表示中にマルチセレクターの▲／▼／◀／▶を押すと、画面をスクロールさせて見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速移動することができます。

画像を保護する—プロテクト

画像にプロテクトをかけると、その画像を削除することができなくなります。これにより、誤って画像を削除してしまうことを防止できます。画像の表示中にプロテクトボタン🔑を押すと、表示されている画像（1コマ表示時、拡大表示時）または選択されている画像（4コマ／9コマ表示時）にプロテクトがかかります。

1 1コマ表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。4コマ／9コマ表示の場合は、プロテクトする画像をマルチセレクターにより選択します。

2 プロテクトボタン🔑を押します。画像にプロテクトアイコン🔑が表示されます。

- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（1コマ表示、拡大表示の場合）、または選択（4コマ／9コマ表示の場合）して、プロテクトボタン🔑を押します。

ヒント プロテクトの一括解除について

プロテクトボタン🔑と削除ボタン🗑を同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの「**再生フォルダー設定**」で設定されているフォルダ内のすべての画像のプロテクトが一括で解除できます。

ヒント プロテクト画像のファイル属性

プロテクトを設定した画像は、DOSファイルフォーマットの「読み取り専用」属性になります。

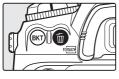
✔ メモリーカードのフォーマット

メモリーカードをフォーマットすると、プロテクト設定した画像も消去されますのでご注意ください。

画像を削除する

画像の再生画面では、ボタン操作によって1コマ単位で削除できます。削除した画像は元に戻せません。

1 1コマ再生表示の場合は、削除する画像を表示します。4コマ／9コマ表示の場合は、削除する画像を選択します。

2 削除ボタン🗑を押します。削除確認の画面が表示されます。

- 再度削除ボタン🗑を押すと、表示中の画像が削除されます。
- 再生ボタン▶を押すと、画像は削除されません。

【応用編】再生　画像を再生する

☑ プロテクト設定／非表示設定された画像の削除

プロテクト設定されている画像や、非表示設定されている画像は削除できません。

画像の削除（P.213）

再生メニューの「**削除**」では、複数の画像を選択して削除したり、全画像を一括して削除することができます。

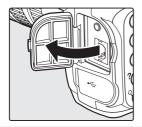
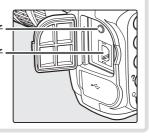
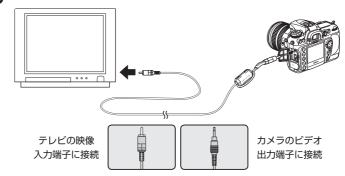
削除後の次再生画像（P.224）

再生メニューの「**削除後の次再生画像**」では、画像の削除後に表示される画像を、削除された画像の「**後ろのコマ**」、「**前のコマ**」、「**直前コマ送り方向に従う**」から選択することができます。

画像をテレビで見る

カメラをテレビやビデオなどに接続して、液晶モニターの内容をテレビ画面に表示したり、ビデオデッキで録画することができます。接続には付属の専用ビデオケーブルEG-D100（以下、ビデオケーブル）をご使用ください。

1 カメラの電源スイッチをOFFにします。

2 端子カバーを矢印の方向に開けてください。

3 カメラとテレビを下の図のように接続します。

4 テレビの入力をビデオ入力に切り換えます。

5 カメラの電源をONにします。

- 撮影した画像がテレビで再生されます。
- 画像をテレビで再生しているときは、液晶モニターでは再生できません。

- テレビ画面では、画像の周辺部が一部ケラレて表示される場合があります。
- ビデオケーブル接続時にも、ボタン入力などのカメラの操作は接続前と同様に行えます。
- ACアダプター EH-6（別売）接続中は、液晶モニターのパワーオフ設定は10分に固定されます。また、半押しタイマーはオフにはなりません（P.247）。

端子抜き差し時のご注意

ビデオ出力端子を抜き差しするときは、必ずカメラの電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。

ビデオ出力

ビデオ出力の初期設定は「**NTSC**」です。ご使用の機器がPAL方式の場合は、「**PAL**」にセットしてください(P.186)。PAL方式の機器に出力した場合は、間引きが行われるため多少解像度が低下します。

画像をパソコンに転送する

このカメラはUSBインターフェースを装備しており、付属のUSBケーブルUC-E4を介してパソコンと通信することができます。付属ソフトウェアを使用すると、D200で撮影した画像をパソコンに転送したり、転送した画像のサムネイル一覧表示や簡単な画像調整および印刷ができます。また、別売のNikon Capture 4（Ver.4.4以降）では、付属ソフトウェアの機能に加えて、より高度な画像調整やバッチ処理などをパソコン上で行ったり、パソコンからカメラをコントロールすることができます。

- 最初に各ソフトウェアの使用説明書をよくお読みになり、必要なソフトウェアをインストールしてください。
- 動作環境はご使用のパソコンの機種によって異なります。ソフトウェアの使用説明書をご覧ください。
- バッテリーの消耗を防ぐため、ACアダプターEH-6（別売）のご使用をおすすめします。

カメラをパソコンに接続する前に

ご使用のパソコンのOS（オペレーティングシステム）に合わせて、正しい通信方式がカメラにセットされていないと、撮影した画像をパソコンに転送することができません。通信方式は次ページの表を参考にして、セットアップメニューの「**USB設定**」で設定してください（P.193）。初期設定は「**Mass Storage**」に設定されています。

OS	USB通信方式	
	付属ソフトウェアの転送機能※1	ニコン キャプチャー4カメラコントロール※2
Windows XP Home Edition Windows XP Professional	PTPまたは Mass Storage	PTP
Mac OS X		
Windows 2000 Professional Windows Millennium Edition (Me) Windows 98 Second Edition (SE)	Mass Storage	PTP
Mac OS 9	対応していません	PTP

※1 付属ソフトウェアの機能の一つで、メモリーカードに記録された撮影済み画像をパソコンに転送します。

※2 D200に対応するNikon Capture 4のバージョンはVer.4.4以降です。

Windows 2000 Professional、Windows Millennium Edition (Me)、Windows 98 Second Edition (SE)をご使用の場合のご注意

上記のOSで付属ソフトウェアの転送機能をご使用の場合は、セットアップメニューの「**USB設定**」を「**PTP**」に設定しないでください。

「**USB設定**」を「**PTP**」に設定して、上記OSのパソコンと接続した場合には、下記の要領でパソコンとの接続を外してください。

再度パソコンと接続する場合は、必ず「**USB設定**」を「**Mass Storage**」に変更した後、パソコンと接続してください。

Windows 2000 Professionalの場合：

「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」と表示されますので、「キャンセル(中止)」を選択して画面を閉じ、パソコンとの接続を外してください。

Windows Millennium Edition（Me）の場合：

「ハードウェア情報データベースの更新」の後に「新しいハードウェアの追加ウィザード」と表示されますので、「キャンセル(中止)」を選択して画面を閉じ、パソコンとの接続を外してください。

Windows 98 Second Edition（SE）の場合：

「新しいハードウェアの追加ウィザード」と表示されますので、「キャンセル(中止)」を選択して画面を閉じ、パソコンとの接続を外してください。

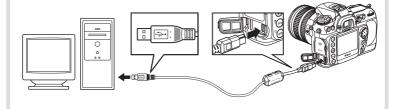
カメラとパソコンを接続する

1 セットアップメニューの「**USB設定**」(P.193)でUSB通信方式を設定します。

- 専用USBケーブルを使ってカメラとパソコンを接続する前に、使用するソフトウェア、および接続するパソコンのOSに合わせてUSB通信方式を選択します。

2 パソコンを起動します。

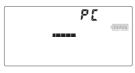
3 カメラの電源スイッチをOFFにします。

4 カメラとパソコンをUSBケーブルUC-E4で接続します。

使用する電源について

カメラからパソコンにデータを転送するときは、確実に電源を供給できるACアダプターEH-6(別売)のご使用をおすすめします(P.286)。カメラをバッテリーで動作させるときは、バッテリーが充分に充電されていることをご確認ください(予備バッテリーのご用意をおすすめします)。

USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

5 カメラの電源をONにします。

- セットアップメニューの「USB設定」(P.193) を「Mass Storage」に設定した場合、パソコンとの通信が正常に行われると、表示パネルの絞り値表示部、ファインダー内表示の記録可能コマ数表示部分に「PC」という文字が表示されます。また、表示パネルではPC接続中インジケーターが点滅します（「PTP」に設定した場合、表示は変化しません）。この状態では、付属ソフトウェアを使用してメモリーカード内にある撮影済み画像の転送が可能になります。

- パソコンと正しく接続され、Nikon Capture 4（Ver. 4.4以降）のニコン キャプチャー 4カメラコントロールを起動している場合、表示パネルの記録可能コマ数表示部に「PC」という文字が表示され、撮影された画像はメモリーカードではなく、パソコンに保存されます。

付属ソフトウェアおよびニコン キャプチャー 4カメラコントロールの詳しい説明については、各ソフトウェアの使用説明書をご覧ください。

☑ パソコン接続時のご注意

カメラとパソコンの通信中は、電源スイッチをOFFにしないでください。

6 転送が終わったら、パソコンとカメラの接続を外します。

●USB通信方式がPTPの場合：

カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜いてください。

●USB通信方式がMass Storageの場合：

USBケーブルを外したり、カメラの電源をOFFにする前に、必ず次の操作を行ってください。

• Windows XP Home Edition／Professional：
パソコン画面右下の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックして「USB大容量記憶装置デバイス－ドライブ（E:）※を安全に取り外します。」を選択してください。

• Windows 2000 Professional：
パソコン画面右下の「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをクリックして「USB大容量記憶装置デバイス－ドライブ（E:）※を停止します」を選択してください。

• Windows Me：
パソコン画面右下の「ハードウェアの取り外し」アイコンをクリックして「USBディスク－ドライブ（E:）※の停止」を選択してください。

• Windows 98SE：
マイコンピュータの中の「リムーバブルディスク」上でマウスを右クリックして「取り出し」を選択してください。

※「ドライブ(E:)」はお使いのパソコンによって異なります。

• Mac OS X：
デスクトップ上の「NIKON D200」のアイコンをゴミ箱に捨ててください。

【応用編】再生　画像をパソコンに転送する

画像をプリンターで印刷する

カメラで撮影した画像をプリント（印刷）します。画像をプリントするには、次のような方法があります。

1. カメラとプリンターを直接つないでプリントする→P.175

2. メモリーカードをプリンターのカードスロットに挿入してプリントする

プリンターの使用説明書をご覧ください。
DPOF（P.220）対応プリンターをお使いの場合は、事前にプリント指定（P.220）を行い、指定通りにプリントすることができます。

3. メモリーカードをプリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼する

事前にプリント指定（P.220）を行った場合は、DPOF対応のプリントサービス取扱店にお持ち込みください。

4. カメラの画像をパソコンに転送してからプリントする

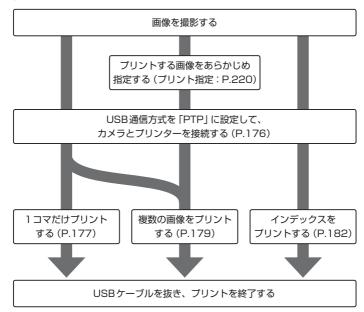
画像の転送方法については「画像をパソコンに転送する」（P.169）をご覧ください。パソコンでのプリント方法はお使いになるソフトウェアやプリンターの使用説明書をご覧ください。

※1～3の方法では、RAW画像（P.41）はプリントできません。RAW画像はパソコンに転送してから、付属ソフトウェアやNikon Capture 4（Ver.4.4以降）などのソフトウェアを使って、プリントしてください。

✓ 直接プリントする場合の注意点

画像調整を行わずに直接プリントする画像は、撮影メニューの「**色空間**」を「**sRGB**」に設定して撮影してください（P.82）。

カメラとプリンターを直接つないでプリントする

PictBridge（ピクトブリッジ：P.306）対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接接続してメモリーカード内の画像をプリントすることができます。これを「ダイレクトプリント」といいます。ダイレクトプリントは、次の手順で行うことができます。

次ページから、それぞれの手順について詳しく説明します。

☑ 使用する電源について

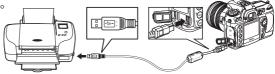
カメラからパソコンにデータを転送するときは、確実に電源を供給できるACアダプター EH-6（別売）のご使用をおすすめします（P.286）。カメラをバッテリーで動作させるときは、バッテリーが充分に充電されていることをご確認ください（予備バッテリーのご用意をおすすめします）。

USB通信方式をPTPに設定して、カメラとプリンターを接続する

1 セットアップメニューの「**USB設定**」を「**PTP**」に設定します(P.193)。

2 カメラの電源をOFFにします。

3 プリンターの電源をONにします。

4 カメラに付属のUSBケーブルで、カメラとプリンターを接続します。

USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐに差し込んでください。

5 カメラの電源をONにします。

- 正しく接続されると、液晶モニターに①の画面が表示された後、②の画面が表示されます。

①

②

1コマだけプリントする

あらかじめカメラとプリンターを正しく接続してから（P.176）、次の手順でプリントしてください。

1　左の画面でマルチセレクターの◀または▶を押して、プリントしたい画像を選びます。

- サムネイルボタン⊞を押しながらメインコマンドダイヤルを回すと6コマ表示と1コマ表示が切り替わります。
- 実行ボタンENTERを押し続けると、拡大表示画面に切り替わります。再生時の拡大表示（P.164）と同様の操作で、細部を確認しながら画像を選ぶことができます。

2　実行ボタンENTERを押してすぐに放すと、左の画面が表示されます。

3　次の項目を設定します。▲または▼で設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定

用紙設定
プリンターの設定
Lサイズ
2Lサイズ
はがき ▶決定
100×150mm
A4サイズ
A3サイズ

プリントする用紙のサイズを「**プリンターの設定**」、「**Lサイズ**」、「**2Lサイズ**」、「**はがき**」、「**100x150mm**」、「**4x6 in.**」、「**203x254mm**」、「**Letter**」、「**A3サイズ**」、「**A4サイズ**」から選びます。▶を押すと、**2**の画面に戻ります。表示される用紙サイズは、プリンターによって異なります。

枚数指定

プリントする枚数（99枚まで）を設定します。
▶を押すと、**2**の画面に戻ります。

フチ設定	日付プリント
「**プリンターの設定**」、「**あり**」（フチありプリント）または「**なし**」（フチなしプリント）を選びます。 ▶を押すと、**2**の画面に戻ります。	「**プリンターの設定**」、「**ON**」（日付を印刷する）または「**OFF**」（日付を印刷しない）を選びます。 ▶を押すと、**2**の画面に戻ります。

範囲指定

プリント範囲を指定します。「**する**」を選んで▶を押すと、下のような画面が表示されます。メインコマンドダイヤルを回すと範囲の大きさが変わり、マルチセレクターの▲▼◀▶で範囲が移動します。

実行ボタン ENTER を押すと範囲が決定し、**2**の画面に戻ります。

4 「**プリント実行**」を選んで▶を押すと、プリントが始まります。プリントが終わると、**1**の画面に戻ります。

- プリントを途中で中止したいときは、実行ボタン ENTER を押してください。

✓ プリンターの設定を優先してプリントしたいときは

「**用紙設定**」、「**フチ設定**」、「**日付プリント**」の設定について、プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に「**プリンターの設定**」を選んでください。

複数の画像をプリントする

あらかじめカメラとプリンターを正しく接続してから（P.176）、次の手順でプリントしてください。

1 左の画面でメニューボタンMENUを押します。

2 「**プリント画像選択**」または「**DPOFプリント**」を選び、マルチセレクターの▶を押します。

- 事前に「**プリント指定**」（P.220）をした場合、「**DPOFプリント**」を選べば、3の画面にプリント指定で設定したプリント枚数が反映されます。

（ここでは「**プリント画像選択**」の画面で説明していますが、「**DPOFプリント**」画面でも操作方法は同じです）

3 ◀または▶でプリントする画像を選びます。プロテクトボタンを押しながら▲または▼を押すとプリント枚数（99枚まで）を設定できます。

- プリントされる画像には、アイコンとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、アイコンが消え、その画像はプリントされません。
- サムネイルボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。

4 実行ボタン ENTER を押すと、左の画面が表示されます。

5 次の項目を設定します。▲または▼で設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定

プリントする用紙のサイズを「**プリンターの設定**」、「**Lサイズ**」、「**2Lサイズ**」、「**はがき**」、「**100x150mm**」、「**4x6 in.**」、「**203x254mm**」、「**Letter**」、「**A3サイズ**」、「**A4サイズ**」から選びます。表示される用紙サイズは、プリンターによって異なります。

フチ設定

「**プリンターの設定**」、「**あり**」（フチありプリント）または「**なし**」（フチなしプリント）を選びます。
▶を押すと、**4**の画面に戻ります。

日付プリント

「**プリンターの設定**」、「**ON**」（日付を印刷する）または「**OFF**」（日付を印刷しない）を選びます。
▶を押すと、**4**の画面に戻ります。

☑ プリンターの設定を優先してプリントしたいときは

「**用紙設定**」、「**フチ設定**」、「**日付プリント**」の設定について、プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に「**プリンターの設定**」を選んでください。

6 「**プリント実行**」を選んで▶を押すと、プリントが始まります。プリントが終わると、**2**の画面に戻ります。

- プリントを途中で中止したいときは、実行ボタン ENTER を押してください。

ヒント マルチセレクターの操作

画像の再生中やメニューの操作中は、フォーカスエリアロックレバーの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

「プリント指定」で設定した「日付」と「撮影情報」について

ダイレクトプリントでプリントする場合、再生メニューの「**プリント指定**」で行った「**撮影情報**」、「**日付**」の印字の設定は無効になります。日付のプリントを設定する場合は、「プリント設定」の日付プリントで行ってください。

DPOF、プリント指定について

DPOFおよびプリント指定についての詳細は、「プリント指定」(P.220) をご覧ください。

INDEX（インデックス）プリント

メモリーカード内のすべてのJPEG画像（P.41）が一覧できる「インデックス」をプリントすることができます。

1「複数の画像をプリントする」（P.179）のステップ**2**で「**INDEXプリント**」を選ぶと、右のような画面が表示されます。

2 実行ボタン ENTER を押すと、「複数の画像をプリントする」（P.179）のステップ**4**の画面に移ります。以下、ステップ**5**、**6**と同様の手順でプリントしてください。

- 用紙サイズによっては、インデックス印刷ができない場合があります（警告画面が表示されます）。
- インデックス印刷できるのは256コマまでです。メモリーカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります（確認画面が表示されます）。

☑ プリント中のエラーについてのご注意

プリント中にエラーメッセージが表示された場合は、プリンターを確認してください。エラーの原因を取り除いた後、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**継続**」を選択し、▶を押すと、プリントを再開します。「**キャンセル**」を選択し、▶を押すと、その時点でプリントを中止します。

- エラーの内容によっては、「**継続**」を選択できない場合があります。

☑ ダイレクトプリントについてのご注意

- RAW画像（P.41）はダイレクトプリントできません。これらの画像も画像選択画面に表示されますが、選択することはできません。
- 「**フチ設定**」と「**範囲指定**」は、接続したプリンターがそれぞれの機能に対応していない場合は、選ぶことができません。なお、「範囲指定」で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

【設定編】 いろいろな設定

カメラの基本設定 — セットアップメニュー

セットアップメニューには次のメニュー項目があります。メニューの表示方法や操作方法については、P.34をご覧ください。

カードフォーマット	P.184
液晶モニターの明るさ	P.185
クリーニングミラーアップ※	P.185
ビデオ出力	P.186
ワールドタイム	P.187
言語 (Language)	P.187
画像コメント	P.188
縦横位置情報の記録	P.190
最近設定した項目	P.191
USB設定	P.193
イメージダストオフデータ取得	P.194
電池チェック	P.196
ファームウェアバージョン	P.197

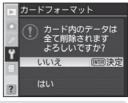
※ バッテリー残量表示が ▭ 以下の場合、および単3形電池を電源としてMB-D200（別売）を装着している場合は操作できません。

ヒント マルチセレクターの操作

画像の再生中やメニューの操作中は、フォーカスエリアロックレバーの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

カードフォーマット（カードの初期化）

メモリーカードは、使用前に初期化（フォーマット）を行う必要があります。

1

マルチセレクターの▲または▼を操作して「**はい**」を選択します。

2

実行ボタン ENTER を押すと初期化が開始され、「カードの初期化中」というメッセージが表示されます。

- 初期化が終了すると、セットアップメニュー画面に戻ります。
- 初期化を行わない場合は「**いいえ**」を選択して実行ボタン ENTER を押すと、セットアップメニュー画面に戻ります。

☑ カード初期化中のご注意

「カードの初期化中」のメッセージが液晶モニターに表示されている間は、カメラの電源スイッチをOFFにしたり、メモリーカードを取り出したりしないでください。

☑ 初期化する前に

メモリーカードを初期化すると、カード内のデータはすべて消去されます。初期化する前に保存したい画像をパソコンに転送することをおすすめします。

☑ FAT32について

D200はFAT32に対応しているため、2GB以上の容量のメモリーカードを使用することができます。ただし、すでにFAT16で初期化されているメモリーカードを初期化すると、FAT16で初期化されます。

ボタン操作による初期化

メモリーカードは、フォーマットボタン FORMAT（露出モードボタン MODE と削除ボタン 🗑）を操作して初期化することもできます（P.21）。

液晶モニターの明るさ

液晶モニターの明るさを調整します。明るさは５段階で調整できます。設定された液晶モニターの明るさは、すべての液晶モニター表示に適用されます。マルチセレクターの▲または▼を押すと、連動して画面の明るさが変わります（▲で明るく、▼で暗くなります）。−２〜＋２の範囲から最適な明るさを選択します。

マルチセレクターの▶を押すと設定が有効になり、セットアップメニュー画面に戻ります。

クリーニングミラーアップ

撮像素子に装着されているローパスフィルターの汚れを調べたり、クリーニングするために、ミラーをアップした状態に固定します。詳しくは「ローパスフィルターのお手入れ」（P.292）をご覧ください。バッテリー残量表示が ▭ 以下の場合、および単３形電池を電源としてMB-D200（別売）を装着している場合や、多重露出による撮影中はこのメニュー項目は操作できません。

セットアップメニュー画面から「**クリーニングミラーアップ**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「クリーニングミラーアップ」の設定画面が表示されます。さらにマルチセレクターの▶を押すと、クリーニングミラーアップの待機状態になり、表示パネルに - - - -　- - が表示されます。

- シャッターボタンを下まで押し込むとミラーアップ状態になり、表示パネルの - - - -　- - が点滅します。ミラーをダウンするにはカメラの電源スイッチをOFFにしてください。
- クリーニングミラーアップの待機状態をキャンセルするには、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。

- 作業中のバッテリー切れを防ぐために、フル充電したバッテリー、または別売のACアダプター EH-6をご使用ください。
- ミラーアップ中にバッテリーの残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、AF補助光が点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンしますので、ただちに作業を終了してください。

ビデオ出力

テレビやビデオなどに接続する場合のビデオ出力方式を、NTSC方式またはPAL方式のいずれかに設定します。

NTSC（初期設定）	NTSC方式のテレビやビデオに接続する場合に選択します。通常、日本国内でご使用の場合はこちらを選択します。
PAL	PAL方式のテレビやビデオに接続する場合に選択します。通常、日本では使用されません。

- ビデオ出力方式にかかわらず、ビデオケーブルEG-D100をカメラに接続しているときは、液晶モニターは点灯しません。

ワールドタイム

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。各設定項目についての詳しい説明は、「はじめに—撮影の準備」(P.15) をご覧ください。日時は定期的に設定することをおすすめします。

現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選択します。現在地のタイムゾーンを変更すると、「**日時の設定**」で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。
日時の設定	「**現在地の設定**」で選択されているタイムゾーンの時刻を設定します。
日付の表示順	液晶モニターに表示される、日付の年、月、日の表示順を、「**年／月／日**」、「**月／日／年**」、「**日／月／年**」から選択します。
夏時間	現在地の時刻が夏時間の場合は「**ON**」に、そうでない場合は「**OFF**」に設定します。夏時間を使用しない場合は「**OFF**」に設定します。初期設定は「**OFF**」です。

言語 (Language)

メニュー画面やメッセージの表示言語を、次の中から選択することができます。

De Deutsch	ドイツ語
En English	英語
Es Español	スペイン語
Fr Français	フランス語
It Italiano	イタリア語
Ne Nederlands	オランダ語
Po Português	ポルトガル語

Py Русский	ロシア語
Sv Svenska	スウェーデン語
繁 中文（繁體）	繁体中国語
简 中文（简体）	簡体中国語
日 日本語	日本語
한 한글	韓国語

✓ 時計用電池についてのご注意

カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のACアダプター EH-6 を接続すると、時計用電池が充電されます。充電には約２日間かかり、約３ヶ月の間設定した日時を記憶することができます。表示パネルに CLOCK（時刻未設定マーク）が点滅した場合は、内蔵時計の設定が初期化されているため、撮影日時が正しく記録されません。もう一度日時設定を行ってください（CLOCK が点滅中は、「2005.01.01.00：00：00」からカウントされた日時となります）。

画像コメント

あらかじめ入力したコメントを新規に撮影する画像に添付することができます。添付されたコメントは、D200で画像再生を行った際の撮影情報ページにあるコメント欄や、付属のソフトウェアや別売のNikon Capture 4（Ver.4.4以降）の撮影情報に表示されます。

設定終了	「**画像コメント**」メニューを終了し、セットアップメニュー画面に戻ります。
コメント入力	コメントを入力します。
コメント添付	コメントを撮影画像に添付します。

コメントの入力

「**コメント入力**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、下の画面が表示されます。36文字まで入力できます。

キーボードエリア

マルチセレクターを使って文字を選択します。マルチセレクターの中央部を押すと、文字が決定します。

コメントエリア

入力した文字が表示されます。カーソルを上下左右に移動させる場合はサムネイルボタン⊞を押しながらマルチセレクターを操作します。

- コメントエリアの現在のカーソル位置に新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを使って入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、マルチセレクターの中央部を押します。
- コメントエリアのカーソルを上下左右に移動する場合は、サムネイルボタン⊞を押しながらマルチセレクターを操作します。
- 文字はカーソル位置に挿入されます。
- 37文字以上入力すると、コメントエリア（36文字）からあふれた文字が削除されます。

- コメントを1文字削除する場合は、サムネイルボタン⊞とマルチセレクターを使って削除する文字の上にカーソルを移動させ、削除ボタン🗑を押します。その文字が削除され、それより後方の文字全体が繰り上がります。
- コメントの内容を確定し、コメント入力を終了する場合は、実行ボタンENTERを押します。画面は画像コメント画面に戻ります。
- コメントを確定せずにセットアップメニュー画面に戻る場合はメニューボタンMENUを押します。

コメントの添付

コメントの入力が終了したら、画像に入力したコメントを添付するかどうかを選択します。

- 次に撮影する画像からコメントを添付する場合は、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより「**コメント添付**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。「**コメント添付**」の□に✓が入ります。
- 「**コメント添付**」の□に✓が入っていることを確認して、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより「**設定終了**」を選択し、マルチセレクターの▶を押すとセットアップメニュー画面に戻ります。
- 「**コメント添付**」の□に✓が入っていると、それ以降撮影された画像にはすべてコメントが添付されます。
- 画像へのコメントの添付を中止する場合は、「**コメント添付**」を選択してマルチセレクターの▶を押し、□の✓をはずしてください。「**設定終了**」を選択してマルチセレクターの▶を押すとセットアップメニュー画面に戻ります。以降の撮影画像にコメントは添付されなくなります。

ヒント **撮影情報2**

入力・添付された画像コメントは、撮影情報2の画像コメントに最初の15文字のみ表示されます(P.159)。

縦横位置情報の記録

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録するかどうかを選択します。D200に内蔵された縦横位置センサーから得られる縦横位置情報を画像に記録しておくと、縦位置で撮影された画像を液晶モニターに表示したり、付属ソフトウェアや別売のNikon Capture 4（Ver.4.4以降）で開いた場合に、自動的に縦方向に回転して表示されます。

記録する※1 （初期設定）	撮影時のカメラの縦横位置情報として、「横位置」、「縦位置（時計回りに90°回転）」、「縦位置（反時計回りに90°回転）」のいずれかを画像に記録します。※2 横位置 縦位置 時計回りに 90°回転 縦位置 反時計回りに 90°回転
記録しない	撮影時のカメラの縦横位置にかかわらず、縦横位置情報を画像に記録しません。この設定で撮影された画像を液晶モニターで表示したり、付属ソフトウェアや別売のNikon Capture 4（Ver.4.4以降）で開く場合は、横位置で表示されます。

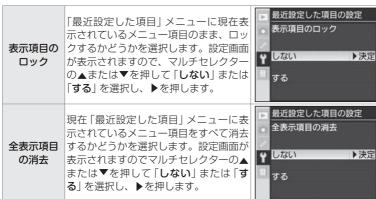
※1 カメラを上向き・下向きで撮影する場合、誤った縦横位置情報が記録されることがあります。その際は「**記録しない**」を選択してください。
※2 連続撮影時（P.38）の構図の縦位置・横位置に関する情報は、連続撮影開始時の情報が記録されます。連続撮影中に構図を変えても、反映されませんのでご注意ください。

縦位置自動回転

通常、「**縦横位置情報の記録**」を「**記録する**」に設定して縦位置で撮影された画像は、液晶モニターでも縦位置で表示されますが、再生メニューの「**縦位置自動回転**」では、すべての画像を横位置で表示するように変更できます。

最近設定した項目

「最近設定した項目」メニュー画面に表示される撮影メニュー項目やカスタムメニュー項目を、ロックしたり、すべて消去することができます。これより、「最近設定した項目」メニュー画面の内容をいったん消去し、必要な項目のみを表示してロックすることができます。

表示項目のロック	「最近設定した項目」メニューに現在表示されているメニュー項目のまま、ロックするかどうかを選択します。設定画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を押して「**しない**」または「**する**」を選択し、▶を押します。	最近設定した項目の設定 / 表示項目のロック / しない ▶決定 / する
全表示項目の消去	現在「最近設定した項目」メニューに表示されているメニュー項目をすべて消去するかどうかを選択します。設定画面が表示されますのでマルチセレクターの▲または▼を押して「**しない**」または「**する**」を選択し、▶を押します。	最近設定した項目の設定 / 全表示項目の消去 / しない ▶決定 / する

☑ メニュー項目のロック、消去について

- 「最近設定した項目」に表示されるメニュー項目をロックしたり、消去しても、各メニュー項目の設定内容がロックされたり消去されることはありません。
- 「**表示項目のロック**」を「**する**」に設定している場合でも、「**全表示項目の消去**」で「**する**」を選択すると、「最近設定した項目」メニューに表示されているすべてのメニュー項目が消去されますのでご注意ください。

ヒント 「最近設定した項目」メニュー画面のカスタマイズ

「最近設定した項目」メニュー画面は、次の方法で必要なメニュー項目のみ（最大14項目まで）を表示するようにカスタマイズできます。

1 セットアップメニュー「**最近設定した項目**」の「**表示項目のロック**」で「**しない**」を選択し、「最近設定した項目」メニュー画面に表示されているメニュー項目のロックを解除します。

2 セットアップメニュー「**最近設定した項目**」の「**全表示項目の消去**」で「**する**」を選択し、「最近設定した項目」メニュー画面に表示されているメニュー項目を消去します。

3 「最近設定した項目」メニュー画面に表示したい撮影メニュー項目やカスタムメニュー項目を実際に操作します。
- 「最近設定した項目」メニュー画面に表示できるメニュー項目は最大で14項目です。操作する撮影メニュー項目やカスタムメニュー項目が14項目を超えた場合、先に操作したメニュー項目から順番に消去されます。

4 セットアップメニュー「**最近設定した項目**」の「**表示項目のロック**」で「**する**」を選択し、「最近設定した項目」メニュー画面に表示されているメニュー項目をロックします。

USB設定

専用USBケーブルUC-E4を使用してカメラとパソコンを接続する前に、USB通信方式を選択します。ご使用のパソコンのOS(オペレーションシステム)に合わせて正しい通信方式がカメラにセットされていないと、撮影した画像をパソコンに転送することができません。

USB通信方式は、「**Mass Storage**」、「**PTP**」から選択が可能です。初期設定は「**Mass Storage**」に設定されています。USB通信方式は、ご使用のパソコンのOSと使用するソフトウェアの組み合わせにより、次のように対応しています。

OS	USB通信方式	
	付属ソフトウェアの転送機能※1	ニコン キャプチャー4 カメラコントロール※2
Windows XP Home Edition Windows XP Professional	PTPまたは Mass Storage	PTP
Mac OS X		
Windows 2000 Professional Windows Millennium Edition (Me) Windows 98 Second Edition (SE)	Mass Storage	PTP
Mac OS 9	対応していません	PTP

※1 付属ソフトウェアの機能の一つで、メモリーカードに記録された撮影済み画像をパソコンに転送します。

※2 D200に対応するNikon Capture 4のバージョンはVer.4.4以降です。

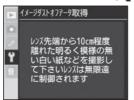
イメージダストオフデータ取得

別売のNikon Capture 4（Ver.4.4以降）のイメージダストオフ機能を使用するための、イメージダストオフデータを取得します。「**イメージダストオフデータ取得**」はCPUレンズ装着時のみ選択できます。イメージダストオフ機能については、Nikon Capture 4の使用説明書をご覧ください。

- イメージダストオフデータを取得するときは、焦点距離が50mm以上のCPUレンズのご使用をおすすめします（P.276）。
- ズームレンズを使用する場合は、望遠側にセットしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。

イメージダストオフデータは、次の手順で取得します。

1 「イメージダストオフデータ取得」の設定画面でマルチセレクターの▶を押すと、イメージダストオフデータ取得の待機状態になり、露出やホワイトバランスなど各種設定が自動的に最適な状態に設定されます。

- この状態では、液晶モニターに「レンズ先端から10cm程度離れた明るく模様の無い白い紙などを撮影して下さい　レンズは無限遠に制御されます」というメッセージが表示され、表示パネル、ファインダー内表示に rEF が点灯します。

- イメージダストオフデータ取得の待機状態をキャンセルするには、電源スイッチをOFFにするか、メニューボタン MENU またはマルチセレクターの◀を押してセットアップメニュー画面に戻ってください。
- 液晶モニターが消灯すると、待機状態はキャンセルされます。

2　レンズ先端から10cm程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しします。

- オートフォーカスが自動的に無限遠に制御されます。
- フォーカスモードをM（マニュアルフォーカス）にセットしている場合は、レンズを手動で無限遠にセットしてください。
- 絞りを絞りリングで設定するようにしている場合は、最小絞りまで手動で絞り込んでください。

3　シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 被写体が暗い場合はノイズ除去が自動的に実行されるため、メモリーカードへの記録に時間がかかる場合があります。
- シャッターボタンを押すと、液晶モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎたり暗すぎる場合、データの取得が行われずに液晶モニターに「露出条件が不適切です」というメッセージが表示され、待機状態（手順1）に戻ります。被写体の明るさを変えて再度撮影を行ってください。

ヒント　イメージダストオフ機能について

別売のNikon Capture 4（Ver.4.4以降）のイメージダストオフ機能は、取得したイメージダストオフデータと撮影したRAW画像を比較し、カメラの撮像部に付着したゴミを画像から消去する処理を自動的に行います。イメージダストオフ機能はRAW画像にのみ対応しています。

記録されたイメージダストオフデータについて

- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開くことができません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、格子模様の画面が表示されます。

電池チェック

カメラに装着中の、Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3eについての情報を表示します。

残容量	現在のバッテリーの残容量を1%単位で表示します。
撮影回数	バッテリーが充電されてから、そのバッテリーを使用してシャッターをきった回数を表示します。
劣化度	バッテリーの劣化度合いを5段階のバーグラフで表示します。 • バーグラフが「0」を示している場合は、バッテリーは劣化していません。 • バーグラフが「4」を示している場合は、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

撮影回数について

「**撮影回数**」に表示される回数は、シャッターをきった回数です。プリセットホワイトバランスのデータ取得など、実際に画像がメモリーカードに記録されない場合でも、シャッターをきるごとに1ずつ加算されます。

バッテリーパックMB-D200装着時の表示について

別売のバッテリーパックMB-D200を装着している場合は、バッテリーパックに装填しているバッテリー（または電池）の種類と数量により、「**電池チェック**」の表示内容が次のようになります。

種類	数量	表示の内容
EN-EL3e	1個	「左スロット」または「右スロット」にバッテリーの情報が表示されます。
EN-EL3e	2個	それぞれのバッテリーの情報を「左スロット」、「右スロット」として並記します。
単3形電池	6本	セットアップメニューで「**電池チェック**」が選択できず、表示することができません。

ファームウェアバージョン

カメラのファームウェアバージョンを表示します。

情報表示画面の表示中にマルチセレクターの◀を押すとセットアップメニューに戻ります。

撮影についての設定 ― 撮影メニュー

撮影メニューには、次のメニュー項目があります。メニューの表示方法や操作方法については、P.34をご覧ください。

メニュー項目	ツーボタンリセット※	参照ページ
撮影メニュー切り換え		P.199
リセット		P.201
記録フォルダー設定		P.203
ファイル名設定		P.205
仕上がり設定		P.206
色空間		P.206
画質モード	●	P.206
画像サイズ	●	P.206
JPEG圧縮		P.207
RAW圧縮		P.207
ホワイトバランス	●	P.207
長秒時ノイズ除去		P.208
高感度ノイズ除去		P.209
ISO感度設定	●	P.210
画像合成		P.210
多重露出		P.211
インターバルタイマー		P.211
レンズ情報手動設定		P.211

※ツーボタンリセット（P.156）を行うと、初期設定にリセットされる項目です。

撮影メニュー画面は3ページから構成されています。マルチセレクターの▼または▲を操作して、すべての項目に移動することができます。

ヒント　マルチセレクターの操作

画像の再生中やメニューの操作中は、フォーカスエリアロックレバーの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

撮影メニューの切り換え

撮影メニューの設定状態を「A」、「B」、「C」、「D」の4通りに記憶させておくことができ、撮影状況に合わせて、あらかじめ記憶させておいた設定状態を一括して簡単に呼び出すことができます。「A」、「B」、「C」、「D」には、それぞれ名前をつけることができます。

撮影メニューの項目を変更すると、現在選択されている撮影メニュー(A～Dのいずれか)における設定のみ変更され、他の撮影メニューの設定は変更されません(インターバルタイマー、多重露出はすべての撮影メニューで共通です)。

A※ (初期設定)	撮影メニューAに切り換えます。
B※	撮影メニューBに切り換えます。
C※	撮影メニューCに切り換えます。
D※	撮影メニューDに切り換えます。
名前編集	撮影メニューA～Dの名前を編集します(最長20文字)。

※「**名前編集**」で名前を編集した場合は、編集後の名前も表示されます。

ヒント 撮影メニュー設定表示について

表示パネルに「**撮影メニューの切り換え**」で設定したメニュー(A～D)が表示されます。

名前編集

「**名前編集**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、メニューA～Dの名前が一覧で表示されます。

1 マルチセレクターの▲または▼を押し、名前を変更する撮影メニューを選択します。

2 マルチセレクターの▶を押すと、下のような名前編集画面が表示されます。20文字まで入力できます。

キーボードエリア

マルチセレクターを使って文字を選択します。マルチセレクターの中央部を押すと、文字が決定します。

名前エリア

入力した文字が表示されます。カーソルを左右に移動させる場合はサムネイルボタンを押しながらマルチセレクターを操作します。

- 名前エリアの現在のカーソル位置に新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを使って入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、マルチセレクターの中央部を押します。
- 名前エリアのカーソルを左右に移動する場合は、サムネイルボタンを押しながらマルチセレクターを操作します。
- 文字はカーソル位置に挿入されます。
- 21文字以上入力すると、名前エリア（20文字）からあふれた文字が削除されます。
- 名前を1文字削除する場合は、サムネイルボタンを押しながらマルチセレクターを操作して削除する文字の上にカーソルを移動させ、削除ボタンを押します。その文字が削除され、それより後方の文字全体が繰り上がります。
- 名前を変更せずに撮影メニューの一覧表示画面に戻る場合はメニューボタンMENUを押します。

3　名前を確定し、名前編集を終了する場合は、実行ボタン ENTER を押します。メニューA～Dの名前一覧表示画面に戻ります。

撮影メニューのリセット

撮影メニューの設定内容を初期設定に戻す場合に使用します。ただし、初期状態に戻るのは撮影メニュー「**撮影メニュー切り換え**」（P.199）で選択されている撮影メニュー（A～Dのいずれか）の内容のみです。現在選択されていないメニューの項目は初期状態に戻りません。

しない（初期設定）	撮影メニューのリセットは行いません。
する	撮影メニューを次ページの初期設定に戻します。

ヒント　ツーボタンリセット

画質モード、画像サイズ、ホワイトバランス、ISO感度設定は、ツーボタンリセット（P.156）でもリセットされます。

メニュー項目	初期設定
ファイル名設定	DSC
仕上がり設定	標準
色空間	sRGB
画質モード	NORMAL
画像サイズ	L
JPEG圧縮	サイズ優先
RAW圧縮	非圧縮RAW
ホワイトバランス※1	**A**（オート）

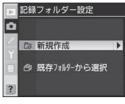
メニュー項目	初期設定
長秒時ノイズ除去	しない
高感度ノイズ除去	する（標準）
ISO感度設定	100
多重露出	設定解除※2
インターバルタイマー※3	開始しない
レンズ情報手動設定（焦点距離）	設定なし
レンズ情報手動設定（開放絞り値）	設定なし

※1 微調整した値もリセットされます。

※2 すべての撮影メニューで初期状態（解除、コマ数：2、自動ゲイン補正：する）にリセットされます。なお、多重露出撮影中は、1コマ目を撮影してから解除されるまで、撮影メニューの「**リセット**」を選択することができません。

※3 実行中のインターバル撮影は終了します。すべての撮影メニューで初期状態（開始トリガー：即時スタート、時間間隔：1分、設定：1回×1コマ、撮影動作：開始しない）にリセットされます。

記録フォルダー設定

画像を記録するフォルダーの新規作成や選択を行います。

新規作成	画像を記録するフォルダーを新規に作成します。「**新規作成**」を選択してマルチセレクターの▶を押すと、フォルダー番号設定画面に移行します。マルチセレクターの▲または▼を操作してフォルダー番号の数値を設定し、マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり撮影メニュー画面に戻ります。次に撮影する画像は、ここで作成した新規フォルダーに保存されます。	
既存フォルダーから選択	画像を記録する既存のフォルダーを選択します。「**既存フォルダーから選択**」を選択してマルチセレクターの▶を押すと、「既存フォルダーから選択」画面に移行します。マルチセレクターの▲または▼を操作してフォルダーを選択し、マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり撮影メニュー画面に戻ります。次に撮影する画像は、ここで選択したフォルダーに保存されます。	

ヒント ボタン操作によるフォルダーの新規作成

プロテクトボタンを押しながら電源スイッチをONにすると、新規フォルダーが作成されます。この場合、新規フォルダーは、メモリーカード内に存在する最大フォルダー番号＋１のフォルダー番号になります。ただし、メモリーカードにある最大番号のフォルダーが空の場合は作成できません。

✓ フォルダーの自動作成について

- カスタムメニュー d6「**連番モード**」（P.250）の設定にかかわらず、撮影中に記録フォルダー内に999個のファイルが記録された場合、メモリーカード内に存在する最大フォルダー番号＋１という番号のフォルダーが自動的に作成され、記録フォルダーとしてそのフォルダーが選択されます。ただし、999という番号のフォルダーがすでに存在する場合は、フォルダーの自動作成が行われず、レリーズがロックされます。
- カスタムメニュー d6「**連番モード**」（P.250）が「ON」に設定され、撮影中にファイル番号が9999となった場合、メモリーカード内に存在する最大フォルダー番号＋１の番号のフォルダーが自動的に作成され、記録フォルダーとしてそのフォルダーが選択されます。ただし、999という番号のフォルダーがすでに存在する場合は、フォルダーの自動作成が行われず、レリーズがロックされます。
- カスタムメニュー d6「**連番モード**」（P.250）が「ON」に設定され、999という番号のフォルダーに9999という番号のファイルまで記録した場合は、レリーズがロックされます。

上記のいずれかの理由でレリーズがロックされても、メモリーカードにまだ空き容量があれば、次の場合、さらに撮影を続けることができます。

- フォルダー番号が999以下でまだ記録ファイル数が999に達していないフォルダーがあり、それを記録フォルダーとして選択した場合
- フォルダー番号が999以下のフォルダーの新規作成が可能で、それを記録フォルダーとして選択した場合

ファイル名設定

このカメラで撮影された画像にはDSC_nnnn.xxx（撮影メニューの「**色空間**」(P.82) で「**AdobeRGB**」に設定した場合は_DSCnnnn.xxx）という名称が付きます。「**ファイル名設定**」を使用すると、DSC_nnnn.xxxまたは_DSCnnnn.xxxの「DSC」の3文字を任意に変更することができます。

キーボードエリア

マルチセレクターを使って文字を選択します。マルチセレクターの中央部を押すと、文字が決定します。

文字表示エリア

入力した文字が表示されます。カーソルを左右に移動させる場合はサムネイルボタン⊞を押しながらマルチセレクターを操作します。

- 文字表示エリアの現在のカーソル位置に新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを使って入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、マルチセレクターの中央部を押します。
- 文字表示エリアのカーソルを左右に移動する場合は、サムネイルボタン⊞を押しながらマルチセレクターを操作します。
- 文字は文字表示エリアのカーソル位置に上書きされます。
- ファイル名を確定し、文字入力を終了する場合は、実行ボタンENTERを押します。画面は撮影メニュー画面に戻ります。
- ファイル名を確定せずに撮影メニュー画面に戻る場合はメニューボタンMENUを押します。

仕上がり設定

記録する画像の仕上がりを5種類から選択、もしくはカスタマイズしたり、白黒画像として記録することができます。内容については「【応用編】撮影—仕上がり設定」をご覧ください(P.75)。

色空間

記録する画像の色空間をsRGBまたはAdobeRGBから選択できます。内容については「【応用編】撮影—色空間」をご覧ください(P.82)。

画質モード

画像を記録する際の画質を7種類から選択します。内容については「【応用編】撮影—画質モードと画像サイズ」をご覧ください(P.41)。

画像サイズ

画像を記録する際の画像サイズ(大きさ)を、**L(3872×2592)**、**M(2896×1944)**、**S(1936×1296)**から選択します。内容については「【応用編】撮影—画質モードと画像サイズ」をご覧ください(P.46)。

JPEG圧縮

JPEG画像記録時にファイルサイズを優先してデータを圧縮するか、画質の低下を抑えることを優先してデータを圧縮するかを選択することができます。内容については「【応用編】撮影―画質モードと画像サイズ」をご覧ください（P.44）。

RAW圧縮

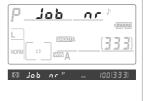
画質モードで「RAW＋FINE」、「RAW＋NORMAL」、「RAW＋BASIC」、「RAW」のいずれかに設定した場合の、RAW画像の非圧縮／圧縮を選択します。内容については「【応用編】撮影―画質モードと画像サイズ」をご覧ください（P.45）。

ホワイトバランス

ホワイトバランスを9種類から選択します。内容については「【応用編】撮影―ホワイトバランス」をご覧ください（P.51）。

長秒時ノイズ除去

シャッタースピードが低速になると、画像にノイズが入る場合があります。「**長秒時ノイズ除去**」を「**する**」にすると、シャッタースピードが約８秒より低速の場合に、このノイズを低減させることができます。

しない （初期設定）	長秒時ノイズ除去は機能しません。
する	シャッタースピードが約8秒より低速になると、ノイズ除去が有効な画像に対して長秒時ノイズ除去が機能します。撮影後のノイズ除去処理中は、シャッタースピードと絞り表示部に Job nr が点滅します。撮影後のノイズ除去処理に時間（撮影時間の約1/2～撮影時間と同等）がかかるため、画像記録するまでの時間がその分だけ長くなります。この表示が消えるまで撮影できません。

✓ 長秒時ノイズ除去を「する」に設定した場合のご注意

- 再生メニューの「**撮影直後の画像確認**」を「**する**」に設定して、撮影と同時に液晶モニターに撮影画像を表示する場合、または撮影した後、画像の記録が終了する前に再生ボタン ▶ を押して画像を再生すると、液晶モニターにノイズ除去処理を行う前の画像（ノイズが入った画像）が表示される場合があります。
- シャッタースピードにかかわらず、連続撮影可能コマ数は半減します。

高感度ノイズ除去

「**高感度ノイズ除去**」を「**する**」に設定すると、ISO400以上のISO感度で撮影した画像のザラつき（ノイズ）を低減させることができます。

する（標準） （初期設定）	ISO感度が400以上の高感度になると、高感度ノイズ除去が機能します。 • カスタムメニューb1「**感度自動制御**」が「**する**」の場合、制御されるISO感度が400以上の高感度になると高感度ノイズ除去が行われます。 •「**する（強め）**」に設定するともっともノイズ除去の効果が強く、続いて「**する（標準）**」、「**する（弱め）**」の順になります。
する（弱め）	
する（強め）	
しない	高感度ノイズ除去は機能しません。

☑ ISO感度が800よりも高くなった場合について

ISO感度が800よりも高くなった場合は、「**高感度ノイズ除去**」の設定にかかわらず、常に高感度ノイズ除去が行われます。この場合、「**高感度ノイズ除去**」を「**しない**」に設定すると、「**する（弱め）**」よりも弱いノイズ除去の効果が適用されます。

ISO感度設定

ISO感度を撮影状況により標準（100）よりも高く設定することができます。ただし、カスタムメニューb1「**感度自動制御**」を「**する**」にしている場合は、1600よりも高いISO感度を選択することはできません。内容については「【応用編】撮影—ISO感度」をご覧ください（P.48）。

画像合成

メモリーカードに記録されているD200で撮影されたRAW画像から、選択された2つの画像を重ね合わせて1つの画像に合成し、元画像とは別の画像として記録します。内容については「【応用編】撮影—画像合成と多重露出」をご覧ください（P.133）。

多重露出

連続して撮影する2～10コマを重ねて写し込み、1つの画像として記録します。内容については「【応用編】撮影―画像合成と多重露出」をご覧ください（P.136）。

インターバルタイマー撮影

設定した時間間隔とコマ数で、自動的に撮影を行います。内容については「【応用編】撮影―インターバルタイマー撮影」をご覧ください（P.141）。

レンズ情報手動設定

非CPUレンズを装着した場合に、レンズ情報（焦点距離、開放絞り値）を設定することによって、マルチパターン測光、絞り値表示、BL調光など、CPUレンズを装着した場合の機能の一部を使用することができます。内容については「【応用編】撮影―非CPUレンズのレンズ情報手動設定」をご覧ください（P.148）。

再生についての設定 — 再生メニュー

再生メニューには、次のメニュー項目があります。メニューの表示方法や操作方法については、P.34をご覧ください。

削除	P.213
再生フォルダー設定	P.215
スライドショー	P.216
非表示設定	P.218
プリント指定	P.220
再生画面設定	P.223
撮影直後の画像確認	P.224
削除後の次再生画像	P.224
縦位置自動回転	P.225

- カメラにメモリーカードが入っていない場合、再生メニューは表示されません。

ヒント マルチセレクターの操作

画像の再生中やメニューの操作中は、フォーカスエリアロックレバーの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

削除

画像を削除します。

選択画像削除	選択した画像を削除します。
全画像削除	全画像を削除します。

選択画像の削除

「**選択画像削除**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、再生メニュー画面の「**再生フォルダー設定**」(P.215) で設定したフォルダー内の画像がサムネイル表示されます。

1

マルチセレクターの▲、▼、◀、▶を操作して削除する画像を選択します。

- サムネイルボタンを押している間、選択している画像を1コマ表示できます。サムネイルボタンを放すと、サムネイル表示画面に戻ります。

2

マルチセレクターの中央部を押すと選択画像の削除が設定されます。削除が設定された画像には 🗑 が表示されます。

- 1と2の手順を繰り返して削除する画像をすべて設定してください。
- 削除の設定を解除する場合は再度マルチセレクターの中央部を押して、🗑 を消します。
- 削除設定を行わずに終了する場合は、メニューボタン MENU を押すと、再生メニュー画面に戻ります。

3

削除設定した状態で実行ボタン ENTER を押すと選択画像削除画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作して、「**はい**」または「**いいえ**」を選択します。

- 「**はい**」を選択してから実行ボタン ENTER を押すと、画像の削除を実行し、削除完了表示をして再生メニュー画面に戻ります。
- 「**いいえ**」を選択してから実行ボタン ENTER を押すと、画像の削除は行われずにサムネイル表示画面に戻ります。

全画像削除

「**全画像削除**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、右の画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作して、「**はい**」または「**いいえ**」を選択します。

- 「**はい**」を選択して実行ボタン ENTER を押すと、「**再生フォルダー設定**」(P.215) で設定したフォルダー内の全画像の削除が実行され、削除完了表示後、再生メニュー画面に戻ります。
- 「**いいえ**」を選択して実行ボタン ENTER を押すと、画像の削除は行われずに削除画面に戻ります。

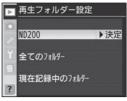
☑ 非表示設定、プロテクト設定された画像について

[プロテクトアイコン] がついている画像はプロテクト設定 (P.165) されているため、削除できません。また、非表示設定 (P.218) されている画像はサムネイル表示されないため、削除できません。

☑ 削除に必要な時間について

選択画像削除、または全画像削除を実行する場合、作成されているフォルダー数、および記録されている画像ファイル数により、画像の削除が完了するまで数十分の時間がかかる場合があります。

再生フォルダー設定

画像を再生するフォルダーを設定します。

ND200	D200で作成されたすべてのフォルダーを選択します。
全てのフォルダー	メモリーカードに記録されている、参照可能なすべてのフォルダーを選択します。
現在記録中のフォルダー	現在記録に使用されているフォルダーを選択します。

記録するフォルダーについて

画像を記録するフォルダーは撮影メニューの「**記録フォルダー設定**」(P.203)で設定してください。

スライドショー

画像を一定の間隔で順次再生するスライドショーを行います。

開始	スライドショーを開始します。
インターバル設定	画像を切り換える時間間隔を設定します。

スライドショーの開始

「**開始**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、スライドショーが始まります。「**再生フォルダー設定**」（P.215）で設定されたフォルダー内の画像が記録された順番で再生されます。ただし、「**非表示設定**」（P.218）されている画像は再生されません。スライドショーの実行中は、次の操作が可能です。

1コマ進む	▶	マルチセレクターの▶を押すと、1コマ進みます。
1コマ戻る	◀	マルチセレクターの◀を押すと、1コマ戻ります。
画像情報を見る	▲▼	マルチセレクターの▲または▼を押すとスライドショーの再生中に画像情報が表示され、画像情報画面の切り換えができます。
一時停止する	ENTER	実行ボタンENTERを押すとスライドショーが一時停止します。
再生メニューへ戻る	MENU	メニューボタンMENUを押すと、スライドショーを中止して再生メニューに戻ります。
再生モードに戻る	▶	再生ボタン▶を押すと、スライドショーを中止して再生モードに戻ります。
撮影モードに戻る	シャッター半押し	シャッターボタンを半押しすると液晶モニターが消灯し、スライドショーを中止して撮影モードに戻ります。

スライドショーが終了するか、一時停止をした場合には右の画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼でメニュー項目を選択し、▶を押すと実行されます。

- 「**再開**」を選択すると、現在表示されている画像の次からスライドショーが再開されます。
- 「**インターバル設定**」を選択すると、画像を切り換える時間の間隔を設定できます。
- 「**終了**」を選択するか、メニューボタンMENUを押すと、再生メニュー画面に戻ります。

インターバル設定

1コマの画像を表示している時間の変更ができます。スライドショーの開始前、終了後、または一時停止中に表示される選択画面から、「**インターバル設定**」を選択します。マルチセレクターの▲または▼を操作して、画像を表示している時間を2秒、3秒、5秒、10秒のいずれかから選択します。

インターバル時間を選択した後、マルチセレクターの▶を押すと設定が有効になり、スライドショー設定画面に戻ります。「**開始**」を選択してマルチセレクターの▶を押すと、スライドショーが始まります。

非表示設定

画像を非表示設定にすると、その画像は非表示設定画面以外では表示されなくなります。

設定	選択した画像を非表示にする・しないを設定します。
一括解除	非表示設定を一括して解除します。

選択画像の非表示設定

「**設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、再生メニュー画面の「**再生フォルダー設定**」(P.215) で設定したフォルダー内の画像がサムネイル表示されます。

1

マルチセレクターの▲、▼、◀、▶を操作して非表示設定にする画像を選択します。

- サムネイルボタンを押している間、選択している画像を1コマ表示できます。サムネイルボタンを放すと、サムネイル表示画面に戻ります。

2

マルチセレクターの中央部を押すと選択画像が非表示設定されます。非表示設定された画像には が表示されます。

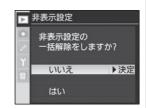
- 1と2の手順を繰り返して非表示にする画像をすべて設定してください。
- 非表示設定を解除する場合は再度マルチセレクターの中央部を押して、 を消します。
- 非表示設定を行わずに終了する場合はメニューボタンを押すと、再生メニュー画面に戻ります。

3

非表示設定した状態で実行ボタン ENTER を押すと非表示設定が実行され、再生メニュー画面に戻ります。

一括解除

「**一括解除**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、右の画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作して、「**はい**」または「**いいえ**」を選択します。

- 「**はい**」を選択してからマルチセレクターの▶を押すと、「**再生フォルダー設定**」(P.215) で設定したフォルダー内の画像の非表示設定が一括して解除され、「一括解除完了」画面が一瞬表示されて再生メニュー画面に戻ります。
- 「**いいえ**」を選択してからマルチセレクターの▶を押すと、非表示設定の一括解除は行われずに再生メニュー画面に戻ります。

ヒント 非表示画像のファイル属性とコマ番号

非表示設定画像は、DOSファイルフォーマットの「隠しファイル」属性と「読み取り専用」属性がセットされます。画像は非表示設定画面以外では表示されませんが、コマ番号は付加されます。また、RAW画像とJPEG画像の同時記録で撮影された画像の場合、RAW画像とJPEG画像の両方に同じ属性がセットされます。

☑ プロテクト設定の解除について

プロテクトと非表示の両方が設定されていた画像の非表示設定を解除すると、プロテクト設定も解除されます。

プリント指定

プリントする画像の選択、枚数の指定、撮影日時や撮影データの写し込みといった、撮影画像をプリントするための設定をあらかじめカメラでセットしたり消去したりすることができます。これらの設定内容は、デジタルプリントオーダーフォーマット (DPOF) に対応したプリントショップやプリンターでプリントする場合に適用されます。ただし、RAW画像に対してはプリント指定はできません。

設定	プリント指定を行います。
一括解除	プリント指定を一括解除します。

ヒント Exif※ Version 2.21について

D200は、Exif Version 2.21およびsYCC色空間に対応しています。Exif Version 2.21は、デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。Exif Version 2.21対応のプリンターを使用することで、撮影時のカメラ情報を活かし、プリンターが最適なプリント出力を提供することができます。プリンターの使用説明書をお読みのうえご使用ください。

※Exif＝Exchangeable image file format for digital still cameras

ヒント デジタルプリントオーダーフォーマット (DPOF)

DPOF (Digital Print Order Format) は、デジタルカメラで撮影した画像をラボプリントサービスや、家庭用のプリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。これは、現在の各社独自仕様となっているプリント情報を標準化することで、より効率的なプリントの実現をするための規格です。

- ご使用のプリンター・プリントサービスがDPOFに対応しているかご確認ください。

☑「プリント指定」が選択できない場合について

プリント指定の設定内容を書き込むための充分なメモリー残量がメモリーカードにない場合は、再生メニュー画面で「**プリント指定**」を設定することができません。不要な画像を削除して、再度操作してください。

プリント指定の設定

「**設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「プリント画像選択」の設定画面が表示されます。

1

マルチセレクターの▲、▼、◀、▶を操作してプリント指定する画像を選択します。

- サムネイルボタン を押している間、選択している画像を1コマ表示できます。サムネイルボタン を放すと、サムネイル表示画面に戻ります。

2

マルチセレクターの中央部を押したり、プロテクトボタン を押しながらマルチセレクターの▲または▼を操作することにより、選択画像のプリント指定を行います。プリント指定された画像には が表示されます。

- マルチセレクターの中央部を押すと、プリント枚数が1になります。
- プロテクトボタン を押しながらマルチセレクターの▲を押すとプリント枚数は増加し（最高99枚）、▼を押すと減少します。
- 1と2の手順を繰り返してプリントする画像をすべて選択します。
- プリント指定を行わずに終了する場合は、メニューボタン MENU を押すと再生メニュー画面に戻ります。

ヒント マルチセレクターによるプリント指定の解除について

プリント枚数が表示されている画像のプリント指定を解除する場合は、マルチセレクターの中央部を押します。

ヒント ダイレクトプリントについて

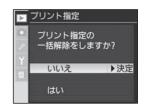
D200とPictBridge（ピクトブリッジ）対応プリンターを付属のUSBケーブルUC-E4で接続することにより、メモリーカードに記録した画像を、パソコンを介さずにカメラからの操作で直接プリントすることができます。プリンターとの接続時に液晶モニターに表示される「PictBridge」メニューで「**DPOFプリント**」を選択すると、「**プリント指定**」で設定したプリント枚数で画像をプリントできます。その場合、「プリント指定」画面で行った「**撮影情報**」、「**日付**」の印字の設定は無効になりますのでご注意ください。

3

プリント指定した状態で実行ボタンⒺを押すとプリント指定が完了し、「プリント指定」画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を押してプリント時に印字する情報を選択します。

- 指定したすべての画像にシャッタースピードと絞り値をプリントするときは、「**撮影情報**」を選択して▶を押します。**撮影情報**の前の□に✓が入ります。
- 指定したすべての画像の撮影日をプリントするときは、「**日付**」を選択して▶を押します。**日付**の前の□に✓が入ります。
- 選択した項目のチェックを外すときは、その項目を選んで▶を押します。
- 選択項目の□に✓が入った状態で、「**設定終了**」を選んで▶を押すと、プリント指定が実行され、再生メニュー画面に戻ります。

プリント指定の一括解除

「**一括解除**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、右の画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作して、「**はい**」または「**いいえ**」を選択します。

- 「**はい**」を選択してからマルチセレクターの▶を押すと、メモリーカード内の画像のプリント指定が一括して解除され、「一括解除完了」画面が一瞬表示されて再生メニュー画面に戻ります。
- 「**いいえ**」を選択してからマルチセレクターの▶を押すと、プリント指定の一括解除は行われずに再生メニュー画面に戻ります。

☑ プリント指定を行った場合のご注意

- プリント指定ファイルを作成したメモリーカード内の画像を、パソコンなどで削除しないでください。正しくプリントされなくなる場合があります。
- プリント指定した画像に、後から非表示設定の操作を行わないでください。

☑ 直接プリントする場合の注意点

画像調整を行わずに直接プリントする画像は、撮影メニューの「**色空間**」を「**sRGB**」に設定して撮影してください(P.82)。

再生画面設定

画像を1コマ再生する場合の画像情報(P.158)に、撮影情報やヒストグラム表示、ハイライト表示、フォーカスフレーム表示を表示／非表示に設定します。

「**再生画面設定**」では次の内容を表示／非表示に設定できます。それぞれの内容についての詳細は、158ページをご覧ください。

撮影情報※	画像情報で撮影カメラ、測光、露出、焦点距離、ホワイトバランス、画像の調整など、撮影時の情報のページを表示します。
ヒストグラム※	画像情報でヒストグラム表示のページを表示します。
ハイライト※	画像情報でハイライト表示（点滅表示）のページを表示します。
RGB ヒストグラム※	画像情報で色別（白、赤、緑、青）のヒストグラム表示のページを表示します。
フォーカスフレーム	AFエリアモード（P.88）をシングルエリアAFモードに設定して撮影した画像では、選択したフォーカスフレームを赤く表示します。また、ダイナミックAFモード、グループダイナミックAFモード、または至近優先ダイナミックAFモードに設定して撮影した画像では、撮影時のピント合わせに使用したフォーカスフレーム（フォーカスモードが**S**（シングルAFサーボ）の場合は、最初にロックされたフォーカスフレーム）を赤く表示します。

※初期設定では「表示」に設定されています。

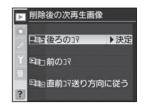
- マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、表示したい内容を選択し、▶を押すと、選択した内容の前の□に✓が入ります。表示したいすべての内容に✓を入れてください。
- 設定を終了する場合は、「**設定終了**」を選択してマルチセレクターの▶を押します。設定が有効になり、再生メニュー画面に戻ります。

撮影直後の画像確認

通常は再生ボタン⊡を押すと撮影画像がモニターに表示されますが、「**する**」に設定するとメモリーカードに画像データを書き込みながら、液晶モニターにも自動的に撮影画像が表示されます。

しない （初期設定）	撮影後、液晶モニターに画像が自動的に表示されません。画像を表示するには再生ボタン⊡を押します。
する	撮影後、液晶モニターに画像が自動的に表示されます。

削除後の次再生画像

画像の再生時に画像の削除（P.32）を行った場合の、削除完了後に液晶モニターに表示する（1コマ再生の場合）または選択状態になる（サムネイル表示の場合）コマの設定を選択します。

後ろのコマ （初期設定）	再生時の画像削除完了後に、削除されたコマの次のコマを液晶モニターに表示（1コマ再生時）または選択（サムネイル表示時）します。ただし、削除されたコマが最後のコマの場合、1つ前のコマを表示または選択します。
前のコマ	再生時の画像削除完了後に、削除されたコマの1つ前のコマを液晶モニターに表示（1コマ再生時）または選択（サムネイル表示時）します。ただし、削除されたコマが最初のコマの場合、次のコマを表示または選択します。
直前コマ送り方向に従う	直前のコマ送りが、前のコマから後のコマだった場合、「**後ろのコマ**」選択時と同様になります。後のコマから前のコマだった場合、「**前のコマ**」選択時と同様になります。ただし、削除されたコマが最後のコマの場合、1つ前のコマを表示します。また、削除されたコマが最初のコマの場合、1つ後のコマを表示します。

縦位置自動回転

このカメラは、撮影時に構図の縦位置・横位置を感知する縦横位置センサーを内蔵しており、セットアップメニューの「**縦横位置情報の記録**」が「**記録する**」に設定されている場合、撮影画像に縦横位置の情報が記録されます。通常は画像再生時に、撮影時の縦横位置を反映し、画像を自動的に回転して液晶モニタに表示しますが、「**しない**」に設定すると、すべての画像を横位置として表示します。

する（初期設定）	画像再生時に、撮影時の縦横位置（P.190）を反映し、画像を自動的に回転して液晶モニターに表示します。
しない	画像再生時に、すべての画像を横位置として表示します。

☑ 縦位置画像の再生について

撮影画像を縦位置で再生する場合、画像が長さ比で約2/3に縮小されて表示されます。画面いっぱいに画像を表示したい場合、「**縦位置自動回転**」を「**しない**」に設定して再生してください。

縦位置・横位置情報の記録

セットアップメニューの「**縦横位置情報の記録**」（P.190）では、撮影するすべての画像を横位置として記録するように変更できます。「**縦横位置情報の記録**」を「**記録しない**」に設定して記録された画像は、「**縦位置自動回転**」の設定にかかわらず、すべての画像が横位置で表示されます。

さらに細かい設定 — カスタムメニュー

カスタムメニューでは、カメラの各機能の働きやセット内容を、撮影者自身の好みにあった状態に変更できます。

カスタムメニュー画面は2つの階層で構成されています。カスタムメニューで最初に表示される第1階層は目次画面で、マルチセレクターの▼または▲を操作することにより、カスタムメニューの項目（カスタムメニューC「**カスタム切り換え**」、カスタムメニューR「**リセット**」、その他のカスタムメニューの区分（a～f））を選択できます。

カスタムメニューの区分	含まれるカスタムメニュー
a　オートフォーカス	a1～a10
b　露出・測光	b1～b7
c　AE/AFロック・タイマー	c1～c5
d　撮影・記録・表示	d1～d8
e　フラッシュ撮影・BKT撮影	e1～e8
f　操作	f1～f7

カスタムメニューの詳細項目（a1～f7）（第2階層）を選択するには、第1階層でマルチセレクターの▼または▲を操作して、選択したいカスタムメニューが含まれる区分（a～f）を選択し、▶を押します。

第2階層では選択した区分に含まれるカスタムメニュー項目が表示されます。なお、第2階層では、マルチセレクターの▼または▲を操作して45項目すべてのカスタムメニュー（a1～f7）に移動することができます。

- 第1階層に戻るには、マルチセレクターの◀を押します。

ヒント　マルチセレクターの操作

画像の再生中やメニューの操作中は、フォーカスエリアロックレバーの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

C	カスタム切り換え	：カスタムの切り換え	P.229
R	リセット	：カスタムのリセット	P.230
a	オートフォーカス		
a1	AF-Cモード時の優先	：AF-Cモード時の優先条件	P.232
a2	AF-Sモード時の優先	：AF-Sモード時の優先条件	P.232
a3	フォーカスエリアフレーム切換え	：フォーカスエリアフレームの切り換え	P.233
a4	グループダイナミックAF	：グループダイナミックAFの設定	P.233
a5	AFロックオン	：AFロックオン	P.236
a6	半押しAFレンズ駆動	：シャッターボタン半押しによるAFレンズ駆動	P.236
a7	フォーカスエリア照明	：フォーカスエリア照明の点灯設定	P.237
a8	フォーカスエリア循環選択	：フォーカスエリアの選択を循環方式に	P.237
a9	内蔵AF補助光	：内蔵AF補助光の照射設定	P.238
a10	MB-D200のAF-ONボタン	：バッテリーパックMB-D200のAF-ONボタン機能	P.238
b	露出・測光		
b1	感度自動制御	：感度の自動制御	P.239
b2	ISO感度設定ステップ幅	：ISO感度設定のステップ幅	P.242
b3	露出設定ステップ幅	：露出値の設定のステップ幅	P.242
b4	露出・調光補正ステップ幅	：露出補正値、調光補正値の設定のステップ幅	P.242
b5	露出補正簡易設定	：露出補正簡易設定	P.243
b6	中央部重点測光範囲	：中央部重点測光の範囲	P.244
b7	基準露出レベルの調節	：基準露出レベルの調節	P.244
c	AE/AFロック・タイマー		
c1	半押しAEロック	：シャッターボタン半押しによるAEロック	P.246
c2	AE-L/AF-Lボタンの機能	：AE/AFロックボタンの機能	P.246
c3	半押しタイマー	：半押しタイマーの作動時間	P.247
c4	セルフタイマー	：セルフタイマーの作動時間	P.247
c5	液晶モニターのパワーオフ	：液晶モニターのパワーオフ時間	P.247

項目		内容	ページ
d 撮影・記録・表示			
d1	電子音設定	：電子音の設定	P.248
d2	格子線表示	：格子線の表示	P.248
d3	ファインダー内警告表示	：ファインダースクリーン上の警告表示	P.249
d4	低速連続撮影速度	：低速連続撮影時の撮影速度	P.249
d5	露出ディレーモード	：露出ディレーモード	P.250
d6	連番モード	：連番モード	P.250
d7	イルミネーター点灯	：半押しタイマー中のイルミネーター点灯	P.251
d8	MB-D200電池設定	：MB-D200の単3形電池設定	P.252
e フラッシュ撮影・BKT撮影			
e1	フラッシュ撮影同調速度	：フラッシュ撮影時の同調速度	P.253
e2	フラッシュ時シャッタースピード制限	：フラッシュ撮影時のシャッタースピード低速制限	P.254
e3	内蔵フラッシュ発光	：内蔵フラッシュ発光モード	P.254
e4	モデリング発光	：プレビューボタンでのモデリング発光	P.263
e5	オートブラケティングのセット	：オートブラケティングのセット	P.263
e6	BKT変化要素(Mモード)	：オートブラケティングの変化要素(Mモード)	P.264
e7	BKT補正順序	：オートブラケティング撮影時の補正順序	P.265
e8	BKT設定方法	：オートブラケティングの設定方法	P.265
f 操作			
f1	中央ボタンの機能	：マルチセレクターの中央ボタンの機能	P.266
f2	マルチセレクターでの起動	：マルチセレクターでの起動	P.268
f3	上下左右機能入換え	：1コマ再生でのマルチセレクターの上下・左右の機能入換え	P.268
f4	ファンクションボタンの機能	：ファンクションボタンの機能	P.269
f5	コマンドダイヤル設定	：コマンドダイヤルの設定	P.270
f6	ボタンによる設定方法	：ボタンによる各操作の設定方法	P.273
f7	カードなし時レリーズ	：メモリーカード未挿入時のレリーズ	P.274

- カスタムメニューa1の「**AF-Cモード時の優先**」を選択しているときに▲を押すと、カスタムメニューf7の「**カードなし時レリーズ**」に移動します。
- カスタムメニューf7の「**カードなし時レリーズ**」を選択しているときに▼を押すと、カスタムメニューa1の「**AF-Cモード時の優先**」に移動します。

C：カスタムの切り換え

カスタムメニューの設定状態を「A」、「B」、「C」、「D」の４通りに記憶させておくことができ、操作内容に合わせて、あらかじめ記憶させておいた設定状態を一括して簡単に呼び出すことができます。「A」、「B」、「C」、「D」には、それぞれ名前をつけることができます。

カスタムメニューの項目を変更すると、現在選択されているカスタム（A～Dのいずれか）における設定のみ変更され、他のカスタムの設定は変更されません。

A※ （初期設定）	カスタムメニューの内容をカスタムAに切り換えます。
B※	カスタムメニューの内容をカスタムBに切り換えます。
C※	カスタムメニューの内容をカスタムCに切り換えます。
D※	カスタムメニューの内容をカスタムDに切り換えます。
名前編集	カスタムA～Dの名前を編集します（最長20文字）。名前の編集方法については、「撮影メニューの切り換え」（P.200）をご覧ください。

※「**名前編集**」で名前を編集した場合は、編集後の名前も表示されます。

ヒント カスタムメニューを変更した場合の表示について

初期状態と異なるカスタムメニューが設定された場合は、表示パネルに **CUSTOM** と、選択されているカスタム（A～D）が表示されます。また、第２階層以下のメニュー項目にアスタリスク（＊）が表示されます。

【設定編】さらに細かい設定

カスタムメニュー

R：カスタムのリセット

カスタムリセットはカスタムメニューの設定内容を初期設定に戻す場合に使用します。カスタムメニューC「**カスタム切り換え**」により選択されているカスタム（A～Dのいずれか）の設定内容のみがリセットされます（例：カスタムAが選択されている場合はカスタムAの設定内容がリセットされます）。

しない（初期設定）	カスタムメニューのリセットは行いません。
する	カスタムメニューを次ページの初期設定に戻します。

カスタムメニューの初期設定

カスタムメニュー		初期設定
a1	AF-Cモード時の優先	レリーズ
a2	AF-Sモード時の優先	フォーカス
a3	フォーカスエリアフレームの切換え	ノーマルフレーム（11点）
a4	グループダイナミックAF	パターン1・中央優先
a5	AFロックオン	標準
a6	半押しAFレンズ駆動	ON
a7	フォーカスエリア照明	AUTO
a8	フォーカスエリア循環選択	しない
a9	内蔵AF補助光	ON
a10	MB-D200のAF-ONボタン機能	AF-ONボタン機能AFエリア選択

カスタムメニュー		初期設定
b1	感度自動制御	しない
b2	ISO感度設定ステップ幅	1/3段
b3	露出設定ステップ幅	1/3段
b4	露出・調光補正ステップ幅	1/3段
b5	露出補正簡易設定	OFF
b6	中央部重点測光範囲	φ8mm
b7	基準露出レベルの調節	0※
c1	半押しAEロック	OFF
c2	AE-L/AF-Lボタンの機能	AE-L/AF-L
c3	半押しタイマー	6秒
c4	セルフタイマー	10秒
c5	液晶モニターのパワーオフ	20秒

※すべての測光モードで0にリセットされます。

☑ ツーボタンリセット

カスタムメニューはツーボタンリセットではリセットできません。

カスタムメニュー		初期設定
d1	電子音設定	高音
d2	格子線表示	OFF
d3	ファインダー内警告表示	ON
d4	低速連続撮影速度	3コマ/秒
d5	露出ディレーモード	OFF
d6	連番モード	OFF
d7	イルミネーター点灯	OFF
d8	MB-D200電池設定	単3形アルカリ
e1	フラッシュ撮影時の同調速度	1/250
e2	フラッシュ時シャッタースピード制限	1/60
e3	内蔵フラッシュ発光	TTLモード
e4	モデリング発光	ON
e5	オートブラケティングのセット	AE・フラッシュブラケティング
e6	BKT変化要素（Mモード）	フラッシュ・シャッタースピード
e7	BKT補正順序	初期設定の順
e8	BKT設定方法	補正値/コマ数 単独設定

カスタムメニュー			初期設定
f1	中央ボタンの機能		
		撮影モード	AFエリア中央リセット
		再生モード	1コマとサムネイルの切り換え
f2	マルチセレクターでの起動		半押しタイマー起動しない
f3	上下左右機能入れ換え		OFF
f4	ファンクションボタンの機能		FVロック
f5	コマンドダイヤル設定		
		回転方向	ノーマル
		メインとサブの入れ換え	OFF
		サブコマンドダイヤルでの絞値設定	する
		再生/メニューモードでの使用	OFF
f6	ボタンによる設定方法		デフォルト
f7	カードなし時レリーズ		レリーズ禁止

a1：AF-C モード時の優先条件

初期設定ではフォーカスモードセレクトダイヤルを**C**（コンティニュアスAFサーボ）にセットした場合、ファインダー内のピント表示（●）の点灯／消灯にかかわらずいつでもシャッターをきることができますが、ピント表示（●）が点灯するまでシャッターボタンを押してもシャッターがきれないように変更できます。この場合でも、ピント表示（●）がいったん点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。

レリーズ （初期設定）	ファインダー内のピント表示（●）の点灯／消灯にかかわらず、シャッターボタンを押すとシャッターがきれます。
レリーズ/フォーカス	ファインダー内のピント表示（●）の点灯／消灯にかかわらず、シャッターボタンを押すとシャッターがきれますが、低コントラスト・低輝度の被写体の場合、連続撮影時にできるだけピントが合うよう、連続撮影速度を落としてフォーカス動作を行います。連続撮影時に撮影速度よりもピント合わせを優先したい場合に有効です。
フォーカス	ファインダー内のピント表示（●）が点灯するまで、シャッターボタンを押してもシャッターがきれません。

a2：AF-S モード時の優先条件

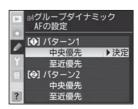
初期設定ではフォーカスモードセレクトダイヤルを**S**（シングルAFサーボ）にセットした場合、ファインダー内にピント表示（●）が点灯するまでシャッターボタンを押してもシャッターをきることができませんが、ピント表示（●）の点灯／消灯にかかわらずシャッターボタンを押すとシャッターがきれるように変更できます。この場合でも、ピント表示（●）が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、フォーカスロックが行われます。

フォーカス （初期設定）	ファインダー内のピント表示（●）が点灯するまで、シャッターボタンを押してもシャッターがきれません。
レリーズ	ファインダー内のピント表示（●）の点灯／消灯にかかわらず、シャッターボタンを押すとシャッターがきれます。

a3：フォーカスエリアフレームの切り換え

初期設定ではノーマルフレーム（11点）のフォーカスエリアでピントを合わせますが、AFエリアモードが [▫]（シングルエリアAFモード）または [⁘]（ダイナミックAFモード）の場合に、7カ所のフォーカスエリアを使用し、より広いエリアでピント合わせを行う「**ワイドフレーム（7点）**」に変更できます。内容については「【応用編】撮影―フォーカス」をご覧ください（P.90）。

a4：グループダイナミックAFの設定

AFエリアモードセレクトダイヤルを [◇]（グループダイナミックAF；P.89）にセットした場合の、各フォーカスエリアグループに含まれるフォーカスエリアの組み合わせを変更したり、各フォーカスエリアグループのうち一番近い主要被写体に重なるフォーカスエリアでピントを合わせるように変更することができます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**パターン1**」または「**パターン2**」と、「**中央優先**」または「**至近優先**」の組み合わせを選択できます。初期設定は「**パターン1**」の「**中央優先**」です。

「**パターン1**」と「**パターン2**」の内容は、それぞれ次のようになります。

パターン1	各フォーカスエリアグループに含まれるフォーカスエリアの組み合わせがパターン1（次ページ）になります。
パターン2	各フォーカスエリアグループに含まれるフォーカスエリアの組み合わせがパターン2（P.235）になります。

「**中央優先**」と「**至近優先**」の内容は、それぞれ次のようになります。

中央優先	選択されたフォーカスエリアグループに含まれるフォーカスエリアのうち、中央にあるフォーカスエリアでピントを合わせます。グループの中央にあるフォーカスエリアから被写体が一時的にはずれた場合でも、同じグループに含まれる他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせることができます。「**至近優先**」のように一番手前にある主要被写体に重なっているフォーカスエリアをカメラが決定する必要がないため、迅速にフォーカス動作を開始することができます。「**中央優先**」設定時は、各グループの中央にあるフォーカスエリアが、表示パネルで [+] で表示されます。
至近優先	選択されたフォーカスエリアグループに含まれるフォーカスエリアのうち、一番手前にある主要被写体に重なっているフォーカスエリアを使用して、自動的にピントを合わせます。そのフォーカスエリアから被写体が一時的にはずれた場合でも、同じグループに含まれる他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせることができます。

カスタムメニュー a4設定の組み合わせについて

カスタムメニュー a4の設定の組み合わせによって、各フォーカスエリアグループに含まれるフォーカスエリアは次のようになります。

フォーカスエリアの組み合わせ	優先されるフォーカスエリア	各グループに含まれるフォーカスエリア（表示パネル）
パターン1	**中央優先** （初期設定）	上 左　中央　右 下
	至近優先	上 左　中央　右 下

フォーカスエリアの組み合わせ	優先されるフォーカスエリア	各グループに含まれるフォーカスエリア（表示パネル）
パターン2	**中央優先**	上 左　中央1※　右　中央2※ 下
	至近優先	上 左　中央1※　右　中央2※ 下

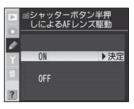
※ パターン2設定時は、中央のグループを選択すると、中央1と中央2のうち前回選択されたグループが選択され、以後マルチセレクターの中央部を押すごとに中央1と中央2が切り替わります。ただし、カスタムメニューf1「**中央ボタンの機能**」で「**撮影モード**」が「**AFエリア中央リセット**」以外に設定されている場合、中央2は選択できません。

a5：AFロックオン

オートフォーカス撮影時に、被写体との距離が瞬時に大きく変わった場合のフォーカス動作について設定を行います。

強い	被写体との距離が瞬時に大きく変わった場合、一定時間経過してからこれに追従するようフォーカス動作を行います。被写体とカメラの間を障害物が横切るような撮影の場合など、意図に反して障害物にフォーカス動作を行うことを防止します。 • 被写体との距離が瞬時に大きく変わってから、追従するようフォーカス動作を開始するまでの時間が長い順に、「**強い**」、「**標準**」、「**弱い**」になります。
標準 （初期設定）	
弱い	
OFF	被写体との距離が瞬時に大きく変わった場合でも、ただちにこれに追従するようフォーカス動作を行います。距離の異なる複数の被写体を次々と撮影するような場合に有効です。

a6：シャッターボタン半押しによるAFレンズ駆動

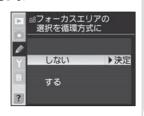
初期設定ではシャッターボタンを半押しするか、AF作動ボタンAF-ONを押すとAFレンズを駆動させてピント合わせを行いますが、AF作動ボタンAF-ONのみでAFレンズを駆動させるように変更できます。

ON （初期設定）	シャッターボタンの半押し、またはAF作動ボタンAF-ONによりAFレンズを駆動させてピント合わせを行います。
OFF	シャッターボタンではAFは駆動せず、AF作動ボタンAF-ONのみでAFレンズを駆動させてピント合わせを行います。

a7：フォーカスエリア照明の点灯設定

初期設定ではファインダー内のフォーカスエリア（フレーム）は、マルチセレクターで選択されたフォーカスエリアを被写体の明るさに応じて見やすいように、瞬間的に赤色に自動照明しますが、照明しない、もしくは被写体の明るさによらず照明するように変更できます。

AUTO（初期設定）	マルチセレクターで選択されたフォーカスエリアを被写体の明るさに応じて赤色に自動照明します。
OFF	フォーカスエリアを照明しません。
ON	被写体の明るさに関係なく常にフォーカスエリアを赤く照明します。背景の明るさによっては、赤色の照明が見えない場合があります。

a8：フォーカスエリアの選択を循環方式に

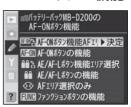
初期設定では上下、または左右反対側にあるフォーカスエリアを選択する場合、マルチセレクターの反対方向を押さなければなりません。循環方式に変更すると、マルチセレクターの▲を押すと上方向に、▼を押すと下方向に、▶を押すと右方向に、◀を押すと左方向に、それぞれ循環させることができます。これによりマルチセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になります。

しない（初期設定）	フォーカスエリア選択の際、循環方式は使用できません。
する	フォーカスエリア選択の際、循環方式を使用できます。

a9：内蔵AF補助光の照射設定

内蔵AF補助光の発光条件が満たされた場合（P.95）、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵AF補助光が照射されますが、内蔵AF補助光を発光しないように変更できます（ただし、オートフォーカスでのピント合わせができなくなる場合があります）。

ON （初期設定）	内蔵AF補助光の発光条件が満たされた場合に内蔵AF補助光を照射します。
OFF	内蔵AF補助光は発光しません。

a10：バッテリーパックMB-D200のAF-ONボタン機能

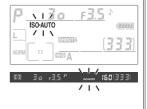
別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D200（P.286）の縦位置AF作動ボタンで行う機能を設定します。

AF-ONボタン機能 AFエリア選択 （初期設定）	縦位置AF作動ボタンはカメラのAF作動ボタン AF-ON と同じ機能になります。さらに、縦位置AF作動ボタンを押しながらMB-D200の縦位置サブコマンドダイヤルを回すことでフォーカスエリアを選択できます。
AF-ONボタンの機能	縦位置AF作動ボタンはカメラのAF作動ボタン AF-ON と同じ機能のみとなります。
AE/AF-Lボタン機能 エリア選択	縦位置AF作動ボタンはカメラのAE/AFロックボタン AE-L/AF-L と同じ機能になります。さらに、縦位置AF作動ボタンを押しながらMB-D200の縦位置サブコマンドダイヤルを回すことでフォーカスエリアを選択できます。
AE/AF-Lボタンの機能	縦位置AF作動ボタンはカメラのAE/AFロックボタン AE-L/AF-L と同じ機能のみとなります。
AFエリア選択のみ	縦位置AF作動ボタンを押しながらMB-D200の縦位置サブコマンドダイヤルを回すことでフォーカスエリアを選択できます。なお、このときはカメラのAF作動ボタンと同じ機能はありません。
ファンクションボタンの機能	縦位置AF作動ボタンはカメラのファンクションボタンと同じ機能になります。カスタムメニューf4「**ファンクションボタンの機能**」（P.269）により、カメラのファンクションボタンの機能が変更された場合は、MB-D200の縦位置AF作動ボタンの機能も変更されます。

b1：感度の自動制御

「**する**」を選択すると、撮影時の設定条件では適正露出を得られない場合にカメラが自動的に撮影者が選択したISO感度を制御して適正露出にします（または適正露出に近づけます）。ISO感度を1600よりも高く増感している場合、このカスタムメニュー項目は選択できません。また、感度自動制御を「**する**」にしているときには、ISO感度を1600よりも高く増感することはできません。なお、フラッシュ使用時も、使用するフラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。

しない（初期設定）	露出の状態にかかわらず、撮影者が設定したISO感度に固定されます。
する	設定ISO感度で適正露出が得られる場合は、撮影者が設定した感度で撮影が行われます。設定ISO感度で適正露出が得られない場合、カメラは次の「**制御上限感度**」、「**低速限界設定**」の設定内容に合わせ、自動的に感度を制御して適正露出にします（または適正露出に近づけます）。 • 露出モードが P（プログラムオート）、A（絞り優先オート）の場合、「**低速限界設定**」で選択したシャッタースピードでは露出不足になる場合や、シャッタースピードが1/8000秒でも露出オーバーになる場合に感度が自動制御されます。 • 露出モードが S（シャッター優先オート）の場合、セットしたシャッタースピードで適正露出が得られない場合に感度が自動制御されます。 • 露出モードが M（マニュアル）の場合、セットしたシャッタースピード、絞り値で適正露出が得られない場合に感度が自動制御されます。
制御上限感度	選択してマルチセレクターの▶を押すと、感度自動制御を行う場合の、ISO感度の上限を選択する画面が表示されます。 • ISO感度が自動で制御される場合の上限は、「**200**」、「**400**」、「**800**」、「**1600**」から選択できます。 • 撮影時に適正露出を得るためのISO感度が、ここで選択された上限を超えている場合、選択された上限で撮影されます。 • マルチセレクターの▲または▼を押してISO感度の上限を選択し、▶を押すと、「感度の自動制御」画面に戻ります。感度の自動制御を行う場合は、「感度の自動制御」画面で「**する**」を選択してください。
低速限界設定	選択してマルチセレクターの▶を押すと、露出モードを P（プログラムオート）、A（絞り優先オート）にセットして感度自動制御を行う場合の、シャッタースピードの低速側の限界を選択する画面が表示されます。 • シャッタースピードの低速側の限界は、1/250～1秒の範囲で選択できます。 • マルチセレクターの▲または▼を押してシャッタースピードの低速側の限界を選択し、▶を押すと、「感度の自動制御」画面に戻ります。感度の自動制御を行う場合は、「感度の自動制御」画面で「**する**」を選択してください。

ヒント 感度自動制御設定時の表示について

「**する**」に設定した場合、表示パネル、ファインダー内表示に**ISO-AUTO**、**ISO AUTO**が表示されます。感度が自動制御されると**ISO-AUTO**が点滅し、ファインダー内表示に制御されたISO感度が表示されます。ただし、フラッシュ使用時は感度が自動制御される場合でも**ISO-AUTO**は点滅しません。

フラッシュ使用時の感度自動制御について

「**感度の自動制御**」を「**する**」に設定すると、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。ただし「**感度の自動制御**」が「**する**」に設定されていても、次のような場合は手前の被写体が露出アンダーになることがあります。

- 低速シャッタースピードでフラッシュ撮影（スローシンクロ）を行う場合
- 日中の明るい場所でフラッシュ撮影（日中シンクロ）を行う場合
- 背景が明るい場合

このような場合には、次の操作を行うことでフラッシュの照射光が届きやすくなります。

- 露出モードを**A**（絞り優先オート）などにして絞りを開く
- スローシンクロを解除する

「感度の自動制御」について

「**感度の自動制御**」を「**する**」にした後、ISO感度を1600よりも高く増感している撮影メニュー（A～D）へ変更した場合、感度自動制御は機能しません。また、ISO感度を1600よりも高く増感した後、「**感度の自動制御**」を「**する**」にしたカスタム（A～D）に切り換えた場合、感度自動制御は機能しません。詳細については、「測光・露出－露出モード」をご覧ください（P.103、105、107、110）。

高感度で記録された画像

ISO感度が高くなると、低く設定したときに比べて、多少ざらついた画像になることがあります。

高感度ノイズ除去

撮影メニューの「**高感度ノイズ除去**」（P.209）を「**する**」に設定すると、ISO400以上の高感度で撮影を行った場合に、撮影画面に生じるザラつき（ノイズ）を低減することができます。

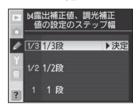
b2：ISO感度設定のステップ幅

初期設定ではISO感度のステップは1/3段(EV) ですが、1/2段または1段に変更できます。

b3：露出値の設定のステップ幅

初期設定では露出値(シャッタースピード、絞り、オートブラケティング補正ステップ)を1/3段(EV)で表示または設定できますが、1/2段または1段に変更できます。

b4：露出補正値、調光補正値の設定のステップ幅

初期設定では露出補正値、調光補正値を1/3段(EV)で設定できますが、1/2段または1段に変更できます。

b5：露出補正簡易設定

露出補正ボタンを使用せずに、コマンドダイヤルのみで露出補正できるように変更することができます。露出補正は±５段の間でセットできます（P.113）。

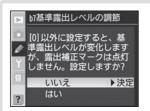
- 露出補正簡易設定を「**ON**」に設定すると、露出補正値にかかわらず露出インジケーターの「**0**」が点滅します。

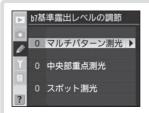
<table>
<tr><td>OFF
（初期設定）</td><td>露出補正ボタンとメインコマンドダイヤルで露出補正を設定します。</td></tr>
<tr><td>ON</td><td>コマンドダイヤルのみで露出補正を設定します。カスタムメニューf5「コマンドダイヤルの設定＞メインとサブの入れ換え」の設定により、次の表で記載しているダイヤルで露出補正が可能です。
<table>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2">カスタムメニュー f5＞メインとサブの入れ換え</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>OFF</td><td>ON</td></tr>
<tr><td rowspan="4">露出モード</td><td>P</td><td>サブコマンドダイヤル</td><td>サブコマンドダイヤル</td></tr>
<tr><td>S</td><td>サブコマンドダイヤル</td><td>メインコマンドダイヤル</td></tr>
<tr><td>A</td><td>メインコマンドダイヤル</td><td>サブコマンドダイヤル</td></tr>
<tr><td>M</td><td colspan="2">機能しません。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>ON
（自動リセット）</td><td>上記「ON」の場合と同様に、コマンドダイヤルのみで露出補正を設定します。電源スイッチをOFFにするか、半押しタイマーがオフになると、設定されている露出補正量のうち、コマンドダイヤルのみで設定した露出補正量がキャンセルされます。</td></tr>
</table>

b6：中央部重点測光の範囲

中央部重点測光は、ファインダー中央部を重点的に測光して、露出値を決定します。中央部重点測光範囲の初期設定はφ8mmですが、φ6mm、φ10mm、φ13mm、画面全体の平均のいずれかに変更できます。ただし、非CPUレンズを装着している場合は、このカスタムメニュー項目の設定や「レンズ情報手動設定」(P.148) の設定にかかわらず、測光範囲は常にφ8mmとなります。

b7：基準露出レベルの調節

適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、測光モードごとに明るめまたは暗めに調節することができます。1/6段ステップで、±1段の範囲で設定できます。初期設定は0で、－側に設定すると適正露出が暗めに、＋側に設定すると明るめに調節されます。

1　カスタムメニュー画面の第2階層から「**b7 基準露出レベルの調節**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「0以外に設定すると、基準露出レベルが変化しますが、露出補正マークは点灯しません。設定しますか？」というメッセージが表示されます。基準露出レベルを変更する場合は、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**はい**」を選択して▶を押します。

- 基準露出レベルを変更せずにカスタムメニュー画面に戻る場合は、「**いいえ**」を選択して▶を押します。

2 測光モードの選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**マルチパターン測光**」、「**中央部重点測光**」、「**スポット測光**」から基準露出レベルを変更する測光モードを選択し、▶を押します。

3 「基準露出レベルの調節」の設定画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、調節値を選択します。▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面の第2階層に戻ります。

- 基準露出レベルの設定は、測光モードごとに行ってください。

✔ 基準露出レベルの調節について

- カスタムメニューb7「**基準露出レベルの調節**」の設定は、カスタムメニューA、B、C、Dのうち、選択しているカスタムメニューにのみ保存されます。したがってカスタムメニューb7の設定を変更した場合、カスタムメニュー間で露出レベルの基準が異なります。カスタムメニューを切り換える場合は、カスタムメニューb7の設定の違いにご注意ください。
- カスタムメニューb7「**基準露出レベルの調節**」を0以外に設定しても、露出補正マーク ☒ は表示されませんのでご注意ください。設定した基準露出レベルの確認は、カスタムメニューb7の設定画面でのみ可能です。
- 一般的な露出レベルの変更には、露出補正マークが表示される露出補正（P.113）を行うことをおすすめします。

c1：シャッターボタン半押しによるAEロック

初期設定ではAE/AFロックボタン AE-L AF-L を押しているときにAEロックが行われますが、シャッターボタンを半押ししたときにAEロックが行われるように変更できます。

OFF （初期設定）	AE/AFロックボタン AE-L AF-L でAEロックします。シャッターボタンの半押しではAEロックしません。
ON	AE/AFロックボタン AE-L AF-L またはシャッターボタンの半押しでAEロックします。

c2：AE/AFロックボタンの機能

初期設定では、AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すとAEロックとフォーカスロックが同時に行われますが、下の表のように変更できます。

AE-L/AF-L （初期設定）	AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すとAEロックとフォーカスロックが同時に行われます。
AE-L	AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すとAEロックのみが行われます。
AE-L（レリーズでリセット）	AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すとAEロック状態が維持され、半押しタイマーがOFFになるか、シャッターをきるとAEロックは解除されます。また、再度AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押しても、AEロックは解除されます。
AE-L（ホールド）	AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すとAEロック状態が維持され、シャッターをきってもAEロックは解除されません。半押しタイマーがOFFになるか、再度AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すと、AEロックは解除されます。
AF-L	AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すとフォーカスロックのみが行われます。

c3：半押しタイマーの作動時間

カメラの電源スイッチをONにしたときやシャッターボタンを半押ししたときの半押しタイマーの作動時間を4秒、6秒、8秒、16秒、制限なしのいずれかに変更できます。初期設定は6秒です。半押しタイマーを延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

- ACアダプター EH-6（別売）接続中は、カスタムメニュー c3の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。

c4：セルフタイマーの作動時間

セルフタイマー撮影（P.131）の際、シャッターボタンを押してから、シャッターがきれるまでの時間を、2秒、5秒、10秒、20秒のいずれかに変更できます。初期設定は10秒です。

c5：液晶モニターのパワーオフ時間

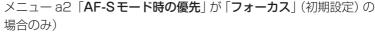
操作を終了してから液晶モニターが自動的にオフになるまでの時間を10秒、20秒、1分、5分、10分に設定します。初期設定は20秒です。液晶モニターの表示時間を延長するとバッテリーの消耗が早くなります。

- ACアダプター EH-6（別売）接続中は、カスタムメニュー c5の設定にかかわらず、液晶モニターが自動的にオフになるまでの時間が約10分に固定されます。

d1：電子音の設定

初期設定では次の場合に電子音が鳴りますが、電子音を低音にしたり、鳴らないように変更できます。

- セルフタイマー作動中
- オートフォーカスのピントが合ったとき（フォーカスモードがAF-Sでカスタム

メニューa2「**AF-Sモード時の優先**」が「**フォーカス**」（初期設定）の場合のみ）

高音 （初期設定）	上記の場合に高音の電子音が鳴ります。
低音	上記の場合に低音の電子音が鳴ります。
電子音なし	電子音は鳴りません。

ヒント 電子音設定時の表示について

「**高音**」または「**低音**」に設定した場合、表示パネルに電子音マーク ♪ が表示されます。

d2：格子線の表示

アオリ撮影や水平、垂直位置出しなどに便利な構図用格子線（P.8）をファインダーに表示させることができます。構図用格子線を表示させるときは「**ON**」を選択します。初期設定は「**OFF**」です。

d3：ファインダースクリーン上の警告表示

初期設定では、ファインダースクリーン上に次の警告表示を行いますが、表示されないように変更できます。

- 白黒マーク **B/W**（撮影メニューの「**仕上がり設定**」が「**白黒**」に設定されている場合に表示されます。）
- バッテリー残量表示（バッテリーの残量が少ない場合に表示されます。）
- カードなしマーク（カメラにメモリーカードが挿入されていない場合に表示されます。）

ON （初期設定）	ファインダースクリーン上に上記の警告表示を行います。
OFF	ファインダースクリーン上に警告表示を行いません。バッテリーの残量、メモリーカードの挿入は、表示パネルで確認してください。

d4：低速連続撮影時の撮影速度

低速連続撮影（**CL**）時の連続撮影速度を、4コマ/秒、3コマ/秒、2コマ/秒、1コマ/秒のいずれかに変更できます。初期設定は3コマ/秒です。

☑ 連続撮影速度について

シャッタースピードが低速の場合、設定した連続撮影速度で撮影できない場合があります。

☑ インターバルタイマー撮影速度について

動作モードを**S**（1コマ撮影）または**MUP**（ミラーアップ撮影）にセットしてインターバルタイマー撮影を行った場合、カスタムメニュー d4で設定した連続撮影速度で撮影されます。

d5：露出ディレーモード

初期設定ではシャッターボタンを押すと同時にシャッターがきれますが、顕微鏡撮影時などのカメラブレを最小限に押さえるため、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約0.4秒後にシャッターがきれるように変更できます。

OFF（初期設定）	シャッターボタンを押すと同時にシャッターがきれます。
ON	ミラーの作動後、約0.4秒後にシャッターがきれます。

d6：連番モード

連番モードをONに設定すると、最後に記録を行ったファイル番号がカメラに記憶され、次に撮影を行ったときには記憶内容に従って連番で記録が行われます。メモリーカードの交換を行ったときには、カード内にあるフォルダー番号・ファイル番号を参照し、撮影メニューにより選択されているフォルダーまたは必要に応じて新規に自動作成したフォルダーに、その中で常に最も大きいファイル番号を付けて画像の記録を行います。このため、複数のカードを使用する場合でも撮影後の画像ファイルの管理が容易に行えます。

☑ ファイル番号について

- 連番モードがOFFの場合、撮影メニューの「**記録フォルダー設定**」でフォルダーを新規作成すると、その中のファイル番号が0001番から始まります。
- 保存を行うフォルダー内に9999という番号のファイルが存在した場合に撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、連番モードの設定にかかわらずファイル番号が0001番に戻ります。

OFF （初期設定）	連番モードを無効にします。OFFの状態で撮影を行った場合、フォルダーを新規に作成したり、メモリーカードを交換するごとに0001からファイル番号が付きます。画像を記録するフォルダー内に画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。なお、連番モードをONの状態からOFFにすると、カメラがファイル番号を記憶した状態で連番モードを無効にします。
ON	連番モードを有効にします。メモリーカードを交換したり、フォルダーを新規に作成しても、画像ファイルには撮影順に連続した番号が付きます。
リセット	カメラが記憶しているファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダーにファイルがない場合には0001から連番でファイル番号が付きます。すでにファイルがある場合にはそのファイル番号＋１から連番でファイル番号が付きます。

d7：半押しタイマー中のイルミネーター点灯

初期設定では電源スイッチをイルミネーター まで回すと、表示パネルのイルミネーターが点灯しますが、半押しタイマーの作動中は常にイルミネーターが点灯するように変更することができます。

OFF （初期設定）	電源スイッチをイルミネーター に合わせると、イルミネーターが点灯します。
ON	半押しタイマーの作動中は、イルミネーターが点灯します（バッテリーの消耗は早くなります）。

d8：MB-D200の単3形電池設定

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D200を装着し、電源に単3形電池（6本）を使用する場合、カメラでより正確な電池の残量表示を行うために、電池の種類を指定します。ただし、電源にLi-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3eを使用している場合は設定する必要がありません。

MB-D200に電源として単3形電池を使用する場合、アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池、ニッケルマンガン電池が使用できます。使用する電池の種類に応じて次のように設定します。

- 間違った電池の設定を行うと、カメラが正常に作動しない場合があります。

単3形アルカリ（初期設定）	LR6単3形アルカリ電池の場合に設定します。
単3形Ni-MH	HR6単3形ニッケル水素充電池の場合に設定します。
単3形リチウム	FR6単3形リチウム電池の場合に設定します。
単3形ニッケルマンガン	ZR6単3形ニッケルマンガン電池（オキシライド乾電池、ニッケル乾電池を含む）の場合に設定します※。

※ 使用する電池自体の特性により、充分な性能を発揮できないことがあります。

✔ 単3形電池の使用について

別売のマルチパワーバッテリーパックに単3形電池を電源として使用する場合は、次のことにご注意ください。

- アルカリ電池、ニッケルマンガン電池（オキシライド乾電池、ニッケル乾電池を含む）を電源として使用した場合、他の電源を使用した場合と比較して撮影できるコマ数が極端に減少します。通常の撮影では他の電源を使用し、アルカリ電池、ニッケルマンガン電池は緊急用として使用してください。
- 電池のメーカーや銘柄によっては、撮影できるコマ数が少なかったり、使用できない場合があります。
- 周囲の温度が20℃よりも低い環境で使用する場合は、撮影できるコマ数が極端に減少する場合があります。
- 電池の使用推奨期間内であっても、保管状態によっては撮影できるコマ数が減少したり、使用できない場合があります。
- 表示パネルとファインダー内のバッテリー残量表示は次のようになります。

表示パネル	ファインダー	意味
（電池マーク）	表示なし	バッテリーは充分に残っています。
（電池マーク）	（電池マーク）	バッテリーが残り少なくなりました。バッテリー交換の準備をしてください。
（電池マーク）（点滅）	（電池マーク）（点滅）	撮影できません。バッテリーを交換してください。

カメラやMB-D200の性能を充分に発揮するためには、EN-EL3eのご使用をおすすめします。

e1：フラッシュ撮影時の同調速度

フラッシュ撮影時のシャッタースピードの同調速度を、1/250～1/60秒の範囲で下の表から設定することができます。

1/250 （初期設定）	フラッシュ撮影時のシャッタースピードの同調速度を1/250秒に設定します。
1/250 （オートFP）	フラッシュ撮影時のシャッタースピードの同調速度を1/250秒に設定します。スピードライト（別売）SB-800、SB-600、SB-R200使用時は1/250秒より速いシャッタースピードでは自動的にFP発光に切り替わります※。内蔵フラッシュ本発光時は、FP発光は行われません。
1/200	フラッシュ撮影時のシャッタースピードの同調速度を1/200秒に設定します。
1/160	フラッシュ撮影時のシャッタースピードの同調速度を1/160秒に設定します。
1/125	フラッシュ撮影時のシャッタースピードの同調速度を1/125秒に設定します。
1/100	フラッシュ撮影時のシャッタースピードの同調速度を1/100秒に設定します。
1/80	フラッシュ撮影時のシャッタースピードの同調速度を1/80秒に設定します。
1/60	フラッシュ撮影時のシャッタースピードの同調速度を1/60秒に設定します。

※ 露出モードが P、A で、表示パネル、ファインダー内表示のシャッタースピード表示部が1/250秒を示す場合、実際に制御されるシャッタースピードが1/250秒よりわずかでも高速側ならFP発光に切り替わり、低速側ならFP発光に切り替わりません。

ヒント シャッタースピードの同調速度を固定するには

露出モードが S、M の場合にシャッタースピードの同調速度を上記で設定した値に固定する場合は、最も低速側（30秒または bulb）の次の位置を選択してください。この場合、表示パネルとファインダー内表示にフラッシュシンクロマーク **X** と上記で設定した値が表示されます。

e2：フラッシュ撮影時のシャッタースピード低速制限

初期設定では、フラッシュ撮影時の露出モードが P（プログラムオート）または A（絞り優先オート）の場合、シャッタースピードの低速側が1/60秒に制限されますが、1/60秒～30秒の範囲で1段ステップで設定することができます。ただし、スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時や、露出モードが S（シャッター優先オート）、M（マニュアル）の場合は、自動的にシャッタースピードの低速側の制限が30秒まで延長されます。

e3：内蔵フラッシュ発光モード

初期設定では内蔵フラッシュはi-TTL調光を行いますが、「**マニュアル発光モード**」や、繰り返し発光する「**リピーティング発光モード**」、カメラから離れたスピードライト（別売）SB-800、SB-600、SB-R200を制御する「**コマンダーモード**」に変更することができます。

TTLモード （初期設定）	内蔵フラッシュの光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。
マニュアル発光モード	内蔵フラッシュが指定した発光量で発光します。モニター発光を行わないので、内蔵フラッシュをSU-4などを使用した多灯撮影（リモート発光）のマスターフラッシュとして使用することができます（次ページ参照）。
リピーティング発光モード	シャッターが開いている間、内蔵フラッシュが指定した発光量、発光回数、発光間隔で、繰り返し連続発光します。1コマの画像内に被写体の連続的な動きを分解写真のように写し込むことができます（次ページ参照）。
コマンダーモード	内蔵フラッシュがプリ発光しながら、カメラから離れたスピードライト（別売）SB-800、SB-600、SB-R200をワイヤレス（アドバンストワイヤレスライティング）で制御します。内蔵フラッシュ、スピードライトのそれぞれに、調光方式、調光補正量を設定できます（P.256）。

マニュアル発光モードの設定方法

「**マニュアル発光モード**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、発光量の選択画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**Full**」（フル発光）、「**1/2**」、「**1/4**」、「**1/8**」、「**1/16**」、「**1/32**」、「**1/64**」、「**1/128**」のいずれかの発光量を選択して▶を押すと、カスタムメニュー画面に戻ります。

- 「**Full**」（フル発光）に設定した場合、内蔵フラッシュのガイドナンバーは約13（ISO100・m、20℃）となります。

リピーティング発光モードの設定方法

「**リピーティング発光モード**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「リピーティング発光モード」の設定画面が表示されます。

発光量	発光1回あたりの発光量を設定します。設定できる発光量は、1/4、1/8、1/16、1/32、1/64、1/128のいずれかです。
回数	1コマで連続発光する回数を設定します。設定できる発光回数は2、3、4、5、6、7、8、9、10、15、20、25、30、35回のいずれかです。
間隔	発光間隔を、1秒あたりの発光回数で指定します。設定できる1秒あたりの発光回数は1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、20、30、40、50回のいずれかです。

次ページの表を参考にしながら、マルチセレクターの◀または▶を操作して「**発光量**」、「**回数**」、「**間隔**」の各設定項目を選択し、▲または▼で設定する数値を選択してください。設定を有効にしてカスタムメニュー画面に戻るには、実行ボタンENTERを押します。

ヒント **調光補正マークの表示について**

カスタムメニューe3を「**マニュアル発光モード**」、「**リピーティング発光モード**」に設定した場合は、表示パネルとファインダー内の調光補正マーク が点滅します。

☑ 回数について

- 「**回数**」で設定した数値は、最大の発光回数です。内蔵フラッシュは露光中にのみ発光するため、シャッタースピードを長くしたり、「**間隔**」を長く（1秒あたりの発光回数を小さく）設定すると、実際の発光回数は設定した回数以下になります。
- 「**発光量**」の設定により、以下のように連続発光回数が制限されています。表を参考にして、各数値を設定してください。

発光量	連続発光回数													
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20	25	30	35
1/4	○													
1/8	○	○	○	○										
1/16	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
1/32	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
1/64	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
1/128	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※「**間隔**」は上記表の連続発光回数の組合せで、自由に選べます。

コマンダーモードの設定方法

「**コマンダーモード**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「コマンダーモード」の設定画面が表示されます。コマンダーモードは、内蔵フラッシュを主灯（マスターフラッシュ）として、AグループおよびBグループの2つのグループに含まれる1個または複数の補助灯（別売のスピードライト）をワイヤレス（アドバンストワイヤレスライティング）で制御します。

「コマンダーモード」の設定画面では次の設定が可能です。

内蔵フラッシュ		主灯となる内蔵フラッシュの調光方式を設定します。
	TTL	内蔵フラッシュは、i-TTL調光を行います。調光補正量の設定画面が表示されますので、内蔵フラッシュの調光補正量を、1/3段ステップで＋3.0～－3.0段の範囲の中から選択します。
	M	内蔵フラッシュはマニュアル調光を行います。発光量の選択画面が表示されますので、「**1/1**」（フル発光）、「**1/2**」、「**1/4**」、「**1/8**」、「**1/16**」、「**1/32**」、「**1/64**」、「**1/128**」から選択します。
	－－	撮影時に補助灯のみ発光します。内蔵フラッシュは本発光しませんが、撮影時はプリ発光を行えるよう、フラッシュロック解除ボタンを押して内蔵フラッシュをポップアップしてください。
Aグループ		Aグループの補助灯の調光方式を設定します。Aグループに設定された、すべての補助灯に設定が適用されます。
	TTL	Aグループの補助灯は、i-TTL調光を行います。調光補正量の設定画面が表示されますので、Aグループの補助灯の調光補正量を、1/3段ステップで＋3.0～－3.0段の範囲の中から選択します。
	AA※	Aグループの補助灯は、絞り連動外部自動調光を行います。調光補正量の設定画面が表示されますので、Aグループの補助灯の調光補正量を、1/3段ステップで＋3.0～－3.0段の範囲の中から選択します。
	M	Aグループの補助灯は、マニュアル調光を行います。発光量の選択画面が表示されますので、「**1/1**」（フル発光）、「**1/2**」、「**1/4**」、「**1/8**」、「**1/16**」、「**1/32**」、「**1/64**」、「**1/128**」から選択します。
	－－	Aグループの補助灯は発光しません。
Bグループ		Bグループの調光方式を設定します。Bグループに設定された、すべての補助灯に設定が適用されます。
	TTL	Bグループの補助灯は、i-TTL調光を行います。調光補正量の設定画面が表示されますので、Bグループの補助灯の調光補正量を、1/3段ステップで＋3.0～－3.0段の範囲の中から選択します。
	AA※	Bグループの補助灯は、絞り連動外部自動調光を行います。調光補正量の設定画面が表示されますので、Bグループの補助灯の調光補正量を、1/3段ステップで＋3.0～－3.0段の範囲の中から選択します。
	M	Bグループの補助灯は、マニュアル調光を行います。発光量の選択画面が表示されますので、「**1/1**」（フル発光）、「**1/2**」、「**1/4**」、「**1/8**」、「**1/16**」、「**1/32**」、「**1/64**」、「**1/128**」から選択します。
	－－	Bグループの補助灯は発光しません。
チャンネル		補助灯と通信を行うためのチャンネルを、「**1**」、「**2**」、「**3**」、「**4**」から選択します。ここで設定されたチャンネルと同じチャンネルを、使用するすべての補助灯でも設定する必要があります。

※「**AA**」に設定して補助灯にSB-600、SB-R200を使用した場合は、発光しません。

コマンダーモードでの撮影は、次の手順で行います。

1 「コマンダーモード」の設定画面で、マルチセレクターの◀または▶を操作することにより、「内蔵フラッシュ」の「発光モード」を選択し、▲または▼を操作することにより、内蔵フラッシュの調光方式を「**TTL**」、「**M**」、「**– –**」から選択します。

2 マルチセレクターの▶を操作することにより、「内蔵フラッシュ」の「補正量」を選択します。選択した調光方式に応じて、次の設定を行います。

- 手順1で「**TTL**」を選択した場合、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、内蔵フラッシュの調光補正量を、1/3段ステップで＋3.0～－3.0段の範囲の中から選択します。
- 手順1で「**M**」を選択した場合は、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、内蔵フラッシュの発光量を「**1/1**」、「**1/2**」、「**1/4**」、「**1/8**」、「**1/16**」、「**1/32**」、「**1/64**」、「**1/128**」から選択し、▶を押します。
- 手順1で「**– –**」（非発光）を選択した場合は、「内蔵フラッシュ」の「補正量」を選択できません。

3 マルチセレクターの◀または▶を操作することにより、「Aグループ」の「発光モード」を選択し、▲または▼を操作することにより、Aグループの補助灯の調光方式を「**TTL**」、「**AA**」、「**M**」、「**－－**」から選択し、▶を押します。

4 マルチセレクターの▶を操作することにより、「Aグループ」の「補正量」を選択します。選択した調光方式に応じて、次の設定を行います。

- 手順3で「**TTL**」または「**AA**」を選択した場合、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、Aグループの補助灯の調光補正量を、1/3段ステップで＋3.0～－3.0段の範囲の中から選択します。
- 手順3で「**M**」を選択した場合は、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、Aグループの補助灯の発光量を、「**1/1**」、「**1/2**」、「**1/4**」、「**1/8**」、「**1/16**」、「**1/32**」、「**1/64**」、「**1/128**」から選択し、▶を押します。
- 手順3で「**－－**」（非発光）を選択した場合は、「Aグループ」の「補正量」を選択できません。

【設定編】さらに細かい設定

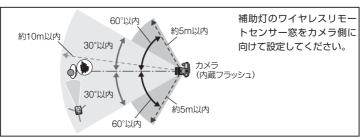
カスタムメニュー

5 Bグループの補助灯を使用する場合は、手順3～4と同様の操作で、「**Bグループ**」についても設定を行います。

6 マルチセレクターの◀または▶を操作することにより、「**チャンネル**」を選択し、▲または▼を操作することにより、補助灯との通信に使用するチャンネルを「**1**」、「**2**」、「**3**」、「**4**」から選択します。

7 実行ボタンENTERを押して設定を有効にします。

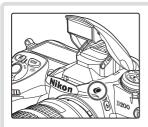
8 構図を決め、カメラと補助灯（別売のスピードライト）を配置します。

- 補助灯は次の範囲内に配置してください。

- カメラの内蔵フラッシュと補助灯の距離は、カメラの対向正面（左右各30° 以内）で約10mまで、両サイド（左右各60° 以内）で約5mまでが目安です。ただし、周辺環境により、この距離は多少変化します。

【設定編】さらに細かい設定

カスタムメニュー

9 使用するすべての補助灯の電源をONにし、グループ（Aまたは B）とチャンネルを設定します。

- 補助灯の設定方法については、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- 補助灯のチャンネルは、必ずカメラで設定したものと同じチャンネル（1～4）に設定してください。

10 フラッシュロック解除ボタンを押して、内蔵フラッシュをポップアップさせます。

- 「内蔵フラッシュ」の「発光モード」を「ー ー」に設定した場合も、プリ発光を行うために内蔵フラッシュをポップアップさせます。

11 カメラのファインダー内表示とすべての補助灯でレディーライトが点灯していることを確認し、ピントを合わせて撮影します。

- 撮影前にプレビューボタンを押すと、使用するすべてのフラッシュのモデリング発光が行われるので、照射光の効果を簡単に確認することができます（カスタムメニュー e4「**モデリング発光**」（P.263）が「**ON**」に設定されている場合のみ）。
- コマンダーモードはFVロック（P.128）と組み合わせて撮影することも可能です。

☑ コマンダーモード時の調光補正と表示について

- コマンダーモード時は、調光補正ボタンとメインコマンドダイヤルで設定した調光補正は無効になります。
- 内蔵フラッシュを「**TTL**」にして調光補正量を0以外に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に調光補正マーク ⚡± が点灯します。
- 内蔵フラッシュを「**M**」に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に調光補正マーク ⚡± が点滅します。

ヒント 内蔵フラッシュを発光させない場合の表示について

「内蔵フラッシュ」の「発光モード」を「ー ー」に設定した場合で、内蔵フラッシュがポップアップした状態では、表示パネルのフラッシュシンクロモード表示から ϟ が消灯します。

✓ コマンダーモード時のご注意

- 補助灯は、内蔵フラッシュのプリ発光の光がセンサー窓に入る位置（通常はカメラより被写体に近い位置）に置きます。特に、手持ちで撮影する場合、プリ発光の光が確実にセンサー窓に入るように、補助灯はカメラより前に構えてください。
- 補助灯の直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ（「TTL」設定時）や他の補助灯の外部自動調光用受光窓（「AA」設定時）に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- 同時に使用できる補助灯の台数に制限はありません。しかし、センサーに他の補助灯の強い光が入ると、正常動作できない場合があるため、実用上は３台程度が限度です。
- 「内蔵フラッシュ」の「発光モード」を「ー ー」に設定した場合でも、補助灯の発光タイミングを合わせるため、プリ発光とは別に、撮影中に内蔵フラッシュが少量発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低いISO感度、または小さい絞り（大きい絞り値）に設定して撮影するか、内蔵フラッシュ用赤外パネル（別売）SG-3IRを使用してください。少量発光の光量が大きくなる後幕シンクロ撮影では、内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRを使用してください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

e4：プレビューボタンでのモデリング発光

初期設定では、内蔵フラッシュ、スピードライト（別売）SB-800、SB-600、SB-R200使用時にカメラのプレビューボタンを押すと、影の状況を把握するためのモデリング発光が行われますが、行われないように変更することができます。

ON （初期設定）	内蔵フラッシュ、スピードライト（別売）SB-800、SB-600、SB-R200使用時にカメラのプレビューボタンを押すと、プレビュー動作（P.124）とともに、モデリング発光が行われます。
OFF	カメラのプレビューボタンではモデリング発光は行われません。

e5：オートブラケティングのセット

オートブラケティングセット時の内容を、AEブラケティングとフラッシュブラケティングの同時セット、AEブラケティングのみのセット、フラッシュブラケティングのみのセット、またはホワイトバランス（WB）ブラケティングのセットに設定できます。

AE・フラッシュブラケティング （初期設定）	AEブラケティングとフラッシュブラケティングを同時に行います。
AEブラケティング	AEブラケティングを行います。
フラッシュブラケティング	フラッシュブラケティングを行います。
WBブラケティング	ホワイトバランス（WB）ブラケティングを行います。画質モードが「RAW＋FINE」、「RAW＋NORMAL」、「RAW＋BASIC」、「RAW」の場合、WBブラケティングは使用できません。

e6：オートブラケティングの変化要素（Mモード）

露出モードを M（マニュアル）にセットしてAE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティングを行った場合に、変化させる内容を下の表のように設定することができます。

- オートブラケティング時に変化する内容は、カスタムメニュー e5「**オートブラケティングのセット**」の設定との組み合わせによって次のようになります。

カスタムメニュー e6「オートブラケティングの変化要素（Mモード）」	カスタムメニュー e5「オートブラケティングのセット」		
	AE・フラッシュブラケティング※1	AEブラケティング※1	フラッシュブラケティング※1
フラッシュ・シャッタースピード（初期設定）	シャッタースピードとフラッシュの調光レベル※2	シャッタースピード	フラッシュの調光レベル※2
フラッシュ・シャッタースピード・絞り値	シャッタースピード、絞り値、フラッシュの調光レベル※2	シャッタースピードと絞り値	フラッシュの調光レベル※2
フラッシュ・絞り値	絞り値とフラッシュの調光レベル※2	絞り値	フラッシュの調光レベル※2
フラッシュ	フラッシュの調光レベル※2	—	フラッシュの調光レベル※2

※1 カスタムメニュー b1「**感度自動制御**」が「**する**」に設定され、かつフラッシュが使用されていない場合、カスタムメニュー e6の設定にかかわらずISO感度のみが変化します。

※2 フラッシュ調光レベルは、i-TTL調光時または絞り連動外部自動調光時のみ変化します。

☑ ホワイトバランスブラケティングについて

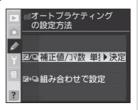
カスタムメニュー e5「**オートブラケティングのセット**」が「**WBブラケティング**」に設定されている場合、カスタムメニュー e6の設定にかかわらず、ホワイトバランスが変化します。

e7：オートブラケティング撮影時の補正順序

オートブラケティングの補正順序を初期設定の順（P.312）から、マイナス側からプラス側の順序に変更できます。

初期設定の順 （初期設定）	オートブラケティングの補正順序は、初期設定の順（P.312）になります。
ー側から＋側へ	オートブラケティングの補正順序は、マイナス側からプラス側になります。

e8：オートブラケティングの設定方法

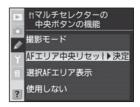
初期設定では、オートブラケティングは補正ステップと撮影コマ数を別々にセットしますが、所定の組み合わせの中から選択することで、まとめてセットできるように変更できます。

補正値／コマ数 単独設定 （初期設定）	オートブラケティングボタンBKTを押しながらメインコマンドダイヤルを回して撮影コマ数を、サブコマンドダイヤルを回して補正ステップをセットします。
組み合わせで設定	オートブラケティングボタンBKTを押しながらメインコマンドダイヤルを回してオートブラケティングのON ／ OFFを設定し、サブコマンドダイヤルを回して撮影コマ数と補正ステップの組み合わせを選択できます。

f1：マルチセレクターの中央ボタンの機能

撮影時および再生時の、マルチセレクター中央部を押した場合の機能を設定します。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**撮影モード**」または「**再生モード**」を選択し、マルチセレクターの▶を押すとそれぞれの設定画面が表示されます。

撮影モード

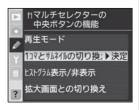
初期設定では撮影時にマルチセレクターの中央部を押すと、中央のフォーカスエリアを選択しますが、下の表のように変更することができます。

AFエリア中央リセット（初期設定）	撮影時にマルチセレクターの中央部を押すと、中央のAFエリア（グループダイナミックAFの場合は中央のフォーカスエリアのグループ※）を選択します。
選択AFエリア表示	撮影時にマルチセレクターの中央部を押すと、ファインダー内で選択されているフォーカスエリア（グループダイナミックAFの場合はフォーカスエリアのグループ）のフレームが点灯します。
使用しない	マルチセレクターの中央部は、撮影時には機能しません。

※ カスタムメニュー a4「**グループダイナミックAFの設定**」で「**パターン2**」を選択している場合（P.235）、中央のフォーカスエリアのグループが選択されている状態でマルチセレクターの中央部を押すと中央1から中央2に切り替わります。

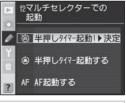
ヒント マルチセレクターの操作

画像の再生中やメニューの操作中は、フォーカスエリアロックレバーの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

再生モード

初期設定では再生時にマルチセレクターの中央部を押すごとに、1コマ表示とサムネイル表示（4コマまたは9コマ）を切り換えますが、下の表のように変更することができます。

1コマとサムネイルの切り換え（初期設定）	マルチセレクターの中央部を押すごとに、1コマ表示とサムネイル表示（4コマまたは9コマ）を切り換えます。
ヒストグラム表示／非表示	マルチセレクターの中央部を押すと、表示画像（1コマ表示時）または選択画像（4コマ／9コマ表示時）のヒストグラム（P.161）を表示します。再度マルチセレクターの中央部を押すと、元の表示に戻ります。
拡大画面との切り換え	画像の再生時にマルチセレクターの中央部を押すと、表示画像（1コマ表示時）または選択画像（4コマ／9コマ表示時）を、設定した拡大率で撮影時のフォーカスエリアを中心に拡大表示します。再度マルチセレクターの中央部を押すと、元の表示に戻ります。「**拡大画面との切り換え**」を選択してマルチセレクターの▶を押すと、「拡大画面との切り換え」画面が表示されますので、▲または▼を操作することにより、「**低倍率**」、「**中倍率**」、「**高倍率**」から拡大率を選択し、▶を押してください。

f2：マルチセレクターでの起動

半押しタイマーがオフのときにマルチセレクターを操作することで、半押しタイマーまたはオートフォーカスが起動するように変更することができます。

半押しタイマー起動しない（初期設定）	半押しタイマーがオフのときにマルチセレクターを操作しても、半押しタイマーは起動しません。
半押しタイマー起動する	半押しタイマーがオフのときにマルチセレクターを押すと、半押しタイマーが起動します。
AF起動する	マルチセレクターを押すと半押しタイマーが起動し、押し続けている間オートフォーカスが作動します（マニュアルフォーカス時を除きます）。

f3：1コマ再生でのマルチセレクターの上下・左右の機能入換え

初期設定では、1コマ再生時にマルチセレクターの▲または▼を押して画像情報のページを、◀または▶を押して表示画像を切り換えますが、機能を入れ換えることができます。

OFF（初期設定）	マルチセレクターの▲／▼を押して画像情報のページを、◀／▶を押して表示画像を切り換えます。
ON	マルチセレクターの▲／▼を押して表示画像を、◀／▶を押して画像情報のページを切り換えます。

f4：ファンクションボタンの機能

初期設定ではファンクションボタンを押すと、FVロック※（P.128）を行いますが、下の表のように機能を変更することができます。

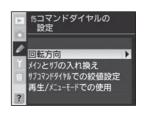
※ FVロックは内蔵フラッシュ、スピードライト（別売）SB-800、SB-600、SB-R200使用時のみ機能します。

FVロック （初期設定）	内蔵フラッシュ、スピードライト（別売）SB-800、SB-600、SB-R200使用時は、ファンクションボタンを押すとFVロックを行い、再度押すと解除します。
FVロック・ レンズ情報設定	内蔵フラッシュ、スピードライト（別売）SB-800、SB-600、SB-R200使用時は、ファンクションボタンを押すとFVロックを行い、再度押すと解除します。また、非CPUレンズ装着時は、内蔵フラッシュが収納され、スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダー（別売）SU-800が非装着またはオフの場合に、ファンクションボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと焦点距離を、サブコマンドダイヤルを回すと開放絞り値をそれぞれ設定できます（P.150、153）。
シャッター・絞り値 1段選択	露出値のステップ幅の設定にかかわらず、ファンクションボタンを押しながらメインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルを回すことにより、S（シャッター優先オート]）、M（マニュアル）時はシャッタースピードを、A（絞り優先オート）、M（マニュアル）時は絞り値を1段ステップで設定することができます。
AE-L/AF-L ボタンと同じ	ファンクションボタンにAE/AFロックボタン AE-L AF-L と同じ機能を設定します。
フラッシュ発光禁止	ファンクションボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、フラッシュを発光禁止にします。
BKT自動連写	オートブラケティング撮影時にファンクションボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、動作モードが1コマ撮影に設定されていても、設定したコマ数まで自動的に撮影を行います。低速連続撮影／高速連続撮影の場合はファンクションボタンを押しながらシャッターボタンを押し続けている間、同じオートブラケティングの設定で繰り返し撮影を行います。また、WBブラケティング撮影時にファンクションボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、動作モードが1コマ撮影／高速連続撮影の時は高速連続撮影の速度で、低速連続撮影のときはその撮影速度で連続撮影を行い、各コマに対してWBブラケティング撮影を行います。
マルチパターン 測光簡易設定	ファンクションボタンを押している間、測光モードがマルチパターン測光に切り替わります。

中央部重点簡易設定	ファンクションボタンを押している間、測光モードが中央部重点測光に切り替わります。
スポット測光簡易設定	ファンクションボタンを押している間、測光モードがスポット測光に切り替わります。
フォーカスエリアフレーム切り換え	ファンクションボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、フォーカスエリアをノーマルフレーム（11点）とワイドフレーム（7点）に切り換えます（P.90）。

f5：コマンドダイヤルの設定

メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルに関する設定を行います。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**回転方向**」、「**メインとサブの入れ換え**」、「**サブコマンドダイヤルでの絞値設定**」、「**再生／メニューモードでの使用**」を選択し、マルチセレクターの▶を押すとそれぞれの設定画面が表示されます。

回転方向

シャッタースピード、絞り値、プログラムシフト量、簡易露出補正、露出モード、露出補正量、オートブラケティングの補正ステップおよびフラッシュシンクロモードを操作するときの、メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルの回転方向を逆方向に変更できます。

- 別売のバッテリーパックMB-D200を装着している場合、MB-D200の縦位置メインコマンドダイヤルと縦位置サブコマンドダイヤルの回転方向も変更されます。

ノーマル（初期設定）	メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルは通常どおりの回転操作となります。
逆方向	メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルとも逆回転操作となります。

メインとサブの入れ換え

初期設定では、メインコマンドダイヤルでシャッタースピードを、サブコマンドダイヤルで絞りをセットしますが、「メインとサブの入れ換え」をONに設定すると、この機能を入れ換えることができます。

- 別売のバッテリーパックMB-D200を装着している場合、MB-D200の縦位置メインコマンドダイヤルと縦位置サブコマンドダイヤルの機能も入れ替わります。

OFF （初期設定）	メインコマンドダイヤルでシャッタースピード、サブコマンドダイヤルで絞りを設定します。
ON	メインコマンドダイヤルで絞りを、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。

サブコマンドダイヤルでの絞値設定

初期設定では、CPUレンズを装着時に露出モードが A（絞り優先オート）、M（マニュアル）の場合は、サブコマンドダイヤルで絞りをセットしますが、レンズの絞りリングで絞りをセットするように変更できます。ただし、絞りリングのないレンズ（Gタイプレンズ）装着時は、この設定にかかわらず、絞りのセットはサブコマンドダイヤルで行います。また、非CPUレンズを装着時は、この設定にかかわらず、絞りのセットはレンズの絞りリングで行います。

する （初期設定）	サブコマンドダイヤルで絞りをセットします（「**メインとサブの入れ換え**」を「**ON**」に設定した場合は、メインコマンドダイヤルでセットします）。
しない **（絞りリングで設定）**	レンズの絞りリングで絞りをセットします。絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、絞りの表示は1段ステップになります。

再生／メニューモードでの使用

初期設定では再生時の表示画像の切り換えおよび画像の選択、またメニュー画面での項目の選択はマルチセレクターを操作して行いますが、メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルを操作しても行えるように変更できます。

OFF （初期設定）	再生時の表示画像の切り換え、画像の選択、およびメニュー画面での項目の選択はマルチセレクターを操作して行います。
ON	**再生時** • 1コマ再生表示時 メインコマンドダイヤル：撮影画像のコマ送りを行います。 サブコマンドダイヤル：画像情報の表示ページを切り換えます。 • 4コマ／9コマ再生表示時 メインコマンドダイヤル：表示画面でカーソル（黄色い枠）が左右に移動します。 サブコマンドダイヤル：表示画面でカーソル（黄色い枠）が上下に移動します。 **メニュー画面表示時** メインコマンドダイヤルで選択項目を切り換え、サブコマンドダイヤルを時計方向に回してサブメニューに移動し、サブコマンドダイヤルを反時計方向に回して前の画面に戻ります。ただし、サブコマンドダイヤルでは選択項目の決定はできません。選択項目を決定するにはマルチセレクターの▶または中央部を押すか、実行ボタンENTERを押してください。

☑ 拡大表示時について

再生画像の拡大表示時は、「**再生／メニューモードでの使用**」の設定によって、メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルの機能は変わりません。

f6：ボタンによる各操作の設定方法

初期設定では、ボタンとメインコマンドダイヤル／サブコマンドダイヤルを組み合わせて設定を行う場合、ボタンを押し続けている間のみ設定可能状態になりますが、ボタンを押してから戻しても設定可能状態が維持され、同じボタンを押すか、シャッターボタンの半押しで設定可能状態が終了するように変更できます。対象となるボタンは、露出モードボタンMODE、露出補正ボタン⊠、オートブラケティングボタンBKT、フラッシュシンクロモードボタン⚡、ISO感度ボタンISO、画質モードボタンQUAL、ホワイトバランスボタンWBです。

デフォルト （初期設定）	ボタンを押し続けている間のみ設定可能状態になり、メインコマンドダイヤル／サブコマンドダイヤルにより設定が行えます。
ホールド	ボタンを押すと設定可能状態がホールド（維持）され、メインコマンドダイヤル／サブコマンドダイヤルにより設定が行えます。再度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると、設定可能状態が解除されます。また、初期設定では約20秒経過すると設定可能状態が自動的に解除されます。ただし、カスタムメニューc3「**半押しタイマー**」が「**制限なし**」に設定されている場合やACアダプターEH-6（別売）接続時は、設定可能状態の自動解除は行われません。

f7：メモリーカード未挿入時のレリーズ

初期設定ではカメラにメモリーカードを入れていない場合はレリーズできませんが、レリーズできるように変更できます。

- ニコン キャプチャー 4カメラコントロールと接続した場合は、記録先がパソコンになるため、「**メモリーカード未挿入時のレリーズ**」を「**レリーズ禁止**」に設定してもシャッターをきることができます。

レリーズ禁止 （初期設定）	カメラにメモリーカードを入れていない場合、レリーズはできません。
レリーズ許可	カメラにメモリーカードを入れていない場合でも、レリーズ可能となります。ただし、メモリーカードが入っていないときに撮影した画像は液晶モニターには表示されますが、**プリントや保存はできません**のでご注意ください。

別売アクセサリー

アクセサリーを活用して、撮影の幅を広げることができるのも、デジタル一眼レフカメラの楽しみのひとつです。D200には、以下のようなニコン製アクセサリーが用意されています。

✔ アクセサリーについてのご注意

D200には、ニコン製のアクセサリーをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリーは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリー使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。

レンズ

D200には、CPUレンズ（IXニッコールを除く）のご使用をおすすめします。特にGまたはDタイプレンズを装着すれば、カメラの機能が最大限に使用できます。

装着可能なレンズおよび使用可能な機能

レンズ＼モード		フォーカスモード			露出モード		測光モード		
		オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	PS	AM	マルチパターン測光 3D-RGB	マルチパターン測光 RGB	中央部重点測光/スポット測光
CPUレンズ※2	Gタイプレンズ※3、Dタイプレンズ※3、AF-Iレンズ、AF-Sレンズ	●	●	●	●	●	●	—	●※1
	PCマイクロ 85mm F2.8D※4	—	●※5	●	—	●※6	●	—	●※1
	AF-S/AF-I テレコンバーター※7	●※8	●※8	●	●	●	●	—	●※1
	Gタイプ・Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	●※9	●※9	●	●	●	—	●	●※1
	Ai-Pニッコール	—	●※10	●	●	●	—	●	●※1
非CPUレンズなど※11	Ai-S、Ai、シリーズEレンズ、※12 改造Aiレンズ	—	●※10	●	—	●※13	—	●※14	●※15
	メディカル120mm F4	—	●	●	—	●※16	—	—	—
	レフレックスレンズ	—	—	●	—	●※13	—	—	●※15
	PCニッコール	—	●※5	●	—	●※17	—	—	●
	Ai-S、Aiテレコンバーター※18	—	●※8	●	—	●※13	—	●※14	●※15
	AFテレコンバーター TC-16AS	—	●※8	●	—	●※13	—	●※14	●※15
	ベローズPB-6 ※19	—	●※8	●	—	●※20	—	—	●
	オート接写リング（PK-11A.12.13.PN-11）	—	●※8	●	—	●※13	—	—	●

※1　フォーカスエリアの選択によりスポット測光エリアの移動が可能（P.101）。

※2　IXレンズは装着できません。

※3　このカメラはVRレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。

※4　カメラの測光モード、および調光制御機能は、アオリ操作（シフトまたはティルト）を行っているとき、または開放絞り以外に絞りがセットされているときには、正しく機能しません。

※5　アオリ操作を行っていない場合のみ可能。

※6　露出モードはマニュアル（M）で使用可能。

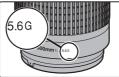
※7　AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用（ただしAF-S DX ED12-24mm F4G、AF-S ED17-35mm F2.8D、AF-S DX ED17-55mm F2.8G、AF-S DX ED18-55mm F3.5-5.6G、AF-S DX ED18-70mm F3.5-4.5G、AF-S DX VR ED 18-200mm F3.5-5.6G、AF-S DX ED55-200mm F4-5.6G、AF-S ED24-85mm F3.5-4.5G、AF-S VR ED24-120mm F3.5-5.6G、AF-S ED28-70mm F2.8Dは使用不可）。

※8　合成絞りがf/5.6以上明るい場合に使用可能。
※9　AF80-200mm F2.8S、AF35-70mm F2.8S、AF28-85mm F3.5-4.5S（New）、AF28-85mm F3.5-4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
※10 開放絞りがf/5.6以上明るいレンズのみ使用可能。
※11 一部装着不可能なレンズ（P.278）があります。
※12 Ai ED80-200mm F2.8Sの三脚座を回転するとカメラと干渉するため、回転方向に制限があります。Ai ED200-400mm F4Sをカメラに装着したままでのフィルター交換はできません。
※13 レンズ情報手動設定（P.148）でレンズの開放絞り値を設定することにより表示パネル、ファインダー内表示に絞り値が表示されます。
※14 レンズ情報手動設定（P.148）でレンズの焦点距離、開放絞り値を設定することにより可能です。一部のレンズでは焦点距離と開放絞り値を設定しても充分な精度が得られない場合があります。この場合は中央部重点測光またはスポット測光を選択して撮影してください。
※15 レンズ情報手動設定（P.148）で焦点距離、開放絞り値を設定することにより、測光の精度が向上します。
※16 露出モードはマニュアル（M）でシャッタースピードは1/125秒以下で使用できます。レンズ情報手動設定（P.148）でレンズの開放絞り値を設定することにより表示パネル、ファインダー内表示に絞り値が表示されます。
※17 絞り込み測光で使用します。露出モードが絞り優先オート（A）の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、AEロック後アオリを行ってください。露出モードがマニュアル（M）の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、アオる前に測光して露出を決定してください。
※18 Ai 28-85mm F3.5-4.5S、Ai 35-105mm F3.5-4.5S、Ai 35-135mm F3.5-4.5S、AF-S 80-200mm F2.8Dレンズとの組み合わせによっては、露出補正を行う必要があります。詳細はテレコンバーターの使用説明書をご覧ください。
※19 オート接写リングPK-12またはPK-13を併用すると装着できます。
※20 絞り込み測光で使用可能、露出モードが絞り優先オート（A）の場合はベローズ側で絞り込みを行い、測光後撮影してください。
- 複写装置PF-4へはカメラアダプターPA-4を併用すると装備できます。

✓ 非CPUレンズを使用する場合は

非CPUレンズを使用する場合は、撮影メニューの「**レンズ情報手動設定**」（P.148）でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定することによって、絞り値表示、RGBマルチパターン測光などCPUレンズをカメラに装着した場合の機能の一部が使用可能になります。レンズの焦点距離と開放絞り値を設定しない場合、RGBマルチパターン測光が使用できなくなり、RGBマルチパターン測光にセットした場合は、自動的に中央部重点測光で測光されます。

また、非CPUレンズを使用する場合は、露出モードがA（絞り優先オート）、M（マニュアル）でのみ使用可能になります。絞りのセットは、レンズの絞りリングでのみ行えます。「**レンズ情報手動設定**」でレンズの開放絞り値を設定しない場合、表示パネルとファインダー内表示の絞り値表示が開放からの絞り込み段数表示となりますので、絞りの確認は、レンズの絞りリングで行ってください。露出モードをP（プログラムオート）またはS（シャッター優先オート）にセットした場合は、露出モードを自動的にA（絞り優先オート）に切り換えて制御します。この場合、表示パネルのPまたはSが点滅して警告し、ファインダー内表示に**A**が点灯します。

CPUレンズにはCPU信号接点があります。その中でGタイプレンズには、レンズに「G」マークが、Dタイプレンズには、レンズに「D」マークがあります。

CPUレンズ

Gタイプレンズ

Dタイプレンズ

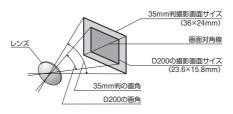
- Gタイプレンズには、絞りリングがありません。このため、このカメラで使用する場合、従来の絞りリングがあるレンズのように、絞りリングを最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットする必要がありません。

使用できないレンズ

下記の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- Ai改造をしていないレンズ（Ai方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm F4.5、600mm F5.6、800mm F8、1200mm F11）
- フィッシュアイ（6mm F5.6、8mm F8、OP10mm F5.6）
- 旧21mm F4
- K2リング
- ED180-600mm F8（製品No.174041～174180）
- ED360-1200mm F11（製品 No.174031～174127）
- 200-600mm F9.5（製品 No.280001～300490）
- F3AF用（80mm F2.8、200mm F3.5、テレコンバーター TC-16S）
- PC28mm F4（製品 No.180900以前の製品）
- PC35mm F2.8（製品 No.851001～906200）
- 旧PC35mm F3.5
- 旧レフレックス1000mm F6.3
- レフレックス1000mm F11（製品 No.142361～143000）
- レフレックス2000mm F11（製品 No.200111～200310）

レンズの画角と焦点距離について

D200ではさまざまなニコン35ミリフィルム一眼レフカメラ用レンズが使用できます。ただし、35 mm判カメラの撮影画面サイズは36×24 mmですが、D200では約23.6×15.8mmとなっており、35 mm判カメラとD200では、画面サイズが異なります。したがって、同じ焦点距離のレンズを使用して同じ距離から撮影した場合でも、画角（フィルム面に写し込む被写体の大きさや写り込む範囲）が35mm判カメラに対して変化します。

35mm判カメラの撮影画面サイズは、対角線の長さでD200の撮影画面サイズの約1.5倍です。したがって、D200に35mm判カメラ用レンズを装着した場合、その焦点距離はレンズに表記された数値に1.5を掛けた値に相当します。

カメラ	35ミリ判カメラ換算のおおよその焦点距離（mm）							
35ミリ判カメラ	17	20	24	28	35	50	60	85
D200	25.5	30	36	42	52.5	75	90	127.5

カメラ	35ミリ判カメラ換算のおおよその焦点距離（mm）							
35ミリ判カメラ	105	135	180	200	300	400	500	600
D200	157.5	202.5	270	300	450	600	750	900

装着可能なスピードライト（フラッシュ）

D200はニコンのクリエイティブライティングシステムに対応しており、クリエイティブライティングシステム対応のスピードライトSB-800、SB-600、リモート発光用のSB-R200との組み合わせにより、i-TTL調光（P.120）、FVロック（P.128）、オートFPハイスピードシンクロ（P.253）のほか、さまざまな機能が使用できます（P.282）。詳しくは各スピードライトの使用説明書をご覧ください。また、スピードライトSB-800、SB-600、SB-R200は、内蔵フラッシュをコマンダーとして使用した時、およびアドバンストワイヤレスライティング時の補助灯としてリモート発光させることが可能です。

SB-800

- ニコンスピードライトSB-800はガイドナンバー38（照射角35mm時、ISO100・m、20℃）の高性能スピードライトです。電源は単３形電池（詳しくはSB-800の使用説明書をご覧ください）を４本（付属の増設電池パックSD-800使用時は５本）使用しますが、外部電源（別売）としてSD-6、SD-7、SD-8A、パワーブラケットSK-6も併用できます。
- フラッシュヘッドが上方向90°から下方向7°、左方向180°から右方向90°の範囲で回転し、バウンス撮影や近接撮影ができます。
- レンズの焦点距離に応じて照射角を変化させるオートズーム機能（24～105mm）を備えています。また、内蔵ワイドパネルを使用すると、照射角が14mm、17mmになります。
- 周囲が暗い場合でも操作しやすいように、LCDと各操作スイッチにイルミネーターを備えています。
- SB-800のカスタム設定により、各機能の設定が効率よく行えます。

SB-600

- ニコンスピードライトSB-600はガイドナンバー30（照射角35mm時、ISO100・m、20℃）の高性能スピードライトです。電源は単３形電池（詳しくはSB-600の使用説明書をご覧ください）を４本使用します。
- フラッシュヘッドが上方向90°、左方向180°から右方向90°の範囲で回転し、バウンス撮影や近接撮影ができます。
- レンズの焦点距離に応じて照射角を変化させるオートズーム機能（24～85mm）を備えています。また、内蔵ワイドパネルを使用すると、14mmの照射角度になります。
- 周囲が暗い場合でも操作しやすいように、表示パネルおよび操作スイッチにイルミネーターを備えています。
- SB-600のカスタム設定により、各機能の設定が効率よく行えます。

SB-R200

- ニコンワイヤレスリモートスピードライトSB-R200はガイドナンバー10（ISO100・m、20℃）のリモート発光用スピードライトです。電源は3VのCR123Aリチウム電池（詳しくはSB-R200の使用説明書をご覧ください）を1本使用します（カメラ本体には直接装着できません）。
- SB-R200はアドバンストワイヤレスライティングに対応したカメラの内蔵フラッシュ、またはスピードライトSB-800、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800（別売）でリモート発光します。D200は内蔵フラッシュをコマンダーにしてSB-R200をリモート発光させることができます。
- アタッチメントリングSX-1およびアダプターリングを使用してレンズ先端に装着したり、スピードライトスタンドAS-20でカメラから離して設置したり、手持ちで照明することにより、i-TTL調光による多彩な近接（クローズアップ）撮影やリモート撮影が可能です。

SB-800、SB-600、SB-R200との組み合わせで使用可能な機能

スピードライト（別売）SB-800、SB-600、SB-R200を使用する場合、スピードライトとレンズの組み合わせによって次の機能が使用できます。装着レンズ欄の①はCPUレンズ（IXニッコール、F3AF用を除く）、②は非CPUレンズを示します。ただし、非CPUレンズを装着してレンズ情報（P.148）を設定した場合は①になります。

区分		スピードライト	SB-800				SB-600※1				SB-R200※2	
			1灯、カメラに装着		補助灯として使用		1灯、カメラに装着		補助灯として使用		補助灯として使用	
		装着レンズ	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
区分	i-TTL	i-TTL-BL調光	○※3	○※4	○	○	○※3	○※4	○	○	○	○
		スタンダードi-TTL調光	○※5	○※5			○※5	○※5				
	AA	絞り連動外部自動調光	○※6		○							
	A	外部自動調光	○※6	○		○						
	GN	距離優先マニュアル発光	○	○								
	M	マニュアル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		発光色温度情報伝達	○	○			○	○				
		オートFPハイスピードシンクロ	○※7	○※7	○※8	○※8	○※7	○※7	○※8	○※8	○※8	○※8
		FVロック	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		マルチエリアアクティブ補助光	○※9				○※9					
	RPT	リピーティングフラッシュ	○	○	○※10	○※10			○※10	○※10		
	REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		赤目軽減発光	○	○			○	○				
		オートズーム	○				○					
		ISO感度自動制御（カスタムメニューb1）	○	○			○	○				

※1　アドバンストワイヤレスライティング時は、補助灯としてのみ使用可能です。

※2　カスタムメニューe3「**内蔵フラッシュの発光モード**」(P.254)を「**コマンダーモード**」に設定するか、カメラに装着したスピードライトSB-800またはワイヤレススピードライトコマンダーSU-800（別売）を併用することにより、アドバンストワイヤレスライティングによるリモート発光が可能です（カメラ本体には直接装着できません）。

※3　測光モードをスポット測光以外にセットしてください。

※4　測光モードをスポット測光以外にセットしてください。撮影メニューの「**レンズ情報手動設定**」でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定すると、調光の精度が向上します。

※5　測光モードをスポット測光にしてください。また、スピードライト側でも設定可能です。

※6　絞り連動外部自動調光、外部自動調光の設定はスピードライト側で行ってください。

※7　カスタムメニューe1「**フラッシュ撮影時の同調速度**」(P.253)を「**1/250（オートFP)**」に設定してください。

※8　カスタムメニューe1「**フラッシュ撮影時の同調速度**」(P.253)を「**1/250（オートFP)**」に設定してください。内蔵フラッシュ本発光時は、FP発光は行われません。

※9　AFレンズ装着時のみ可能です。

※10　カメラに主灯としてスピードライトSB-800、またはコマンダーとしてワイヤレススピードライトコマンダーSU-800（別売）を装着している場合のみ使用可能です。

その他のスピードライト

以下のスピードライトを使用する場合、外部自動調光（A）あるいはマニュアル発光撮影となります。TTLにセットすると、カメラのシャッターボタンはロックされ、撮影できません。装着レンズによって機能が変わることはありません。

スピードライト			SB-80DX SB-28DX	SB-50DX	SB-28 SB-26 SB-25 SB-24	SB-30 SB-27※1 SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	SB-23 SB-29※2 SB-21B※2 SB-29S※2
区分	A	外部自動調光	○		○	○	
	M	マニュアル	○	○	○	○	○
	ϟϟϟ	マルチフラッシュ	○		○		
	REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 D200とSB-27を組み合わせると自動的にTTLモードにセットされますが、TTLモードでは使用できませんので、SB-27を強制Aモードにセットし直してください。

※2 SB-29S・29・21B使用時のオートフォーカス撮影は、一部のAFマイクロ（60mm・105mm・200mm）レンズ装着時のみ可能です。

✔ 他社製のフラッシュについて

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

スピードライト（別売）を使用する場合の注意

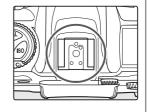
- スピードライトを装着すると、撮影状況にかかわらず、撮影時は常に発光します。
- 詳細はご使用になる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
  クリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、クリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、D200はSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- オートFPハイスピードシンクロを行わない場合、フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは1/250秒以下の低速シャッタースピードです。
- i-TTLや外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出アンダーになる可能性のある場合には、発光直後にレディーライト⚡が約3秒間点滅し、露出アンダー警告を行います。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲はISO100～1600相当です。
- ISO感度を1600よりも高く増感した場合には、距離や絞りによっては適正な発光量にならない場合があります。
- スピードライトSB-800、SB-600使用時で、フラッシュシンクロモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- D200とSB-800、SB-600以外のスピードライトの組み合わせでは、被写体が暗い場合でも、スピードライト側のAF補助光が照射されません。補助光の照射条件が満たされると、カメラ側のAF補助光が照射されます（P.95～96）。
- D200とSB-800、SB-600以外のスピードライトの組み合わせでは、オートパワーズーム機能は使用できません。
- 露出モードが P（プログラムオート）の場合、カメラが自動で設定するスピードライトの開放側の限界絞りは、使用する感度によって下表のように制御されます。

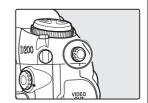
ISO感度と開放側の限界絞り（F）												
100	125	160	200	250	320	400	500	640	800	1000	1250	1600
4	4.2	4.5	4.8	5	5.3	5.6	6	6.3	6.7	7.1	7.6	8

※ 感度1段に対して絞りは1/2段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露光とならない場合があります。
- スピードライトSB-800、SB-600を使用するとき、測光モードを ⊡（スポット測光）にセットすると、スタンダードi-TTL調光になります。
- 内蔵フラッシュがポップアップした状態でスピードライトを装着した場合、内蔵フラッシュは発光しません。

ヒント アクセサリーシュー

このカメラはアクセサリーシューを装備しています。スピードライトSB-800・600・80DX・28DX・28・50DX・27・23・22S・29Sなどを使用する場合、アクセサリーシューに差し込むだけでコードレスで接続できます。セーフティロック機構（ロック穴）を備えていますので、セーフティロックピン付きのスピードライト（SB-800、SB-600など）を取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。

ヒント シンクロターミナル

シンクロコードを必要とするフラッシュ撮影時に、シンクロコードをシンクロターミナル（JIS-B型外れ防止ネジ付き）に接続してください。ただし、スピードライトSB-800・SB-600・80DX・28DX・28・50DX・27・23・22S・29Sなどをアクセサリーシューに装着した状態で後幕シンクロを行う場合には、シンクロターミナルに他のフラッシュを接続して増灯撮影などを行わないでください。

✔ スピードライトSB-800、SB-600装着時の感度自動制御について

カスタムメニューb1「**感度自動制御**」（P.239）を「**する**」に設定してスピードライト（別売）SB-800、SB-600を装着すると、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。ただしカスタムメニューb1が「**する**」に設定されていても、次のような場合は手前の被写体が露出アンダーになることがあります。

- 低速シャッタースピードでフラッシュ撮影（スローシンクロ）を行う場合
- 日中の明るい場所でフラッシュ撮影（日中シンクロ）を行う場合
- 背景が明るい場合

このような場合には、次の操作を行うことでフラッシュの照射光が届きやすくなります。

- 露出モードを**A**（絞り優先オート）などにして絞りを開く
- スローシンクロを解除する

その他の別売アクセサリー

<table>
<tr><td>電源</td><td>

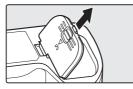
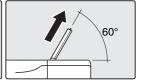
• Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e
付属のバッテリーと同型のものが別にお求めになれます。D200はEN-EL3eとの通信機能に対応しているため、バッテリーの状態をカメラで確認することができます (P.196)。
※EN-EL3a、EN-EL3はD200、MB-D200には使用できません。

• マルチパワーバッテリーパック MB-D200
Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3eを1個または2個、単3形電池(アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池、ニッケルマンガン電池)6本を使用してカメラに電源を供給することができます。MB-D200には縦位置シャッターボタンとメインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤル、AF作動ボタンが装備されているので、縦位置での撮影に便利です。カメラ本体のバッテリーカバーとMB-D200用接点カバーを取りはずして装着します。
バッテリーカバーは、下の図のように斜め上方向に引っ張ると無理なく取り外すことができます。装着する場合も、同じ角度で逆の方向に挿入してください。

• ACアダプター EH-6
D200で使用できるACアダプターです。

</td></tr>
<tr><td>ボディーキャップ</td><td>

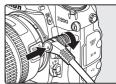
• ボディキャップBF-1A
レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ミラーやファインダースクリーンなどへのゴミやホコリの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。

</td></tr>
</table>

ファインダー用 アクセサリー	• **接眼補助レンズ** 遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えができます。－5、－4、－3、－2、0、＋0.5、＋1、＋2、＋3m^{-1}の9種類が用意されていますが、いずれもD200の視度調節ノブが調節範囲の中央（－1m^{-1}）の場合の値です。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に取り付けてお選びください。D200では、視度調節機能が内蔵されています（－2～＋1m^{-1}）ので、この範囲外の視度補正が必要なときにご使用ください。なお、接眼補助レンズを使用している場合は、接眼目当ては使用できません。 • **マグニファイングアイピースDK-21M** D200のファインダー倍率を約1.10倍（50 mm F 1.4レンズ使用時・∞・－1.0 m^{-1}のとき）に拡大します。 • **マグニファイヤー DG-2** ファインダー中央部の像を拡大します。接写や複写、超望遠レンズ使用時など、より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。別売のアイピースアダプターを装着することにより使用可能です。 • **アイピースアダプター** D200にマグニファイヤー DG-2を取り付けるためのアダプターです。 • **アングルファインダー DR-6** アングルファインダー DR-6をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。
ニコン デジタルカメラ 専用 ソフトウェア	• **Nikon Capture 4（Ver.4.4以降）** RAW画像をより詳細に編集できるソフトウェアです。Nikon Capture 4を使用すると、パソコンを操作して直接写真を撮影したり、撮影した画像を加工したり、ハードディスクなどへ保存したりできます。Ver.4.4以降がD200に対応しています。
PCカード アダプター	• **PCカードアダプター EC-AD1** CFカード（タイプ1）と組み合わせて、PC Card Standard-ATAに準拠したPCカードとして使用できます。CFカードの画像を、PCMCIAカードスロットを装備したパソコンに直接読み込めます。

フィルター	• ニコンフィルターは、ねじ込み式、平枠式、および後部交換式の3方式に大別されます。また、他社製の特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。 • カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL）をご使用ください。 • フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、L37C、またはNCフィルターのご使用をおすすめします。 • 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生する恐れがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 • フィルター係数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND2S、ND4S、ND4、ND8S、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、RGBマルチパターン測光、または3D-RGBマルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。詳しくは、各フィルターの使用説明書をご覧ください。

10ピンターミナルに接続するアクセサリー

10ピンターミナルに下記のアクセサリーを接続することにより、遠隔撮影や無人撮影などが行えます。

- 使用しない場合は、必ず10ピンターミナルにキャップをしてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。
- 10ピンターミナルへの接続は、図のように指標を合わせて接続します。

アクセサリー	用途	長さ
リモートコード MC-22	コード先端にある端子（青、黄、黒）に特殊装置を接続すると、音や信号による遠隔操作が可能です。	約1m
リモートコード MC-30	カメラブレを避けたい場合や、カメラから離れてレリーズ操作をしたい場合に便利です。また、長時間露出（バルブ）撮影用に、シャッターボタンをロックする機能も備えています。	約80cm
リモートコード MC-36	カメラブレを避けたい場合や、カメラから離れてレリーズ操作をしたい場合に便利です。また、設定時間間隔で撮影を行うインターバルタイマーの設定や、露光時間を指定した長時間露出が可能です。照明付きの表示パネルや、長時間露出（バルブ）撮影用にシャッターボタンをロックしたり、レリーズ中1秒ごとに電子音で知らせる機能を備えています。	約85cm
延長コード MC-21	MC-20、MC-22、MC-23、MC-25、MC-30、MC-36に併用可能な延長コードです。	約3m
接続コード MC-23	10ピンターミナルを装備するカメラを2台同時に作動させるための接続コードです。	約40cm
変換コード MC-25	2ピンターミナル用のラジオコントロールセットMW-2や、インターバロメーターMT-2、ルミコントロールセットML-2などを、10ピンターミナルに接続するための変換コードです。	約20cm
GPS変換コード MC-35	カメラとGPS機器で通信を行うための接続コードです。対応するGPS機器と通信を行うことにより、撮影時の緯度、経度、標高、標準時（UTC）が画像データに記録されます（P.154）。MC-35とGPS機器との接続には、各GPSメーカーより提供されるPC接続ケーブルが必要です。	約35cm
ルミコントロールセット ML-3	最大で約8m離れたところから、信号（赤外パルス光）による遠隔操作が行えます。また、あらかじめセットした撮影位置（送信機と受信機の間）に被写体が入ると自動的に撮影が行われるオートトリガー撮影も行なえます。	—

使用可能なメモリーカード

次のコンパクトフラッシュカード（CFカード）とマイクロドライブが使用可能です。

- **SanDisk社製コンパクトフラッシュカード：**

SDCFBシリーズ	128MB、256MB、512MB、1GB、2GB、4GB
SDCFBシリーズ（Type II）	300MB
SDCF2Bシリーズ（Type II）	256MB
SDCFHシリーズ（Ultra II）	256MB、512MB、1GB、2GB、4GB、8GB
SDCFXシリーズ（Extreme III）	1GB、2GB、4GB

- **LEXAR MEDIA社製コンパクトフラッシュカード：**

エントリーシリーズ	128MB、256MB、512MB
ハイスピード40X WAシリーズ	256MB、512MB、1GB
プロフェッショナル80X WAシリーズ	512MB、1GB、2GB、4GB
プロフェッショナル40X WAシリーズ	8GB
プロフェッショナル80X WA LockTightシリーズ	512MB、2GB

- **マイクロドライブ：**

DSCM-11000	1GB
3K4-2	2GB
3K4-4	4GB
3K6	6GB

※上記メモリーカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、メモリーカードメーカーにご相談ください。その他のメーカー製のメモリーカードにつきましては、動作の保証はいたしかねます。

メモリーカード使用上の注意

- カメラの使用直後にはメモリーカードが熱くなっている場合がありますので、ご注意ください。
- 未使用のメモリーカードや、パソコンなどでカメラ以外のデータを保存・削除したメモリーカードは、必ずカメラでフォーマット（初期化）してからご使用ください。
- メモリーカードのフォーマット中は、絶対にカメラからカードを取り出さないでください。カードが使用できなくなることがあります。
- メモリーカードへ記録・削除が行われているときや、パソコンとの通信時には、以下のことは行わないでください。記録されているデータの破損やカードの故障の原因となります。
  - ・カードの着脱をする
  - ・カメラの電源をOFFにする
  - ・バッテリーを取り出す
  - ・ACアダプターを抜く
- 端子部に手や金属を触れないでください。
- メモリーカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。

カメラとレンズのお手入れ

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出しておいてください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記のような場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%をこえる場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使った後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 **ご注意：カメラ内部にゴミやほこり、砂などが入りこむと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。**
レンズ/ミラー/ファインダー	ほこりや糸くずは、ブロアーで払います。スプレー缶式のブロアーの場合は、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つける恐れがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
液晶モニター	ほこりや糸くずは、ブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがあるのでご注意ください。

✓ 液晶モニターが破損したときのご注意

液晶モニターが破損した場合は、ガラスの破片でけがをしないようにご注意ください。また、液晶が皮膚や口、目に付かないようにご注意ください。

✓ 表示パネルの明るさの変動についてのご注意

まれに、ブロアーや布から起きた静電気で、表示パネルが明るくなったり暗くなったりすることがありますが、故障ではありません。すぐに通常の状態に戻ります。

ローパスフィルターのお手入れ

撮像素子の表面にあるローパスフィルターにゴミやほこりが付いていると、画像に影が写り込むことがあります。ローパスフィルターは以下の手順でクリーニングすることができますが、非常に傷つきやすいため、ニコンサービスセンターにクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

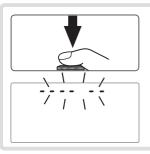
作業中のバッテリー切れを防ぐため、フル充電したバッテリー、または別売のACアダプター EH-6をお使いください。

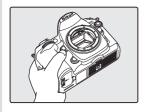
1 セットアップメニュー画面（P.183）から「**クリーニングミラーアップ**」を選択し、マルチセレクターの▶を押します。

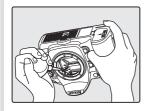
- 「クリーニングミラーアップ」の設定画面※が表示されます。

※バッテリー残量表示が ▭ 以下の場合、および単3形電池を電源として MB-D200（別売）を装着している場合や、多重露出による撮影中はこのメニュー項目は操作できません。

2 再度マルチセレクターの▶を押すと、クリーニングミラーアップの待機状態になります。

- この状態では、液晶モニターに「シャッターボタンを押すと、ミラーが上がりシャッターが開きます。終了するには、カメラの電源スイッチをOFFにします。」と表示されるほか、表示パネルに ‐ ‐ ‐ ‐　‐ ‐ が、ファインダー内表示に ‐ ‐ ‐　‐ ‐ が表示されます。
- クリーニングミラーアップの待機状態をキャンセルするには、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。

3 シャッターボタンを押し込みます。

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。
  このとき、表示パネルは ‐ ‐ ‐ ‐ ‐ ‐ の点滅となります。
  ファインダー内の表示は消灯します。

4 ローパスフィルターに光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検します。

- ゴミやほこりが付いていない場合は、ステップ**6**にお進みください。

5 ローパスフィルターに付いたゴミやほこりをブロアーで払います。

- ブラシの付いていないブロアーをご使用ください。ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービスセンターにクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。

6 カメラの電源スイッチをOFFにし、付属のボディーキャップをつけます。

- ミラーが下がり、シャッター幕が閉じます。

☑ 作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕は、カメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっております。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーを取り出さないでください。また、別売のACアダプターEH-6を使用する場合は、作業中にACアダプターを抜かないでください。
- ミラーアップ中にバッテリーの残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、AF補助光が点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンしますので、ただちに作業を終了してください。

☑ 撮像素子表面ゴミ付着についてのご注意

ニコンデジタルカメラは撮像素子表面に付着するゴミについて、当社の品質基準に基づいて製造、出荷しています。しかし、D200はレンズ交換方式のため、レンズ交換の際にカメラ内にゴミが入り込むことがあり、撮影条件によっては、撮像素子表面に付着したゴミが写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換は避け、レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。その際、ボディーキャップのゴミも必ず除去してください。撮像素子表面に付着したゴミは、上記の手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービスセンターにクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、別売のNikon Capture 4（Ver.4.4以降）や画像加工アプリケーションなどで修正できます。

☑ 定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

- とくに業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

カメラと付属品の取り扱い上のご注意

カメラとレンズの取り扱い上のご注意

●強いショックを与えないでください

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

●水にぬらさないでください

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

●急激な温度変化を与えないでください

極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

●強い電波や磁気の発生する場所で撮影しないでください

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しない場合があります。

●長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼きつきを起こす恐れがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

●カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

●ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやホコリが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶方式のブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにご使用ください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

●ローパスフィルターの手入れ方法について

ローパスフィルターのクリーニングの方法については P.292 をご覧ください。

●レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

●シャッター幕に触れないでください

シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。

●風通しのよい場所に保管してください

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

●長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管してください

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液漏れなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

●バッテリーや AC アダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源を OFF にしてください

カメラの電源が ON の状態で、バッテリーの取り出しや AC アダプターの取り外しを行うと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

●液晶モニターについて

- 液晶モニターの特性上、常時点灯あるいは非点灯の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。予めご了承ください。また、記録される画像には影響ありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくい場合があります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。もしホコリやゴミ等が付着した場合は、ブロアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。
- カメラをご使用にならない場合や持ち運ぶ場合は、汚れ、傷を防ぐため液晶モニターに付属のモニターカバーを取り付けてください。

バッテリーの取り扱いについて

●接点の汚れについて

バッテリーの接点が汚れている場合は、乾いた布などで拭いてください。

●バッテリーに関する使用上のご注意

バッテリーの使用方法を誤ると液漏れにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。

- バッテリーはカメラの電源を OFF にしてから入れてください。
- バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるのでご注意ください。
- 必ず指定のバッテリーをお使いください。
- バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしないでください。
- カメラから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付けてください。

●撮影の前にバッテリーをあらかじめ充電してください

撮影の際は、バッテリーの充電を行ってください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていないので、ご注意ください。

●予備バッテリーを用意してください

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

●低温時には充分に充電されたバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意してください

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しない場合があります。低温時には充分に充電されたバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使える場合があります。

●バッテリーの残量について

電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源の ON ／ OFF を繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してご使用ください。

●充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しないでください

バッテリー性能が劣化します。

●バッテリーのリサイクルについて

Li-ion

充電を繰り返して劣化し使用できなくなったバッテリーは廃棄せず、再利用のためリサイクルにご協力ください。端子にテープなどを貼り付けて絶縁させてから、ニコンサービスセンターやリサイクル協力店へご持参ください。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービスセンターにお問い合わせになる前に、以下の項目をご確認ください。

表示関連

症状	ここをご確認ください	ページ
ファインダー内がはっきり見えない	視度調節ダイヤルで調節してください。調節後も見え方が不充分な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いください。	P.24、287
ファインダー内が暗い	バッテリー残量は充分ですか？　バッテリーが入っていない場合や、入っていても残量が無い場合は、ファインダー内が暗く表示される場合があります。	P.9、26
ファインダー内や表示パネル、液晶モニターの表示が、すぐに消えてしまう	カスタムメニューc3「**半押しタイマー**」、カスタムメニューc5「**液晶モニターのパワーオフ**」で、表示が消えるまでの時間を設定することができます。	P.247
表示パネルに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しない	下記の「デジタルカメラの特性について」をご覧ください。	—
表示パネルやファインダー内の表示が薄い、表示が遅い	低温や高温のときは液晶表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなる場合があります。	—
ファインダー内に赤い線や模様が見える	液晶の特性上、フォーカスエリアなどから外側に延びる細い線が見えたり、フォーカスエリアを照明するときにファインダー内が赤くなる場合がありますが、いずれも故障ではありません。	—

☑ デジタルカメラの特性についてのご注意

きわめて希なケースとして、液晶モニターに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。万一このような状態になった場合は、電源スイッチをOFFにしてバッテリーを入れ直し、電源スイッチをONにしてカメラを作動させてみてください。その際、カメラを長時間使用していますとバッテリーが熱くなっていることがありますので、取り扱いには充分にご注意ください。ACアダプターのご使用時は、いったんカメラから取り外して再度カメラに取り付け、電源スイッチをONにしてカメラを作動させてみてください。また、この操作を行うことでカメラが作動しなくなった状態のときのデータは、失われるおそれがありますが、すでにメモリーカードに記録されているデータは失われることはありません。この操作を行ってもカメラに不具合が続く場合は、ニコンサービスセンターにお問い合わせください。

撮影関連

症状	ここをご確認ください	ページ
電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる	メモリーカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。	—
シャッターがきれない	• 空き容量のあるメモリーカードが入っていますか？ • 内蔵フラッシュの充電中はシャッターがきれません。 • ピント表示●は点灯していますか？ • Gタイプレンズ以外のCPUレンズを装着している場合は、レンズの絞りリングを最小絞り（もっとも大きい数値）に設定しないとシャッターがきれません。カスタムメニューf5「**コマンドダイヤル設定**」の「**サブコマンドダイヤルでの絞り値設定**」を「**しない（絞りリングで設定）**」に設定するとレンズの絞り環で絞り値を設定できます。 • 露出モード M でシャッタースピードを bulb に設定し、そのまま露出モードを S に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください。	P.26 P.123 P.30 P.103、271、278 P.104、108
ファインダーで見た視野と、撮影される画像の範囲が違う	このカメラのファインダー視野率は上下左右とも約95％です。このため、ファインダーで見た視野よりも、やや広い範囲が撮影されます。	P.319
ピントが合わない	• マニュアルフォーカスになっていませんか？ オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードダイヤルを**S**（AF-S：シングルAFサーボ）または**C**（AF-C：コンティニュアスAFサーボ）にセットしてください。 • 以下のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください。 明暗差がはっきりしない／遠くのものと近くのものが混在する／連続した繰り返しパターン／輝度差が著しく異なる／背景に対して主要被写体が小さい／絵柄が細かい	P.84 P.93、97
設定できるシャッタースピードの範囲が狭い	フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは、カスタムメニューe1「**フラッシュ撮影時の同調速度**」で、1/250～1/60秒の範囲で設定できます。「**1/250（オートFP）**」に設定して、スピードライト（別売）SB-800、SB-600、SB-R200を使用すると、全シャッタースピードに同調可能なオートFPハイスピードシンクロが可能です。	P.123、253

症状	ここをご確認ください	ページ
シャッターボタンを半押ししても、フォーカスがロックされない	フォーカスモードダイヤルが**C**（AF-C：コンティニュアスAFサーボ）にセットされている場合、AE-L AF-Lボタンを押してフォーカスをロックしてください。	P.84、94
画像サイズが変更できない	「**画質モード**」が「**RAW**」のときは、画像サイズを変更できません。	P.41
フォーカスエリアを選択できない	• フォーカスエリアロックレバーが**L**（ロック）の位置になっていませんか？ • AFエリアモードが至近優先ダイナミックAFモードのときは、選択できません。 • 液晶モニターが点灯していませんか？　液晶モニターの点灯中はフォーカスエリアを選択できません。 • 半押しタイマーがきれていませんか？フォーカスエリアを選択するには、シャッターボタンを半押しして半押しタイマーを作動させてください。	P.86 P.89 P.86 P.25
画像の記録に時間がかかる	撮影メニュー「**長秒時ノイズ除去**」が「**する**」になっていませんか？	P.208
画像がざらつく	• ISO感度が高くなっていませんか？ ISO400以上の高感度で撮影する場合、撮影メニュー「**高感度ノイズ除去**」を「**しない**」以外に設定すれば、ざらつきを軽減できます。 • シャッタースピードが約８秒よりも低速な場合は、ノイズが発生しやすくなります。撮影メニュー「**長秒時ノイズ除去**」を「**する**」にして撮影すれば、ざらつきを軽減できます。	P.48、209 P.208
AF補助光ランプが光らない	• 次の場合、AF補助光は発光しません。 ・フォーカスモードダイヤルが**C**（AF-C：コンティニュアスAFサーボ）にセットされている場合 ・シングルエリアAFまたはダイナミックAF時に中央以外のフォーカスエリアが選択された場合 ・グループダイナミックAF時、中央以外のグループ選択されているか、カスタムメニューa4「**グループダイナミックAF**」が「**至近優先**」に設定された場合 • カスタムメニューa9「**内蔵AF補助光**」が「**OFF**」になっていませんか？ • AF補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に点灯が制限されます。少し時間をおくと再び点灯するようになります。また、短時間に何回も使うと、AF補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。	P.84 P.88 P.89、233 P.238 —
画像にゴミが写り込む	• レンズが汚れていませんか？ • ローパスフィルターにゴミが付着していませんか？	P.291 P.292

症状	ここをご確認ください	ページ
画像の色合いがおかしい	• ホワイトバランスは正しく設定されていますか？ • 撮影メニュー「**仕上がり設定**」は正しく設定されていますか？	P.51 P.75
ホワイトバランスのプリセットデータが取得できない	被写体が明るすぎるか、暗すぎます。	P.59
ホワイトバランスのプリセットデータとして設定できない画像がある	D200以外のカメラで撮影した画像は、プリセットデータとして設定することはできません。	P.67
ホワイトバランス（WB）ブラケティング撮影ができない	• 画質モードが「**RAW**」、「**RAW＋FINE**」、「**RAW＋NORMAL**」、「**RAW＋BASIC**」の場合、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません。 • ホワイトバランスを **K**（色温度設定）または **PRE**（プリセット）に設定している場合、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません。 • ホワイトバランスブラケティングと多重露出による撮影を同時に行うことはできません。	P.41、74 P.51 P.136
仕上がり設定の効果が安定しない	「**仕上がり設定**」の「**カスタマイズ**」で、各項目を個別に設定してください。その際、「**輪郭強調**」、「**階調補正**」、「**彩度設定**」は「**オート**」以外にしてください。	P.77
測光モードが変更できない	AEロック中は測光モードを変更できません。	P.112
露出補正ができない	露出モードが **M** の場合、露出補正はできません。	P.113
連続撮影できない	内蔵フラッシュがポップアップしているときは、連続撮影できません。	P.121

再生関連

症状	ここをご確認ください	ページ
RAW画像が表示されない	画質モードを「**RAW＋FINE**」、「**RAW＋NORMAL**」、「**RAW＋BASIC**」にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません。	P.41
すべての画像が表示されない	再生メニュー「**再生フォルダー設定**」を「**全てのフォルダー**」にしてください。	P.215

症状	ここをご確認ください	ページ
画像の縦位置・横位置が正しく表示されない	• 再生メニュー「**縦位置自動回転**」が「**しない**」になっていませんか？ • セットアップメニュー「**縦横位置情報の記録**」が「**記録しない**」になっていませんか？ • 連続撮影したときの縦横位置は、最初の1コマを撮影した構図で固定されます。 • カメラを上向き・下向きにして撮影すると、姿勢情報が正しく得られない場合があります。	P.225 P.190 P.39 P.190
画像が削除できない	画像にプロテクトが設定されていませんか？	P.165
「撮影画像がありません」と表示される	メモリーカードを交換直後に画像を再生するときは、再生メニュー「**再生フォルダー設定**」を「**全てのフォルダー**」にしてください。	P.215
プリント指定ができない	メモリーカードの空き容量が不足していませんか？	P.220
ダイレクトプリントができない	セットアップメニュー「**USB設定**」が「**PTP**」になっていますか？	P.176、193
RAW画像をプリントできない	RAW画像はパソコンに転送してから、付属ソフトウェアやNikon Capture 4（Ver. 4.4以降）などのソフトウェアを使ってプリントしてください。	P.41、169
画像がテレビに映らない	セットアップメニュー「**ビデオ出力**」が正しく設定されていますか？	P.186
画像をパソコンに転送できない	セットアップメニュー「**USB設定**」が正しく設定されていますか？	P.169、193
ニコンキャプチャーのカメラコントロール機能が使えない	セットアップメニュー「**USB設定**」が「**PTP**」になっていますか？	P.170、193

その他

症状	ここをご確認ください	ページ
撮影日時が正しく表示されない	カメラの内蔵時計は合っていますか？　カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないので、定期的に日時設定を行うことをおすすめします。	P.15、187
表示されているメニュー項目が選択できない	一部のメニュー項目は、使用しているアクセサリーの有無などによって選択できない場合があります。 • セットアップメニュー「**カードフォーマット**」と再生メニューの全項目は、メモリーカードがカメラに挿入されている場合のみ選択できます。 • セットアップメニュー「**電池チェック**」は電源に別売ACアダプター EH-6を使用している場合や、単3形電池を挿入した別売バッテリーパックMB-D200を装着している場合、選択できません。	—

警告メッセージ

表示パネル、ファインダー、液晶モニターに表示される警告メッセージの意味は以下の通りです。

表示パネル	ファインダー	原因	対処方法	ページ
FEE（点滅）	FEE（点滅）	レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	レンズの絞りリングを最小絞りにしてください。	P.11
[バッテリー残量表示]	[バッテリー残量表示]	バッテリー残量が残りわずかです。	バッテリー交換の準備をしてください。	P.26
[バッテリー残量表示]（点滅）	[バッテリー残量表示]（点滅）	• バッテリーが消耗しています。 • バッテリーとの情報通信ができません。	• バッテリーを交換してください。 • このバッテリーは使用できません。	P.26 P.13
CLOCK（点滅）	—	内蔵時計の日時が設定されていません。	日時を設定してください。	P.15、187
⊿F	⊿F	開放絞りからの絞り段数が表示されています。非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態で、レンズの開放絞り値が設定されていません。	レンズの開放絞り値を設定すると、レンズの絞り値が表示されます。	P.148
—	●（点滅）	オートフォーカスでピント合わせができません。	マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。	P.98
Hi	Hi	被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	• ISO100よりも高感度の場合、ISO感度を低感度に設定してください。 • P モード時はND（光量調節用フィルター）を使用してください（S、A モード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • S モード時はシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 • A モード時はより大きい数値の絞りにしてください。	P.48 P.288 P.104 P.106

表示パネル	ファインダー	原因	対処方法	ページ
Lo	Lo	被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	• ISO 1600未満であれば、ISO感度を高感度に設定し直してください。 • P モード時はフラッシュを使用してください（S、A モード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • S モード時はシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 • A モード時はより小さい数値の絞りにしてください。	P.48 P.120 P.104 P.106
bulb（点滅）	bulb（点滅）	S モード時にシャッタースピードが bulb にセットされています。	bulb 以外のシャッタースピードにセットするか、M モードにセットしてください。	P.104、108
（点滅）	⚡（点滅）	i-TTL調光に対応していないスピードライト（別売）をTTLモードにセットしています。	TTLモード以外のモードにセットしてください。	P.283
FuLL 0（点滅）	FuL（点滅）	• 画像を記録する空き容量がありません。 • カメラが扱えるファイル数をオーバーしています。	• カードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいカードに交換してください。	P.213 P.20
[-E-]	（点滅）／[-E-]	メモリーカードが入っていないか、正しくセットされていません。	メモリーカードを正しくセットしてください。	P.20

表示パネル	ファインダー	原因	対処方法	ページ
Err（点滅）	Err（点滅）	撮影中に何らかの異常を検出しました。	再度シャッターボタンを押してください。この操作で警告表示が解除されなかったり、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービスセンターにご相談ください。	P.329

液晶モニター	表示パネル／ファインダー	原因	対処方法	ページ
カードが入っていません	[-E-]／（点滅）、[-E-]	メモリーカードが入っていないか、正しくセットされていません。	メモリーカードを正しくセットしてください。	P.20
このカードは使用できません	[CHA]（点滅）／[CHA]（点滅）	• メモリーカードへのアクセス異常です。 • 新規フォルダーが作成できません。	• D200用のメモリーカードであるかどうかを確認してください。 • メモリーカードがこわれている可能性があります。ニコンサービスセンターまでご連絡願います。 • カードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいカードに交換してください。	P.290 P.329 P.169、213 P.20
カードが初期化されていません。フォーマットしてください（再生ボタン ▶ を押したときのみ）	[For]（点滅）／[For]（点滅）	メモリーカードが正しくフォーマットされていません。	• メモリーカードのフォーマットを行ってください。 • 正しくフォーマットされたメモリーカードに交換してください。	P.20、21

付録 警告メッセージ

液晶モニター	表示パネル／ファインダー	原因	対処方法	ページ
撮影画像がありません	—／—	• 撮影画像がありません。 • 再生するフォルダーの指定に問題があります。	• 画像が記録されているメモリーカードを入れてください。 • 再生メニューの「**再生フォルダー設定**」で、表示可能な画像があるフォルダーを選択してください。	P.20 P.215
全て非表示です	—／—	記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。	再生メニュー画面の「非表示設定」で、画像の非表示設定を解除してください。	P.218
このファイルは表示できません	—／—	• アプリケーションソフトで編集された画像やDCF規格外の画像ファイルのため再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。	アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。	—

資料集

この「資料集」では、次の表や、グラフ、一覧を掲載しています。

このカメラの準拠規格

- Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- DPOF（Digital Print Order Format）：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- Exif Version 2.21：（Exif＝Exchangeable image file format for digital still cameras）：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報をいかして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- PictBridge：デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。

画質モード・画像サイズと記録・連続撮影可能コマ数 (P.41、46)

撮影された画像のファイルサイズは、画質モードと画像サイズによって決定されます。そのため、メモリーカードに記録できる画像のコマ数は画質モードと画像サイズの組み合わせによって変化します。1GBのメモリーカードで記録できるコマ数、および連続で撮影できるコマ数は、それぞれの設定で以下のようになります(SanDisk社製メモリーカードSDCFXシリーズ(Extreme Ⅲ)の場合)。

画質モード		画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※1	連続撮影可能コマ数※1、※2
RAW(非圧縮)+FINE※3		L※4	約20.7MB	44コマ	約19コマ
		M※4	約18.6MB	49コマ	約19コマ
		S※4	約17.1MB	55コマ	約19コマ
RAW(圧縮)+FINE※3		L※4	※5	※7	約20コマ
		M※4	※5	※7	約20コマ
		S※4	※5	※7	約20コマ
RAW(非圧縮)+NORMAL※3		L※4	約18.3MB	50コマ	約19コマ
		M※4	約17.2MB	54コマ	約19コマ
		S※4	約16.5MB	57コマ	約19コマ
RAW(圧縮)+NORMAL※3		L※4	※5	※7	約20コマ
		M※4	※5	※7	約20コマ
		S※4	※5	※7	約20コマ
RAW(非圧縮)+BASIC※3		L※4	約17.1MB	55コマ	約19コマ
		M※4	約16.5MB	57コマ	約19コマ
		S※4	約16.2MB	58コマ	約19コマ
RAW(圧縮)+BASIC※3		L※4	※5	※7	約20コマ
		M※4	※5	※7	約20コマ
		S※4	※5	※7	約20コマ
RAW	非圧縮	—	約15.8MB	60コマ	約22コマ
	圧縮	—	※6	※7	約23コマ

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※1	連続撮影可能コマ数※1、※2
FINE※3	L	約4.8MB	167コマ	約37コマ※8
	M	約2.7MB	294コマ	約56コマ※8
	S	約1.2MB	650コマ	約74コマ※8
NORMAL※3	L	約2.4MB	332コマ	約54コマ※8
	M	約1.4MB	578コマ	約74コマ※8
	S	約0.63MB	1200コマ	約76コマ※8
BASIC※3	L	約1.2MB	650コマ	約57コマ※8
	M	約0.7MB	1100コマ	約75コマ※8
	S	約0.33MB	2200コマ	約76コマ※8

※1 カードの種類や撮影条件により、コマ数は増減することがあります。

※2 ISO感度が100の場合の数値です。連続撮影可能コマ数は次のような場合、減少します。

- 撮影メニューの「**JPEG圧縮**」を「**画質優先**」に設定してJPEG画像を撮影した場合
- 高感度ノイズ除去が機能した場合
- 撮影メニューの「**長秒時ノイズ除去**」を「**ON**」に設定した場合

※3 1コマあたりのファイルサイズおよび記録可能コマ数は、撮影メニューの「**JPEG圧縮**」が「**サイズ優先**」に設定されている場合です。「**JPEG圧縮**」を「**画質優先**」に設定した場合、JPEG画像は「**サイズ優先**」設定時に対して最大約1.8倍のファイルサイズになり、その分記録可能コマ数が減少します。

※4 画像サイズはJPEG画像のみに反映されます。RAW画像の画像サイズは指定できません。

※5 RAW（圧縮）画像とJPEG画像のファイルサイズの合計になります。RAW（圧縮）画像はRAW（非圧縮）画像に対して約50%～60%のファイルサイズになります。

※6 RAW（非圧縮）画像に対して約50%～60%のファイルサイズになります。

※7 記録可能コマ数表示部に表示されるコマ数は、撮影開始時にはRAWの非圧縮に設定した場合と同じコマ数で表示されますが、RAWの非圧縮よりもファイルサイズが小さいため、撮影を行うとコマ数の減少が少なくなり、実際の記録可能コマ数は撮影開始時よりも多くなります。

※8 連続撮影可能コマ数が25コマ以上の場合、実際の連続撮影可能コマ数にかかわらず、連続撮影可能コマ数表示部に r25 と表示されます。

ホワイトバランスの各微調整値に対する色温度 (P.55)

A（オート）以外の各ホワイトバランスで微調整を行うと、設定色温度は次のように変化します。

	電球	蛍光灯※	晴天（自然光）	フラッシュ	曇天（自然光）	晴天日陰（自然光）
＋3	約2700K	約2700K	約4800K	約4800K	約5400K	約6700K
＋2	約2800K	約3000K	約4900K	約5000K	約5600K	約7100K
＋1	約2900K	約3700K	約5000K	約5200K	約5800K	約7500K
±0	約3000K	約4200K	約5200K	約5400K	約6000K	約8000K
－1	約3100K	約5000K	約5300K	約5600K	約6200K	約8400K
－2	約3200K	約6500K	約5400K	約5800K	約6400K	約8800K
－3	約3300K	約7200K	約5600K	約6000K	約6600K	約9200K

※ 蛍光灯モードの場合、他のモードと異なり多様な蛍光灯に対して以下のように選択できます。

	色温度	適した蛍光灯
＋3	約2700K	野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光など
＋2	約3000K	電球色蛍光灯
＋1	約3700K	温白色蛍光灯
±0	約4200K	白色蛍光灯
－1	約5000K	昼白色蛍光灯
－2	約6500K	昼光色蛍光灯
－3	約7200K	高色温度の水銀灯など

- 写真用カラーメーターで測定した色温度値とカメラの設定色温度は異なる場合があります。

撮影コマ数と補正ステップの組み合わせ（WBブラケティング時）（P.72）

カスタムメニュー e5「**オートブラケティングのセット**」を「**WBブラケティング**」に設定した場合は、次の撮影コマ数と補正ステップがセットできます。

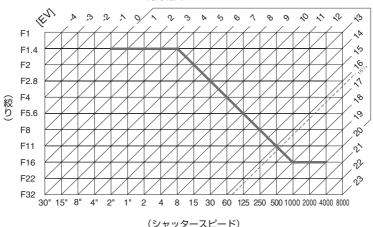
表示パネル（撮影コマ数／補正ステップ／WBブラケティングインジケーター）	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
+3F 1	3	＋1段	＋1/0/＋2
+3F 2	3	＋2段	＋2/0/＋4
+3F 3	3	＋3段	＋3/0/＋6
-3F 1	3	－1段	－1/－2/0
-3F 2	3	－2段	－2/－4/0
-3F 3	3	－3段	－3/－6/0
+2F 1	2	＋1段	0/＋1
+2F 2	2	＋2段	0/＋2
+2F 3	2	＋3段	0/＋3
-2F 1	2	－1段	0/－1
-2F 2	2	－2段	0/－2
-2F 3	2	－3段	0/－3
3F 1	3	±1段	0/－1/＋1
3F 2	3	±2段	0/－2/＋2
3F 3	3	±3段	0/－3/＋3
5F 1	5	±1段	0/－2/－1/＋1/＋2
5F 2	5	±2段	0/－4/－2/＋2/＋4
5F 3	5	±3段	0/－6/－3/＋3/＋6
7F 1	7	±1段	0/－3/－2/－1/＋1/＋2/＋3
7F 2	7	±2段	0/－6/－4/－2/＋2/＋4/＋6
7F 3	7	±3段	0/－9/－6/－3/＋3/＋6/＋9

表示パネル （撮影コマ数／補正ステップ／ WBブラケティングインジケーター）	撮影 コマ数	補正 ステップ	撮影順序
9F 1	9	±1段	0/−4/−3/−2/−1/ +1/+2/+3/+4
9F 2	9	±2段	0/−8/−6/−4/−2/ +2/+4/+6/+8
9F 3	9	±3段	0/−12/−9/−6/−3/ +3/+6/+9/+12

プログラム線図 (P.102)

次のグラフのプログラム線図は、露出モードを **P**（プログラムオート）にセットして撮影する場合の露出制御を表しています。

ISO100、開放絞りf1.4・最小絞りf/16のレンズ
（例：AF50mm F1.4D）の場合

測光範囲：EV 0〜20

- 測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO100の場合16⅓を超えるEV値では、すべて16⅓として制御されます。

付録　資料集

撮影コマ数と補正ステップの組み合わせ
(AE・フラッシュ、AE、フラッシュブラケティング時)(P.116)

カスタムメニュー e5「**オートブラケティングのセット**」を「**AE・フラッシュブラケティング**」、「**AEブラケティング**」、「**フラッシュブラケティング**」に設定した場合は、次の撮影コマ数と補正ステップがセットできます(カスムセッティングb3「**露出設定ステップ幅**」の設定内容により、セットできる補正ステップが異なります)。

- カスムセッティングb3「**露出設定ステップ幅**」(P.242)を「**1/3段**」(初期設定)に設定した場合

表示パネル(撮影コマ数/補正ステップ/オートブラケティングインジケーター)	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
+3F 0.3	3	＋1/3段	＋0.3/0/＋0.7
+3F 0.7	3	＋2/3段	＋0.7/0/＋1.3
+3F 1.0	3	＋1段	＋1.0/0/＋2.0
−3F 0.3	3	−1/3段	−0.3/−0.7/0
−3F 0.7	3	−2/3段	−0.7/−1.3/0
−3F 1.0	3	−1段	−1.0/−2.0/0
+2F 0.3	2	＋1/3段	0/＋0.3
+2F 0.7	2	＋2/3段	0/＋0.7
+2F 1.0	2	＋1段	0/＋1.0
−2F 0.3	2	−1/3段	0/−0.3
−2F 0.7	2	−2/3段	0/−0.7
−2F 1.0	2	−1段	0/−1.0
3F 0.3	3	±1/3段	0/−0.3/＋0.3
3F 0.7	3	±2/3段	0/−0.7/＋0.7
3F 1.0	3	±1段	0/−1.0/＋1.0
5F 0.3	5	±1/3段	0/−0.7/−0.3/＋0.3/＋0.7
5F 0.7	5	±2/3段	0/−1.3/−0.7/＋0.7/＋1.3

表示パネル （撮影コマ数／補正ステップ／ オートブラケティングインジケーター）	撮影 コマ数	補正 ステップ	撮影順序
5F 1.0	5	±1段	0/−2.0/−1.0/ +1.0/+2.0
7F 0.3	7	±1/3段	0/−1.0/−0.7/ −0.3/+0.3/ +0.7/+1.0
7F 0.7	7	±2/3段	0/−2.0/−1.3/ −0.7/+0.7/ +1.3/+2.0
7F 1.0	7	±1段	0/−3.0/−2.0/ −1.0/+1.0/ +2.0/+3.0
9F 0.3	9	±1/3段	0/−1.3/−1.0/ −0.7/−0.3/+0.3/ +0.7/+1.0/+1.3
9F 0.7	9	±2/3段	0/−2.7/−2.0/ −1.3/−0.7/+0.7/ +1.3/+2.0/+2.7
9F 1.0	9	±1段	0/−4.0/−3.0/ −2.0/−1.0/+1.0/ +2.0/+3.0/+4.0

- カスムセッティングb3「**露出設定ステップ幅**」(P.242)を「**1/2段**」に設定した場合

表示パネル（撮影コマ数／補正ステップ／オートブラケティングインジケーター）	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
+3F 0.5	3	＋1/2段	＋0.5/0/＋1.0
+3F 1.0	3	＋1段	＋1.0/0/＋2.0
--3F 0.5	3	－1/2段	－0.5/－1.0/0
--3F 1.0	3	－1段	－1.0/－2.0/0
+2F 0.5	2	＋1/2段	0/＋0.5
+2F 1.0	2	＋1段	0/＋1.0
--2F 0.5	2	－1/2段	0/－0.5
--2F 1.0	2	－1段	0/－1.0
3F 0.5	3	±1/2段	0/－0.5/＋0.5
3F 1.0	3	±1段	0/－1.0/＋1.0
5F 0.5	5	±1/2段	0/－1.0/－0.5/＋0.5/＋1.0
5F 1.0	5	±1段	0/－2.0/－1.0/＋1.0/＋2.0
7F 0.5	7	±1/2段	0/－1.5/－1.0/－0.5/＋0.5/＋1.0/＋1.5
7F 1.0	7	±1段	0/－3.0/－2.0/－1.0/＋1.0/＋2.0/＋3.0
9F 0.5	9	±1/2段	0/－2.0/－1.5/－1.0/－0.5/＋0.5/＋1.0/＋1.5/＋2.0
9F 1.0	9	±1段	0/－4.0/－3.0/－2.0/－1.0/＋1.0/＋2.0/＋3.0/＋4.0

- カスムセッティングb3「露出設定ステップ幅」(P.242) を「1段」に設定した場合

表示パネル（撮影コマ数／補正ステップ／オートブラケティングインジケーター）	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
+3F 1.0	3	＋1段	＋1.0/0/＋2.0
--3F 1.0	3	−1段	−1.0/−2.0/0
+2F 1.0	2	＋1段	0/＋1.0
--2F 1.0	2	−1段	0/−1.0
3F 1.0	3	±1段	0/−1.0/＋1.0
5F 1.0	5	±1段	0/−2.0/−1.0/＋1.0/＋2.0
7F 1.0	7	±1段	0/−3.0/−2.0/−1.0/＋1.0/＋2.0/＋3.0
9F 1.0	9	±1段	0/−4.0/−3.0/−2.0/−1.0/＋1.0/＋2.0/＋3.0/＋4.0

内蔵フラッシュの調光範囲（光の届く範囲）と限界絞り値（P.123）

内蔵フラッシュはISO感度と絞り値によって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。下表を参考にしてください。

ISO感度および絞り値													調光範囲 (m)
100	125	160	200	250	320	400	500	640	800	1000	1250	1600	
1.4	1.6	1.8	2	2.2	2.5	2.8	3.2	3.5	4	4.5	5	5.6	1～7.5
2	2.2	2.5	2.8	3.2	3.5	4	4.5	5	5.6	6.3	7.1	8	0.7～5.4
2.8	3.2	3.5	4	4.5	5	5.6	6.3	7.1	8	9	10	11	0.6～3.8
4	4.5	5	5.6	6.3	7.1	8	9	10	11	13	14	16	0.6～2.7
5.6	6.3	7.1	8	9	10	11	13	14	16	18	20	22	0.6～1.9
8	9	10	11	13	14	16	18	20	22	25	29	32	0.6～1.4
11	13	14	16	18	20	22	25	29	32	—	—	—	0.6～0.9
16	18	20	22	25	29	32	—	—	—	—	—	—	0.6～0.7

※ 内蔵フラッシュで調光できる最短撮影距離は0.6mです。

- 露出モードが P（プログラムオート）の場合、内蔵フラッシュ使用時にカメラが自動で設定する限界絞りは、使用する感度によって下表のように制御されます。

ISO感度と開放側の限界絞り（F）												
100	125	160	200	250	320	400	500	640	800	1000	1250	1600
2.8	3	3.2	3.3	3.5	3.8	4	4.2	4.5	4.8	5	5.3	5.6

※ 感度1段に対して絞りは1/2段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

内蔵フラッシュに使用可能なレンズ（P.122）

内蔵フラッシュには、18mmから300mmまでのCPUレンズが使用できます。

- ケラレを防止するため、レンズフードは取り外して使用してください。
- 撮影距離0.6m未満では使用できません。
- マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
- 下記のズームレンズではケラレが発生し、写真の周辺光量が低下しますので、使用できる焦点距離や撮影距離に制限があります。

レンズ	条件
AF-S DX ED 12-24mm F4G	焦点距離18mm時の撮影距離1.5m以上、 焦点距離20mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S ED 17-35mm F2.8D	焦点距離24mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S DX ED 17-55mm F2.8G（IF）	焦点距離24mm時の撮影距離1mで使用可能
AF ED 18-35mm F3.5-4.5D	焦点距離18mm時の撮影距離1.5m以上で使用可能
AF-S DX VR ED 18-200mm F3.5-5.6G	焦点距離18mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF 20-35mm F2.8 D	焦点距離20mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S ED 28-70mm F2.8 D	焦点距離28mm時の撮影距離1.5m以上、 焦点距離35mm時の撮影距離1m以上で使用可能

内蔵フラッシュ撮影時に使用可能な非CPUレンズは、焦点距離が18mmから300mmまでのニッコール（Ai-S、Ai、改造Ai）、ニコンレンズシリーズEが使用できます。ただし、次のレンズは使用に制限があります。

Ai 50-300mm F4.5 Ai改 50-300mm F4.5、 Ai-S ED 50-300mm F4.5	焦点距離135mm以上で使用可能
Ai ED 50-300mm F4.5	焦点距離105mm以上で使用可能

付録 資料集

主な仕様

項目	仕様
型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
有効画素数	10.2メガピクセル
撮像素子	23.6×15.8mmサイズ 総画素数：10.92メガピクセル
記録画素数	3872×2592ピクセル（L）、2896×1944ピクセル（M）、1936×1296ピクセル（S）
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）
交換レンズ	
GまたはDタイプレンズ	フル機能使用可（IXニッコールを除く）
PCマイクロニッコール 85mm F2.8D	オートフォーカスおよび露出モードの一部を除く機能使用可
GまたはDタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	3D-RGBマルチパターン測光IIおよびD-3DマルチBL調光を除く機能使用可
AI-Pニッコール	3D-RGBマルチパターン測光II、D-3DマルチBL調光およびオートフォーカスを除く機能使用可
非CPUレンズ	露出モードA、Mで可、開放F値がf/5.6より明るい場合フォーカスエイド可、レンズ情報手動設定によりRGBマルチパターン測光、D-マルチBL調光、絞り値表示など使用可（非Aiレンズは使用不可）
実撮影画角	レンズ表記の約1.5倍の焦点距離レンズに相当
ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用一眼レフレックス式ファインダー
視度調節機構	－2～＋1 m^{-1}
アイポイント	19.5 mm（－1.0 m^{-1}のとき）
ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーンII（フォーカスフレーム付、構図用格子線表示可能）
ファインダー視野率	上下左右とも約95％（対実画面）
ファインダー倍率	約0.94倍（50 mm F 1.4レンズ使用時・∞・－1.0 m^{-1}のとき）
ミラー	クイックリターン式
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式、プレビューボタン付
フォーカスエリア	ノーマルフレーム（11点）設定時：11カ所のフォーカスエリアから1カ所または複数カ所を選択可能 ワイドフレーム（7点）設定時：7カ所のフォーカスエリアから1カ所を選択可能

項目	仕様
レンズサーボ	シングルAFサーボ（S）、コンティニュアスAFサーボ（C）およびマニュアルフォーカス（M）：（C）では被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行
オートフォーカス	TTL位相差検出方式、マルチCAM1000オートフォーカスセンサーモジュールにより検出
検出範囲	EV－1～＋19（ISO100換算、常温（20℃））
AFエリアモード	シングルエリアAFモード、ダイナミックAFモード、グループダイナミックAFモード、至近優先ダイナミックAFモード
フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはシングルエリアAF（S）時にシャッターボタン半押しにて可能
露出	
測光方式	TTL開放測光方式
マルチパターン測光	GまたはDタイプレンズ使用時は1005分割RGBセンサーによる3D-RGBマルチパターン測光IIが可能、GまたはDタイプ以外のレンズ使用時は1005分割RGBセンサーによるRGBマルチパターン測光IIが可能、非CPUレンズ使用時はレンズ情報の手動設定を行うと1005分割RGBセンサーによるRGBマルチパターン測光が可能
中央部重点測光	φ8mm相当を測光（中央部重点度約75％）、φ6mm、φ10mm、φ13mm、画面全体の平均のいずれかに変更可能
スポット測光	約φ3mm相当を測光（全画面の約2.0％）、フォーカスエリアに連動して測光位置可動（非CPUレンズ装着時は中央に固定）
測光範囲	EV0～20（マルチパターン測光、中央部重点測光） EV2～20（スポット測光） （ISO100換算、常温20℃、F1.4レンズ使用時）
露出計連動	CPU連動方式、AI方式併用
露出モード	P：プログラムオート（プログラムシフト可能）、 S：シャッター優先オート、A：絞り優先オート、 M：マニュアル
露出補正	±5段の範囲で1/3、1/2、1段ステップで補正可能
オートブラケティング	AE、フラッシュの場合、撮影コマ数：2～9コマ、補正ステップ：1/3、1/2、2/3、1段ステップで可能　WBの場合、撮影コマ数：2～9コマ、補正ステップ：1～3段ステップで可能
AEロック	AE/AFロックボタンによる輝度値ロック方式
シャッター	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	30～1/8000秒（1/3、1/2、1段ステップ）、bulb

ISO感度（推奨露光指数）	ISO100～1600相当（1/3、1/2、1段ステップ）、ISO1600に対し約1段まで増感可能

ホワイトバランス	オート（1005分割RGBセンサー、撮像素子併用によるホワイトバランス）、マニュアル6種（それぞれ補正が可能）、色温度設定可能、プリセット可能、ホワイトバランスブラケティング可能

内蔵フラッシュ		押しボタン操作による手動ポップアップ方式
	ガイドナンバー	約12（マニュアルフル発光時約13）（ISO100・m、20℃）

調光		
	シンクロ同調	X接点（半導体方式）、1/250秒以下の低速シャッタースピードでフラッシュと同調
	調光方式	1005分割RGBセンサーによる以下のTTL調光制御： - 内蔵フラッシュ、SB-800またはSB-600と、スポット測光以外の測光モードの組み合わせにより、i-TTL-BL調光可能 - 内蔵フラッシュ、SB-800またはSB-600と、スポット測光の組み合わせにより、スタンダードi-TTL調光可能（SB-800、SB-600使用時はスピードライト側でも設定可能） 絞り外部連動自動調光：SB-800とCPUレンズとの組み合わせ時。非CPUレンズ装着時は、レンズ開放絞り値をカメラで設定することにより使用可能 外部自動調光：SB-800、SB-80DX、SB-28DX、SB-28、SB-27、SB-22Sなどとの組み合わせ時 距離優先マニュアル調光：SB-800との組み合わせ時
	フラッシュシンクロモード	先幕シンクロ、スローシンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロの各モードが設定可能
	レディーライト	内蔵フラッシュ、SB-800、SB-600、SB-80DX、SB-28DX、SB-50DX、SB-28、SB-27、SB-22Sなど使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
	アクセサリーシュー	ホットシュー装備：シンクロ接点、レディー信号接点、モニター信号接点、TTL調光ストップ信号接点、GND付、セーフティロック機構（ロック穴）付
	クリエイティブライティングシステム	• SB-800、SB-600、SB-R200との組み合わせによりアドバンストワイヤレスライティング（SB-600、SB-R200はリモートのみ）可能。コマンダーモードに設定することにより、内蔵フラッシュをマスターフラッシュとして制御可能 • オートFPハイスピードシンクロ、発光色温度情報伝達、モデリング発光、FVロックに対応

項目		仕様
記録		
	記録媒体	コンパクトフラッシュ ™カード（Type I/II対応）、マイクロドライブ™対応
	記録画像ファイル形式	DCF2.0（Design Rule for Camera File Systems）準拠、DPOF（Digital Print Order Format）準拠
	圧縮	• 12ビットRAW圧縮（約50%～60%圧縮） • JPEG baseline準拠（サイズ優先・画質優先選択可能）
セルフタイマー		電子制御式、作動時間2、5、10、20秒に設定可能
プレビュー		プレビューボタンによる絞り込み可能、A・M では設定絞り値まで絞り込み可能、P・S モードでは制御絞り値まで絞り込み可能
液晶モニター		2.5型低温ポリシリコンTFT液晶、約23万画素、明るさ調整可能
ビデオ出力		NTSC、PALから選択可能
外部インターフェース		USB2.0 Hi-Speed
三脚ネジ穴		1/4（ISO 1222規格）
ファームウェアバージョンアップ		ユーザーによるファームウェアバージョンアップ可能
表示言語		ドイツ語、英語、スペイン語、フランス語、イタリア語、オランダ語、ポルトガル語、ロシア語、スウェーデン語、繁体中国語、簡体中国語、日本語、韓国語から選択可能
電源		• Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e：電圧7.4V DC［クイックチャージャー MH-18a］使用 • マルチパワーバッテリーパックMB-D200（別売）：Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e 1本、または2本。単3形電池（LR6アルカリ電池、HR6ニッケル水素充電池、FR6リチウム電池、ZR6ニッケルマンガン電池）6本使用 • ACアダプター EH-6（別売）
寸法（W×H×D）		約147×113×74mm
質量（重さ）		約830g（バッテリー本体、メモリーカード、ボディーキャップ、LCDモニターカバーを除く）
動作環境		
	温度	0～40℃
	湿度	85%以下（結露しないこと）

クイックチャージャー MH-18a	
電源	AC 100～240V（50/60Hz）
充電出力	DC 8.4V ／ 900mA
適用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e
充電時間	約2時間15分
使用温度	0～＋40℃
寸法（W×H×D）	約90 × 35 × 58mm
コード長	約1800mm
質量（重さ）	約80g（電源コードを除く）

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e	
形式	リチウムイオン充電池
定格容量	7.4V ／ 1500mAh
寸法（W×H×D）	約39.5 × 56 × 21mm
質量（重さ）	約80g（端子カバーを除く）

仕様についてのご注意

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温（20℃）フル充電バッテリー使用時のものです。
- 仕様や性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

撮影可能コマ数（電池寿命）について

参考値：Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e（1500mAh）による撮影可能コマ数（電池寿命）の目安

※充電状態、使用環境によって電池寿命が異なります。

- 測定条件は当社条件（常温＜20℃＞）によります。
- 記載されている数値は下記の当社試験条件によるものです。撮影状況により数値は前後します。

1）約1800コマ

装着レンズAF-S VRズームニッコールED 70-200mm F2.8G (IF)、手ブレ補正機能オフ、動作モード**CH**、フォーカスモードAF-C、画質モードBASIC、画像サイズM、シャッタースピード1/250秒でシャッターの半押しを3秒間持続させた後、無限遠から至近間を3往復し、6回連続レリーズした後、液晶モニターを5秒間点灯。消灯後、半押しタイマーがオフになるまで放置して、同じ動作を繰り返して実施。

2）約340コマ

装着レンズAF-S VRズームニッコールED 24-120mm F3.5-5.6G (IF)、手ブレ補正機能オフ、動作モード**S**、フォーカスモードAF-S、画質モードNORMAL、画像サイズL、シャッタースピード1/250秒でシャッターの半押しを5秒間持続させた後、無限遠から至近間を1往復し、1回レリーズ（2回に1回は内蔵フラッシュをフル発光）した後、半押しタイマーがオフになるまで放置して、同じ動作を繰り返して実施。

注1）内蔵フラッシュ発光時にはAF補助光を発光させる。
注2）10コマ撮影後、カメラの電源を1分間OFFにする。

次の場合はバッテリーの消耗が早くなります。

- 液晶モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAWに設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3eの性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、充分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにご使用ください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。
- 定期的にセットアップメニューの「**電池チェック**」（P.196）で、バッテリーの状態をご確認いただくことをおすすめします。
- バッテリーの特性上、カメラで表示される電池残量の減り方は、周囲の温度などによって変化します。

索引

メニュー項目

▶ 再生メニュー　212

撮影メニュー　198

カスタムメニュー　226

セットアップメニュー　183

英数

あ

か

さ

た

付録　索引

アフターサービスのご案内

■この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理についてご質問がございましたら、ニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

●お願い

- 次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上、お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAX または郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、またはニコンサービスセンターにご依頼ください。

- ニコンサービスセンターにつきましては、「ニコン サービス機関のご案内」をご参照ください。
- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店またはニコンサービスセンターにご相談ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後 7 年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後でも修理可能な場合がありますので、ご購入店またはニコンサービスセンターへお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービスセンターにお任せください。

■インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を次の当社 Web サイトでご覧いただくことができます。

  http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行

FAX:03－5977－7499

【お問い合わせ承り書】太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日：　　　　　　　　　　年　　月　　日

お買い上げ日：　　　　　　　　　　年　　月　　日

製品名：　　　　　　　　　　シリアル番号：

フリガナ
お名前：

連絡先ご住所：□自宅　　□会社

〒

TEL:

FAX:

ご使用のパソコンの機種名：

メモリー容量：

ハードディスクの空き容量：

OSのバージョン：

ご使用のインターフェースカード名：

その他接続している周辺機器名：

ご使用のアプリケーションソフト名：

ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名：

問題が発生したときの症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度：
（おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

製品の使い方と修理に関するお問い合わせ

＜ニコンカスタマーサポートセンター＞

全国共通
☎ **0570-02-8000**
市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30〜18:00（年末年始、夏期休暇等を除く毎日）
携帯電話、PHS 等をご使用の場合は、**03-5977-7033** におかけください。
FAX でのご相談は、**03-5977-7499** におかけください。

音声によるご案内に従い、ご利用窓口の番号を入力してください。お問い合わせ窓口の担当者がご質問にお答えいたします。

ニコン宅配修理サービスのご案内

修理品梱包資材のお届けから修理品のお引き取り、修理後の製品のお届けまでのサービスは下記をご利用ください。（有料サービス）

＜ニコン宅配修理サービスお申し込み専用窓口＞

0120 FreeDial ☎ **0120-868-545**

携帯電話や PHS 等からのご利用はできません。
営業時間：9:30〜17:30（土・日・祝日を除く毎日）年末年始、夏期休暇等、休業する場合があります。

なお、上記フリーダイヤルでは宅配修理サービス関連以外のご案内は行っておりません。

株式会社ニコン
ニコンカメラ販売株式会社

Printed in Thailand
6MBA5010-02